

俺たちの HINODE MOOK 20
DVD&ブルーレイVISION特別編集

007TM

永遠の憧れ
ジェームズ・ボンドの
すべて。



HINODE MOOK 20 俺たちの007TM
永遠の憧れジェームズ・ボンドのすべて。
『007 スペクター』を含め全24作を完全解説

日之出出版

BOND IS BACK!
「007 スペクター」
ダニエル・クレイグ INTERVIEW

俺たちの 007TM



HINODE MOOK 20 俺たちの007

2015年11月28日発行 通巻420 編集人:千葉 栄 発行人:榎原達弥
日之出出版 編集部☎03-5543-1230 販売部☎03-5543-2220

定価: 本体1,389円 + 税 印刷:図書印刷株式会社

ISBN978-4-89198-997-2

C9474 ¥1389E

雑誌61738-20 (H)16-10



俺たちの
007

俺たちの007



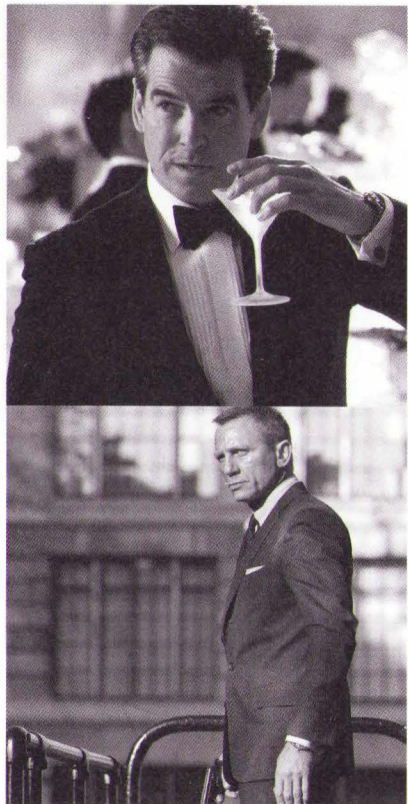
“Bond, James Bond”

1962年10月5日に「007」シリーズ第1作『007／ドクター・ノオ』がイギリスで公開された。それから回を重ねた今年、24作目となる『007 スペクター』がお披露目となる。東西冷戦という時代背景を舞台に、初代ショーン・コネリーが宿敵スペクターと死闘を繰り広げてから50年以上が経った。

6代目ダニエル・クレイグは本作が最後のボンドではないかと噂されている。それはダニエル版では初めてシリーズの定番であるガンバレル・シーケンスを冒頭に登場させ、かつスペクターを復活させるという集大成的な本編からもうかがえる。原点回帰を果たす最新作は長きにわたる「007」シリーズの魅力が詰まった作品だ。それはシリーズファンに向けた最高のプレゼントとも言える。存分に楽しむためにそのヒストリーを、いま一度ひもといていこう。

俺たちの
007

CASINO ROYALE
LIVE TWICE
PY WHO LOVED ME
MOONRAKER
NEVEYE TOMORROW NEVER DIES
CTRE DR. NO FROM RUSSIA WITH LOVE
ONDS ARE FOREVER LIVE AND LET DIE THE MAN WITH THE GOLDEN GUN
OUGH DIE ANOTHER DAY CASINO ROYALE ON HER MAJESTY'S SECRET SERVICE
THUNDERBALL YOU ONLY LIVE TWICE MOONRAKER
H THE GOLDEN GUN TO DENEYE TOMORROW NEVER DIES
LICENCE TO KILL SKYFALL SPECTRE DIAMONDS ARE FOREVER
M OF SOLACE QUANTUM OF SOLACE
MAJESTY'S SECRET SERVICE
ONRAKER FOR YOUR EYES ONLY
VER DIES THUNDERBALL YOU ONLY LIVE TWICE
SLA WITH LOVE THE SPY WHO LOVED ME
E AND LET DIE THE LIVING DAYLIGHTS
KILL THE GOLDEN GUN TO KILL
AY CASINO ROYALE ON HER MAJESTY'S SECRET SERVICE
BALL YOU ONLY LIVE TWICE MOONRAKER
EN GUN THE SPY WHO LOVED ME
TO KILL GOLDENEYE TOMORROW NEVER DIES
SKYFALL SPECTRE DR. NO FROM RUSSIA WITH LOVE
SERVICE DIAMONDS ARE FOREVER LIVE AND LET DIE
OUR EYES ONLY OCTOPUSSY A VIEW TO A KILL THE LIVING DAYLIGHTS
WORLD IS NOT ENOUGH DIE ANOTHER DAY CASINO ROYALE
E GOLDFINGER THUNDERBALL YOU ONLY LIVE TWICE
THE MAN WITH THE GOLDEN GUN THE SPY WHO LOVED ME
ING DAYLIGHTS LICENCE TO KILL GOLDENEYE TOMORROW NEVER DIES
QUANTUM OF SOLACE SKYFALL SPECTRE DIAMONDS ARE FOREVER
MAJESTY'S SECRET SERVICE YOUR EYES ONLY OCTOPUSSY
THE WORLD IS NOT ENOUGH THUNDERBALL
GOLDFINGER WITH THE GOLDEN GUN



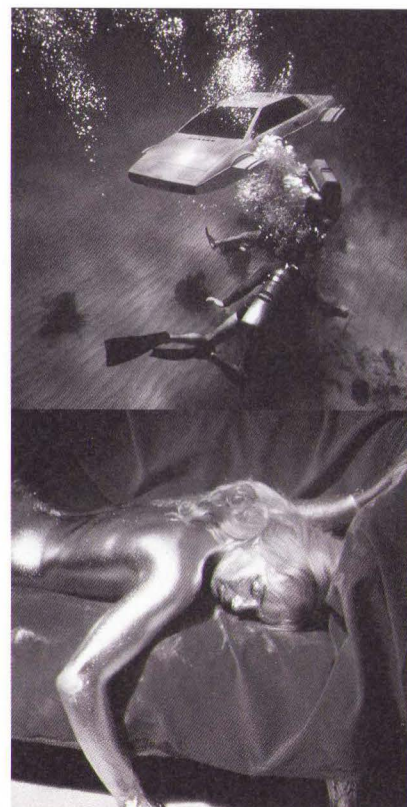
- 021 *Special Talk*
細川茂樹ボンドカーの魅力を語る
- 022 秘密の機能にワクワクした…
ジェームズ・ボンドの腕時計
- 028 Bond Girl Archive Of Beautiful
麗しのボンドガール・アーカイブ
- 034 *Special Talk*
みうらじゅん「僕が愛したボンドガールたち」
- 038 ボンドを苦しめた強敵たちを振り返る!
「007」世界の悪党たち!!
- 045 Dr.No>>> Skyfall
「007」MOVIE
COLLECTION

- 094 ついつい話したくなる知識がてんこ盛り!
「007」シリーズトリビアコレクション
- 100 *Special Talk*
小西康陽が語る「007」音楽の魅力
(ex. ピチカート・ファイヴ)
- 104 洋画の吹替版に日本一詳しいライター、とり・みきが教える
「007」シリーズは、
日本語吹替版こそ傑作ぞろい!
- 110 レアな品から珍品まで幅広く紹介!
「007」グッズセレクション
- 112 ボンドの活躍は映画を超える!
ゲームになったジェームズ・ボンド



COLUMN

- 044 「007」シリーズのお約束、
ガンバレル・シークエンスの楽しみ方
- 092 カオス&カルトな愛すべきパロディコメディ
『カジノロワイヤル』
- 093 12年ぶりにコネリーがボンドに復帰!
『ネバーセイ・ネバーアゲイン』
- 098 原作本の世界
- 109 理想の秘書? 愛しのマネーペニー



俺たちの
007



SPECIAL CONTENTS

- Special Talk*
006 『007 スペクター』ダニエル・クレイグ/
レア・セドゥ/モニカ・ベルッチインタビュー
- Special Talk*
024 別所哲也が語る一ボンド映画の格の違いとは?
- Special Talk*
042 井筒和幸監督が愛する「007」シリーズ
- Special Talk*
106 有田哲平×コトブキツカサが
“ロイヤルプレミア”に行っちゃった!!



- 012 知ってるようで知らない?
ボンドのプロフィールをおさらい!
PROFILE OF
JAMES BOND
- 016 あのカーチェイスに息を呑んだ!
カッコよさに痺れた!
男の憧れボンドカー



profile

1985年、パリ生まれ。祖父、大祖父ともにフランスの大手映画会社代表という家系で育ち、06年に女優デビュー。活躍めざましく、今後最も有望とされる若手。

Léa Seydoux — Interview
レア・セドゥーインタビュー
by: Cliff Watts

『スペクター』のボンドガールの1人、マドレーヌ・スワンを演じたレア・セドゥーは、欧州出身の女優の中で、今最もホットな若手として注目を浴びている。そのきっかけとなったのは『ミッション：インポッシブル ゴースト・プロトコル』だ。

「私は規模の大きさにかわらず、いろいろな作品に関わってきたけど、『ミッション』に出演したことが本作にも役に立ったと思う。いろいろでも、『ミッション』の役は小さなものだったから、マドレーヌとは違うんだけどね。あと、『007』のほうが、技術的だったということもあるわ。こういう映画ではテクニカルな要素が強いので、順応していかなければならないのよ。肉体的にも精神的にも」

そんな彼女を、『007』のファミリーは温かく迎え入れた。

「みんなとても温かく迎えてくれたわ。自分が感謝されていると感じられること、そして面倒みてもらっているという感覚があると、居心地が良いと感じやすいものだし、それによって演技面でも助けられるものなの。特にダニエルは素晴らしい。彼って劇中ではコワモテかもしれないけど、普段はとてもおもしろいのよ。常にジョークを言っていることもあって、ラッキーだったと思うわ」

じつは彼女は仏の大手映画会社社長の娘。親戚にも仏映画界を代表する大物映画人が名を連ねているという、映画一家の出だ。だが「もともと

とは女優にはまったく興味がなかったの」だとか。「オペラシンガーになれたかったの。それで音楽学校に通ったわけだけど、私にはその才能はないことがわかったのよね(笑)。そのころ、ある俳優に出会った。彼は友達だったのだけれど、彼の生活を見聞して「うわ、彼は俳優で、自立しているし、仕事をしたいと思ったときに自由にできる。旅もして、世界中で興味深い人たちの出会いがあるんだ」と思ったのよ。役者だと自由を感じられるんだってわかってから俳優になる道を選んだわけ」

自由を愛し、芝居をエンジョイする。それが叶った今の彼女は「役も作品も多様性を持たせたから、国を問わずに仕事したいわ。もちろん日本でもね」。



M (レイフ・ファインズ)

前作ではMI6を監視する役職だったマロリーが、新たなMに就任。メキシコでのボンドの暴走行為に怒り、その後の行く先を厳しく監視。CからはMI6の解体を迫られ、苦悩する。

—MI6—

世界的な情報工作を専門にする、英国諜報機関。これまで数多くの実績を残してきたが、イギリス情報部の再編成のために、007などの「00プロジェクト」が廃止の危機に…。



Q (ベン・ウィショー)

MI6でエージェントの武器や通信システムを担当。Mの指示で、ボンドの血液に追跡システム用のチップを注入。本心ではボンドに味方しており、オーストリアで彼と合流する。



マネーペニー (ナオミ・ハリス)

ボンドの同僚であり秘書。彼の生家「スカイフォール」からの遺留品を手渡す。オーベルハウザーの情報を手に入れるなど、24時間、ボンドの指示を完璧にこなしていく。



マドレーヌ・スワン (レア・セドゥー)

『慰めの報酬』でボンドの敵だったミスター・ホワイトの娘。オーストリアの雪山で医師をしていたが、父の死を知らせに来たボンドと、その後の運命を共にする。



ルチア・スキアラ (モニカ・ベルッチ)

ボンドがメキシコで殺害した、スペクターの1員、スキアラの妻。葬儀でボンドと出会い、夫を亡くしたばかりなのに彼の誘惑に熟女の肉体が反応。スペクターの会議の場所を救える。



Key person

C (アンドリュース・スコット)

合同保安部のチーフで、本名はマックス・デンビー。MI6を解体させる件でMを追い詰めながら、国際会議では9カ国の情報網を統合する「ナイン・アイズ」を推し進めている。その理由とは…?



ヒンクス (デイヴ・パウティスタ)

スペクターに所属し、自分のパワーをオーベルハウザーに誇示。重要なポストを与えられる。ボンドをしつこく追跡したうえに、マドレーヌにも襲いかかる。往年の敵ジョーズを思わせる怪力にボンドも太刀打ちできない!!



ジェームズ・ボンド (ダニエル・クレイグ)

MI6に所属する有能エージェント。前作で亡くなったMの遺言により、ある人物をメキシコで始末。その男の葬儀が行われたローマで、犯罪組織「スペクター」の陰謀に巻き込まれていく。

『007 スペクター』

全編オマージュ尽くし、シリーズの集大成がここに!

作品データ 007 スペクター
■15 / 米=英 ■Spectre ■配給/ソニー・ピクチャーズ

フランツ・オーベルハウザー (クリストフ・ヴァルツ)

「スペクター」の首領で各国でのテロ行為を指示。父親がボンドを息子として引き取ったので、彼とは義理の兄弟にあたる。すでに死んだことになっており、再会したボンドを捕らえようとする。

—ENEMY—

オーベルハウザーが首領を務める、巨大犯罪組織「スペクター」。各国の政府にも影響力をもつ。人身売買や未承認薬品で資金を作り、9つの大国の情報網を手に入れようとする。

人間くさかったダニエルのボンドが予想外に進化!!

世界最長の映画シリーズ「007」。この24作目は、ダニエル・クレイグもジェームズ・ボンド役が4回目。過去3作の敵や美女が絡む巨大な宿敵が現れ、少年時代の秘密も明かされ…と、まさにダニエルIIボンドの集大成と言えそう。メキシコで始まるミッションは、イタリア、オーストリア、モロッコと、世界を股にかけて展開。怒濤のアクションに加え、今回は「チームMI6」と呼べる劇的な作戦でも楽しませてくれる。これまでダニエルのボンドは人間くささが持ち味だったが、本作は殺し屋としてのクールさも倍増。ボンドガールとの危険な運命などに、シリーズ過去作品へのオマージュも満載で、「007」の魅力が最高レベルで充満した最新作となった!



profile

1964年、イタリア・ペルージャ生まれ。90年に映画デビューし、以来ヨーロッパ映画、ハリウッド映画を股にかけて幅広い作品に出演。モデルとしても活躍している。

Monica Bellucci — Interview

モナ・ベルッチインタビュー

by C.H. Wats

ルチアは過去の女性を象徴している

「スペクター」には2人のボンドガールがいるのが見どころの一つとなっている。中でも、ボンドガールとしては史上最高齢となる(?) ルチア・スキアラ役を演じたモナ・ベルッチは、ダニエル・クレイグをして「最高の女優」と言わしめるイタリアの至宝だ。

「オファーを受けたとき、実は正直言ってとても驚いた。ロンドンでサム・メンデス監督と会ったとき『私は50歳なのにジェームズ・ボンド映画で何をしたいのか』と聞いたの。すると、彼からは『大人の女性と関係を持つというのは良いのではないかなと思う。それは今までなかったことだから、僕はそれをスクリーン上で実現させたい』と言われたわ。私が演じたルチアという女を亡く

した女性は、過去の女性を象徴しているの。自由を見つけない女性で、彼女がいるのは男がすべてを支配するというマフィアの世界なの。彼女はそこから脱出しなければならぬのだから、その術を知らない。彼女がその状況から抜け出す手段がジェームズ・ボンドだということなの。2人の間にはある種の決意があり、彼女が情報を提供し、彼は自由を提供する。そんな2人の間の契約を交わすやり方は美しいものなの。彼女がイタリア人であるというのは偶然ではないと思うわ。イタリア女性はどことなく自立するかという点を学ばなければならなかったからね」

これまで演じてきた彼女の役は、どれもセクシーの極み。「マレーナ」や「アレックス」、「パ

ツシオン」では、セクシーな役ではあるけれども必ずしもダークなものだったわ」と、ルチアとの違いを語る。

「ルチアはこれまでの役と比べてダークすぎないの。レアが演じたマドレーヌは現代の女性で、ジェームズ・ボンドを怖いとは思わないし、男性とも対等にやっているのだけれど、ルチアはその正反対。古風で、恐怖心ながらも象徴的な女性像の2タイプを演じる作品って、他にはないんじゃないかしら。それも、世界中から愛されるこのシリーズで実現するなんてね(笑)。男性だけじゃなく、女性にも観てもらって、どこか自分が共感できるところを見つけてもらいたいわ」

— CAR —

世界に10台しかない、アストンマーティン最新型が疾走!

ボンドカーといえば、アストンマーティン。今回、ボンドが運転する「DB10」は、本作のためにだけに開発された超レアな車種で、世界に10台のみ。カーマニアでなくても、そのクールなデザインに目がクギづけた。劇中では、Qが「009」のために開発したという設定。火炎噴射など各種システムや、脱出用パラシュートも装備されているが、ボンドの趣味じゃない音楽が流れたり“余計な”機能もある。DB10と激しいカーチェイスを繰り広げるヒンクスの車にも注目。6秒で時速160kmに達するジャガー C-X75や、雪山を走るランドローバー 4WDのスピードや迫力は圧巻!



— BOND GIRL —



メインのボンドガールは、レア・セドゥが演じるマドレーヌ。ボンドの運命を左右するファム・ファタール(運命の女)として、妖しい美しさを発揮する。そしてシリーズ最年長のボンドガールとして、モナ・ベルッチが登場。現在51歳とは思えないセクシーボディをスクリーンにさらす。メキシコの美女も含め、3人のお相手とボンドは熱い関係に。賛沢すぎるぞ!

— STORY —

亡きMの遺言に従い、メキシコで敵を殺したボンドがローマで宿敵を発見

メキシコシティで標的の男、スキアラを始末したボンドは、新たな上司のMにとがめられるが、忠告を無視してローマへ。スキアラの葬儀で、彼の妻に出会ったボンドは、犯罪組織の会議があると知らされ、そこに潜入。組織の首領、オーベルハウザーが、ボンドの義理の兄だと判明する。

オーストリアで運命の女と出会い、スペクターの真実が明らかに…

スキアラが会おうとしていたミスター・ホワイトを捜し、ボンドはオーストリアへ向かう。組織に迫られるホワイトは、ボンドの目の前で自殺。ホワイトの遺言で、彼の娘マドレーヌを守ろうとするボンドに、組織の追っ手が執拗に迫る。マドレーヌは、組織の名が「スペクター」だと明かす。

血のつながらない“兄”が、ボンドに究極の試練を与えるのか?

オーベルハウザーを捜して、ボンドとマドレーヌはモロッコへ出発。マドレーヌが父と過ごしたホテルで、その手がかりが見つかり、彼らは砂漠の真ん中へたどり着く。そこで待つのは、オーベルハウザーなのか? MI6が危機を迎えるロンドンでも、さらなる激しい攻防が用意されていた…。

— ACTION —

ロケ地の特徴を生かしたド派手バトルの連続! 実写重視のリアル感で圧倒!

冒頭のメキシコシティから、ド派手&大スケールのシーンが展開。「死者の日」のバラードでにぎわう広場で、ボンドと敵がヘリコプターに乗り込み、そのヘリが大旋回! 世界でも数名しかいないという、曲芸飛行が自慢のパイロットの妙技に驚かされる。続くローマのシーンでは、超高速のカーチェイスが繰り広げられ、オーストリアの山では飛行機が雪上を滑走。さらにモロッコの砂漠や、ボンドの地元ロンドンの川など、各地で怒濤のアクションが続く。ボンドガールも加わった肉弾戦も強烈だ。どのシーンも基本、実写で撮影されているので、重量感やリアル感は、このシリーズならでは!



— HOMMAGE —

シリーズ初期作品へのオマージュがぎゅー。これこそ「007」の魅力だ!

タイトルの「スペクター」からして、本作のオマージュへのこだわりは濃厚。シリーズ初期に何度も登場した敵対組織スペクターは、首領のプロフェルドが有名で、本作は彼にオマージュを捧げる描写がいくつかある。そのほか、モロッコの砂漠のクレーターに作られた基地は、「007は二度死ぬ」(67)とそっくり。ボンドガールとの列車でのラヴシーン&アクションは「ロシアより愛をこめて」(63)を彷彿とさせる。さらに雪山でのチェイス、怪力の悪役など、あちこちに過去作品へのオマージュが隠されているので、シリーズファンは見つけて興奮する楽しみがいっぱい!



—— 藤さんにとって「007」シリーズの思い出といえば?

出会いはTVの洋画劇場でシモン・コネリーの作品でした。もちろん吹替版でしたので、若山弦蔵さんの声ですね。映画館で初めて観たのは「ユア・アイズ・オンリー」です。なのでボンドといえばロジャー・ムーアのキャラクター、というイメージが強いんですね。

—— ボンド役を演じた最初の作品が「カジノ・ロワイヤル」です。

「日曜洋画劇場」版で演じさせて頂きました。ディレクターの方が「もしかしたら合うかもしれない」と声をかけて下さった。オーディションに参加して選ばれました。ボンドとウェスパーが会話しているシーンをテストで演じたのを覚えてます。

—— クレイグとボンドとのイメージがぴったりだったのが驚きました。その後シリーズでは初となる劇場用吹替版でもボンドを演じられました。「スカイフォール」ですね。

この時もオーディションに呼んで頂いて、引き続き演じさせて頂くことになりました。「カジノ・ロワイヤル」の時はまだ吹替の仕事始めて間がなかったですし、自分でもそのまま続けられるかどうかともわかりませんでしたので、まさになんか気持ちでテストに臨みました。

—— TV版のキャストイングを受けてそのまま選ばれたというわけではないんですね。クレイグのボンドを演じるうえでのコツみたいなものはあるのでしょうか?

僕にとってはボンドといえばやはりムーアのイメージがとても強いので、彼の

ような甘い雰囲気芝居が無意識のうちに引っ張られてしまうことが今でもあるんです。クレイグとは見た目はキャラクターも違いますので、そういう部分は気を付けて演じるようにしています。

—— 最新作「スペクター」では再びボンド役ですね。

「スカイフォール」に続いて今回も時間をかけながら収録を下させて頂きました。自分としても少しは経験も積んできましたので、より深い表現が出来るのかなと手応えを感じています。

—— では藤さんのお勧めする「スペクター」の見どころは?

CGを使わないダイナミックなアクション、特にカーチェイスの疾走感は凄いですね。その緊迫感の中にちよとしたジョークが挟まれていて、往年の「007」が帰ってきた!という感じです。そんなところがファンの方には嬉しいんじゃないでしょうか。クレイグの演技や表情に集中できるのはやはり吹替版ならではの楽しみ方だと思いますので、ぜひ劇場で楽しんで頂ければと思います。

profile

1965年、東京生まれ。「007」シリーズでは「カジノ・ロワイヤル」から「スペクター」の4作で、ほかにも「ドリームハウス」「ライラの冒険 黄金の羅針盤」でダニエル・クレイグの声を演じている。

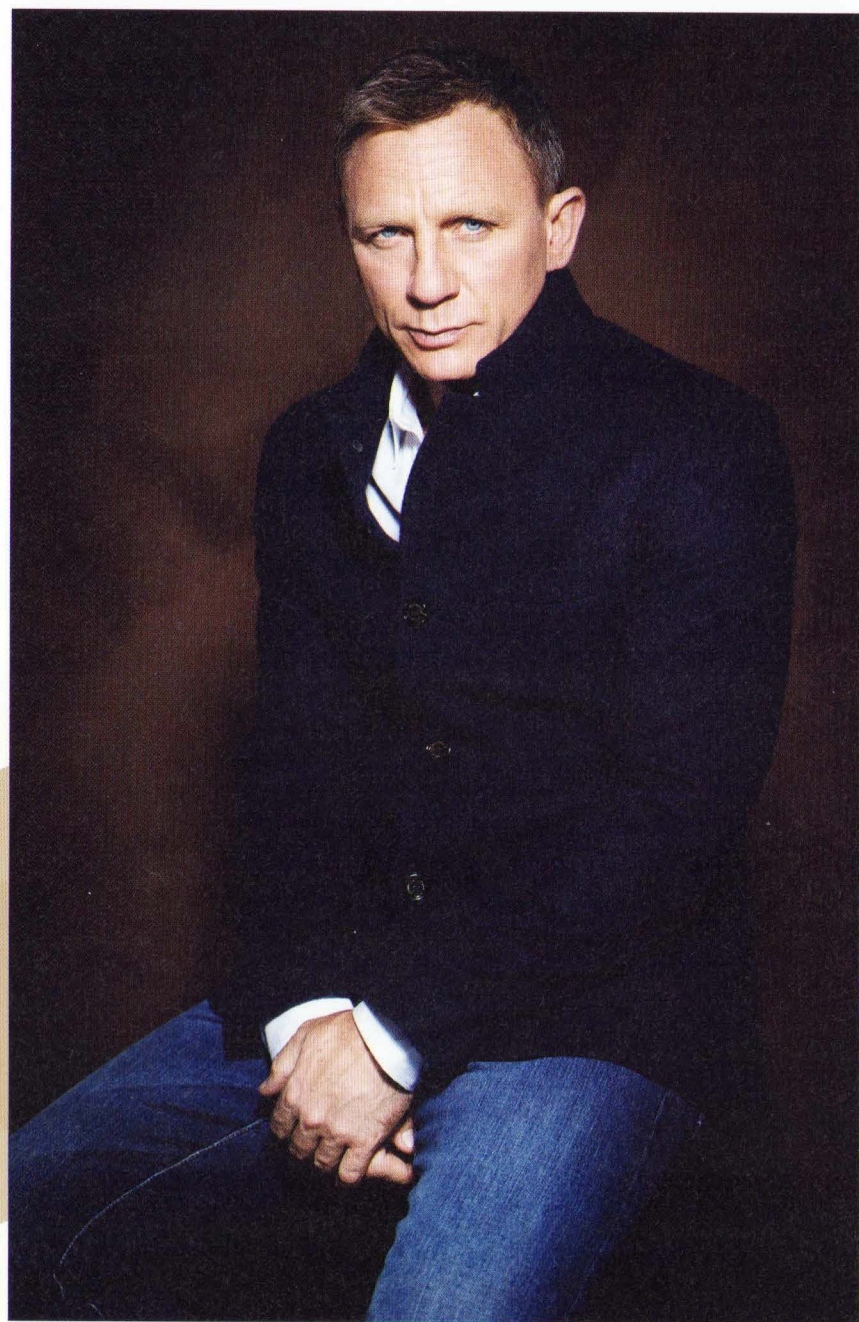
Daniel Craig

Shinshu Fuji

Interview

profile

1965年、東京生まれ。「007」シリーズでは「カジノ・ロワイヤル」から「スペクター」の4作で、ほかにも「ドリームハウス」「ライラの冒険 黄金の羅針盤」でダニエル・クレイグの声を演じている。



by:Rankin

続くかどうかはまだわからないし、
僕自身も続いて欲しいとは思っているよ

Daniel Craig ダニエル・クレイグ

profile

1968年、イングランド生まれ。舞台でキャリアをスタートし、『パワー・オブ・ワン』(92)に映画デビュー。05年に6代目ボンドへオファーされ、本作まで4作担当。

新生ジェームズ・ボンドと言われたころが、もはや懐かしくすら感じるダニエル・クレイグ。思えば『カジノ・ロワイヤル』でキャスティングされたときは「金髪碧眼のボンドなんて」とヤジられまくっていたが、ふたをあげてみるとどうだろう。今や、彼が演じるジェームズ・ボンドでないと物足りない、という人も多いのではないだろうか。なにせ前作の『スカイフォール』では、トレーラーが公開されるや否や、毎秒3000回も再生されるほどだったのだから。だが、「だからといって、おごることは絶対にしない」というのが、彼が硬派なボンドの代名詞たるゆえんか。

「いや、今でもジェームズ・ボンドを演じることにプレッシャーを感じることはあるよ。『カジノ』のときほどではないけどね。でも、だからといって、前作の反響を聞いて『よし、最高の映画になった』って思うのは愚かなことだと思う。映画作りにおいて、なにが敵かといえば『おごり』なんだ。それに共感してくれるスタッフやキャストに恵まれたことで、僕らは『007 スペクター』で最善を尽くせたと思っているよ。自分でやっていることが何であるかわかっているの、僕はリラックスして見えて思うけれど、自信過剰ではないんだ」

特に監督のサム・メンデスは、他ならぬ彼が指名して『スカイフォール』が実現した。本作については、じつは当初はサム・メンデスが舞台の公演をしている最中だったため、彼は一度断っている。彼曰く「舞台をやっていると、すぐには映画にはとりかかれぬ」ということで、プロデューサー陣とダニエル自身が「しっかりとクレイグをいれてもいいから」と、説き伏せてメガホンを取らせたという経緯がある。

「彼は最高だ。ベン・ウィショーやレイフ・ファインズ、ナオミ・ハリスを前作で選んだのも彼だ。僕はサムに絶大な信頼をおいているんだ。彼のおかげで製作費も最適化できたと思うしね(笑)。このメンバーと一緒に映画を作ることにワクワクできないとしたら、映画を作るべきじゃないよ! 特に前作『スカイフォール』を作ることになったときには、『ボンドの過去に

も加わり、新しい要素も増えた。新しいキャラクター、新たに追求できることが出てきたので、常にリフレッシュした気分で挑むことができるようにもなったと思うんだ。そして今作でも彼は最高のキャスティングをした。それがレアとモニカ、クリストフだ。レアの話が持ち上がったとき、僕は彼女のこれまでの作品は、何本も観ていて、すばらしいと思っていた。モニカは美しい女優、美しい女性だ。この役にはぴったりだった。彼女は成熟した女優だから、少し物語を醸したけれど、そこが気に入っている。それからクリストフ、彼は我々の第一希望だったんだ。彼は是非この役を演じて欲しいと思っていたんだが、ありがたいことに彼は応じてくれた。とてもインテリジェントで賢い役者だが、この役にはそういう人が必要だったんだ」

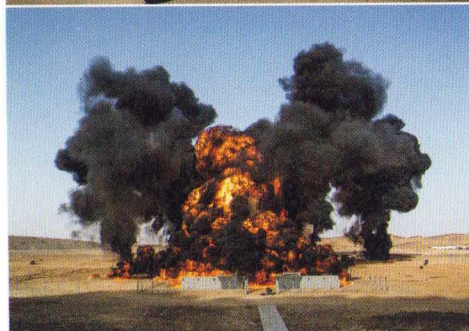
そんな監督とは「常にリラックスした関係だよ」と語る。

「スカイフォール」で僕たちが築いた関係は、とても親密なもので、お互いを尊敬し、またお互いに対立し、追いつめることもあった(笑)。今回はどちらもとよりリラックスしていて、前作の成功によるプレッシャーは大きかったが、プロセスを通してより創造性があったと思う。しかも、ある時から、お互いに話をするのを止めたんだよ。言葉を使うのではなく、彼が「ああ?」と言うと、僕も「ああ」と言うだけ(笑)。それが僕たちのセットでのコミュニケーションの仕方だった。もはや、言葉など必要なかったんだよ(笑)」

クレイグなどを入れて、自分のことを検索したりはしない。そんなことをしたら、頭がおかしくなってしまふからね。少しだけ有名になったくらいでさえも、自分の名前を検索してしまうと、人々に意地悪なことを書かれているのにつくものだから、僕の人生には必要のないものだと思っている。ところが当時は、ネットを見てしまつて『なんてことだ。おい、これは酷い』と、何ページにもわたるのを見ていたよ(笑)。ただ、その時に決意したのは、これは誰もが思っていることではない、ボンド映画を観た人たち全員の見解ではないということだった。ある程度まとまった数の人たちではあるけれど、それでも比較的、僅かな数の人たちに過ぎないんだ。そんなもんを見て、自分にいったい何が出るというんだい? これは人生において自分がコントロール出来ていないこと、できないこと、受け入れ、前に進んでいくしかないということなんだ。これってとても禅的に聞こえるよね(笑)?」

また、彼にとつてのボンドは、我々が彼を見る目と同様、作を重ねることに変化していた。『つい先日、サムとそのことについて話していたんだ』と語る。

「それが彼が気に入った点の一つであり、なぜ彼がまた戻ってきたかという理由でもあるんだだけだね。1作目から2作目へと物語が続いていき、サムが参加するようになって、その物語を更に継続させている、ということが最大のポイントであり、ボンドが成長し変化していると感じる点でもある。今回、再びサムや前作



クライマックスの場面が「映画史上最大の爆破シーン」としてギネス世界記録に認定された。

最高のパートナー、共演者を得て、ダニエル版のジェームズ・ボンドに対する世間の評判も上々。そう言った今こそ、『カジノ・ロワイヤル』のころの自分に言いたいことがあるそうだ。

「その当時、僕がボンドをやることについて心配はしなかったんだ。心配し始めたのは『カジノ』が終わってからだったと思う。10年前、インターネットはまだ新しいことだった。僕はインターネットを使うけれど、決してダニエル・

しかも今回の敵が「スペクター」ということを知って、さらにその思いは強くなった。

「敵がスペクターに決まったとき、その場に僕もいたから非常にうれしく思ったよ。だって、スペクターを敵にするっていうことは、過去の『007』映画に出てきたあらゆる要素を使って、物語を展開することができるようになる。そのうえ、連作らしく、僕がボンドを演じるようになってからの作品にも関連づけることができる。こんな機会が生まれるとは、始めたころからは想像もできなかったよ」

ただし、撮影で苦労することは、そのときは

「ただ、激しい役だよね(笑)。このシリーズを始めた時、僕はもうちょっと今よりも若かったから、身をなげうってやっていたんだ。でも、本作の撮影では膝を痛めてしまつてね。撮影中盤で手術をしたんだ。僕にはすばらしいスタン・トマンがついてくれて、僕の代わりに危ないシーンの撮影もしてくれる。今回は映画の最後の期間で、「一番傷の数が多いくらいだからね。続くかどうかはまだわからないし、僕自身も続いて欲しいとは思っているよ」

「ただ、激しい役だよね(笑)。このシリーズを始めた時、僕はもうちょっと今よりも若かったから、身をなげうってやっていたんだ。でも、本作の撮影では膝を痛めてしまつてね。撮影中盤で手術をしたんだ。僕にはすばらしいスタン・トマンがついてくれて、僕の代わりに危ないシーンの撮影もしてくれる。今回は映画の最後の期間で、「一番傷の数が多いくらいだからね。続くかどうかはまだわからないし、僕自身も続いて欲しいとは思っているよ」

「ただ、激しい役だよね(笑)。このシリーズを始めた時、僕はもうちょっと今よりも若かったから、身をなげうってやっていたんだ。でも、本作の撮影では膝を痛めてしまつてね。撮影中盤で手術をしたんだ。僕にはすばらしいスタン・トマンがついてくれて、僕の代わりに危ないシーンの撮影もしてくれる。今回は映画の最後の期間で、「一番傷の数が多いくらいだからね。続くかどうかはまだわからないし、僕自身も続いて欲しいとは思っているよ」

「ただ、激しい役だよね(笑)。このシリーズを始めた時、僕はもうちょっと今よりも若かったから、身をなげうってやっていたんだ。でも、本作の撮影では膝を痛めてしまつてね。撮影中盤で手術をしたんだ。僕にはすばらしいスタン・トマンがついてくれて、僕の代わりに危ないシーンの撮影もしてくれる。今回は映画の最後の期間で、「一番傷の数が多いくらいだからね。続くかどうかはまだわからないし、僕自身も続いて欲しいとは思っているよ」



Car

任務の相棒は究極のボンドカー

「007」シリーズを代表するボンドカー、アストンマーティンDB5をはじめとして、ロータス・エスプリなど数々の英国製の名車を乗りこなす。時代の変遷と共に、ドイツ車であるBMW社製が登場したこともあった。

Style

スタイルと嗜み そのすべてが一流の英国紳士

常にハードワークが要求されるが、英国紳士としてのスタイルと嗜みは忘れない。こだわり抜いた酒や食事を始め、使うものは一級品。公私の区別は難しいが、全男性の憧れであることに間違いはない。

Fashion

スーツが基本の全身本物志向

初代ボンドのアンソニー・シンクレアから始まり、現在のトム・フォードまで。ブランドは違えども、英国紳士流のスタイルは常に一貫している。スーツやタキシードが基本だが、演じるボンドによって着こなし方も様々。ラフな姿がさまになっているのは現ボンドが断トツ。



Handedness

●右利き

Height & Weight

●身長: 183cm

●体重: 76kg

※原作の設定

Languages

多言語に堪能で日本語も披露

イタリア語、スペイン語などをはじめ、多言語を操る。日本を舞台にした『007は二度死ぬ』では(流暢とは言えないが)日本語を披露。ボンド自身曰く「ケンブリッジで外国語は日本語をとった」。



Guns

ワルサー社PPKを愛用する

新・旧シリーズを通して愛用の銃となっているのはワルサー社のPPK。これはボンド個人が所有するものではなく、MI6の特殊装備課から与えられた任務遂行用。時代によっては同社のP99など別モデルを使用することもある。

Gadgets

Qの秘密道具を使いこなす

任務遂行上で陥った危機的状況を救うのがMI6のQが開発した秘密兵器の数々。ボンドカーの他にも日用品を流用したものや、組み立て式の小型ヘリコプター、ボートなどその機能も多岐にわたる。「無傷で返してほしい」というQの願いは常に叶えられることがない。



History

英国海軍に入隊後 中佐となる

原作小説、映画の旧・新シリーズでその設定は異なる。現在の新シリーズではイートン校、フェスト校で勉学に励んだのち、英国海軍に入隊し、海軍中佐に。その後、MI6に所属する経歴となっている。

Private

無類の女性好き 私生活は謎多し

新シリーズでは幼少の頃の過去が初めて描かれているが、劇中で私生活、その素顔に触られることはほとんどない。その半面、ボンドの住むアパートメントに女性が訪れる場面はたびたび登場している。

License

“殺しのライセンス”を所有

00部門所属の諜報部員は任務遂行のためならば自身の判断で殺人が許される“殺しの許可証”を持つ。しかし、パスポートのような許可証が存在して常に携帯しているわけではない。

Alcohol

大人の飲み物には強いこだわりを

スクリーンでもその姿が必ず描かれているほど無類の酒好きと言える。しかし飲み過ぎて醜態をさらすことはなく、あくまでもスマート。「ウォッカ・マテイーニを、ステアせずにシェイクして」がボンド流。



PROF I L E O F JAMES BOND

小説の世界を飛び出したジェームズ・ボンド。知っているようでよく知らない、そんなボンドのプロフィールを映画の旧シリーズ(第1作～第20作)、新シリーズ(第21作～)でおさらい!

Mission

悪党の壊滅、世界の救出

直属の上司Mから命令が下されて初めて英国のための任務遂行が始まる。しかし、時として自らの判断と意思で行動することもあり、それがもとで停職を命じられることもしばしば。



Sports

任務上必要なスポーツ全般を得意とする

スキー、柔道、フェンシングなどゴルフ、登山やダイビングなど任務遂行のために必要とされるスポーツには長けており、その身体能力をこれまでもいかになく発揮。常に自身の危機を救うことになる。



Love

一度だけ結婚 愛した女性は一人だけ…

旧シリーズでは結婚する姿も描かれたが、妻を失った喪失感からその後は独り身。現シリーズでも独身を通すが、女性に対する愛情は真摯であり、純愛指向。それゆえに唯一愛した女性の裏切りによる傷心が癒やされることに時間も必要とする。しかし育った環境からか、家庭を持つことを望む傾向もあるようだ。

Family

両親を亡くし幼くして孤児に

幼少の頃に両親を登山事故で失い、孤児となる。のちに親代わりとなるのはハンス・オーベルハウザーなる人物。彼の息子、フランクとは兄弟同然に育つことになるが、その関係性については不明。

Type of Women

人妻を好むが任務のためなら誰とでも

“人妻を好む”とは本人の弁。しかしそれは自身の性的欲求を満たすためのものではなく、あくまでも任務遂行上での“仕事”である。その手練手管はかつて女性上司だったMも高く評価している。

「ウォッカ・マティーニを ステアせずにシェイクして」

——Vodka Martini. Shaken, not stirred.

酒にこだわるボンド流のレシピがこの台詞。シェイクさせるのがボンドならではのこだわりだ。『カジノ・ロワイヤル』ではボーカーで大敗を喫したボンドがカジノのバーでマティーニをオーダーした際、「ステア？シェイク？」とバーテンダーに聞かれて「どっちでもかまわない！」（吹替版）と返答。あえて決めずに楽屋落ちの台詞として登場させている。

「最近ハセックスも危険でね」 『ゴールデンアイ』

——That depends on your definition of safe sex.

女の殺し屋、ゼニア・オナトップに隠し持っていた銃を突き付けてボンドがびしゃり。コネリー＝ボンドは枕の下に銃を忍ばせて「これもお国のためさ」と言い放ったが、時代も変わった。当時、世界を震撼させたエイズの蔓延という社会状況が台詞に活かされている。

「殺しに来る奴らを こっちが殺す」 『スカイフォール』

——Some men are coming to kill us. But we're gonna kill them first.

かつてMI6に属していたシルヴァの復讐に、形勢逆転のためMと訪れた生家“スカイフォール”。そこで再会したキンケイドにボンドが言い放つ。予告編での字幕は「やられる前に殺す」。いかにも直情型、粗野なクレイグ＝ボンドらしい強烈な一言だ。

JAMES BOND

名台詞 解説

ある時はボンドガールに、またある時は敵に向かって放つボンドの強烈な一言。そのどれもが英国流、洒落たセンスを感じさせる。お馴染みの台詞と共に印象的な名台詞をご紹介します。

「危機一発」

『ゴールドフィンガー』

——What kept you?

クライマックス、核爆発が起こる寸前の7秒前に爆弾の起爆装置をストップさせたボンドが胸をなでおろして一言。字幕は「遅いぞ」だが、吹替では「ロシアより愛をこめて」の初公開時の邦題「危機一発」をもじっている。

「口が大きすぎと思わない？」

「ちょうどいい わたしにはね」

『ロシアより愛をこめて』

——I think my mouth is too big.

——It's the right size. For me, that is.

艶めかしい姿をスーツに隠してベッドでボンドを待っていたのはタチアナ・ロマノヴァ。彼女に唇を寄せるボンドにタチアナがそっと囁く。この台詞はショーン・コネリーとダニエル・ピアンキ、美形の組み合わせだからこそ活きる。今でも新ボンドやボンドガールを決める際のスクリーンテストでは必ず使われる名台詞である。

「ボンド、ジェームズ・ボンド」

Bond, James Bond.

このボンドの台詞を聞きたいがために、50年以上にわたってファンは劇場に足を運んでいる。いつても過言ではないだろう。ところが、本作で登場するのかもしれない、意外と名乗らなケースもあり、それがどの作品かを見つけるのもシリーズならではのお楽しみである。

「2度目の人生だ」 『007は二度死ぬ』

This is my second life.

一度は「死んだこと」で身を隠し、スペクターを追って日本にやってきたボンド。すんでのところまで生きていることがばれ、宿敵プロフェルドに対してジョークを交えて一言。作品のタイトルにもなった「You Only Live Twice」は松尾芭蕉の句がヒントになったと言われている。

「こんな事は初めてだ」 『女王陛下の007』

——This never happened to the other fellow.

これもいわゆる楽屋落ちの台詞。2代目ボンドとなったジョージ・レーゼンビーがオープニング早々、のちの妻となるトレーシーにフラれて思わず愚痴る。「先代のコネリーの時にはこんなことはなかっただろう」という意味合いが自虐的に込められているわけである。

「英国の任務 遂行中です」 『私を愛したスパイ』

——Keeping the British end up, sir.

核ミサイルの攻撃から世界を救い、ソ連の女スパイ、アニヤ・アマソヴァといい雰囲気になっているところをMたちに見つかり「何をしておる？」と問われてボンドが言い返す。1970年代後期ならではのデタント時代を意識した、ムーア＝ボンドらしい洒落たアダルトジョークだ。

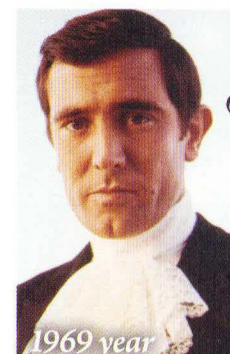
JAMES BOND 歴代俳優レビュー

「007」シリーズにはこれまで6人の俳優がキャスティングされている。映画ならではの味付けが施され、それぞれの時代や観客が求めるボンド像、ヒーロー像を具現化し、今日に至っているのである。

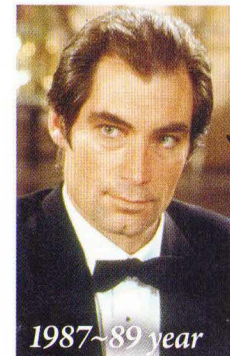
今もなお根強く支持され続けている、初代にして「ベスト・オブ・ボンド」として君臨するショーン・コネリー。彫りの深い顔立ちと、引き締まった体から放たれるセクシーな雰囲気。男性のみならず、多くの女性ファンを強烈に引き付けた。彼の持つ野性味を越えられるボンドはこれから。も現れることはないかもしれない。常にクールでスマート。劇中でのスーツの着こなしも右に出るものはいない。そのコネリーが創り出したボンド像を引き継ぐという難役を全うした、モデル出身で甘いマスクが魅力のジョージ・レーゼンビーは、演技の経験がほとんどないところからのスタートで、残念ながら一作のみで降板。しかし幸運にも原作に忠実にテンポの良い作品に恵まれ、強い印象を残している。2代目ボンドは女性にはどことん甘く、女つたらし。しかしそれで

いて誠実である。3代目のロジャー・ムーアは従来のボンド像を一新する。若々しくてスマートな身のこなし。軽妙洒脱な雰囲気。唯一無二のスタイルを確立し、コミカルな雰囲気を持つた洒落のわかる英国紳士といった風情が時代ともマッチ。シリーズの人気を拡大することに大きく貢献した。運動神経がいまひとつなのは劇中からも伝わるが、ムーアのセンスは超一流である。このムーア＝ボンドは長く続いた。次のティモシー・ダルトンは一転してどこか影のある雰囲気。で洗みを感じさせるハードなキャラクターが持ち味。出演は2作に留まったがファンからの支持も根強く、原作で描かれた冷酷なボンドのイメージを彷彿させるその声も高い。当時、ダイアナ妃のお気に入り入りのボンドであったことはよく知られたエピソードだ。続くピアース・ブロスナンではハ

ードなコネリーとソフトなムーアのイメージがほどよくブレンドされ、さらに外連味がプラスされた。危機的状況でも余裕綽々で任務をこなすように見えるダンディズムが人気の秘密で、独自のボンド像を作り上げることに成功。人気を若い層にまで広げた功績は大きい。女性に優しいが、時代なりということか、少々押され気味なのは愛嬌。そして、新シリーズの幕開けと共に従来のボンド像をいとも簡単に乗り越え、初出演作からファンの心を鷲掴みにしたダニエル・クレイグ。無駄のない鍛え抜かれたマッスルな身体に女性ファンも爆発的に増加。役者としてだけでなく、製作チームの一人としても参画し、現在の「007」シリーズの重要な牽引役でもある。次作「BOND 25」での続投も強く望まれていることに、間違いはない。



ジョージ・レーゼンビー
George Lazenby



ティモシー・ダルトン
Timothy Dalton



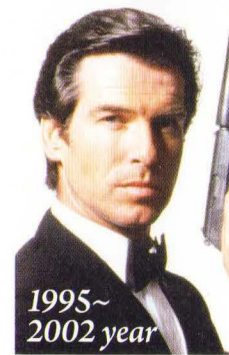
ダニエル・クレイグ
Daniel Craig



ショーン・コネリー
Sean Connery



ロジャー・ムーア
Roger Moore



ピアース・ブロスナン
Pierce Brosnan

DVD & ブルーレイVISION読者に聞いた! 俺の好きなボンドランキング

- Nº3298票
ピアース・ブロスナン
- Nº4115票
ロジャー・ムーア
- Nº523票
ティモシー・ダルトン
- Nº612票
ジョージ・レーゼンビー

Nº2 ダニエル・クレイグ465票



セクシーでアクションの迫力や頼りがいがあって大好きです
23歳・女性

とにかく色気
タップリですてき!!
23歳・女性

ダニエル・クレイグは
すっかりJBにはまった!?
53歳・男性

Nº1 ショーン・コネリー556票



ジェームズ・ボンドといえば
彼しかない
79歳・男性

何といっても
彼しかない
61歳・男性

一番イメージが
強いです
52歳・女性

もちろん
ショーン・コネリー!
33歳・男性

DVD & ブルーレイVISION 2015年10月号読者アンケートより集計し、規定のルールでポイント化



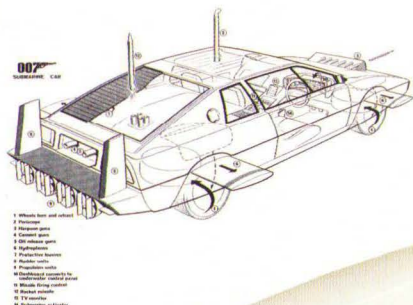
1.『黄金銃を持つ男』で、ボンドはスカラマンガ追跡中に、クルマを一回転させながら対岸の堤防に渡るという離れワザを披露。度肝を抜いた! そのシーンで使用されたのがアメリカンモータース(AMC)のホーネット。ボンドがショールームから拝借したクルマだ。対するスカラマンガのAMCマタドール・クーペは、ジェットエンジン付きの翼を装着し、空を飛んだ! 2.『ダイヤモンドは永遠に』でボンドは、マスタング・マッハ1でカーチェイス、片輪走行を見せている 3. 4.『007は二度死ぬ』は、舞台が日本ということで、名車トヨタ2000GTが登場。しかもオープンという特別仕様。アキが運転する姿がカッコよかった! 厳密には丹波哲郎が演じた日本の諜報部員タイガー・田中所有のクルマで、武器類などは装備していないが、車載のテレビ電話で連絡を取っていた

LOTUS ESPRIT

ロータス エスプリ in『私を愛したスパイ』

長きにわたりジェームズ・ボンドを演じたロジャー・ムーア出演作の中でも、最も有名となったボンドカーが、このロータス エスプリ。当時流行しつつあったスーパーカー路線のクルマで、ジウジアーロ率いるイタルデザインによるデザイン。その先進的かつシャープなフォルム、そしてなんといっても潜水艦にトランスフォームする機能で、ボンドカーの重要性を改めて気付かせた1台だ。当時は変形するミニカーも数多く販売され、大人気となった。

潜水艦としての機能がこちらの図でわかる。水中をすいすいと航行し、煙幕や機雷などを自由に操り敵を翻弄。ルーフ部分から対空ミサイルを発射し、見事、上空のヘリに命中させた



ESPRITの主な装備
●水中潜航装置
●対空ミサイル ●セメント&インク噴射装置
●機雷発射装置 ●フロントミサイル

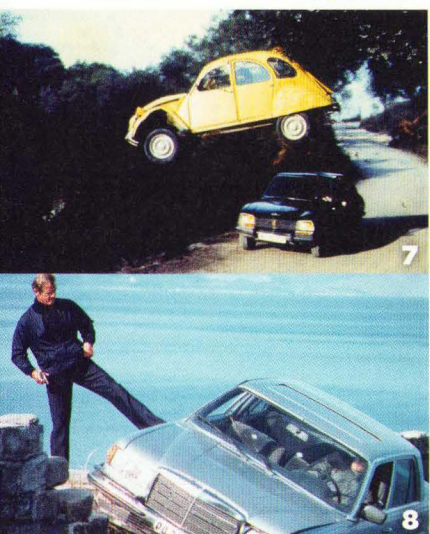


5. 6. フロントウィンドーすら湾曲をなくしたシャープなデザインで、新しい魅力をもたらしたエスプリ。このエスプリの成功で、ガジェット満載のボンドカーが復活。最も印象的なのが“潜水艦へのトランスフォーム”。ナオミのヘリに追われ、ボンドは迷わずクルマごと海へダイブ! 次の瞬間、タイヤを格納、リアバンパーから4つのスクリューが現れ、何事もなかったかのように水中を進んだ

『007は二度死ぬ』の小型ヘリ「リトルネリー」にちなみ「ウェットネリー」と呼ばれ、ガジェット満載で楽しさも満載だったボンドカー。インパネも潜水用に切り替わり、潜望鏡まで装備。水中で次々と武器を繰り出した



7.『ユア・アイズ・オンリー』でのカーチェイスでは、シトロエン2CVが主役になった。メリーナ所有の黄色の2CVが2台のブジョー504に追いかかれ、山道を一気に駆け降りた! 8. 殺し屋ミール・ロックが逃亡に使ったのはメルセデスベンツ。ロックを追い詰めたボンドは、ヤツをクルマごと蹴落とす。次作『オクトパシー』では敵から盗んだ黒塗りのメルセデスで、ボンドは線路を爆走!



LOTUS TURBO ESPRIT

ロータス ターボエスプリ in『ユア・アイズ・オンリー』

『ユア・アイズ・オンリー』で再びエスプリが登場。前々作『私を愛したスパイ』のエスプリの進化型、ターボエスプリだ。秘密兵器の活躍はなく、1台目の白いエスプリは敵が乗り込むとして自爆装置が働き、2台目のエンジのクルマはスキー場での移動に登場したのみ。

あのカーチェイスに息を呑んだ! カッコよさに痺れた!

男の憧れボンドカー

歴代の「007」シリーズに欠かせない相棒ともいべき存在、それがボンドカー。速さと優雅さを併せ持ち、スパイアクションに必要な特殊機能や武器を装備。その装備が観る者をワクワクさせた。そんな歴代ボンドカーの魅力をじっくりと探ってみよう。

写真協力: アストンマーティン ジャパンリミテッド、ジャガー・ランドローバー・ジャパン

ASTON MARTIN DB5

アストンマーティンDB5 in『ゴールドフィンガー』

歴代ボンドカーの中でも、最も有名なモデルがアストンマーティンのDB5だ。当時の高級スポーツカーらしい性能と装備に加え、可変ナンバープレートや機関銃、煙幕や助手席脱出シートなど数々のガジェットを装備。携帯発信器の受信機能や無線電話など、当時としては夢の電子デバイスも搭載。その後、たびたび「007」シリーズにジェームズ・ボンドのプライベートカーとして登場。登場から50年以上経った現在でも、絶大な人気を誇る。



センターコンソールには、敵からの防御用ガジェットを操作するスイッチが隠されていた。オイルや煙幕の散布スイッチ、せり出す防弾盾(シールド)、フロント・リアの機関銃などが操作できる



イギリス、フランス、スイスの3か国に対応したナンバープレートも装備。回転させて表示を変える。また、劇中では使われなかったが、前後に攻撃用バンパー・ガードも装備

DB5の主な装備
●回転式ナンバープレート ●フロントに機関銃 ●タイヤスラッシャー(パンク装置) ●オイル&煙幕噴射装置 ●リアの防弾シールド ●助手席乗員放出シート ●追跡レーダー



1.後方から追ってくる敵のクルマには煙幕やオイル散布機能が効果的。視界をさえぎる煙幕、クルマをスピンさせるオイル散布で、鮮やかに敵を退ける 2.DB5には防弾ガラスとは別に、後方からの攻撃に備えたリアウィンドー用防弾盾(シールド)を装備。スイッチひとつでせり出してくる 3.インパネの下の方、シフトノブの前に携帯発信器を追跡できる受信レーダーを搭載。また、シフトノブには、助手席に乗っている人を放出するボタンを内蔵。オーリック社の工場に連行される途中で、拳銃を突きつけていた工作員をクルマから放り出した

ASTON MARTIN DB5

アストンマーティンDB5 in『サンダーボール作戦』

前作で大破したにもかかわらず、見事に『サンダーボール作戦』で復活したDB5。冒頭でスペクターNo.6ジャック・ブパール大佐の邸宅から引き揚げる際に、部下3人に追われ銃撃されたが、せり出す防弾盾で銃弾から身を守り、放水銃で敵の攻撃を阻止した。



ASTON MARTIN DBS

アストンマーティンDBS in『女王陛下の007』

2代目ボンド唯一の作品で登場したのが、DBS。このクルマは、DB5の後継車DB6から派生したモデル。グローボックスに組立式のライフルを収納していたが、それ以外のガジェットは登場していない。哀しいラスト、2人が乗っていたのがこのクルマだ。





1. ボンドがキューバで現地の協力者ラウルに「速いクルマを」とリクエストし、用意されたのがフォード フェアレーン。劇中に登場したもう1台のフォードがNSAの諜報員ジックスが氷の宮殿に乗りつけたサンダーバード。旧型はその昔「サンダーボール作戦」のラルゴの愛車などで、たびたび登場していた。2, 3. ガトリングガンやロケットランチャー、迫撃砲など攻撃武器をフル搭載したジャガーXKR。特殊なスパイクタイヤやド派手な武器を駆使しながら展開する、ヴァンキッシュとXKRのカーバトルは見どころのひとつ。

V12 Vanquishの主な装備 ●カムフラージュ・システム ●グリル奥のミサイルと機関銃 ●ショットガン ●スパイクタイヤ ●指紋認証キー

ASTON MARTIN DBS

アストンマーティンDBS in「カジノ・ロワイヤル」

ボンドが6代目のダニエル・クレイグとなった記念作「カジノ・ロワイヤル」では、スポーティーなアストンマーティンDBSが登場。このボンドカーは攻撃用のガジェットより、応急キットや遠隔モニター、抗生剤や解毒剤、除細動器など生命維持装備をメインとしている。



ボンドカーではないが、ターゲットからカジノの報酬として取り上げたのが、アストンマーティンDB5。ボンドカーとは違い、左ハンドル仕様。これも過去作品へのオマージュ



ASTON MARTIN DB5

アストンマーティンDB5 in「スカイフォール」

「スカイフォール」では、M16所有ではなく、ボンドのプライベートカーとしてDB5が登場。しかも「ゴールドフィンガー」に登場したものと同様のガジェット（助手席射出シート、フロントに左右のマシンガンなど）を装備しているが、最後は銃撃で蜂の巣にされてしまった。



BMW Z8

ピーエムダブリュ-Z8 in「ワールド・イズ・ノット・イナフ」

BMW製ボンドカーとしては最後になった2シーターのオープンカーがZ8。当時、日本でも発売された高級スポーツカー-Z8は約1700万円もした。BMW製ボンドカーでは標準装備となった感がある遠隔操作機能（キーに内蔵）に加え、自動追尾型スティンガーミサイルを装備。悲しくも、敵ヘリが吊り下げた巨大なノコギリで真っ二つにされてしまった。

長年、M16の秘密兵器開発者だったQがリタイア。その後継者としてRが登場する。そのRから託されたのがZ8だ。この時は、壊れるとは思っていないだろうが...



ASTON MARTIN V12 Vanquish

アストンマーティンV12ヴァンキッシュ in「ダイ・アナザー・デイ」

やはりボンドにはアストンマーティンが似合う。「ダイ・アナザー・デイ」で正式にボンドカーに復帰し、最新型V12ヴァンキッシュがスクリーンにお目見えした。話題となったのは姿を消せる光学迷彩機能だが、自動追尾散弾砲、マシンガン、ミサイル、脱出シート、スパイク内蔵タイヤ、遠隔操作機能（キーホルダーで操作可能）など実に多くのガジェットを搭載。負けず劣らずの装備を誇るジャガーXKRと氷上で激しいチェイス&バトルを繰り広げた！

ASTON MARTIN DBS

アストンマーティンDBS in「慰めの報酬」

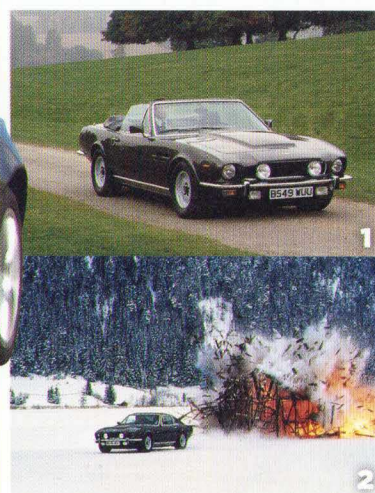
「慰めの報酬」の冒頭から、追っ手に乗るアルファロメオ159との激しいカーチェイス。これも名場面。走行シーンがメインのため、ガジェットは使用されていない。最終的には激しいカーチェイスでタイヤはパンク、ドアまで破壊されながらもM16の基地まで戻ってくる。



ボンドは英国の諜報部員なので、英国の名門ランドローバー車が随所に登場する。このレンジローバーは腕時計と共に物々交換されてしまう運命だが、高い悪路走破性をアピール



冒頭のカーチェイスでは、ランドローバーのディフェンダーが大活躍。ただし運転はマネーベニー。このディフェンダー、ダブルキャブでピックアップというレアなタイプ



1. 劇中には2通りのV8が登場する。冒頭シーンでボンドが乗っていたのがV8ヴォランテ。もう一つはチェコスロバキアで奮闘するV8サルーン。アストンマーティンが誇るラグジュアリースポーツカーが観客を虜にした。2. チェコ警察とKGBに追跡されたボンド。途中、氷上で大追跡劇を演じることに。ボートハウスを上手く利用して、装甲車からの砲撃をかわした

V8の主な装備 ●アウトリガー（サイドに飛び出すスキー板） ●フロントミサイル ●ロケットパワー ●レーザーカッター ●スパイクタイヤ ●自爆装置



ASTON MARTIN V8

アストンマーティンV8 in「リビング・デイズ」

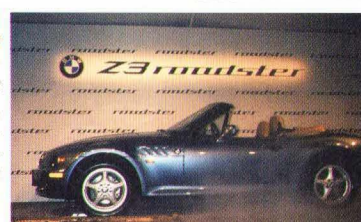
「リビング・デイズ」で、アストンマーティンがボンドカーとして復活。V8ヴォランテ（オープンカー）が登場し、Qの研究室でハードトップを装着。寒冷地仕様のクーペモデルで、チェコスロバキアからの国境突破を図った。ホイールキャップからレーザーを出しバトカーを切り裂き、バリケードに向かって2発のロケット弾を発射。ジャンプ後にアウトリガーを出し滑降！ 次々と追跡をかわしていくが、最後はボンドが自爆ボタンを押した。

ASTON MARTIN DB5

アストンマーティンDB5 in「ゴールデンアイ」

大作シリーズである「007」作品だけに、様々な企業によるタイアップも多い。中でも注目されたのが、今作よりBMWがボンドカーになったこと。それでも過去へのオマージュとして、アストンマーティンDB5がボンドのプライベートカーとして登場しているところに、ファンは感激。フェラーリF355GTSとのダウンヒルレースは名シーンのひとつ。

「ゴールデンアイ」で登場したBMWのZ3ロードスター。かなりコンパクトなクルマだ。全方向レーザーや、制御用パラシュート、スティンガーミサイルなどを装備していた



3. Qは携帯電話型コントローラーを操作しながらボンドに750iLの遠隔操作の仕方などを説明した。4. ボンネットのBMWエンブレムに内蔵されたメタルカッターや、ルーフから発射するロケットランチャーなどを駆使し、追っ手を振り切るボンド。でも、最終的にはクルマから脱出し遠隔操作する羽目に。そして750iLは駐車場の屋上からダイブし大破



BMW 750iL

ピーエムダブリュ-750iL in「トゥモロー・ネバー・ダイ」

「トゥモロー・ネバー・ダイ」でも引き続きBMWがボンドカーを提供。当時の最新型フラッグシップ750iLがガジェット満載で大活躍。今作でのキーワードは「リモートコントロール」で、携帯電話型コントローラー（しかもタッチパッド式）で、ボンドカーを遠隔操作可能。自動運転機能、赤外線追尾システム付きのロケットランチャー、追跡車のタイヤを切り裂くメタルスパイク、パンク知らずのタイヤの他、防犯機能も高く、敵を寄せ付けなかった。

750iLの主な装備 ●メタルカッター ●サンルーフ下の12基のミサイル ●鉄びし撒布装置 ●電流による盗難防止システム ●自動パンク修理タイヤ ●煙・催涙ガス発生装置

ジェームズ・ボンドと ボンドカーに魅せられて ジェームズ・ボンドになっていた

かつて所有していた アストンマーティンV8



フォード・マスタングにも似た、力強さを感じさせるフロントマスク



流れるようなフォルムのクーペスタイル。シンプルだけど存在感は抜群



ハンドルはオリジナルからmomo社製に変更。ナビシステムも追加

S P E C

アストンマーティンV8

1972年～1989年の間に1984台が生産された。

【サイズ】全長4590mm×全幅1830mm×全高1330mm
【ホイールベース】2605mm
【トレッド】前後1500mm
【車重】1800kg
【最低地上高】120mm
【エンジン】5340cc
水冷90°V型8気筒DOHC
【ミッション】クライスラー製
トークフリート3段AT



ほそかわ・しげき
俳優でありながら、家電やクルマ、資産運用等に関する造詣があり情報番組でも活躍中。現在「まどか」(KBS京都他)MC等出演中。

細川茂樹 ボンドカーの魅力を語る

芸能界でも無類の「007」好きとして知られる細川茂樹。実際にボンドカーを所有したこともある熱烈ファンが、ボンドカーを熱く語る！

『007 スペクター』公開を記念して発売！ アストンマーティンDB9 GT ボンド・エディション

6リッターV12エンジン搭載のDB9 GTをベースに製作されたボンド・エディション。ボディは専用のスペクター・シルバーにペイントされ、フロントとリアに純銀製のアストンマーティン・バッジと007ボンド・エディションのエンブレムが施される。シートにガンバレルの刺しゅうを施すなど内装にも特別な装備を満載。世界限定150台。



I N T E R V I E W

この「V8」だったんです。知り合いのクルマ屋さんに「せっかくの出会いだから乗ったほうがいいですよ」と勧められ、年齢的にはちょっと早いくけど「アストン乗っちゃうか」という勢いもありました。

——どんなクルマですか？
「リビング・デイズ」でスキー板が出てくるやつ。ボンドカーには夢があるなと思ってました。アメリカ市場を意識したクルマなので、好き嫌いが分かれると思います。でも、もともとアメ車好きだった僕の中では、思い出しに残る名車。購入後は、とにかく手を加えました。オリジナルを活かしつつも、自分が使いやすいようにカスタムしましたね。ブレーキを替えたり、最新のナビを搭載したりと。ヴィンテージカーはオリジナルを維持することが美学とされるのですが、取って自分好みに仕上げました。愛着の方々にお願いをされたことも多々ありましたが、——まわりの人には、このクルマはどう映ったんでしょうか？

変わった所も多くて、給油口が左右どちらにもあるので、よくガソリンスタンドで「給油口どちらですか？」とこっちからでもOKだよなんて、「コミュニケーション」に事欠かないクルマでしたよ。駐車場に停めて戻つてくると、必ずといっていいほど人だかりができていたし、信号待ちで視線を浴びるのにも慣れっこでした。特に外国人の方に受けがよかった。「ボンドカーだろ？」ってよく話しかけられました。当時は僕も独身だったので、女性を乗せて「君はボンドガールだね」なんて、やってました。——当時のイギリス車は故障が多いという印象もありますが、細川さんのV8はどうでしたか？

そうですね、調子がいい時がないっていうぐらい、故障がちでしたよ。エンジン音も大きくて機関車みたいでした。でも、それでいいと。満足度は非常に高かった。見た目のカッコよさだけでなく、乗った人にしかならない、惹きつけられる不思議な魅力がありました。

——ダンディズムがあるということでしょうか？
ボンドが使用したものを所有していく喜びもありました。スーツのブリーチを手に入れ、次はオメガを、といった感じで。アストンマーティンがなぜボンドカーに選ばれたのかも、所有したからこそ、深く理解できたと思います。とにかくモノ選びの基準が「ジェームズ・ボンド」になっているのかもしれない。なかなか女性には理解されない部分ですが、

——細川さんは「007」ジェームズ・ボンド、そしてボンドカーが好きで、好きな俳優として知られていますが、好きになったきっかけを教えてください。

初めて「007」シリーズを見たのが「ロシアより愛をこめて」かな。高校時代、デートの時に見たんですよ、女の子。その子はジェームズ・ボンドの世界観が理解できなかったみたいですけど、やはり男の世界なんだろうね。とにかく、僕の興味をくすぐるものが満載でした。スーパーカーに、タキシード、そして美女。すぐに感化されましたね。大人になってからは葉巻を持ってみたい、どこに行ってもマティーニを飲んだり……(笑)。さすがに飛行機までは手を出していませんが、船の免許までは取りました。「仮面ライダー響鬼」に出演した時も、ボンドみたいな要素を取り入れたいという要望を出したんですけど、「子供向け番組にスーツは似合わない」と却下されました。それぐらい「007」が好きなんです。

——ボンドカーについてはどうですか？ 実際に所有していたと聞いたのですが……
クルマの免許を取って、クルマへの興味が膨らんで、憧れていたあのボンドカーの、アストンマーティンには乗れないものか？ となってきたワケです。いつかボンドカーに乗ってみたいという気持ちはずっと持っていた。時間が経って、ある程度好きなクルマが買えるようになった時に、アストンマーティンを探し始めたんです。DB5を狙っていたんですが、とにかくタマ数が少なく、程度のいいものになると高額で手が出ない。そんな時に偶然出会ったのが、

そこを敢えて振り切るのも、ダンディズムなんですよ(笑)。仕事が忙しくて乗る機会が少なくなったのと、丁度このV8を欲しいという方がいたので、泣く泣く手放したのですが、時間に余裕が生まれたら、またコイツを買いたいですね。まだ当時は30代前半だったので、早かったのかな。今だったら、もっといい付き合いができるような気がする。

——今後のボンドカーにはどんなことを求めますか？
『007 スペクター』もすごくワクワクしました。ダニエル・クレイグの成熟度、映画のために作製されたDB10のカッコよさ、ローマ市街地のカーチェイスの迫力……。そうそう、先日トヨタ博物館に行く機会があり、「007は一度死ぬ」に登場したあの2000GTを見てきました。すごいですね、日本にもボンドカーが実在してたんですから。そう考えると、発売が噂されている新型スーパーGTとかも、ハマりそうな気がします。アストンマーティンの他に、日本が誇る技術で作られたスーパーカーが「007」に再び登場したらいいなと思います。そして、もし日本で「007」のようなドラマや映画が製作されるなら、ぜひ自分が演じてみたいです。



『007 スペクター』に登場するボンドカー

ローマ市街地を疾走する2台の超スポーツカー。ボンドは難敵ヒンクスから逃れるため、Qが作った秘密兵器アストンマーティンを駆って壮絶カーチェイスを繰り広げた！

ASTON MARTIN DB10

【アストンマーティンDB10】

『スペクター』の撮影のためにアストンマーティンが10台のみ製作した特別なクルマ、それがDB10。熟練の職人がハンドビルドしたまさに芸術品で、スタント用にロールオーバーを組み込んで、激しいアクションにも耐えられる作り。3.2秒で時速100kmに達するという凄まじいマシンだ。



ボンドカーだけじゃない！ 他のクルマも凄すぎる！！



レンジローバー・スポーツSVR

スピード、俊敏性など、これまでのモデルを凌ぐ最高の能力を備えたレンジローバー。ヒンクスがマドレーヌを連れ去る時に使ったクルマ

ディフェンダー・ビッグフット

過酷な道を走破するための37インチ巨大オフロードタイヤなど、頑強に作られたディフェンダー。またもやマネーベニーがハンドルを握る

ジャガー C-X75

ジャガーのコンセプトカーが、『007』最新作に登場。最高速が時速350kmにも達するというスーパーマシン。敵役ヒンクスが自由自在に操った！





SEIKO

『私を愛したスパイ』で、ボンドが女性といちゃついていた時に突然、時計から指令を刻印したテープが打ち出されてきた。その時の腕時計がセイコーのクォーツLC。時代を反映して、ボンドの腕時計もデジタル時計に変更された。以降の作品でもセイコーは、3代目ボンドの活躍を支えた。『ユア・アイズ・オンリー』ではハイブリッド、『オクトパシー』ではデジボークというモデルが使われた。

『ムーンレイカー』でセイコーのデジタルメモリーバンク カレンダーから小型爆弾を取り出し、敵の基地からの脱出に成功したボンド。当時のセイコーのCMにも『ムーンレイカー』の映像が使用された。

『ゴールデンアイ』から始まったオメガとのパートナーシップ。爆薬と起爆装置に加えて、本作ではレーザー光線発射ギミックも搭載された。プロスナン主演作において、腕時計型秘密兵器の役割は大きい。



オメガ シーマスター
プロダイバーズ300

『ダイ・アナザー・デイ』の劇中に登場したオメガ シーマスター。販売されたモデルはステンレススチールケース、300 m防水、ブルーのダイヤルが鮮やかだった。※現在は販売されていません。



オメガ シーマスター
プラネットオーシャン

プロスナン時代から定着したオメガ シーマスター。『慰めの報酬』では、クラシックなブラックダイヤルとベゼルを備えたプラネットオーシャンが登場。※現在は販売されていません。



『慰めの報酬』で冒頭からシーマスタープラネットオーシャンを着用。600 m防水機能を備えたこのモデルは、度々水中で格闘するボンドには最高の相棒と言える。

OMEGA

オメガ シーマスター
アクアテラ

『スカイフォール』に出てくるシーマスターは、プラネットオーシャンとアクアテラ。新顔のアクアテラは、タキシードスタイルにもうってつけな、ドレスリーなタイプ。

本作のボンドは、冒頭では『慰めの報酬』に続いてプラネットオーシャンを着けているが、任務に復帰後は初めてアクアテラを着用する。



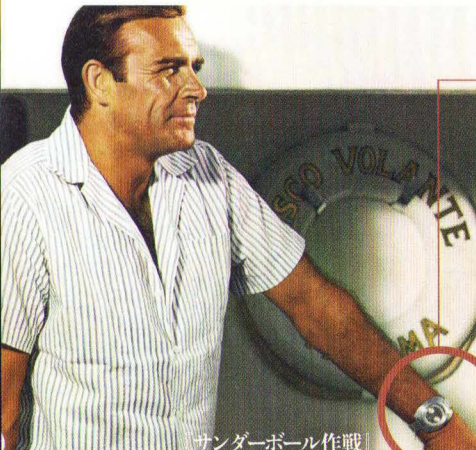
『スカイフォール』

BREITLING

ブライトリング
トップタイム

ガイガーカウンターを内蔵した腕時計として劇中に現れたのが、スモールダイヤルが2個あるブライトリング社のトップタイムと言われている。ボンドは、NATO空軍機ごと強奪された核弾頭を捜索するために使用した。

『サンダーボール作戦』で、コネリー時代の最初で最後の腕時計型秘密兵器が登場。『ドクター・ノオ』で登場した大きなガイガーカウンターが、数年後には腕時計に収納できるまでになるとは…



サンダーボール作戦

アメリカのコロヴスウォッチ社が作ったNATOストラップ。これを着ければボンド気分を味わえる。ボンドストラップ5800円(税込・問い合わせ先:原宿コルリオーネ ☎03-3498-7878)



ロレックス サブマリーナー
Ref.6538

ショーン・コネリーのファンは、このロレックスを信奉する。が、今ではほとんど流通していない稀少なアンティークモデルとなった。ボンドモデルは、スチールブレスからNATO軍仕様のストラップに替えられているのが特徴。



『ゴールドフィンガー』

『ゴールドフィンガー』の冒頭、敵の格納庫に爆薬を仕掛けたボンドが、時限装置の爆破時間を確認する時に、ライターの灯りで腕時計がアップで映し出される。ボンド＝ロレックスを観客に強く印象付けた。

ROLEX



『死ぬのは奴らだ』

シリーズ中で初めて腕時計が秘密兵器として大活躍する、ロジャー・ムーアの1作目。カナンガの机の上に置かれたガス弾を磁気で引き寄せ、口の中に隠し、一発逆転に賭けた。

オメガ シーマスター 300 "SPECTRE" 007 リミテッド

最新作『スペクター』でボンドが着用するのは、シーマスター300。金属製ベルトでなく、NATO仕様のポリアミドベルトなのは、コネリー時代のボンドへのオマージュだ。

世界限定7007本で発売される限定モデル。特別ボックスには本体の他に、スペアのSSブレスレット、ストラップ交換ツール、キズミ(時計用ルーペ)が収められている。75万円(税別・問い合わせ先:スウォッチ グループ ジャパン オメガお客様センター ☎03-5952-4400)



世界限定15007本のアクアテラも発売

アクアテラのボンドモデルも登場。ベースモデルは150m防水の「シーマスター アクアテラ」。秒針の先端と文字盤にボンド家の紋章をあしらった、ケースバックからはガンバレルを模したローターが見えるなど特別仕様。71万円(税別・問い合わせ先:スウォッチ グループ ジャパン オメガお客様センター ☎03-5952-4400)



救ってきた。4代目ボンドのティモシー・ダルトン作品で腕時計の活躍がなかった点を反省しての改良とも思えるが、オメガがスポンサーになったことが大きい。そのオメガを受け継ぐダニエル・クレイグ作品では、機能というよりは、よりファッショナブルな面を強めた印象がある。クレイグ作品ではこれまで秘密の機能は登場していなかったが、『スペクター』では、果たして…。Qがボンドに時計を渡すシーン、「007、特別なものを用意した」「何の機能が?」「時間がわかる」——このやりとりが、やたらカッコいい。デザイン面では過去の作品へのオマージュなどもあり、今回のモデルも実際に買えるもので、コレクター心をくすぐる。でも、自爆装置など付いていないので、念のため。

ボンドの危機を救った頼れる小さな秘密兵器
ボンドの腕時計に秘密の機能が搭載されたのは、『サンダーボール作戦』でのガイガーカウンターが最初だったが、主に活躍するのはロジャー・ムーア時代と、ピアース・ブロスナン時代。最も印象的なのは、やはり『死ぬのは奴らだ』に登場したロレックス サブマリーナーだろう。強力な磁力を発生して遠くのものを引き寄せ、ベゼル部分が回転カッターになるなど、その機能にワクワクしたものだ。女性のドレスのファスナーを、手を触れずに下ろすという、ボンドらしいお茶目な使い方も微笑ましかった。そんなインパクトもあって、『私を愛したスパイ』以降、セイコーがロジャー・ムーアの相棒となるのだが、ファンの間ではロレックスの人氣は根強い。一方、セイコーのデジタルは、ボンドの時計を一気に観客にも身近なものにした。秘密の機能としては、『私を愛したスパイ』で指令をテープに打ち出し、『ムーンレイカー』で小型爆弾を爆発させ、『ユア・アイズ・オンリー』では衛星を利用して通信できるなど、最先端の情報機器としての役割が強くなっていく。特に『オクトパシー』に登場した世界初のTVウォッチには、夢が現実になった感動を味わったファンも多かったに違いない。それでも、プロスナン主演作でのこだわりはシリーズ中、群を抜いている。レーザー光線、ワイヤー付きフック、爆薬&起爆装置などなど、秘密兵器が毎回登場し、その度にボンドの危機を

別所哲也

INTERVIEW

TETSUYA BESSHO

INTERVIEW

TETSUYA BESSHO

舞台で『ロシアより愛をこめて』の主題歌を歌った経験を持つ別所哲也は、子供の頃から『007』シリーズのファン。ダニエル・クレイグをクレイグ様と称し、Mを愛する別所は、スーツをピシッと着ると、まるでジェームズ・ボンドのような佇まい!

取材・文／酒井俊之 撮影／三橋優美子 ©Everett Collection／AFLO

別所哲也が語る——— ボンド映画の格の違いとは?

英国ならではのマナーや礼節やエレガントさが、しっかりと受け継がれている

——まずは別所さんの『007』初体験のお話から教えて頂けませんか?
子供の頃にテレビの洋画劇場で観たのが最初だったと思います。その後にもビデオやDVDで観た時の記憶がごっちゃになってしまっていますので、どの作品だったかは記憶が定かではありません。でも僕のなかではやはりショーン・コネリーのジェームズ・ボンドの印象が強烈に残っています。
——現在、俳優としてだけではなく、広範囲にわたって映画に携わっていると思いますが、小さい頃から映画は好きだったんですか?
好きでした。テレビ放送では『猿の惑星』を観たことを今でもよく憶えていますし、映画館で初めて観た映画は『小さな恋のメロディ』でした。でも中学・高校生の頃は体育会系のバレー部にいましたので、その時期はさすがに映画館に行くこともなくなっていました。その反動もあって、大学に入ってから浴びるように映画を観るようになりました。
——ではその時期に『007』シリーズも多くご覧になられたわけですね。そうですね。ロジャー・ムーアがボンドを演じた時代の作品も追っかけて観るようになりました。それでもやっぱり僕はクラシカルな雰囲気を持ったコネリーの作品が好きでした。実は俳優としてこの世界に入ってから、『ロシアより愛をこめて』の主題歌を歌うという機会があった、改めて何度も見返したりもしたんですが、初期の『007』シリーズで見られるようなコネリーの持つ

ている男の色気が素敵だなあと再認識しました。
——ショーン・コネリーのボンドは今でも強烈なキャラクターとしてボンド映画史に刻まれていますよね。
そう思います。大学を出てから渡米して俳優になって、その時期のオンタイムでのジェームズ・ボンドは、ピアース・ブロスナンですね。ただ、ブロスナンは以前からもう既にハリウッドスターとして広く知られていましたし、僕は彼の他の作品も観ていたので、『007』ファンの僕なりの思い入れでは、ボンドとしてのイメージがしっくりこなかったんです。これはロジャー・ムーアのボンドにも通ずるところがあるんですけど、少々エレガントさが前面にあるかな、って思ってたんです。やっぱり『007』シリーズならコネリー時代のクラシックな作品がいいな、と僕のなかで評価を決めていた頃に、いきなり目の前に現れたのがダニエル・クレイグ様のボンドだったんです。
——ダニエル・クレイグ様、なんですね(笑)。
来たぞ! 本物のジェームズ・ボンドが来たぞと。これぞ21世紀型のボンドだと。衝撃的でした。コネリーに匹敵する魅力あるボンド役者の登場ですね。ウオッカ・マティーンも似合うけれど、ウイスキーも似合うイメージというか。例えるなら醸造酒だけでなく蒸留酒をきちんと飲みこなす男、男の酒を飲む男っていう雰囲気を持ってますよね。古き良き男性としてのホルモンやオーラを放っている感じが好きなんです。

——動物的な魅力、でしょうかね?そうですね。粗野でワイルドなんだけど、やっぱりチャーミングで英国紳士としての素養を兼ね備えている。エレガントさや優雅さみたいなキャラクターも持っているんだけど、タキシードを着ていても野性味があつて、そのまま4WDの車に乗ってどこかの大地に駆けて行ってしまいうような危うさも持っている。そういうドキドキさせられるところが男性から見ても素敵だと感じられるんですね。別にめちゃめちゃいい男っていうわけでもないんですけど(笑)。
——クレイグのボンドを相当に気に入っている感じがします。
クレイグがこれからボンドを演じる、と知った時は、やはりどんなボンド像になるのか不安でした。もちろん既に世界的に存在感が評価されている俳優さんでしたけれど、多くの『007』ファンにとつての反応としては「え? 誰?」っていう感じだったように思います。実はクレイグの前にボンドを演じたピアース・ブロスナン時代の『ゴールドフィンク』や『トゥモロー・ネバー・ダイ』も嫌いではないんです。というのも、僕にとってはジュディ・デンチのMの存在が大きいんです。いわゆる本線ではないところに深い物語を感じさせてくれたのも、ジュディ・デンチのような素晴らしい俳優がMを演じたからこそだと思うんです。そういう意味でも、クレイグのボンド作品はシリーズの中でお気に入りになっているんだと思います。

——これまでのボンド映画のなかでも特に好きな悪役を、教えて頂けますか?
最近では『スカイフォール』に登場したスペイン俳優のハビエル・バルデムですね。ダークサイドにいるヒール役という、これまでのシリーズのなかでも観たことがなかったキャラクターの造形などは俳優としても勉強になりました。昔の作品のような、ある種パターン化された漫画チックなキャラクターよりも、存在そのものを信じられる人物像であると同時に、強烈なイメージを持った悪役の方が印象に残ります。
——描かれる悪役、観客が求める悪



別所哲也の一番好きな映画は、主題歌も大好きな『ロシアより愛をこめて』。ボンドガールのダニエル・クレイグも好きだとか。このシリーズ第2作を愛するファンは多い



あと10本ぐらいクレイグのボンドを見てみたい

役も変わってきていますよね。

そうですね。それはダニエル・クレイグが演じるボンドやジュディ・デンチのMもしかりで、重層的な構造を持っているように思います。どこかに哀しみや怒りを持っているような魅力というか……。ですから今のボンド映画は、大人の映画なんですよ。子供が観てもわからない究極の物語を持った壮大なスパイ映画、そういう存在になっているのではないかと思います。

——ではお気に入りのボンドガールはどなたかいますか？

さきほどの話の流れを受けると、僕にとつての究極のボンドガールはジュディ・デンチのMってことになるですね(笑)。だから「スカイフォール」はMが死んでショックでした。まだまだ彼女には演じて欲しいかなと思います。まさに「007」シリーズのレジェンドですね。いわゆるボンドガールとして印象深いのは「ロシアより愛をこめて」のダニエル・ビアンキでしょうか。ちょっとした仕事とか表情、メイクや髪型なんかもうクラシカルな魅力がありますよね。最近のボンド映画に出てくるボンドガールたちよりもたまらなくセクシーなんです。

——今でもボンドガールの人気投票を行うと、必ずと言っていいほど彼女がベストワンに選ばれます。日本では今でも作品と共にやはり強く支持されているんですね。

そうですね。みんなやっぱり好きなんだなあ(笑)。

——「007」シリーズと、他のアクション映画との違いは主にどんな

ところにあると考えていらっしゃいますか？

英国ならではのマナーや礼節やエレガントさ、そういったトラディショナルなキーワードで表せられるようなものが、他のアクション映画では圧倒的にボンド映画には敵わないと思うんです。それは近作のクレイグ作品のようなテイストになっても、そういった精神が間違いないと受け継がれている。それでいて究極にセクシーでグラマラスな、本物のゴージャスとか、決して付け焼き刃では出来ないボンド映画ならではの要素がしっかり取り込まれているんですね。それと、「007」シリーズ伝統のスタイルですね。オープニングシーケンスからタイトルバックを見るのときめき、そしてクライマックスを経た幕切れの粋な感じとか、そういった定型や王道が既に確立されているからこそ、他のアクション映画はなんでも自由に出来るっていうところもあるように思っています。

——オープニングの話が出ましたが、「007」シリーズは主題歌も印象的ですね。

主題歌と言えば、やはり僕は「ロシアより愛をこめて」がいちばん好きですね。ヴェニス風景にマッド・モンローの歌声がかぶさってくるラストシーンは美しく忘れ難い。僕はアメリカの俳優協会に所属しているのですが、これはちょっとヘンな言い方になるんですけど、ボンド映画にはあまりハリウッド的になり過ぎて欲しくないって思っているんです。やはり英国を舞台にしたヨーロッパ

TETSUYA BESSHO

INTERVIEW



な風合いが作品から感じられる方が好きなんです。そういった僕自身の好みもあって、ちょっとロジャー・ムーアの頃の作品は、どちらかというとハリウッド映画のような印象になっちゃったような気がして、残念だったんですね。もちろんワールドワイドな作品としては、いかにもハリウッド的なアプローチも重要だと思んですが、やはりコネリ時代ならではの立ち居振る舞いのようなものを僕は気に入っているんです。

——そのハリウッドのなかにあつた「007」シリーズは50年以上にわたって続いているのだと思いますか？

僕も最初にボンド映画を観た時はまだ子供だったわけですから、観れば観るほど、知れば知るほど大人の世界というか、男性も女性も

てもチャームिंगに描かれていることがわかる。なによりそういったシリーズの世界観、それぞれの作品が持っているワクワク感とか、超娯楽作としてのダイナミズムが、ずっとワールドワイドに受け入れられているからじゃないでしょうか。次にボンドはこの街に登場するのか、どこを旅してどんな女性と出逢って翻弄されるのか(笑)、いつも期待させられるんですね。やっぱりそれはジェームズ・ボンドという主人公がそれだけチャームINGな存在なんだと思います。

——いつの時代もボンドの持つ魅力がシリーズを支えている。そうですね。常に作品のなかで描かれていくボンド像が男性からも女性からも好感を持って迎え入れられている。男から観ればジェラシーさ

え感じさせるようなカッコよさ、女性から観ればスクリーンのなかにしかあんな男はいないんじゃないかっていうファンタジックな存在として映るんじゃないでしょうか。

——さて、別所さんにとってはラストでMが殉職するという衝撃的な作品だった「スカイフォール」の続編、いよいよ「スペクター」が最新作として登場します。既に英米をはじめ、海外では相当な大ヒットを記録しています。

今一番期待しているんです。なんと今でも「スペクター」というタイトルからして、もう、本丸ですからね(笑)。正直なところ「え？このタイトルでいいの？」っていうか、これでシリーズを打ち止めにしちゃ

——もしかしらこの「スペクター」はダニエル・クレイグ最後の作品かも、と言われてます。クレイグ様とおっしゃる別所さんとしてはいかがですか？

それは困りますね(笑)。今は次にボンドを誰が演じるのか、ちょっと考えられないというか、想像もつかないです。でもボンドってその時代の男らしさとか時代のカルチャーを映し出すものでもあると思いますので、それに相応しい俳優がキャスティングされるべきだと思うんですよ。そう考えると、ダニエル・クレイグは現在進行形のボンドというところもありますし、あまりに彼の作りだしたキャラクターが強烈過ぎて素晴らしいので、まだまだクレイグの演じるボンドを見てみたいです。僕は全部で10本くらいは観てみたいなあ(笑)。

別所哲也が愛するボンドガールは…



M (ジュディ・デンチ)

ジュディ・デンチは3代目のMとして、『ゴールドenアイ』から7作、17年にわたってMを演じてきた。その存在感は圧倒的で、第23作『スカイフォール』は、ボンドとMの物語だった。ついにボンドガールを凌いで、ヒロインへと昇格したのだ

べっしょ・てつや 65年生まれ。90年、日米合作映画『クライシス 2050』でハリウッドデビュー。米国俳優協会(SAG)メンバー。その後、映画・ドラマ・舞台・ラジオ等で幅広く活躍中。99年より、日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル」を主宰。内閣府「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」の一人に選出。第1回岩谷時子賞奨励賞受賞。第63回横浜文化賞受賞。

Bond Girl Archive 麗しのボンドガールアーカイブ

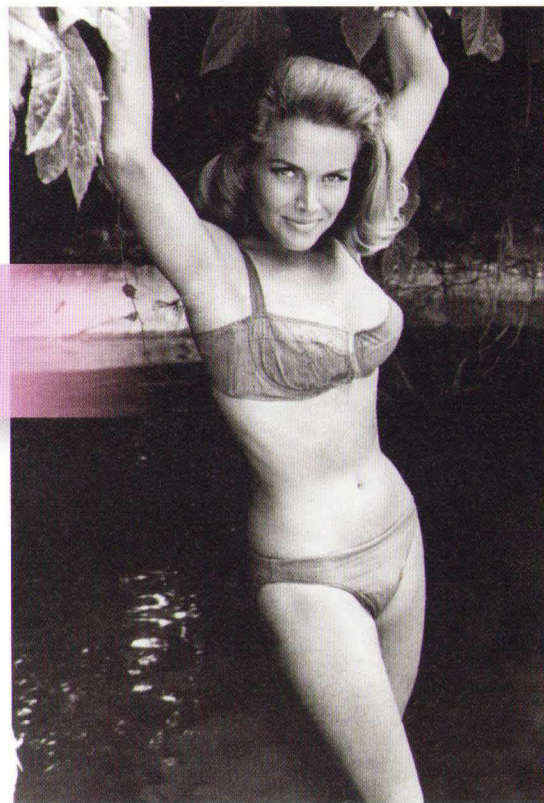
時にボンドを助け、時にボンドを窮地に陥らせる魅惑のボンドガール。敵か？ 味方か？ ま、美しければどちらでも良いか…。



プッシー・ガロア役 オナー・ブラックマン

登場作品「ゴールドフィンガー」

役名も女優名も凄いゴールドフィンガーのお抱えパイロット。男嫌いとウソぶき、ボンドにつれない態度を見せつつも、柔道の寝技をキメられると、あっさり陥落する弱さを見せる。



ジル・マスターソン役 シャーリー・イトン

登場作品「ゴールドフィンガー」

ゴールドフィンガーのいかさまカードの片棒を担いでいたが、ボンドに見つかって色仕掛けであっさり裏切る。しかし、その軽さがアダとなり、全身金粉まみれのゴージャスな全裸死体で発見。

ボンドに近づくスペクターの殺し屋。「任務で寝ただけ」とボンドに言われた腹いせに、ベッドでのテクニックをバカにする。ロケットエンジン搭載のバイク、BSAライトニングが愛車。

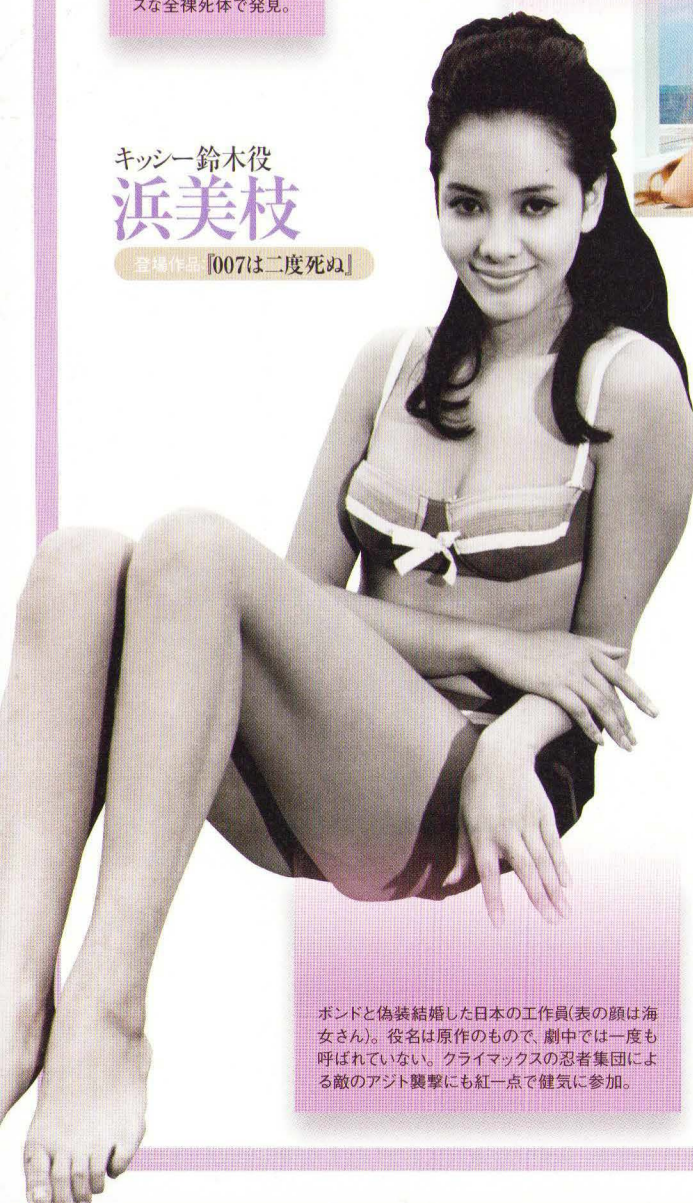


フィオナ・ヴォルペ役 ルチアナ・パルッツィ

登場作品「サンダーボール作戦」

キッシー鈴木役 浜美枝

登場作品「007は二度死ぬ」



ボンドと偽装結婚した日本の工作員(表の顔は海女さん)。役名は原作のもので、劇中では一度も呼ばれていない。クライマックスの忍者集団による敵のアジト襲撃にも紅一点で健気に参加。

オクトパシー役 モード・アダムス

登場作品「オクトパシー」



女だらけの豪華な水上御殿で暮らすタコフェチの富豪。ダイヤの密輸からサーカス運営までを手掛けるやり手の多角経営者でもある。なお、演じるアダムスは「黄金銃を持つ男」に続く2度目の登板。

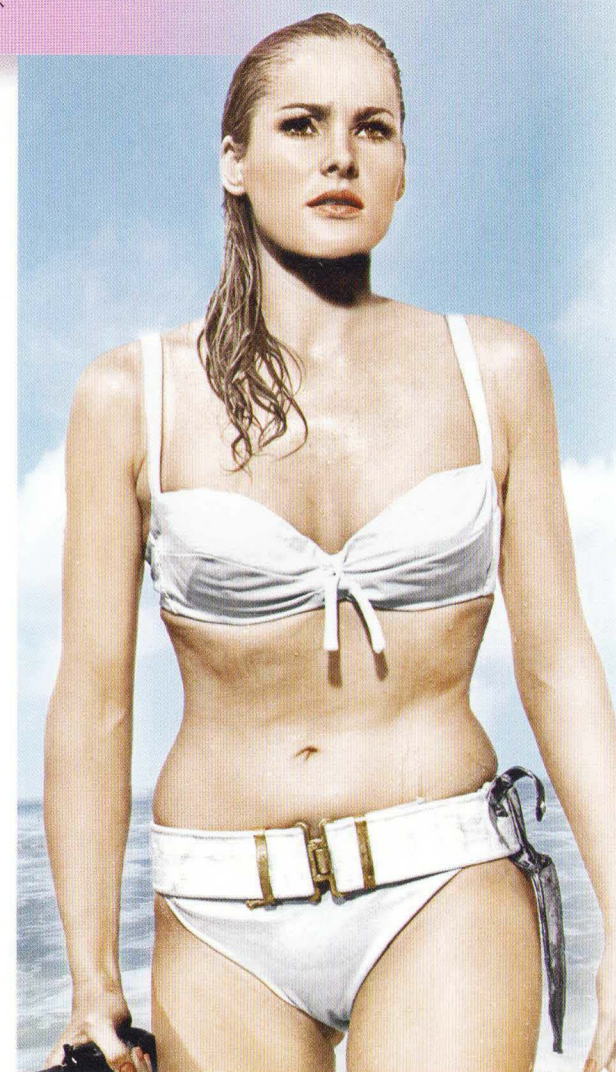
タチアナ・ロマノヴァ役 ダニエラ・ビアンキ

登場作品「ロシアより愛をこめて」



歴代ボンドガールの中でも伝説的な人気を誇るクールビューティ。全裸に黒い首輪、シーツをまとっただけの艶姿でボンドをベッドで待ち受け、最強の肉弾ハニートラップぶりを発揮した。

記念すべき元祖ボンドガール。白ビキニ姿で腰にナイフを携えた登場シーンから、「セクシーな海女ちゃん」的な魅力が溢れまくり。自分を犯した大家を毒グモで殺したエグい過去を持つ。



ハニー・ライダー役 ウルスラ・アンドレス

登場作品「ドクター・ノオ」

ドミノ・ダーヴァル役 クロディーヌ・オージェ

登場作品「サンダーボール作戦」

スペクターのNo.2、ラルゴの愛人。ボンドがナンパのような手法で接触を図る。付け入る隙がないほどガードが固いが、抜群のナイスバディで観客の目は存分に楽しませてくれる。





パム・ブーヴィエ役
キャリー・ローウェル

登場作品『消されたライセンス』

ルペ・ラモーン役
タリサ・ソト

登場作品『消されたライセンス』

麻薬王サンチェスの情婦。浮気がバレてサンチェスに折檻されるが、原因は不遇な境遇への腹いせか、単にオマタが軽いせいなのかは不明。ボンドに寝返って保身を図るあたり、したたかではあるが。

元陸軍のパイロット。荒っぽい修羅場をくぐってきただけにタフで、ショットガンをブツ放すことや乱闘もへっちゃら。ボンドの助手のような活躍を見せるが、最後は意外と乙女な素顔も見せる。

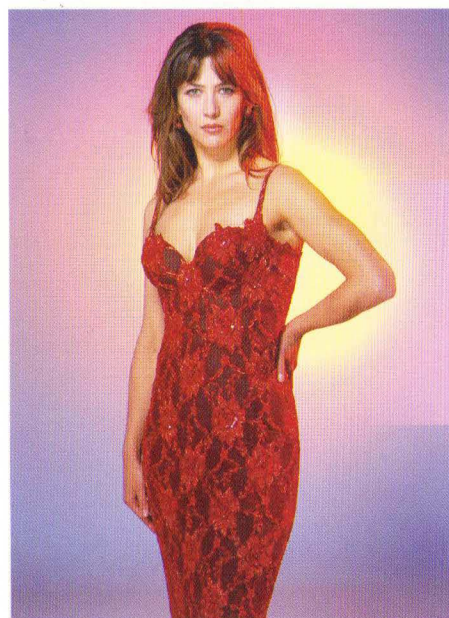


エレクトラ・キング役
ソフィー・マルソー

登場作品『ワールド・イズ・ノット・イナフ』

かつてテロリストに誘拐された令嬢。そのトラウマを克服したように見えるが、実は人生も性格も歪んでしまふ。誘惑オーラ全開の視線でボンドを落とし、ベッド上での艶技力も一枚上手。

莫大な公金を賭けてボーカー勝負に挑むボンドのお目付役になる財務省役人。愛のために辞職を決意するほどボンドをメロメロにするが、悲劇的な運命を迎えてしまふ。



核兵器を扱う科学者でありながら、ムチムチのボディにタンクトップと短パンという、名前と同じような冗談としか思えない格好で登場。学者らしさは微塵もないところが凄い。



ヴェスパー・リンド役
エヴァ・グリーン

登場作品『カジノ・ロワイヤル』

クリスマス・ジョーンズ博士役
デニス・リチャーズ

登場作品『ワールド・イズ・ノット・イナフ』

ジックス役
ハル・ベリー

登場作品『ダイアナザ・デイ』



13日の金曜日生まれだからジックス(悪運)と呼ばれているアメリカのエージェント。性格はサバサバしているが、ベッドの中ではかなり濃厚。キャットファイトのソードバトルも披露。



メリナ・ハブロック役
キャロル・ブーケ

登場作品『ユア・アイズ・オンリー』

NASAから派遣された科学者。クールな理系女子を装っているが、実はCIAのスパイで、殺傷能力があるペンや手帳、火炎放射器になる香水など、ボンド顔負けのスパイグッズを隠し持つ。

両親を殺されて復讐に燃える情念の女。公開時には歌手の五輪真弓似として話題になった。縄で縛られてボートで海中を引き回しにされる、歴代のボンドガールの中でも過酷な目に遭っている。



ホリー・グッドヘッド博士役
ロイス・チャイルズ

登場作品『ムーンレイカー』

ステイシー・サットン役
タニア・ロバーツ

登場作品『美しき獲物たち』

祖父が作った石油会社を乗っ取られ、金持ちのお嬢様から一介の市役所職員に転落。相続権を放棄しろと脅されて闘志の火がつき、共通の敵ソリンを倒すためボンドと手を組む。



ボンドとは旧知の仲(下半身も含めて)のロシアスパイ。任務を装ってボンドに接近し、日本風呂で旧交をしばらく温めるが、手練手管のボンドに逆に一杯喰われる。

ポーラ・イワノバ役
フィオナ・フラートン

登場作品『美しき獲物たち』



ロシアの敏腕スパイ。コードネームは丸刈りの極秘エージェントと同じトリプルX。同僚の恋人を殺した相手とは知らずに、任務とともにするうちにボンドとベッドインする。

アニア・アマソヴァ役
バーバラ・バック

登場作品『私を愛したスパイ』



メイ・デイ役
グレイス・ジョーンズ

登場作品『美しき獲物たち』
個性的なヘアスタイルといくつ風貌で威嚇する刺客。ボンド相手に女性上位の濡れ場を披露する。



マグダ役
クリスティナ・ウェイボーン

登場作品『オクトパシー』
あるモノを盗むためにボンドを訪ねてベッドイン。サリーを使ったシャレ脱出技も見せる。



ビアンカ役
ティナ・トドソン

登場作品『オクトパシー』
冒頭の任務でのボンドの助手。ムッチリした太ももを敵兵に見せつけ、ボンドの脱出を手助けする。



ビビダール役
リン・ホリー・ジョンソン

登場作品『ユア・アイズ・オンリー』
アイスクレーターの天才少女。処女のような無邪気な顔をして、ボンドに大胆に迫って焦らせる。



ポーラ・キャプラン役
マルティース・ベズウィック

登場作品『サンダーボール作戦』
ボンドの助手。ピンク、ピンクの腹出しシャツなどサービス精神溢れる衣装を見せる。



ティリー・マスターソン役
タニア・マレット

登場作品『ゴールドフィンガー』
姉(ジル)の仇、ゴールドフィンガーをつけねらうが、ボンドの忠告も虚しく返り討ちに遭う。



シルヴィア・トレネ役
ユニス・ガイソン

登場作品『ドクター・ノオ』
ボンドの自宅にサプライズで現れ、男もののワイシャツ姿で美脚と下心をアピールする。



ミスタロ役
ゼナ・マーシャル

登場作品『ドクター・ノオ』
ドクター・ノオの配下の秘書。色仕掛けでボンドをベッドに誘うが、たちまちビッチな本性を露呈。



ウェイン役
ミシェル・ヨー

登場作品『トゥモロー・ネバー・ダイ』
中国のスパイ。驚異の身体能力と度胸で、ボンドに匹敵する活躍を見せる。体力では歴代随一。



ナターリア・シモノヴァ役
イザベラ・ロスコ

登場作品『ゴールデンアイ』
破壊された宇宙兵器開発センターの生存者。プログラマーの能力を活かして予想外の活躍を見せる。



ゼニア・オナツプ役
ファム・ケ・ヤンセン

登場作品『ゴールデンアイ』
犯罪組織の暴走兵器。必殺太ももばさみで男を血祭りに上げ、ボンドも毒牙にかけようとする。



カーラ・ミロヴィ役
マリアム・ダボ

登場作品『リビング・デイズ』
KGBの陰謀に利用された美人チェリスト。協力者を装うボンドと徐々に親密になっていく。



リン役
ツイ・チン

登場作品『007は二度死ぬ』
ボンドの偽装暗殺に手を貸した中国人。その前のベッドでの行為まで「偽装」かどうかは不明。



アキ役
若林映子

登場作品『007は二度死ぬ』
日本に来たボンドの案内役を務めるエージェン。任務のサポートから夜の接待係までしてくれる。



ヘルガ・ブランド役
カリン・ドール

登場作品『007は二度死ぬ』
スペクターの殺し屋。ボンドと寝たのに暗殺には失敗し、罰としてピラニアの餌食になる。



パトリシア・フィアリング役
モリー・ピーターズ

登場作品『サンダーボール作戦』
保養所の職員。不手際の際止めとしてボンドに関係を迫られるが、明らかにまんざらでもない。



フロンジュ・ディミトリオス役
カテリーナ・ムーリー

登場作品『カジノ・ロワイヤル』
性悪な夫にあきれ果て、ボンドの誘惑によるめいてしまう、大人の色香を放散させる人妻。



ヴァレンカ役
イワナ・ミルセヴィッチ

登場作品『カジノ・ロワイヤル』
ボンドの宿敵ル・シッフルの恋人。ル・シッフルがした借金のために片手を切られそうになる。



ミランダ・フロスト役
ロザムンド・パイク

登場作品『ダイ・アナザー・デイ』
敵にもMI6にも通じている二重スパイ。ボンドも欺いて、シレッとしてベッドインする。



パリス・カーヴァー役
テリー・ハッチャー

登場作品『トゥモロー・ネバー・ダイ』
ボンドの元カノのセレブ夫人。久々の再会であつての想いが再燃し、ベッドインしてしまう。



ブレンディ・オットール役
ラナ・ウッド

登場作品『ダイヤモンドは永遠に』
カジノでボンドと意気投合する巨乳娘。ベッドイン前に邪魔者が現れて窓から放り捨てられる。



ティファニー・ケイス役
ジュリー・セント・ジョン

登場作品『ダイヤモンドは永遠に』
ダイヤモンド密輸組織の運び屋。計算高く自己チューで、ベッドをとにしても信用できない面がある。



ルビー・バートレット役
アンジェラ・スコラー

登場作品『女王陛下の007』
積極的な明るい美人で下半身がユルそう。情報収集が目的とはいえ、ボンドはまたしても没得。



トリーシー(テラサ)・ヴィンセント役
ダイアナ・リグ

登場作品『女王陛下の007』
ボンドが結婚した唯一の女性。とはいえ、愛が芽生える前にいきなりエッチするのはボンドらしい。



イヴ役
ナオミ・ハリス

登場作品『スカイフォール』
任務中に誤ってボンドを撃ってしまい、内動に回されながらもボンドをサポートする。



セヴリン役
ペレニス・マローウ

登場作品『スカイフォール』
マカオの売春婦という暗い過去がある敵の情婦。人生を賭けてダメもとでボンドに身を任せる。



ストロベリー・フィールズ役
ジェマ・アータートン

登場作品『慰めの報酬』
ボンドの監視を命じられた領事館職員。が、ボンドのペースに振り回され、気がつけばベッドイン。



カミーユ・モンテス役
オルガ・キュリレンコ

登場作品『慰めの報酬』
家族を惨殺され、その敵討ちに燃える美女。ボンドとは最後までプラトニックな関係を貫く。



マリー・グッドナイト役
ブリット・エクランド

登場作品『黄金銃を持つ男』
ボンドに憧れて助手になった新米諜報部員。まだ世間知らずで無邪気なところがある。



ソフィア役
ジェーン・シーモア

登場作品『死ぬのは奴らだ』
予知能力を持つブードゥーの巫女。敵のボスの情婦だが、ボンドにコロリと騙されて身を任せる。



ロージー・カーヴァー役
グロリア・ヘンドリー

登場作品『死ぬのは奴らだ』
CIAと敵の二重スパイ。ちょっとしたことで取り乱し、ボンドの意のままにベッドインしてしまう。



バンビ役
ローラ・レーソン

登場作品『ダイヤモンドは永遠に』
身体能力の高いサンバーと2人組の殺し屋。アクロバティックな連携攻撃でボンドを苦しめる。



ボンドガールのようにキャラ立ちしていないものの、ときどき登場して楽しませるのが、強くてセクシーな「アマゾンズ軍団」だ。ゴールドフィンガーの女性パイロット軍団は男前なかつた。『ムーンレイカー』ではジャングルの奥地にセクシー軍団が突然現れて驚かせた。「オクトパシー」の赤い全身タイツの美女軍団は、お客としておもてなされたい！

忘れがたい謎の女性軍団

Johnnie



リスル伯爵夫人役
カサンドラ・ハリス

登場作品『ユア・アイズ・オンリー』
カジノの経営者。情報目的にボンドが接近し、ベッドインした翌朝に案の定、殺される。



コリンズ・ダフォー役
コリンズ・クレリー

登場作品『ムーンレイカー』
大胆な衣装でボンドを迎えるヘリのパイロット。ボンドとベッドインした直後にあえなく殺される。



ナオミ役
キャロライン・マンロー

登場作品『私を愛したスパイ』
ヘリからボンドを機銃掃射する殺し屋。残念ながら、ベッドインする前に壮絶な爆死を遂げる。



アンドレア・アンダース役
モード・アダムス

登場作品『黄金銃を持つ男』
敵スカマンガの愛人。メアリーが隠れているの知らず、体を使って妖しくボンドを誘惑する。

ふんだんに盛り込まれていましたね。

ボンダガールが着ている水着もフエチッぽさを強調したものでした。秘密兵器にもフエチ要素が入っていた。「ロシアより愛をこめて」のナイフが飛び出す靴とかね。初期はテレビスキャン監督でしょ。変態要素がふんだんに盛り込まれてましたね。フエチおしやれ、だった時代です。

——自分も小学生の頃に『ゴールドフィンガー』の全身に金粉を塗られた美女の金ピカ死体を観て、子供心にグッときたのを覚えています。江戸川乱歩に通じるエロさがありましたね。

確かに乱歩の世界ですね。「007」7「子供たちにセクシトラウマを植え付ける映画だったんですよ。金粉シヨ」に出てくるダンサーは長時間金粉をしたままだと窒息死すると当時は言われていたこともあって、金粉を塗った人を見ただけで「大丈夫かな？」とドキドキしたものです。「ゴールドフィンガー」のボンダガールの名前はブッシー・ガロア（オナー・ブラックマン）だし。70年代に『愛の戦士レインボーマン』（※3）で特撮ドラマがあったけど、「死ね死ね団」の女性幹部たちの名前がリタやオルガって名前だった。「レインボーマン」の原作は川内康範さん。たぶんブッシー・ガロアの影響じゃないかなあ。

——日本ロケ作「007」は「二度死ぬ」はいかがですか？

上京して初めて地下鉄の丸ノ内線に乗ったとき、「すげー、ジェームズ・ボンドの世界にいられた」とコ

ンしましたね（笑）。あの誤解だらけの日本観がサイコーでした。今はハリウッドの人たちも日本文化のファンだったりするけど、当時の日本は単なるミステリアスな国だったんですよ。『ティファニーで朝食を』（61）にもメガネで出っ歯な日本人が出てくるけど※4、ああいう決めた日本人観が楽しい。正しい日本を描いてもつまらないですよ。やっぱり「二度死ぬ」みたいに天井には二ンジャ、浜辺には海女がいらないね。

「007」って初代ボンダガールが海女だったし、「二度死ぬ」の浜美枝さんも海女。宮藤官九郎さんが「あまちゃん」の脚本を書いている頃、参考になるかなと思って「007」のことや新東宝、につかつロマンポルノの海女もののDVDをずいぶん送りつけたんですが、宮藤さんは「全然、参考になりませんでした」と言っていました（笑）。そういえば、浜美枝さんと若林映子さんは「キングコング対ゴジラ」（62）でも共演してたしね、若林さんのほうが顔がエロかったんで、僕は若林ファンでした。「二度死ぬ」は若林さんのエロさが足りないのが、ちょっと残念でしたけど。

——日本人エージェントのアキ役に浜美枝さんが選ばれていたけれど、浜さんは英語が堪能じゃなかったから、若林さんと役を替わったそうですね。

らしいですね。若林さんは「宇宙大怪獣ドゴラ」（64）で宝島強盗団の紅一点を演じていたときにオススメです。「三大怪獣 地球最大の決戦」（64）のサルノ王女さま役はヘッブ

大切に取ってある「サンダーボール作戦」のパンフレット。「初代ボンダは仏像でいうと飛鳥時代かな。4代目以降は鎌倉時代の連発快楽の仏像みたくなっている」



バーン的でね。浜美枝さんは「キングコングの逆襲」（67）に出演したときにマダム・ピラニアって役名だった。これも、何だかいいらしい名前だよ。日本ロケといえは、瀬戸内海の島に「007記念館」（赤い刺青の男「記念館」というのがあって、「007」の新作のロケ誘致を行っていたのを見たことがあります。「007」が再び日本でロケをする際は、また二ンジャや海女がうじゃうじゃ活躍する夢の国のままであってほしいなあ。

——そのときは、みうらさんがボンダガール選考委員をやってください。やるものなら、やりたいです。今ならボンダガールは橋本マナミさんかな。リリー・フランキーさんと週刊誌「SPA」で12年間も「グラビア魂」の連載を続けているけど、グラビアアイドルを見ること、僕の基準はいつも「この娘ならボンダガールができるか」ですからね（笑）。

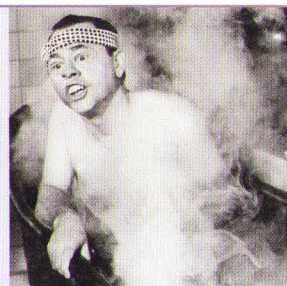
ボンダはやりチンから受難の時代に

——「二度死ぬ」で初代ボンダは降板することになります。

2代目ボンダのジョージ・レーゼンビーが主演した「女王陛下の007」は1本だけで、また「ダイヤモンドは永遠に」でジョーン・コネリーが戻ってくるけど、かなり老けてたしね。「女王陛下の007」は作品としてはすごく面白いけど、ボンダが結婚しちゃうんだよね。それまで愛のなセックスしかしてこなかったボン

※3 「愛の戦士レインボーマン」72年に放送された川内康範原作、東宝製作の特撮テレビ番組。正義の味方レインボーマンに変身するヤマトタケシと、死ね死ね団の戦いを描く。

※4 「ティファニーで朝食を」ではアメリカ人のミッキー・ルーニーがメガネ出っ歯の日本人役ユニヨシを演じた。



※5 まるでウエズリ・スナイプスの女版のようなグレース・ジョーンズ。



※6 ちなみに78年の正月映画として「私を愛したスパイ」は「男はつらいよ」寅次郎頭張れ！が公開され、80年は「ムーンレイカー」は「男はつらいよ」寅次郎春の夢が公開された。

ドが、2代目以降は人間味のあるボンダになっていく。ちょっと複雑な気持ちですね。「ダイヤモンドは永遠に」のボンダガール、ジル・セントジョンは陽気なキャラクターで、パンツの横幅が広かった。ボンダガールもころへんからセクシー路線じゃなくなってきたんです。3代目口ジャ・ムーアになると時代が70年代になって、ウーマンリブ運動もあってますます女性像が変わっていった。多分「初代ボンダはイヤらしい」と反省して、子供向けに修正したんじゃないですか。ロジャ・ムーアはテレビスター出身の華やかさはあったけど、エロさはなかった。「美しい獲物たち」にはエセセックスなグレース・ジョーンズ（※5）が出てくるわけだし。ロジャとグレースとのベッドシーンがあつて、「ボンダって節操ねえな」ところは驚きました。確かにグレースはナイスバディではあるんだけど、3代目ボンダはなんなら男でもイケますよって感じじゃないです。

——5代目ボンダことヒース・ロズナンだと、「ゴールドフィンガー」に登場する悪のボンダガール、ゼニア・オナトッパ（ファム・ケ・ヤンセン）が人気。マシンガン撃ちまくると興奮するという変態キャラでした。

オナトッパ！ またもいやらしい名前だなあ。ああ、ロズナンに胸締めスリーパーしてた女性ですね。3代目以降はイヤらしいさがなくなったから、また反省会議を開いて「少しエロさを戻そう」となったのかな。でも

その頃は僕ももう充分に大人になっていたから、名前がエロいくらいじゃ動じなくなりましたから（笑）。やっぱり「007」は動じる年齢のときに観なきゃ。プロスナンだと、ソフィ・マルソーが出ていたワイルド・イブ・ノット・イナフが印象的でした。こちらは「ラブ・ブーム」（80）のつもりで観に行ってますから。でもソフィが予想に反していい感じの悪女になっていた。

——ヒース・ロズナン時代になると女性プロデューサー（バーバラ・ブロッコリ）になったこともあつて、ベッドシーンよりもボンダが拷問に遭う場面のほうが印象に残るようになっていきます。

ジョーン・コネリーの頃は完全な男性目線映画だったけど、女性にも観てもらえるように変えていったんだね。でも、ダニエル・クレイグが「カジノ・ロワイヤル」で思いっきり股間を蹴り上げられるシーンは久々によかったですね。「ああ、ボンダが帰ってきた」と思ったもん（笑）。やっぱりボンダは股間に訴えかけるものがないとね。ダニエルはフェロモンもあるし、人間味も感じさせる。これまでのボンダ像がうまく入っているよね。

多くの男性に影響を与えたボンダの女性観

——みうらさんは「007」と同時に「男はつらいよ」もずっと観てきたんですね。

そう、正月映画といえは「007」が寅さんだったからね（※6）。「007」を観た後で、寅さんのハシゴなん



小学生だったみうらさんにフェチ心を植え付けた「サンダーボール作戦」の問題シーン。みうらさんいわく「サンダーボールって名前がそもそもイヤらしいでしょ。多分、あのボールの暗号名なんじゃないですか」。

MJ映画に隠された「007」の匂い

MJ（みうらじゅん）の思春期を描いた映画『色即ぜねいしよん』（09）では、白田あさ美がビキニ姿で登場。初代ボンダガールであるウルスラ・アンドレスへのオマージュシーンとなっている。白田は白ビキニになっているのでチェックされたし。青春映画の金字塔として人気の高い「アイデン&ティティ」（03）の主人公・中島（峯田和伸）はファンの女の子とすぐエッチするボンダばりのやりチンだが、本命の彼女（麻生久美子）への想いで中島の心は揺れ動いている。「007」と「男はつらいよ」の狭間で、童貞をこじらせたというMJの女性観が投影されていると言えるだろう。

『色即ぜねいしよん』

パンダイビジュアル/3800円 ©2009色即ぜねいしよんズ



色即ぜねいしよん

チョイ役だけど

こんな連中もいた!

クロンストーン(No.5)

(ヴァデク・シェイバル)「ロシアより愛をこめて」
作戦構築を務める頭脳派のソ連人で、チェスの腕前は
一級品。ボンダ殺害失敗により毒薬で始末された。

モゼニー

(ヴォルター・ゴテル)「ロシアより愛をこめて」
殺し屋グラントを教育し、任務に失敗したクロンスト
ーンを殺害。最後はボンダとのボートチェイスで死亡。

ジャック・ブヴァール(No.6)

(ローズ・アルバ/ボブ・シモンズ)「サンダーボール作戦」
英国諜報員を2人殺した幹部。演じたシモンズは第1
〜3作目までのガンバルを担当したスタントマン。

リップ伯爵

(ガイ・ドールマン)「サンダーボール作戦」
NATO軍の爆撃機操縦士を替え玉へとすり替える役割
を担うが、ボンダとトラブルを起こしフィオナに殺害される。

No.7(セシル・チェン) No.9(クライヴ・ケイジズ) No.10(アンドレ・マレンヌ) No.11(ガボール・バラカー)

「サンダーボール作戦」
ラルゴが運営する慈善団体の秘密会議室に集ったメ
ンバー。よどみなく犯罪報告を行っていく悪のエリート。

大里

(島田正)「007は二度死ぬ」
「007」では珍しい日本人悪役。スペクターの計画の
ために液体燃料を入手する大里化学産業の社長。

エミリオ・ラルゴ

(アドルフ・シェリ)
「サンダーボール作戦」

パリを本拠地にした慈善団体の運営者
という表の顔を持つNo.2。幹部ながら自
ら現場にも赴く行
動派。その非情
さ、残忍さは組
織でもトップ
クラス。



イルマ・ブント

(イルゼ・ステバット)
「女王陛下の007」

プロフェルドの秘書的存在でアルプスの
研究所を統括。ボンダの妻トリーシー殺
害の張本人であり、小
説版ではプロフェ
ルドの妻として
登場する。



ローザ・クレップ

(ロッテ・レーニャ)
「ロシアより愛をこめて」

ソ連情報局の女局長にしてNo.3。ボン
ダ暗殺計画の指揮官を務め、作戦が失
敗するや清掃人に
扮し、靴に仕込
んだ毒を塗っ
たナイフで殺
害を目論む。



ヘルガ・ブランド

(カリン・ドール)
「007は二度死ぬ」

スペクターの息が掛かった大里化学産業
で秘書として働く。ボンダ暗殺を因って誘
惑するが失敗。プロフ
ェルドによってピ
ラニアの池に落
とされる。



ドクター・ノオ

(ジョセフ・ワイズマン)
「ドクター・ノオ」

映画に登場した記念すべき幹部第1号。
怪電波でロケットを妨害する研究に従
事。研究中の放射能
の影響から両腕
は義手となっ
ており、黒い手袋
を愛用。



フィオナ・ヴォルペ

(ルチアナ・バルツィ)
「サンダーボール作戦」

ラルゴの信頼も厚い、シリーズ初の女暗
殺者。NATO脅迫のための原爆強奪に関
与し、計画の邪魔者
であるボンダを誘
惑して肉関係
を持つ。



恐ろしくも個性

豊かなメンバーたち

エルンスト・スタヴロ・ブロフェルド

(ドナルド・プレザンス/テリー・サヴァラス/
チャールズ・グレイ/マックス・フォン・シドー)
「007は二度死ぬ」「女王陛下の007」
「ダイヤモンドは永遠に」「ネバー・セイ・ネバー・アゲイン」

世界征服を狙うスペクターの首領＝No.1にして、ボンダの永遠の宿敵。
悪行のため様々な策を練る天才。4作品で顔出し登場しており、それぞれ
異なる俳優が演じているが、それは整形で常に顔を変えているという設
定に。用心深く影武者も用意している。



映画のために発案された? スペクター誕生の経緯

スペクターとブロフェルドの生みの親は原作者フレミングではなく、
実は小説の映画化脚本を手掛けていたケヴィン・マクローリー。
結局、映画第1作「ドクター・ノオ」にはスペクターのアイデア
だけ採用されるにとどまったが、後にフレミングが小説の方に無
断でブロフェルドを登場させ、それがまたマクローリーに無断で映
画化されてしまうなど、最終的に裁判にまで発展する問題となっ
た(フレミングが慰謝料を支払った)。第8作以降、最新作「スペ
クター」まで登場しなかったのには、そんな理由もあったのだ。



ボンダを苦しめた強敵たちを振り返る!

「007」世界の悪党たち!!

「007」の悪役たちはみな個性的で、作品のもうひとりの主役。悪党だけどこか憎めない歴代キャラクターを振り返って!こう!

「007」の悪役といえば...

宿敵“スペクター”に迫る!

「007」の宿敵といえばスペクター。首領ブロフェ
ルドはもちろん、幾人もの幹部たちが活躍している
が、その正体は未だ全貌を見せず!

この作品で登場! スペクター暗躍の歴史

『ドクター・ノオ』

ジャマイカの島「クラブ・キー」をアジトに、ア
メリカが進める月面ロケット発射を妨害する
不正電波を発信。ボンダよりも先に捜査をし
ていた英国諜報員を葬り去る。

『ロシアより愛をこめて』

ソ連の女スパイを騙し、暗号解読器「レク
ター」を持たせて英国亡命を画策。その護衛の
任に就いたボンダを罠に掛け、ノオ殺害の復
讐を図りつつ、レクター強奪も狙う。

『サンダーボール作戦』

原子爆弾2基を搭載したNATO空軍の爆撃機
を強奪。西インド諸島バハマ群島の海底に隠
す。そして原爆と引き換えに、NATOに1億ポ
ンド相当のダイヤモンドを要求する。

『007は二度死ぬ』

日本南端にあるアキ島に秘密基地を建造し、
アメリカとソ連の宇宙船を襲って宇宙飛行士
たちを幽閉。米・ソそれぞれが相手国に疑惑
を持つように仕向け、戦争勃発を企てる。

『女王陛下の007』

スイス・アルプス頂上のアレルギーに関する研
究所に若い女性を拉致。催眠療法で洗脳を
施し、彼女たちを使って世界中に細菌をばら
撒くという生物兵器テロを計画。

『ダイヤモンドは永遠に』

ダイヤモンドが作り出す強力なレーザー光線
に着目。大量のダイヤモンドを集めて人工衛
星に搭載し、宇宙空間から世界の主要都市へ
レーザー光線攻撃を仕掛ける。

『ネバー・セイ・ネバー・アゲイン』

アメリカ大統領の角膜を移植したメンバーが、
訓練飛行する爆撃機に核弾頭を搭載。それを
海中に隠してNATO諸国を脅迫、年間原油購
入額の25%を支払うよう要求する。

謎に満ちたスペクターの設定あれこれ!

世界中から金を集めて

経済力は国家規模!

その資金力は国家規模で、『サンダーボール作戦』の定例会
議シーンでは、回収金の内訳が披露される一幕があり、列車
強盗から仏外務省の暗殺依頼に至るまで、まさに世界の裏
側を牛耳っていることが窺える。

秘密基地もこれぞ“悪の組織”!

アルプス山頂、火山の火口内部、海底など、技術力なくして
建造不可能な場所に秘密基地を多数所有。いずれも漫画や
アニメに出てきそうな、これぞ“悪の組織”というようなブッ
飛んだものばかりだ。

ほかの映画でパロディも!

ブロフェルドは数々のパロディ映画のネタにされている。有
名なのは『オースティン・パワーズ』シリーズのドクター・イ
ーブルで、もちろんベルシャ猫も登場する。まさに映画史に
残る悪役のモチーフなのだ。



欠かせぬ名脇役 ブロフェルドの猫!

ブロフェルドは白いベルシャ猫をかわいがっ
ており、膝の上に乗せて撫でるシーンはもは
やおなじみ。『ダイヤモンドは永遠に』でボ
ンドが、ブロフェルド本人が影武者かを判別
するため猫を蹴飛ばす作戦を思い付くが、
猫すら影武者だったという珍エピソードも。

絶対の“鉄の掟”も刺激的!

メンバーはナンバー(作品によって変わる)
で呼び合うルールがあり、どんなに優秀で
も裏切りや失敗は死をもって償うという厳し
さ。定例会議中でも見せしめに処刑されるな
ど、情け容赦のなさが恐ろしくも清々しい。

時にはこんなネタ扱いもあった!?

コミカルな演出も多い「007」。ブロフェ
ルドすらネタキャラ化することもあり、『ダイ
ヤモンドは永遠に』では女装姿を披露、『ユ
ア・アイズ・オンリー』では車椅子ごと工場
の煙突へ落下させられるという扱いも。

「007」の悪役たちは、どのキャラクタ
ーもとても魅力的だ。冷静な目で見ると
荒唐無稽だが、だからこそキャラクター
が際立ち、時にボンダ以上の魅力を放つ
ことがある。

まず、悪役は基本的にボスと用心棒的な
サブ悪役から構成されている。ボスは「地
球征服」のような壮大な悪事を企てる頭脳
派が多く、子供の頃に憧れた秘密基地然
とした大掛かりなアジトを所有している。
夢のために金を稼ぎ、惜しみなく投資する
のだから、実はとても純真なのかも知れな
い。何度も登場する宿敵エルンスト・スタ
ヴロ・ブロフェルドを筆頭に、ゴールドフィ
ンガーやマックス・ゾリンなど、すぐに思い
浮かぶ悪役が多数存在し、みなヒールであ
りながら憎みきれない。そして、コミカル
な役を時にオスカー俳優が嬉々として演じ
ているところも面白い。

一方のサブ悪役は、ボスの指令で忠実に
動く殺し屋だ。標的を切断する鋼鉄シルク
ハットが武器のオッド・ジョブ、SEXの最
中に相手を絞め殺すゼニア・オナトツ、
鋼鉄の歯を持つ長身の怪力男ジョーズな
ど、芸に秀でつつビジュアルもユニークか
つ、頭脳派のボスと違い肉体派なため、ボ
ンドと熱いバトルを展開することもしばし
ば、ボスよりも印象に残る濃いキャラク
ターが数多い。それだけに、クレイグ・ボン
ダのシリウス路線では、サブ悪役のインパ
クトが薄れてしまっているのが残念なところ
だ。

「007」には「悪役の歴史」が脈々と
流れている。悪役を愛してこそ、シリ
ーズの本当に魅力に触れられるのではない
だろうか。

壮大な悪事を計画する
ドリーミーなクセ者たち



妖艶なルックスに
容赦ない攻撃性

ナオミ
(キャロライン・マンロー)
『私を愛したスパイ』

ストロンバーグの秘書であり殺し屋。ヘリコプターからボンドカーで逃走するボンドにウインクしながら機関銃乱射。ボンドカーに搭載のミサイルで撃墜されてしまう。



フェンシングの
達人の三重スパイ

ミランダ・フロスト
(ロザムンド・パイク)『ダイアナザー・デイ』

M16所属でグレーヴスの広報官として潜入捜査。しかし、フェンシングの試合の八百長勝利を条件にグレーヴスへと寝返ることに。ジंकスと壮絶な一騎打ちは白熱!

悪役とはいえ同情しちゃう?
コイツラの死に方が
面白&悲惨!

ハンス (ロナルド・リッチ)
『007は二度死ぬ』
プロフェルドのボディガードとして登場。ピラニアの池に落とされ、ボンドから「不味からうに」とヒドいひとりが。

ドクター・カナンガ/
ミスター・ビッグ
(ヤフェット・コッター)『死ぬのは奴らだ』
ボンドをサメが泳ぐプールに落として殺そうとするも、反撃に遭って圧縮ガス弾を飲み込まれ、風船のように爆発。

ミスター・ウィント&キッド
(ブルース・グローヴァー&パター・スミス)
『オクトパシー』
ゲイの殺し屋コンビ。揃ってボンドを襲撃するも、前者はアソコを止められ、爆弾とともに海中でドカン! 後者は燃えるBBQ串を武器にしようとしたら、酒を掛けられて火だるまに。

ダリオ (ベニチオ・デル・トロ)
『消されたライセンス』
敵のグロイ死に方が多い同作の中でも極め付け。ボンドとの格闘の末、サトウキビの粉砕機でミンチにされてしまう。

ボリス・グリシェンコ
(アラン・カミング)『ゴールデンアイ』
崩壊する基地の中、「俺は天才だあーっ!」と雄たけびを上げた直後に液体窒素を全身に浴び、カチンコテンに。

ボンドにとっては一番厄介? 麗しき女悪役

プレイボーイなボンドだけに、美女が敵に回ると苦戦もしばしば。もっとも、こんなハニートラップならヤラれても本望かも?

SEX中の太もも
圧迫が必殺技



男顔負けの戦闘力
を持つ超人

メイ・デイ
(グレイス・ジョーンズ)『美しき獲物たち』

ナチスの人体実験で怪力を身に付けた殺し屋で、エッフェル塔からのダイブ逃走など、随所でその身体能力を披露。ソリンの部下だったが、後に造反して盛大に爆死。

ゼニア・オナトッ
(ファム・ケ・ヤンセン)『ゴールデンアイ』

犯罪組織ヤヌスに所属し、機関銃乱射やSEX中の殺人でエクスタシーを感じるド級のサディスト。ボンドもその太ももの餌食になりかけた、シリーズ屈指の危険な殺し屋。

どうしてそうなった!?

ブッ飛び思想の3大悪人

『007』の大ボスたちは、荒唐無稽な悪事を企てる危険思想の持ち主ばかり。その中でも、特にヤバさ全開の猛者たちと言えば…?

選ばれし者だけの
新世界を宇宙で!



ヒューゴ・ドラックス
(ミシェル・ロンズデー)
『ムーンレイカー』

フランスの億万長者で国家的なVIP。極秘に宇宙ステーションを建造し、選ばれし者だけを宇宙に移住させ、地球上の全人類を毒ガスで抹殺。ノアの方舟のような新世界を自身の手で創り出そうとする誇大妄想狂。

価格高騰を
狙い金を
放射能漬けに!

ゴールドフィンガー
(ゲルト・フレベ)『ゴールデンフィンガー』

自ら所有する金の価値を高めるべく、米フォートノックスの金貯蔵庫を原爆で放射能汚染しようとする、歪んだ金の亡者。拘束したボンドの股間を狙ってレーザー光線攻撃するシーンもかなりヤバい。

カール・ストロンバーグ
(クルト・ユルゲンス)
『私を愛したスパイ』

巨額の富を持つ海運王であり海洋学者。海を愛するあまり、奪った潜水艦から核攻撃を行って第3次大戦を勃発させ、地上社会の破壊を画策。建造した巨大海底基地に海底王国を築くことを夢見てしまう。

地上を滅ぼして
海底王国建立だ!



ニック・ナック
(エルヴェ・ヴィルシェーズ)
『黄金銃を持つ男』

スカラマンガの召使い。実はスカラマンガの莫大な遺産を虎視眈々と狙っており、身体の小ささから戦闘能力こそ低い、仕掛け満載の屋敷を造ってボンドと対決させる。

切れ味鋭い恐怖のシルクハット
遺産を狙う賢い小男



オッド・ジョブ
(ハロルド・坂田)『ゴールデンフィンガー』

忠実なるゴールドフィンガーの用心棒。ゴルフボールを握りつぶすパワーと、人間の首すら切断する鋼鉄の突っ込んだシルクハットを武器に、最後までボンドを追い詰めた。

サメより恐ろしい鋼鉄の歯



ジョーズ
(リチャード・キール)『私を愛したスパイ』『ムーンレイカー』

唯一2作品に登場した、ムーア時代を代表する殺し屋キャラ。動きはトロイが何でもかみ砕く鋼鉄の歯と、2メートル超えの長身から生まれる怪力でボンドと熱闘を展開。運命の女性と出会ったことで雇い主を裏切り、ボンドに手を貸すように。

ビジュアルも強力!

印象的すぎる“殺し屋”たち

ボンドと対決した殺し屋たちは、ビジュアルもスキルもインパクト絶大。ボス連中以上に存在感にあふれた名(迷?)キャラクターを紹介。



冷酷なる
ロシアの
暗殺者

レッド・グラント
(ロバート・ジョー)
『ロシアより愛をこめて』

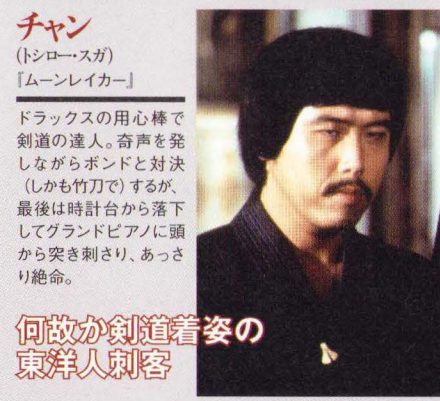
スペクター所属の殺し屋。腕時計に仕込んだワイヤーでの絞殺が得意。殺す前に延々と筋骨きを説明したり、コインに目くらんで反撃の機会を与えてしまう間抜けな一面も。



強力無比な
義手が武器

ティービー
(ジュリアス・W・リス)
『死ぬのは奴らだ』

カナンガの側近で、ワニに食われたという片手に鋼鉄製の義手を装着。そのパワーは拳銃を簡単に握りつぶすほどだが、義手を動かすワイヤーを切られると途端に役立たずに。



チャン
(トシロウ・サガ)
『ムーンレイカー』

ドラックスの用心棒で剣道の達人。奇声を発しながらボンドと対決(しかも竹刀で)するが、最後は時計台から落下してグランドピアノに頭から突き刺さり、あっさり絶命。

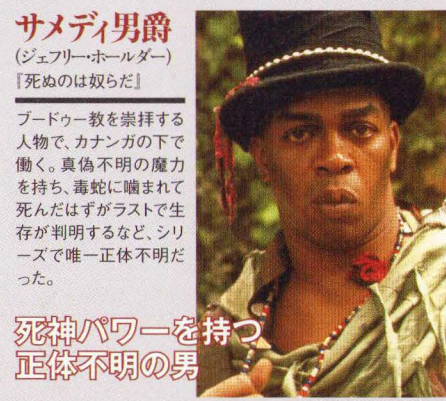
何故か剣道着姿の
東洋人刺客



ゴビンダ
(カビール・ベディ)
『オクトパシー』

カーン配下のインド野郎。ダイスを粉々に粉砕する握力を見せ、セクナ機の翼上でボンドと死闘を演じるも墜落死。カーンの理不尽な命令にはちょっと抗ったりしたこと。

オツムは弱いけど
握力は脅威!



サメディ男爵
(ジェフリー・ホルダー)
『死ぬのは奴らだ』

ブードゥー教を崇拝する人物で、カナンガの下で働く。真偽不明の魔力を持ち、毒蛇に噛まれて死んだはずがラストで生存が判明するなど、シリーズで唯一正体不明だった。

死神パワーを持つ
正体不明の男



——井筒監督が初めて観た「007」映画はなんですか？

小学校5年生のとき、奈良の興福

ポンドがイギリスの女王陛下のスパイだということも、観ていてボヤッと分かりました。

——第1作を観て、何が印象的でしたか？

クター・ノオ」だけど、最初はこのタイトルで公開されて、殺しの番号として何やねんソレって思ってた。それがカッコいいと思ったんですね。映画を観て、初めて「〇〇ナンバーの謀報員は、殺しの許可証を持っている」と分かったけどね。彼が名前を聞かれると「ボンド、ジェームズ・ボンド」って、2回自己紹介するでしょ。それが面白くて、学校で WHO ARE YOU? って聞いて友達に言って、「ボンド、ジェームズ・ボンド」と答えるという遊びをしてました。それとジェームズ・ソリヤボンドガールにビックリしたわ。初代ボンドガールのウルスラ・アンドレス(※1)が白いビキニの水着で登場するんですけど、この白い水着と、というのが実にいやらしくてね。体が濡れた状態で出てくるから、何とか白い水着の奥が透けて見えなにかと思っただし、これは当時観た全国の少年たちの統一意識だったと思いますね(笑)。みうらじゅんは、あの白い水着のお股のところが縦に割れていると言いつけるけど、それは彼の妄想。言うほど割れてない。皺になってよれてるだけ



小学校5年生で第1作を映画館で観て以来、リアルタイムで「007」シリーズを追いつけてきた井筒監督。このシリーズに対する思い入れは誰よりも濃いものだった！

井筒和幸監督が愛する

取材・文／金澤誠 撮影／三橋優美子

小学生時代からリアルタイムで見続けてきた **「007」シリーズ**

（笑）。でも水着が透けて何か見えな
いかって集中して観ていたのはホンマ
です。このウルスラさんが初代をやっ
たことによって、ボンダガールはグラ
マラスでないといかんというイメー
ジになった。乳がデカくて、お尻もバ
ーンと張っていないとダメ。そういう
道筋をつけたということでも、当時の
少年の欲望を掻き立てたということ
でも、ウルスラさんは罪深い人ですわ
ホンマに。

——では、井筒少年の興味の中心は、
ボンドガールだったんですね？

間違はなくそうですよ。でも次の『007／危機一発』後に「ロシアより愛をこめて」に改題に出てきたダニエル・クレイグは印象が薄かったな。むしろ『ゴールドフィンガー』に出たオナール・ブラックマンの方が好きだった。ブラックマンさんは超ボインでしたから。やはりボンドガールは、ボンドを色香で惑わさないとダメ。彼を陥れてなんぼの役なんだから。それがシリーズが進むにつれて、ボンドガールは脇役的なポジションになって影が薄くなってくでしょ？ 印象に残っているのは『007は二度死ぬ』でボンドと文金高島田姿で偽装結婚した浜美枝さん。当時の浜さんはナイスバディでしたから。同じくこれに出ていた若林映子さんも色っぽかった。あの時代に日本からこの二人をキャスティングしたのは凄いよね。これはほぼすべて日本口けているけれど、作品的にも一見の価値があるトンデモ映画です。あとは『ワイルド・イズ・ノット・イナフ』のソフィ・マルソーが、往年のボンドガ

——ポンドガール以外に魅力を感じたのは？

※1 ウルスラ・アンド
レス

※2
『バルジ大作戦』
1964年

第二次世界大戦末期の
ヨーロッパ戦線。19
44年12月に行われた
ドイツ軍がアメリカ軍
に対して仕掛けた作戦
名、ラインの守りを描
いたアメリカ映画。口
パート・シヨウはドイ
ツ軍のヘスラー大佐を
演じた。

※3 全身金粉を塗られた全裸の女の子
ゴールドフィンガーの助手であるジル(シャリー・イートン)は、ポンドの手助けをしたため、全身に金粉を塗られて窒息死する。映

もんね。

——ではロジャー・ムーアの時代は、ボンドの魅力で観ていたんですね。その後のティモシー・ダルトンと、ピアース・ブロスナンはいかがですか？

あんまり印象が無い。今のダニエル・クレイグは、あまりプレイボーイっぽくないでしょ。だからボンドの感じがしなくて実はそれほど食いつけないんだけど、最初の「ガジノロワイヤル」は面白かった。全裸で股間を拷問されるシーンなんか笑いまくったからね。「ジェームズボンドがリンチされて、どうするねん」と思ってる。でもああいう場面は、ちよつとたれ目で三枚目顔のダニエルみたいな兄ちゃんだから出来たと思うんです。シヨン・コネリーにあのシーンはできない。今度の新作も、いの一番に観たいと思ってる。やはりタイトルがズベクター。ですかです。結局、原点に戻っていると思うんです。

—「007」シリーズが半世紀以上続いている理由は、何だと思いますか？

米ソの冷戦が終わった90年代以降、スパイの敵がみんななくなっただけでしょ。映画として描こうとすると、CもI AもM-16も敵の設定に困るわけですよ。北朝鮮がアラブ系、あるいはテロリストということになってしまふ。その中でスパイ映画として「007」が今もダントツなのは、敵をメチャメチャ奇々怪々な奴らとして描いてきたからでしょ。敵を怪しげにするというのは、原作者のイアン・フレミングが打ち立てたコンセプトだと思っんです。イアン・フレミング自身、

第二次世界大戦中にイギリス海軍の

諜報員だった。彼が実際相手にしていた敵は、当時のナチスドイツ。その時の経験を活かして、戦後になって面白おかしく書いたのが原作のシリーズなんですよ。フレミングにとっては対ナチスドイツというのが根っこにあるから、映画のように世界を征服しようとする組織スペクターが出てこようがなんだろうが、すべてナチスドイツのメタファーだと思っんです。つまり現代を舞台にしても、彼が小説を書いていた当時の米ソ対立をそのまま正面から捉えるのではなくて、どこか懐かしい冒険小説のノリで表現している。そういう原作の持つ物語の構築の仕方が、どんなに時代が変わっても「007」シリーズが続けられる強みになっていると思うんです。生々しく現代に寄り添うのではなく、イギリスのお家芸である伝統的な冒険ものとしてスパイを描く。これは唯一アメリカ

映画に勝てるものですよ。これがアメリカだとトム・クルーズの『ミッション・インポッシブル』シリーズのように、組織が解体されるだの、局員情報が見えいしたのだの、今風の話にムリヤリして、いってトンデモな悪人もいない、呆れるようなバカらしさもない。ジェームズ・ボンドはなんと、言っても女王陛下のスパイだから、そこを決めておけばいろんなことができるわけよ。演じる俳優がこれだけ変わって続いているシリーズも珍しいけれど、原作もいろんな人が受け継いで書いているし、世界に大悪党がなくならない限り、今後まだまだ続いていくんでしょうね。



戦
※4
史上最大の作



※5
フル！マック



第一次世界大戦末期
ドイツ国家最高の名譽
と栄光を得られるブル
ー・マックス勳章に生
涯を賭けた若き空軍バ
イロットの活躍を描い
た戦争映画。

MOVIE COLLECTION





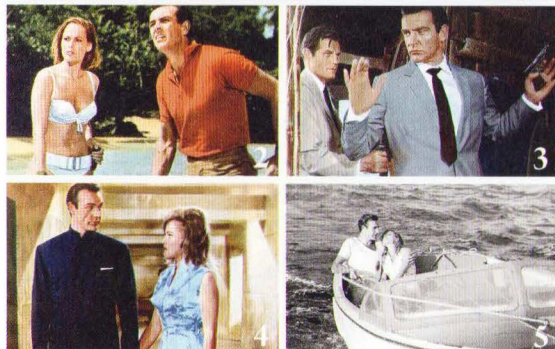
1



Gadgets

ボンドのトレードマーク、それがワルサーPPK

ワルサーPPKが登場。これはMから、それまで愛用していたベレッタに替わって任務遂行時に使用するよう命じられたもの。特殊装備課からの支給品である。本作では秘密兵器の類には頼らず、常にボンドは自らの機転とアイデアで行動する。



1「ボンド、ジェームズ・ボンド」。決め台詞が誕生した瞬間に立ち会ったのは、のちのガールフレンドのシルヴィアだ。2「アイアン・フレミングの原作とイメージが違う」という批判もあったが、コネリーはボンドを引き寄せることに成功した。3銃を突き付けているのはフィリップス・ライター。以降、友人としてもボンドをサポートするCIAの諜報部長だ。4「ノオ博士に捕えられたボンドとハニー。来客用の衣装でもてなされるこのシーンも『スペクター』では引用」。5ボンドガールと共に事件を解決した後のお楽しみは…。シリーズの定番が既に第一作で完成しているのだ。

OPENING

「ジェームズ・ボンドのテーマ」(インストルメンタル) パイロ・リー&ザ・ドラゴネアーズ/「キングストン・カリブ」

音楽の担当はモンティ・ノーマン。今に続くタイトルバックはモーリス・ピンダーのデザインだ。バックに流れるのは「キングストン・カリブ」。

もちろん冒頭にはガンバレル・シークエンス、不朽のメロディ「ジェームズ・ボンドのテーマ」が初めて登場している。

ENEMY BASE

ノオ博士が建造した スペクターの要塞

ノオ博士がジャマイカ沖にある島クラブ・キーにロケット妨害のための司令部を建造。要塞ともいえるその内部には拷問も可能な訊問室や、原子力装置さえも備えている。のちにスペクターの拠点には姿や規模を変えてシリーズに登場。その奇抜でありながら秀逸、モダンな感覚のセットデザインは、本作でプロダクション・デザイナーを担当したケン・アダムが原型となるモデルを創造した。



ENEMY

ドクター・ノオ (ジョセフ・ワイズマン)

中国の秘密結社を裏切って金塊を持ち逃げし、のちにスペクターに加わった。優秀な科学者であると同時に、冷酷な殺人者でもある。破壊力のある義手を備え、残酷なキャラクターの象徴となっている。

敵の目的 アメリカのロケット発射の妨害。計画を知った者を殺害し、調査にきたボンドを亡き者にしようとする。

スペクター

テロ、復讐、恐喝、敵対諜報活動を画策して世界を混乱させ、利を得ようとする犯罪者組織である。最新作「スペクター」にも登場する。そのオリジナル的な存在であると言える。

敵の目的 東西両陣営のどちらにも属さず、天才的な頭脳を結集してボンドの宿敵となる。幸いるのはエルンスト・スタヴロ・プロフェルド。



熱風と毒グモの町に巻き起る消音銃の恐怖!!

007/ドクター・ノオ

1962年作

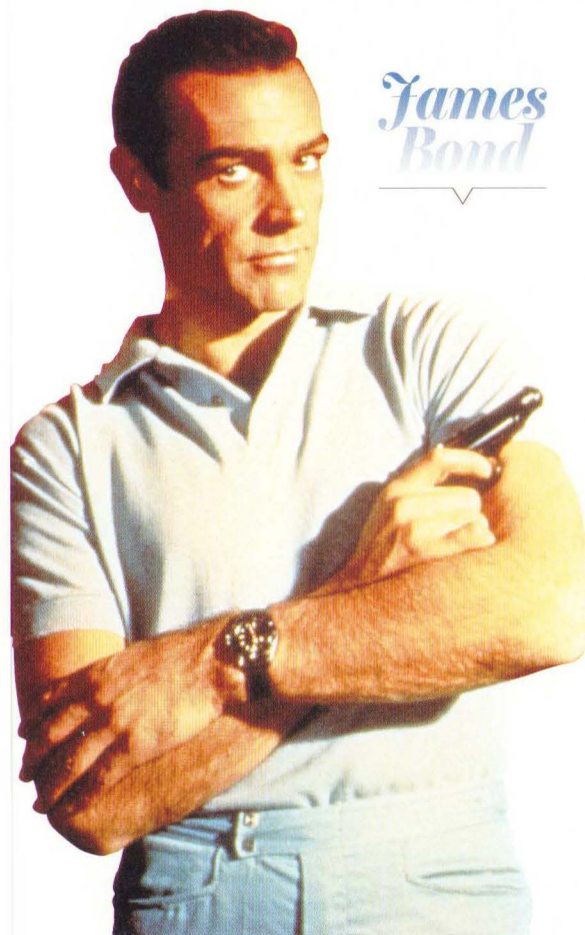
Dr.No (公開題「007は殺しの番号」)



007は殺しの番号だ! 記念すべきシリーズ第二作

その後、50年以上にわたって新作が公開され続けると誰が予想したであろう。『007は殺しの番号』、イチかバチかでスタートした記念すべき「007」シリーズ第一作。日本では製作の翌年の1963年に劇場で初めて公開された。ほとんど無名だったショーン・コネリーをジェームズ・ボンド役として抜擢。果たしてヒットするか、観客に受け入れられるかどうかはまったくの未知数。よって低予算の作品として、スケールも現在のシリーズの姿からは想像もつかないほど規模が小さい。しかし比較的原作に忠実に製作された世界観、冷酷でタフなジェームズ・ボンド、野性味溢れるダイナミックボディのボンドガール。意表をつくセットデザイン、シリーズの顔ともなるガンバレル・シークエンスと美しいタイトルデザイン。その

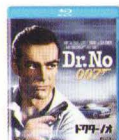
して、ボンドの敵となる謎の組織スペクター。今に続く、ボンド映画で観客が見たいと思う主要な要素は既にこの時点でしっかりと提示されている。最新作「スペクター」でシリーズに再登場するスペクターとはどういった組織か。何を目的として結成されたものなのか。本作ではノオ博士によってすべて明かされている。のちにこのスペクターのNo.1こと首領のエルンスト・スタヴロ・プロフェルドが物語にも登場することになる。そしてもちろん忘れてはならないのが、定番の「ジェームズ・ボンドのテーマ」だ。このキャッチーなギターサウンドも50年以上にわたって愛され続けることになる。うとは、誰が予想したであろうか。そう考えるとまるで奇跡が生んだ作品、シリーズのように思えてならないのだ。



『ドクター・ノオ』

- 発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
- 1905円
- 収録分:110分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ監 トレニス・ヤング 園リチャード・メイバウム 園ショーン・コネリー、ジョセフ・ワイズマン、ウルスラ・アンドレス



今回の任務 アメリカのロケット発射を妨害する事件が発生。ジャマイカで調査にあたっていたストラングウェイズの消息がわからなくなり、真相解明のためにボンドが派遣されることになる。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン▶ジャマイカ

Bond Girl

ハニー・ライダー (ウルスラ・アンドレス)

事件の調査のためにジャマイカを訪れたボンドと出会う。「マンゴーの木の下で」を口ずさみながら、生計を立てるために海辺で貝を集めていたが、ボンドの任務に巻き込まれる。



ボンドガールの ココにクギツケ!!

ボンドガールとはこうあるべし、の原点である。白いビキニ姿で海から砂浜に上がってくるシーンは「ダイ・アナザー・デイ」でハル・ベリーが再現してみせた。のちにアンドレスは番外編の「カジノ・ワイヤル」にも出演している。

STORY

ノオ博士が画策する スペクターの陰謀!

アメリカのロケットを妨害する謎の事件。Mから調査を命じられたボンドはジャマイカに飛ぶ。そこでCIAのフィリップス・ライターらと共にある島に隠された謎を探るうち、ノオ博士の存在が明らかになる。ノオは自ら、これはスペクターの計画であると告白する…。

シルヴィア・トレンチ (ユニース・ガイソン)

ボンドとの出会いはアンバサダー・クラブのカジノ。アパートに忍び込むことにも成功、ガールフレンドのような存在となった。次作「ロシアより愛をこめて」にも登場している。

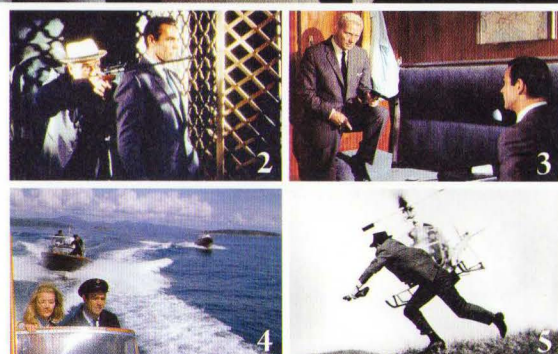




Gadgets

危機一発!でボンドを救う秘密兵器が登場

シリーズでは初、Q課謹製の秘密兵器がアタッチケースだ。組み立て式の狙撃用ライフルや飛び出しナイフの他、催涙ガスを装備する。荒唐無稽なようでいて、スパイには本当に支給されているのかもしれない。と観客に思わせられるところがミソ。



1 [007]シリーズ初期の傑作にしていまだ熱く支持される代表作。ボンドとタチアナが会うシーンのキスは映画史にも残る。2 シリーズ伝統の「楽屋落ち」が早くも登場。スコップの先にあるのは「腰抜けアフリカ博士」のビルボードだ。3 ボンドに迫った危機を救うのはQのアタッチケース。列車内でのド派手なアクションは「スペクター」でも健在。4 ボートチェイスではボンドが機転を利かせて難を逃れる。タチアナの表情もコケティッシュな名シーンだ。5 スペクターのヘリコプターに上空から付け狙われるボンド。しかし、彼を救うのはやはりQ課の秘密兵器である。

OPENING 「ロシアより愛をこめて」(インストゥルメンタル)

マット・モンローが甘く歌う主題歌はエンドタイトルに登場。オープニングではジョン・バリによってアレンジが施されたインストゥルメンタル版が流れる。「007サウンド」をつけたのがバリ。その後もシリーズではたびたび登場する「007のテーマ」も忘れてはなるまい。

ENEMY BASE

スペクターのプロフェルドがいよいよ登場!

前作「ドクター・ノオ」で明らかにされた犯罪組織スペクターの存在。No.1と呼ばれる顔を見せない首領、エルンスト・スタヴロ・プロフェルドがいよいよ登場する。スペクターのシンボルが「スペクター」でも描かれている「タコ」であることも本作で判明。のちの「秘密基地」のようなものはまだなく、クレップたちに指令を下す船室や、グラントがスカウトされる暗殺者の訓練所などが描かれている。



ローザ・クレップ (ロッテ・レーニヤ)

ソ連の諜報機関スメルシュに属していたが、実はスペクターの幹部。コードネームはNo.3。タチアナにボンドを誘惑させ、暗殺を計画。最終的には、靴の中に仕込んだナイフで自らボンドの命を狙う。

敵の目的 ドクター・ノオの復讐のためにボンドを殺害すること。亡命事件で英国に渡った暗号解読機を「横取り」してソ連へ売りつけ、大金をせしめると共に、東西間の緊張を高めようとする。

レッド・グラント (ロバート・ショー)

スペクターの殺し屋。屈強な肉体をクレップに見込まれてスカウトされる。時計に仕込んだワイヤーを使って羽交い締めにして相手を殺す。英国の諜報部員になりすが、ボンドに正体を見破られる。

敵の目的 タチアナの護衛役としてついたボンドを殺害し、暗号解読機を奪うのが狙い。目的達成のためにボンドの危機を救うなど手段は狡猾だ。

ENEMY



襲いくる罠…罠…全世界の暗殺者に挑む007必殺の消音銃!!

007/ロシアより愛をこめて

1963年作 From Russia with Love (公開題『007/危機一発』)

James Bond



日本で最も人気の高いスパイ・サスペンス映画の原点。欧米では次作の「ゴールドフィンガー」が圧倒的な人気を誇っているのだが、こと日本においては本作をシリーズのベスト1に挙げる声がいまだに根強い。舞台となるのはヨーロッパ。どこかスパイ・アクション映画らしい、暗く冷たいムードが漂っているテイストが日本の映画ファンの嗜好にはおそろく合うのだろう。冷戦時代を背景に、スパイの存在がクロウズアップされていたからこそ生まれた作品ともいえる。シリーズ第一作の「ドクター・ノオ」が全世界で望外の超ヒットを記録。続くこの作品ではスケールをアップ、ストーリー展開はもちろんのこと、キャスティングからエキゾチックなロケ地、あつと驚く秘密兵器まで、随所に手が掛けられたものに仕上がっている。その後、シリーズの人気者になる。

「Q」がブレスロイド少佐として初めてスクリーンに姿を現したのも本作が初である。そして、新たな陰謀と共にドクター・ノオの復讐を果たすべく、再びその姿を現すスペクター。プロフェルドも登場し、コネリー時代を代表する悪役との闘いの幕も切れて落とされることになる。緊迫感のあるリアルなサスペンスシーケンスに加えて、ボートチェイスやヘリコプターの襲撃から逃げるボンドのシークエンス、オリエンタル急行内の肉弾戦など、ボンド映画のエッセンスは既にきっちり描きこまれている。美女の体にクレジットが映し出される美麗なタイトルバックも強烈。スタッフのデザインセンスの良さが光る。「007」シリーズのみならず、映画史にその名を残すのも頷けるスパイ映画の金字塔だろう。

今回の任務 英国に亡命を希望するソ連の暗号解読員を護衛するように命じられたボンド。敵の罠と知りつつ任務にあたるボンドは、この亡命事件を操っているのはソ連ではないことを突き止める。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン ▶ イスタンブール(トルコ)
▶ ザグレブ(旧ユーゴスラビア) ▶ ヴェニス

「ロシアより愛をこめて」

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分:115分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ハリー・サルツマン、アルバート・R・プロコッリ 園テレンス・ヤング 園リチャード・メイバウム 園シヨーン・コネリー、ロバート・ショー、ダニエラ・ピアンキ

STORY

亡命事件の裏に隠されたボンド暗殺計画!

ソ連の暗号解読員がイギリスに亡命を希望。見返りとして暗号解読機「レクター」を渡すという。ただし、護衛役に007を指名してきた。ソ連の諜報機関の罠である。早速、ボンドはイスタンブールに飛ぶ。しかしこの事件にはあのスペクターが絡んでいたのである…。

ボンドガールのココにクギツケ!!

公開時から日本では最も愛されているボンドガール、ダニエラ・ピアンキ。ボディもさることながら、くっきりとした目鼻立ち、とりわけボンドも虜になった唇がセクシーだ。チョーカーを巻いてベッドに横たわる姿は忘れ難い。

Bond Girl

タチアナ・ロマノヴァ (ダニエラ・ピアンキ)

イスタンブールのソ連領事館に勤務する暗号解読員。祖国のためだと騙されて、ボンドを誘い出すための罠を仕掛けられる。ソ連の諜報機関スメルシュの命令かと思いきや、実は…。





Gadgets

今に続くボンドカーの 原点、ここにあり!

本作からブースロイド少佐はお馴染みのQとして登場。メダマはやはり回転式ナンバーや機関銃、空中に舞上がる助手席などを実装したアストンマーティンDB5。ボンドカーの原点であると同時に、50年を経た今でも現役として登場しているから素晴らしい。



1 金粉を全身に塗られると皮膚呼吸が出来なくなると人は死んでしまうのか? その後、さまざまな都市伝説を生んだ。2 ゴルフの腕前とちょっとしたイカサマでゴールドフィンガーを挑発。ゲームには勝つが同時に怒りも買うボンド。3 復讐のためゴールドフィンガーを追うティリー。アルプスの山中で、ボンドとカーチェイスを繰り広げる。4 任務遂行のためならば「落ちないオンナ」は力づくで、がボンド流。プッシーもその例外ではなかった。5 不死身の殺し屋との死闘。一体どうやってボンドが勝つ? ハラハラさせられるのもシリーズの定番だ。

OPENING シャーリー・バスシー／「ゴールドフィンガー」

数多ある主題歌の中でもシリーズを代表する名曲である。ジョン・バリーの豪快なアレンジに乗せて放たれるパワフルなボーカル。タイトルテイメント色の濃い世界が幕を開ける。

ENEMY BASE 邸宅はモダンなデザイン 工場には拷問用のレーザーも!

ゴールドフィンガーの邸宅内に設けられたオペレーションルームの存在感が圧巻。モダンながらも異様さをたたえたデザインはケン・アダムの手によるもので、プレゼンテーション用の巨大なジオラマを備える。またゴールドフィンガー擁する工場には、拷問用のレーザービームが抜かりなく用意されている。秘密基地らしさはないが、誇大な妄想の



ゴールドフィンガー (ゲルト・フリーベ)

己のために金塊を秘かに収集して愛でるだけでなく、その価値をさらに吊り上げようと画策するのだから恐れ入る。いまだシリーズでも屈指の人気を誇る、ボンド映画が生んだ悪役の代表格である。

敵の目的 アメリカのフォート・ノックスの金塊を放射能で汚染させ、世界経済を大混乱に陥れようとする。中国軍が彼をバックアップしている。

オッド・ジョブ (ハロルド・坂田)

ゴールドフィンガーと並んで、悪役の原点ともなった「物言わぬ悪役」である。その影響は他のボンド映画にも数多く見られ、さしずめ「スペクター」のヒンクスなどもその典型的なキャラクターだろう。

敵の目的 ゴールドフィンガーに仕える怪力の持ち主で、主人の命令に絶対服従。鋭い刃が仕込まれた山高帽を使って殺人を確実に実行する。



ENEMY

全世界アクションファンの拍手を浴びて最大の危機に挑む!

007/ゴールドフィンガー

1964年作

Goldfinger

James Bond



その後のシリーズの方向性を決定づけた傑作! オープニングのガンバレル・シークエンスから、メインタイトルが出るまでに繰り広げられるプレタイル・トルアクション。ボンドの粋な台詞に思わずニヤリとさせられて力強いタイトルソングへ。公開されるやいなや世界中で大ヒットを記録したのは言うに及ばず、社会現象ともいえる空前の「007」ブームを巻き起こすことになった。まさにシリーズを代表する一本である。その後、続く「007」シリーズの原型になり、欧米ではボンド映画の最高傑作として強く支持されている。劇場公開当時は観客の度肝を抜いたと言われるアストンマーティンDB5も初登場。Q 課謹製の秘密兵器を満載したボンドカーの原点にして、いまもつて不動の人気を誇る。クレイグ・グリーボンドの新シリーズでも再びス

クリンにカムバック。「スカイフォール」でも旧シリーズを意識した秘密兵器の数々に「007」ファンが狂喜したことは記憶に新しい。シャイリー・バスシーによる主題歌も絶大な人気を博す。「ダイヤモンドは永遠に」「ムーンレイカー」でもそのパワフルな歌声を披露、これもまたボンド映画の「顔」とも言える存在になっている。スペクターとはまた違ったゴールドフィンガーの誇大妄想狂ぶりはこのシリーズにも継承され、悪役の原点としても評価が高い。セット・デザインの緻密さと奇抜さも秀逸で、とにかくどこをとってもボンド映画、としか言いようのないほど完成された世界である。もちろん白いタキシード姿のボンドをはじめ、「スペクター」ではそこかしこに本作からの引用が見られる。

『ゴールドフィンガー』

- 発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分: 110分

STAFF & CAST 監イアン・フレミング 脚ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ 監ガイ・ハミルトン 脚リチャード・メイバウム 監ジョン・コネリー、ゲルト・フリーベ、オナー・ブラックマン

今回の任務 大量の金塊を密輸し、収集しているというゴールドフィンガーにボンドが接触。大規模な犯罪の匂いを嗅ぎ付けたボンドは金(きん)に取りつかれた男の野望を暴いて阻止する。

華麗なるボンドの旅路

メキシコ 1 1 マイアミ 2 2 ロンドン 3 3 ジュネーブ(スイス) 4 4 ケンタッキー

STORY

狂気のグラントスラム 作戦を食い止める!

金の放つ妖しい魅力に憑りつかれたゴールドフィンガー。大量の金塊を保有する彼は自分の金に底なしの価値を与えるために、「グラント・スラム計画」を実行しようとする。アメリカのフォート・ノックスに保管されている金塊を放射能で汚染しようとするのである。

ジル・マスターソン (シャーリー・イートン)

ボンドに寝返れば、死を持って償わねばならないのがボンドガールの宿命。全身に金を塗られての窒息死。のちに「慰めの報酬」でも引用された、類を見ない方法で命を奪われる。

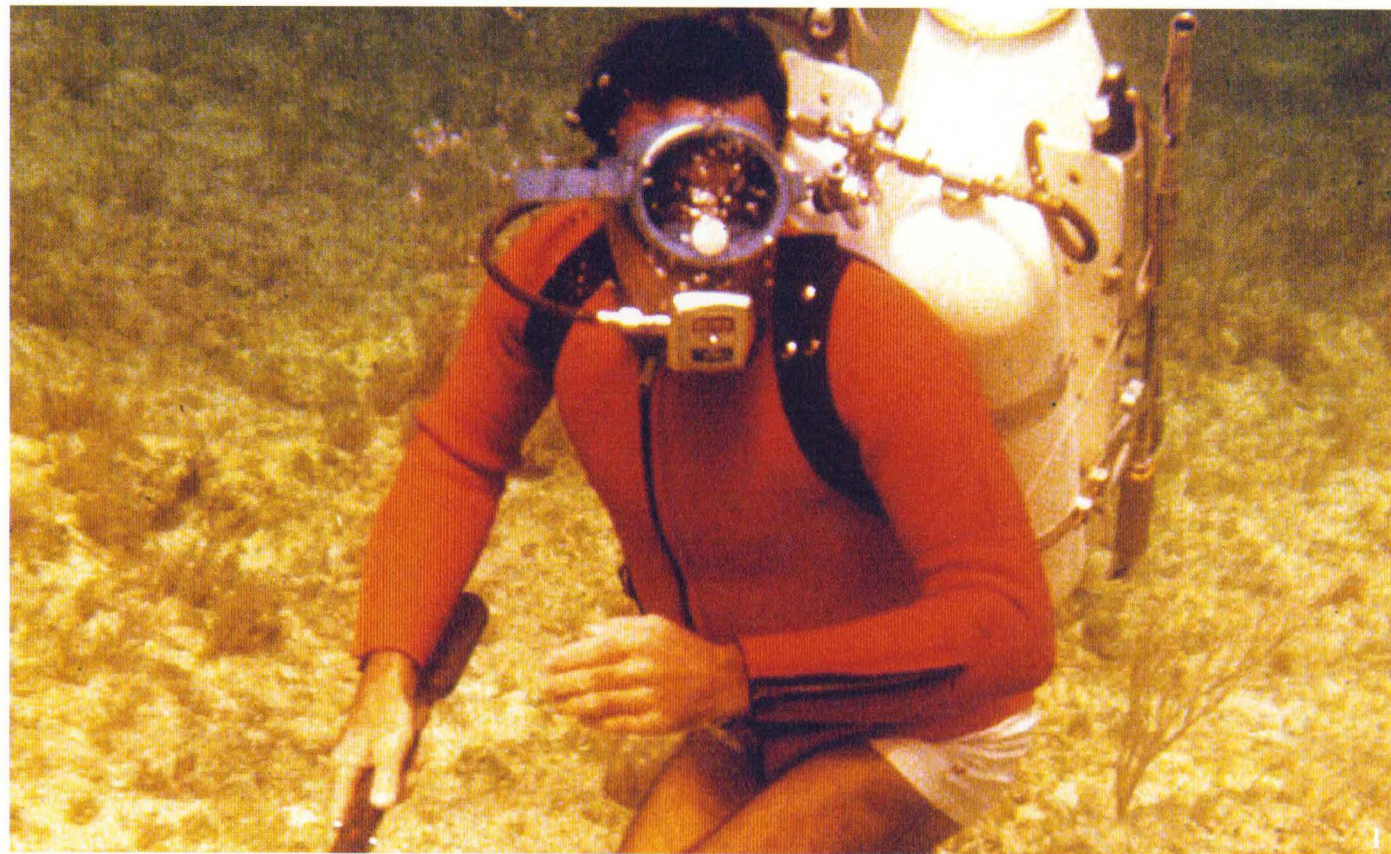
プッシー・ガロア (オナー・ブラックマン)

その強烈な名前でシリーズに名を刻むプッシー。ゴールドフィンガーの擁するパイロットでありながら、「男には興味がない」という言葉とは裏腹にボンドの魅力に負けてしまう。

ボンドガールの ココにクギツケ!!

彫の深い顔の造りが印象的なのが本作の美女たち。とりわけセクシーなベッドシーンが登場するわけではないが、存在自体に艶っぽさが満ちている。他にも本作ではジルの妹のティリー・マスターソンが清楚な魅力を振りまいている。

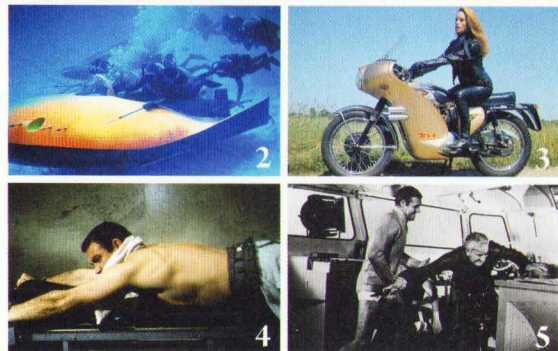




Gadgets

ボンドがジェット・バックを 背負って空を飛ぶ!

プレタイトルシーケンスで度肝を抜くのは空を飛ぶジェット・バック。のちに「ダイ・アナザー・デイ」でQ課に保存されていることが判明する。いつの間にかあんなものを逃走用に運んでいたのだ? という詮索は野暮。超小型の酸素ボンベやガイガーカウンター付きのカメラなど、海中用の秘密兵器も次々と登場する。



1 ジョン・ステアーズが特殊視覚効果賞でオスカーを獲得。海中の大乱戦シーンもボンド映画史に残る出色の出来。2 本作のもうひとつの主役はスペクターであると言っても過言ではない。ラルゴ率いる水中部隊がNATO軍を迎え撃つ。3 ヴォルベの駆る英国製バイク、BSA A65L ライトニング。装備されたロケット弾で、いともたやすく仲間を粛清する。4 背中を伸ばす電動式牽引機を使っての“拷問”シーン。ボンドが徹底的に痛めつけられるのもシリーズではお馴染み。5 クライマックスはラルゴの高速艇ディスコ・ヴォランテ号での肉弾戦。編集時にフィルムのコマを抜いてテンポアップされている。

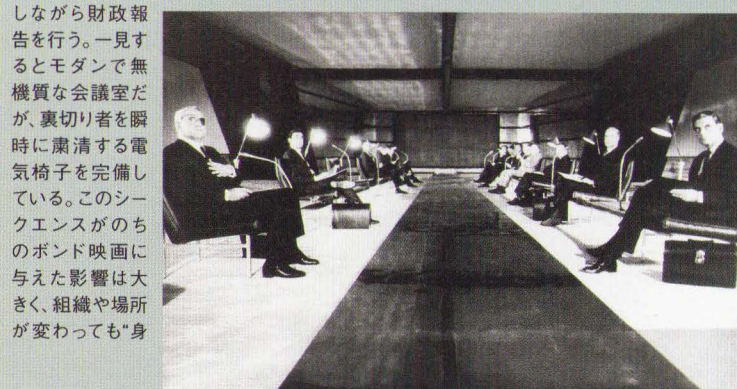
OPENING トム・ジョーンズ／「サンダーボール」

パワフル&ダイナミック! 胸焼けがしそうなほどのボーカルでトム・ジョーンズが歌い上げる。まさに“男性版シャーリー・バスビー”といっ

た趣でボンド映画の世界にはびったりだ。トムは現在も歌手として活躍、本作の主題歌ももちろんスタンダードナンバーとなっている。

ENEMY BASE 戦慄! プロフェルドによる スペクター流の粛清!

スペクターの本部が初めて登場。No.1である 内の粛清”のシーンはたびたび登場している。プロフェルドに対して、各幹部が戦々恐々として「スペクター」にもその引用が見られる。



しながら財政報告を行う。一見するとモダンで無機質な会議室だが、裏切り者を瞬時に粛清する電気椅子を完備している。このシーケンスがのちのボンド映画に与えた影響は大きく、組織や場所が変わっても身

ENEMY

エミリオ・ラルゴ(アドルフ・チェリ)

冷酷にして無慈悲、プロフェルドに次ぐNo.2のポジションで大規模な英国脅迫事件の指揮を執る。計画のために愛人のドミノを利用しているが、ボンドの登場で身を危うくする。黒い眼帯がトレードマーク。

敵の目的 NATO軍から戦闘機を奪取するために操縦士であるドミノの兄を殺害。原爆を使って英国政府に脅しをかけ、大金を得ようとする。

ジャック・ブヴァール(ボブ・シモンズ)

プレタイトルシーケンスに登場する、スペクターのNo.6。イニシャルはボンドと同じJB。自分の葬儀を出して夫を亡くした妻に扮するが、車のドアを開けたところでボンドに正体を見破られる。

敵の目的 諜報部員を2名殺害するが、理由は不明。しかしボンドに目をつけられたのが運の尽き。シリーズの中でも屈指の肉弾戦で命を落とす。



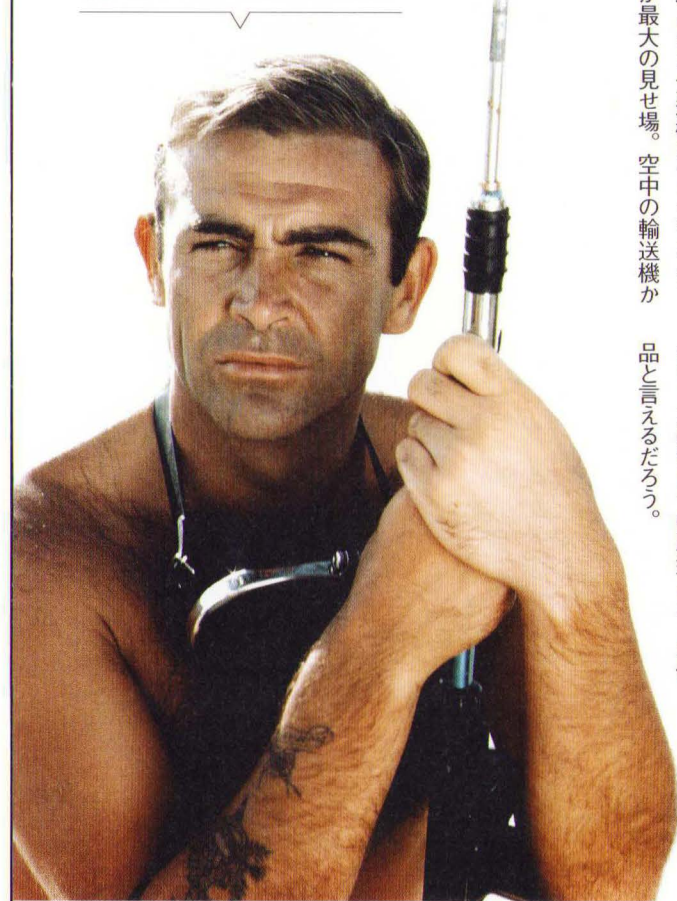
徹底したアクション! ご存知ボンドに迫る第4の危機!

007/サンダーボール作戦

1965年作

Thunderball

James Bond



マリナアクションがさく裂するスペクタクル巨編!
前作の「ゴールドフィンガー」が空前の大ヒットを記録。世界中で「007」ブームが巻き起こり、その熱い期待の声に応えるべく、これまでにない膨大なバジェットが投じられてさらにスケールアップした本作。ショーン・コネリーがのちにボンドを再び演じた「ネバーセイ・ネバーアゲイン」は本作のリメイクだが、こちらはレギュラーのプロデュース・チーム(EO Nプロ)とは違うプロデュース・サーによる作品で、いわゆる「本家」シリーズの一本にはカウントされない。番外編という扱いとなっている。本作は再びリメイクされるプランもあったほど、大胆かつ豪快なプロットの面白さはボンド映画の中でも群を抜いている。シリーズではこれが初登場となる大規模なマリナアクションが最大の見せ場。空中の輸送機が

ら水中へとパラシュート部隊が舞い降りていくシーケンスは圧巻だ。ロシアより愛をこめて「以来でスペクター、そしてプロフェルドも姿を現す。スペクターが仲間を「粛清」するシーンなどのエッセンスは最新作「スペクター」にも見事に引き継がれている。クライマックス、水上を疾走するディスコ・ヴォランテ号でのボンドvs.ラルゴのアクションもサスペンスフルでスピード感もたつぷり。そして前作で大人気となったボンドカー、アストンマーティンDB5も再登場。初めて披露される車載の秘密兵器もお披露目となり、さらに「007」IIアストンマーティンに強く印象付けることとなった。「ゴールドフィンガー」とはまた違った意味で、その後の「007」シリーズのひとつの原型となった作品と言えるだろう。

「サンダーボール作戦」

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分:130分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ケヴィン・マクローリー 園テレンス・ヤング 園リチャード・メイバウム、ジョン・ホプキンス 園ショーン・コネリー、アドルフ・チェリ、クロディーヌ・オージェ

ドミノ・ダーヴァル(クロディーヌ・オージェ)

スペクターの幹部であるエミリオ・ラルゴの愛人。しかしスペクターの陰謀に兄が巻きこまれて口封じのために殺されていたことを知り、その仇を討とうとボンドに協力する。

ボンドガールの ココにクギツケ!!

バハマにあるナッソーの海が主な舞台。ボンドガールが水着姿で登場するシーンが多く、いやがおうにも男性ファンの目を楽しませる。特にドミノ役のクロディーヌ・オージェは元々のホログラムで、オールドファンには人気がある。

STORY

強奪された原爆を スペクターから奪い返せ!

原爆2基を搭載したNATO軍の戦闘機が消息を絶った。この陰謀を操るのはスペクターのNo.2、エミリオ・ラルゴ。原爆と引き換えに英国政府に要求されたのは、1億ポンド相当のダイヤモンド。交換条件をのまなければ原爆を都市に投下するという…。

フィオナ・ヴォルベ (ルチアナ・バルツィ)

スペクターの女殺し屋。スペクターの指輪でボンドに正体を見破られる。その後、シリーズにもたびたび登場することになるサディスト型ボンドガールの原型だ。

Bond Girl

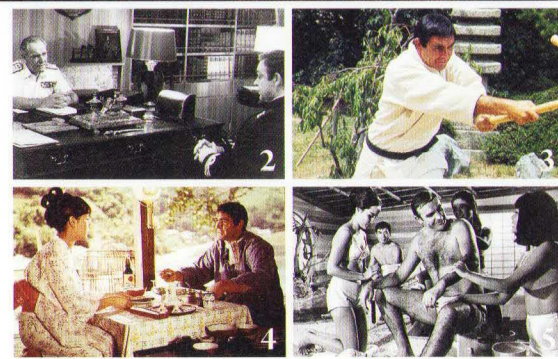




Gadgets

秘密兵器を携えて Qも日本にやってきた!

本作の主な舞台は日本。よって、ロケットを発射するタバコや地下を走るタイガー田中の専用列車、そしてTOYOTA 2000 GTなど数々のガジェットは主に日本製。だが、組み立て式で一人乗りの「リトル・ネリー」はQが日本まで持ってくる。ボンドが操縦するカットはブルーバックだが、スペクターとの空中戦は実際に撮影されている。



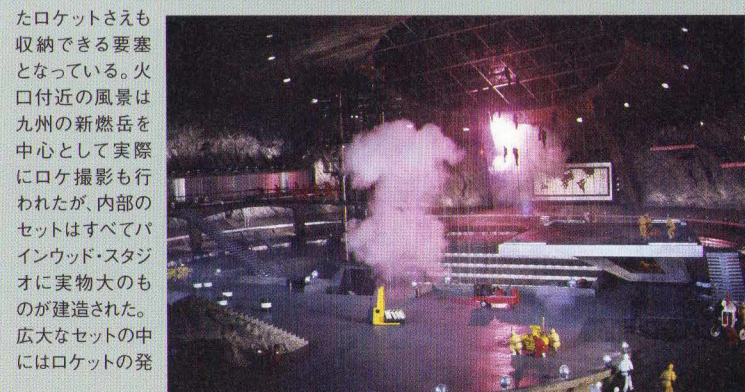
1 タイガー田中を演じた丹波哲郎の存在も忘れてはならない。英語も堪能、ボンドと互角に渡り合う堂々の演技だ。2 水葬されたボンドを英国海軍が香港の海中で回収。艦内で待っていたのはMだ。珍しくロンドンの諜報部が登場しない。3 ボンドが日本で任務を遂行する姿を見ているだけで楽しい。が、ロケ中のマスコミの取材にコネリーはうんざり。4 キッシー鈴木と夫婦になり、地元で漁師を装うボンド。東京だけでなく、当時の漁村の雰囲気なども味わいたい。5 タイガー田中のもてなしで、美女たちに体を洗ってもらうサービスを受けるボンド。「007」流の日本珍描写のひとつだ。

OPENING ナンシー・シナトラ / 「007は二度死ぬ」

主題歌をフランク・シナトラの娘、ナンシー・シナトラが担当。相変わらずのジョン・バリーがバックにも、いかにも絵はがきのような日本節に極東っぽいサウンドを織り交ぜた、情緒あふれるトーンに仕上がっている。タイトルバックにも、いかにも絵はがきのような日本を感じさせるアイコンがいくつも登場。

ENEMY BASE 火山湖の下に隠された 巨大な秘密基地

外から見ただけではただの火山湖だが、内部射台の他、ヘリコプターの発着も可能で、移はスペクターの秘密基地。宇宙空間で捕獲し動用のモノレールも設けられている。



ENEMY エルンスト・スタヴロ・プロフェルド

(ドナルド・プレザンス)
顔を覚えていなかったスペクターの首領がいよいよ登場。その後、容姿は変化していくが、やはり初代プロフェルドの印象が強烈だ。「スペクター」への影響が大きいであろうことは容易に想像できる。

敵の目的 “冷たい戦争”時代、東にも西にも与すことなく、両陣営の軍事バランスにゆすりをかけて漁夫の利を得ようとする。

ヘルガ・ブランド (カリン・ドール)

スペクターの日本のアジトにもなっており、本社は東京・赤坂に居を構える大里化学工業の社長・大里の秘書にして、スペクターのNo.11である。

敵の目的 事件の真相を探るため大里に接触してきたボンドを暗殺するよう命じられる。が、任務に失敗。スペクター流の粛清を受けることになる。

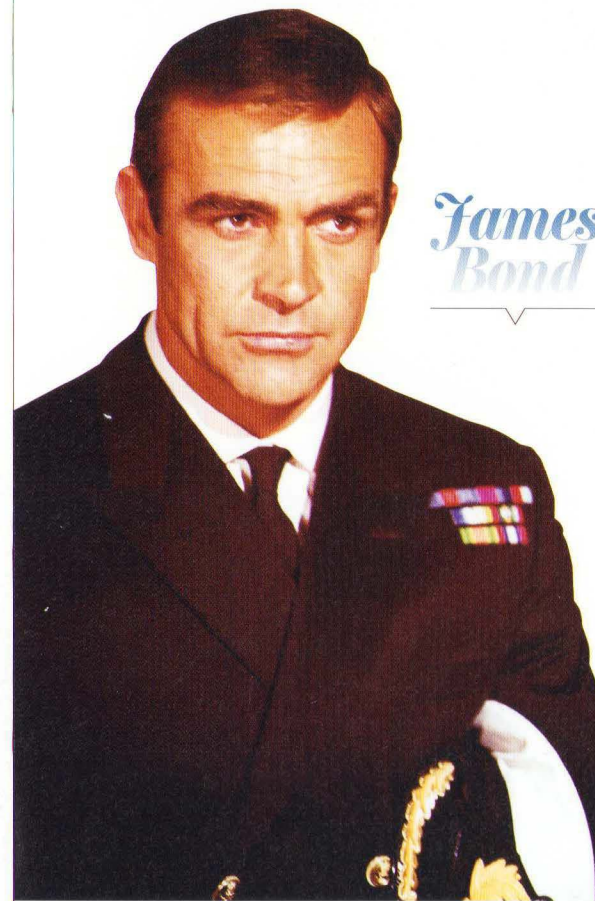


地下300メートルの大要塞爆破から大宇宙のロケット戦へ――

007は二度死ぬ

1967年作

You Only Live Twice



James Bond

懐かしい昭和の日本を舞台にボンドが活躍!

遂にジェームズ・ボンドが日本にやってきた! 舞台は1960年代の日本。国内で大規模なロケが行われたこれまでで唯一の作品である。懐かしい街角の雰囲気にも注目するも、緑の映える姫路城の美しさ、東京・赤坂近辺や銀座、神戸港の風景、さらに九州・新燃岳の大ロケーションに感嘆するもまたよし。なにげなく映りこんだ空気感からは当時の日本人の暮らしぶりまでも垣間見えるように、昭和のドキュメンタリーといった趣まで感じさせてくれるはずだ。今も語り継がれるアクションシークエンスもふんだんに登場。Qがロンドンから持参した組み立て式の小型ヘリコプター、リトル・ネリーがスペクターと繰り広げるスカイ・ヘリアクションは大きな見どころのひとつ。また今や幻の名車としての誉れが高い

TOYOTA 2000GTの勇姿も強烈な印象を残す。ダニエル・クレイグも最も好きなボンドカーとしてその名を挙げるほどで、車好きの方も必見の一作と言えるだろう。ホテルニューオータニとのコンベンションは何度観ても鳥肌が立つ。さらにシリーズでも最大級を誇る庄巻のスケールで描かれるスペクターの秘密基地では、首領のプロフェルドがいよいよその素顔を晒すことになった。のちに違った俳優が同役を演じているが、風貌の異様さは本作が断トツ。最新作「スペクター」への影響も大きい。そしてなぜか忍者部隊が現れたり、日本人から見るとトンデモ系の描写がいくつも登場しているのだが、そこはご愛敬。そういう意味でも徹頭徹尾、他のボンド映画とは違った楽しみ方が出来るのが面白い。

『007は二度死ぬ』

●発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分:117分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ハリー・サルツマン、アルバート・R・プロコッリ 園ルイス・ギルバート 園ロアルド・ダール 園ショーン・コネリー、ドナルド・プレザンス、浜美枝、若林映子、丹波哲郎

今回の任務 宇宙空間で米国・ソ連の宇宙船が忽然と消えた。世界に緊張が走るなか、この怪事件を解くカギは日本にあると判断したイギリスは調査のためにボンドを日本に派遣させる。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン 香港 日本

STORY

Welcome to Japan, Mr. Bond!

米ソ両国の宇宙船が行方不明となり、東西両陣営の軍事的危機が高まるなか、事件の真相解明のためにボンドは東京へと飛ぶ。日本の諜報機関のタイガー田中と協力して調査を進めるボンドは、この事件には宿敵スペクターが関わっていることを突き止めるのだが…

アキ (若林映子)

日本にやってきたボンドをサポートする諜報員。大相撲観戦から始まるツアーガイド的な役割でもあるが、TOYOTA 2000GTを駆る腕前は第一級だ。コードネームは「294」。

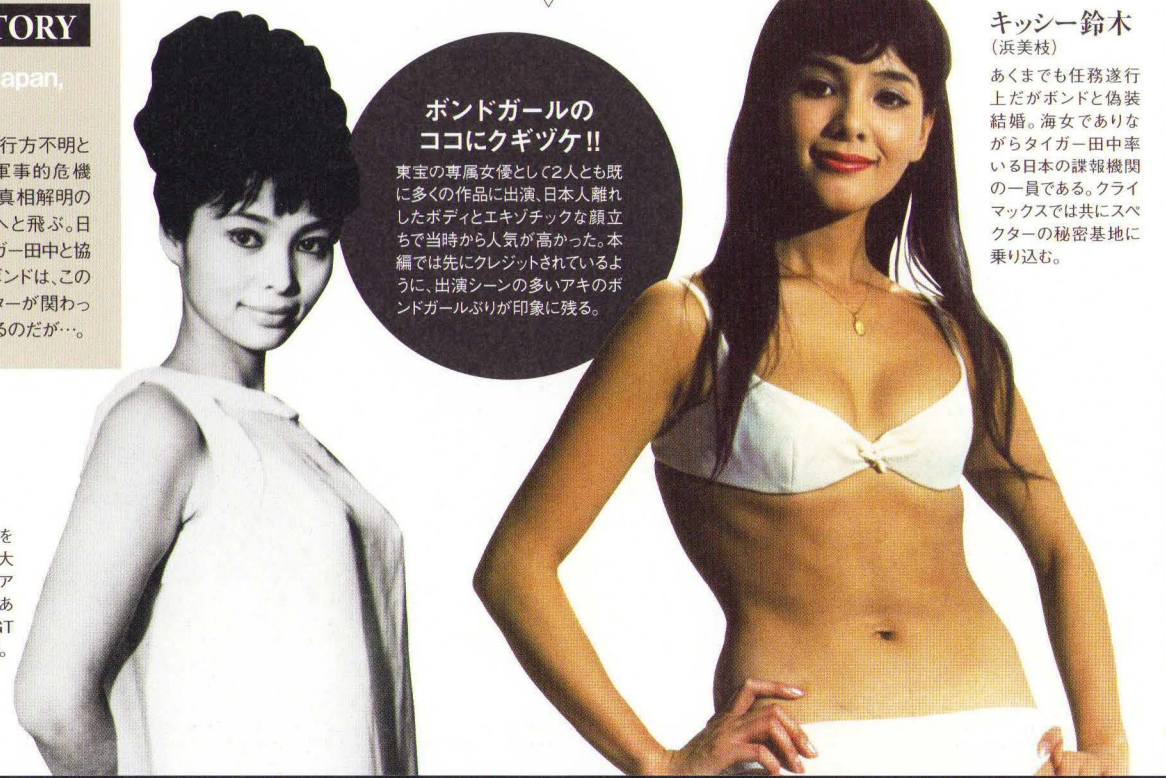
Bond Girl

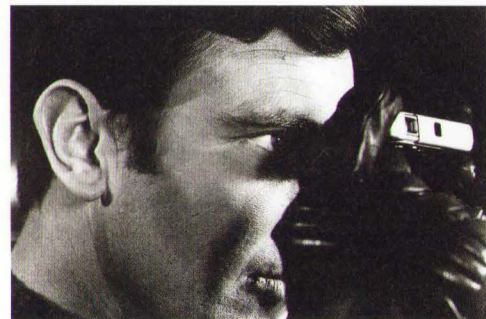
ボンドガールの ココにキグツケ!!

東宝の専属女優として2人とも既に多くの作品に出演、日本人離れしたボディとエキゾチックな顔立ちで当時から人気が高かった。本編では先にクレジットされているように、出演シーンの多いアキのボンドガールぶりが印象に残る。

キッシー鈴木 (浜美枝)

あくまでも任務遂行上だがボンドと偽装結婚。海女でありながらタイガー田中率いる日本の諜報機関の一員である。クワイマックスでは共にスペクターの秘密基地に乗り込む。

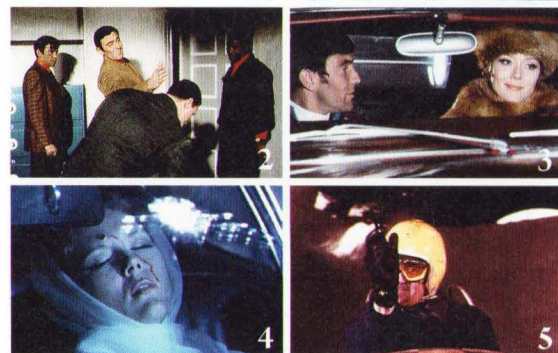




Gadgets

秘密兵器は2代目 ボンドになっても健在

ミノックスA/III型のカメラのほか、金庫のダイヤルを開錠する装置など、実用的な秘密兵器が登場。これまでのようなSFチックなガジェットを極力排することで生身のアクションを引き立てさせている。



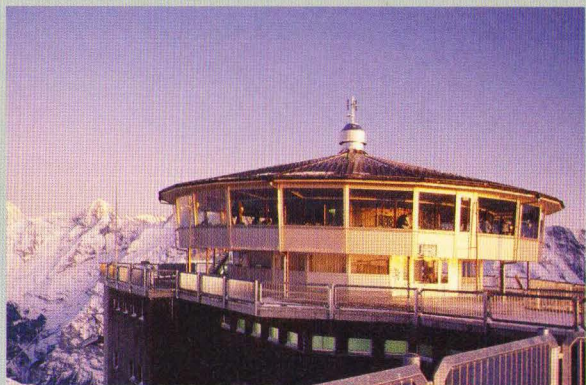
1のちにシリーズの伝統ともなるスノーアクション。本作でも何度も描かれている。『スペクター』でも久々に登場。2アクションシーンのカットニングの速さはシリーズ随一。編集マン出身の監督、ピーター・ハントならではの。3トレーシーが繰り広げる氷上のカーチェイスシーンも大きな見せ場。ハンドルを握る表情がチャーム。4ボンドにとって宿敵だったスペクター、そしてプロフェルドが亡き妻トレーシーの仇となった衝撃的な瞬間。5ボブスレーコースでプロフェルドを追いつめるボンド！シリーズでもトップを争うスピード感あふれる名シーン。

OPENING 「女王陛下の007」(インストゥルメンタル)

ジョン・バーリーの力強いテーマ曲で幕を開ける本作。シリーズ定番のインストナンバーとして、これまでのボンド映画に登場したキャラクターを次々とコラージュ、ファンをワクワクさせる。

ENEMY BASE 断崖絶壁に立つ難攻不落の スペクターの要塞

スイス・アルプスにウィルス研究所と称して建造されたスペクターの秘密基地。断崖に位置し、ヘリコプターを使ってしか近づくことが出来ない。この難攻不落の要塞を破壊させるべく、ボンドはトレーシーの父親、ドラコたちと共に急襲作戦を決定する。撮影に使われたのはシルトホルンにある回転式の展望台



ENEMY

エルンスト・スタヴロ・プロフェルド (テリー・サヴァラス)

前作「007は二度死ぬ」に引き続いて登場。風貌はすっかり変わってしまったが、ヘルシヤ猫は健在。テリー・サヴァラスはオールドファンにはTVドラマ『刑事コジャック』で馴染みが深い。敵の目的 オメガウイルスと呼ばれる生物兵器を開発。各国から研究所に集めた美女たちを使ってそのウイルスを世界にばらまこうと秘かに画策。

イルマ・ブント (イルゼ・ステパット)

スペクターの一員にしてプロフェルドの秘書。アルプスの研究所に集められた美女たちの監視を常に行う。その冷酷なキャラクターは『ロシアより愛をこめて』のローザ・クレブを彷彿させる。

敵の目的 アルプスからプロフェルドと共にボンドの追跡を逃れて生き延び、ハネムーンへと向かうトレーシーを銃撃して死亡させる。



スイス・アルプスの頂上からスキーで大脱出— ボンドシリーズ第6弾！

女王陛下の007

1969年作 On Her Majesty's Secret Service

James Bond



悲劇の2代目ボンド、傑作と共に颯爽と登場！
シモン・コネリーが「007」シリーズからの降板を突如として表明。替わって2代目ボンドを襲名したのがジョージ・レーゼンビーだ。公開された1960年代の末頃は「ニュー・シネマ」ムーヴメントの真っただなか。時期を同じくする新しい潮流の作品群とどこか似たような匂いを持つ、シリーズの中でも異色作という位置づけの一本である。これまでのボンド映画らしさをスクリーンから醸し出そうと「007」ファンなら思わずニヤリとさせられてしまう嬉しい「楽屋オチ」が散りばめられている。というのが大きなお楽しみのひとつ。こういったシリーズものならではの「お遊び」がその後もボンド映画には頻りに登場しているが、その先駆けともなった作品だ。そしてなにより見どころとして特筆しておくべきなのは、劇中で描かれる数々のスノーアクションのシークエンスという点になる。雪山でのスキーチェイス、雪上のカーチェイス、そしてクライマックスのボブスレーコースをフルに使ったスピーディーなアクション。編集マン出身のピーター・ハント監督の手腕がフルに活かされ、いまなお屈指の名場面が目白押しとなっている。もちろん、お馴染みの宿敵スペクターとプロフェルドも再び姿を現す。そして、最後に待ち構えるボンドの悲劇……。エンディングの「ジェームズ・ボンドのテーマ」が、非情な諜報部員の運命を表しているかのようだ。熱狂的な「007」ファンたちにいまなお最も愛されているボンド映画。そう言っても過言ではないほどの大切な作品となっていることに異論はないはずだ。

「女王陛下の007」

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分数:142分

STAFF & CAST 監イアン・フレミング 脚ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ 監ピーター・ハント 脚リチャード・メイバウム 脚ジョージ・レーゼンビー、テリー・サヴァラス、ダイアナ・リグ

今回の任務 プロフェルド捕獲作戦から外され休暇を取ったボンドは、犯罪組織ユニオン・コルス首領の一人娘テレサと出会いプロフェルドの情報を入手。独自でプロフェルドを追う。

華麗なるボンドの旅路

リスボン ▶ ロンドン ▶ アルプス(スイス) ▶ リスボン

STORY

スペクターが企む新たな陰謀とは？

プロフェルドの行方を追うボンド。しかしMの命令で任務から外されてしまう。しかし、ボンドはプロフェルドと対峙するため単身でスイスのアルプスにある研究所へと潜入する。そこにはスペクターによって新たに進められている恐るべき陰謀があったのだ…。

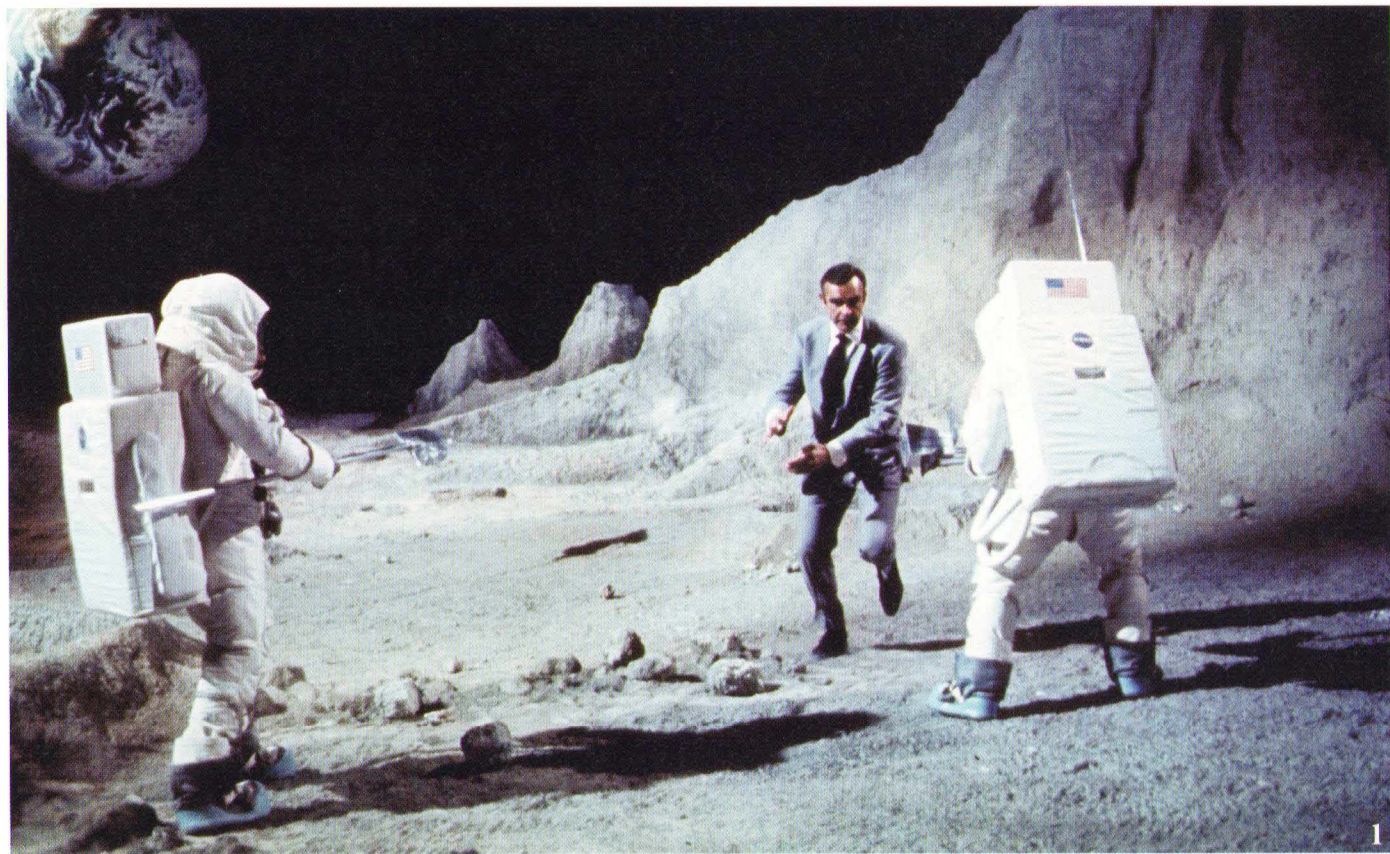
ボンドガールの ココにクギツケ!!

「ボンドと対等なボンドガール」というキャッチコピーも近作では何度となく使われているが、その原型はやはりトレーシーにあると言っても良いだろう。危険を好み、勝負に賭ける。自身と同じ匂いを感じるボンドが惚れ込むのもわかる。



トレーシー(テレサ)・ ディ・ヴィンセンゾ (ダイアナ・リグ)

これまでボンドが唯一愛した女性。愛称、トレーシー。ボンド顔負けの度胸の良さや勝ち気なキャラクターでボンドが結婚を決意。しかし、幸せな生活を前に銃弾に倒れる。



Gadgets

いつもとちょっと違った ガジェットが次々と登場

珍しいガジェットとして、月面を走行するために開発されたムーン・バギーや砂地を走るミニバイクが登場。またQが作った秘密兵器では、弾丸の代わりにロープを発射する銃や、舞台のラスベガスにあわせて、スロットマシンを操る装置などが登場。

OPENING シャーリー・バッチー／「ダイヤモンドは永遠に」

『ゴールドフィンガー』でシリーズの“顔”となったシャーリー・バッチーが再び主題歌を担当。最も007映画に似合うパワフルコネリーのカムバックを力強いヴォーカルで歌い上げている。のちに『ムーンレイカー』でも再登場。最も007映画に似合うパワフルな声、という評価に異論はないだろう。

ENEMY BASE 海上に浮かぶ、 スペクターにとって最後の砦

宇宙に浮かぶ巨大レーザー光線発射装置をコントロールするスペクターの要塞。この作品以降、プロフェルドの行方はわからなくなり、スペクターもその姿を消す。のちに『ユ・アイズ・オンリー』で（顔を覚えていないが）プロフェルドは再登場。あっけなく最期を迎えるが…果たして。「スペクター」ではスペクターが



ENEMY エルンスト・スタヴロ・プロフェルド (チャールズ・グレイ)

前作『女王陛下の007』でボンドの妻となったばかりのトレーシーを銃撃し、逃亡。追跡の手をすり抜けながら、その風貌を整形手術によってガラリと変えて、またもやボンドの前に立ちちはだかる。

敵の目的 大量のダイヤモンドを使ったレーザー光線発射装置を地球の軌道に飛ばし、あらゆるものを破壊する兵器として使い、世界征服を企む。

右: ミスター・ウィント (ブルース・グローヴ)
左: ミスター・キッド (バター・スミス)

執拗にボンドの命を狙う殺し屋にして、ちょっと風変わりなゲイコンビ。プロフェルドの指令でダイヤモンドに絡む人物たちを冷酷な手段で殺しながらも、常にウィットに富んだ会話を楽しんでいる。

敵の目的 プロの殺し屋らしく、プロフェルドが死んだ（はず）のあとボンドを追う。が、最後の最後で正体がばれ、あっけなく始末されてしまう。



007の第7弾はボンドガールもセクシーアップ！宇宙へとび出しスケール最大の面白さ！

007／ダイヤモンドは永遠に

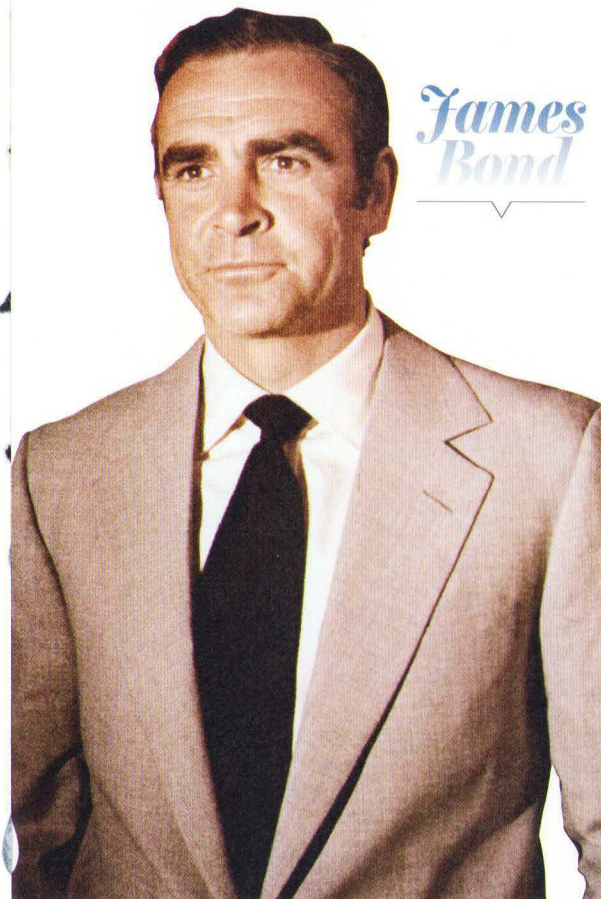
1971年作 *Diamonds Are Forever*



コネリー＝ボンド、カムバック！&さらば、プロフェルド！

前作一作のみでボンド役を降板することになったジョージ・レーゼンビーに替わって再びジョーン・コネリーがカムバック。結婚したばかりのハネムーンの最中に殺されたトレイシーの敵、スペクターのプロフェルドの行方を執拗に追いかけるボンドの姿から物語はスタートする。ラスベガスを舞台に、ボンド映画ならではのカーアクションが展開。マスタングマッハ1の“片輪走行”のシーン、語り草ともなっている製作上の“ちょっとしたミス”も併せてチェックしてみるとより楽しめるだろう。クライマックスに登場する海底油田基地風のスペクターの秘密基地でのヘリコプターとの銃撃戦、サンドバギーや月面走行車など風変わりなアイテムを使ったアクションも、少々大味ながらもいかにも

「007」シリーズらしいテイストだ。しかし、なによりの見どころはやはりプロフェルドの“最後の登場”ということになる。初めてその容姿が明らかになったのは「007は二度死ぬ」。続く『女王陛下の007』、そして本作と、3作とも演じる俳優が替わっているが、これはボンドの追跡の手から逃れるため、次々と整形手術を行ってまったく別の風貌の人物に成り済ましていく、という設定だ。この作品を最後に、スペクターとプロフェルドはシリーズからその姿を隠すことになる。が、しかし『ユ・アイズ・オンリー』では、それらしい人物が顔を隠して再び登場。そして長い年月を経て、いよいよスクリーンに登場するの否か、注目の的となっているのがシリーズ最新作『スペクター』である。



『ダイヤモンドは永遠に』

●発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分: 120分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ 園ガイ・ハミルトン 園リチャード・メイバウム、トム・マンキウィッツ 園ジョーン・コネリー、チャールズ・グレイ、ジル・セント・ジョン

今回の任務 南アフリカで採掘されたダイヤモンドの密売関係者が殺され、大量のダイヤモンドが消えている事件の真相を突き止めるため、ボンドはダイヤモンドディーラーになりすまし密売ルートに潜り込む。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン▶️▶️アムステルダム▶️▶️ラスベガス▶️▶️大西洋

STORY

ダイヤを巡って プロフェルドの野望、再び

南アフリカの鉱山でダイヤモンドが大量に消失。一体どこに消えたのか？ダイヤモンドの行方を追ううちに、ボンドは再び亡き妻トレーシーの仇でもある宿敵、スペクターのプロフェルドと出会うことになる。彼の野望を打ち砕き、息の根を止めることは出来るのか！

プレッティ・オトゥール (ラナ・ウッド)

“プレッティ”とは彼女の豊かな胸元をイメージさせる名前。ティファニー・ケースと同じく女性を揶揄する、いわゆる“イアン・フレミング流命名術”の典型的なパターンだ。

Bond Girl

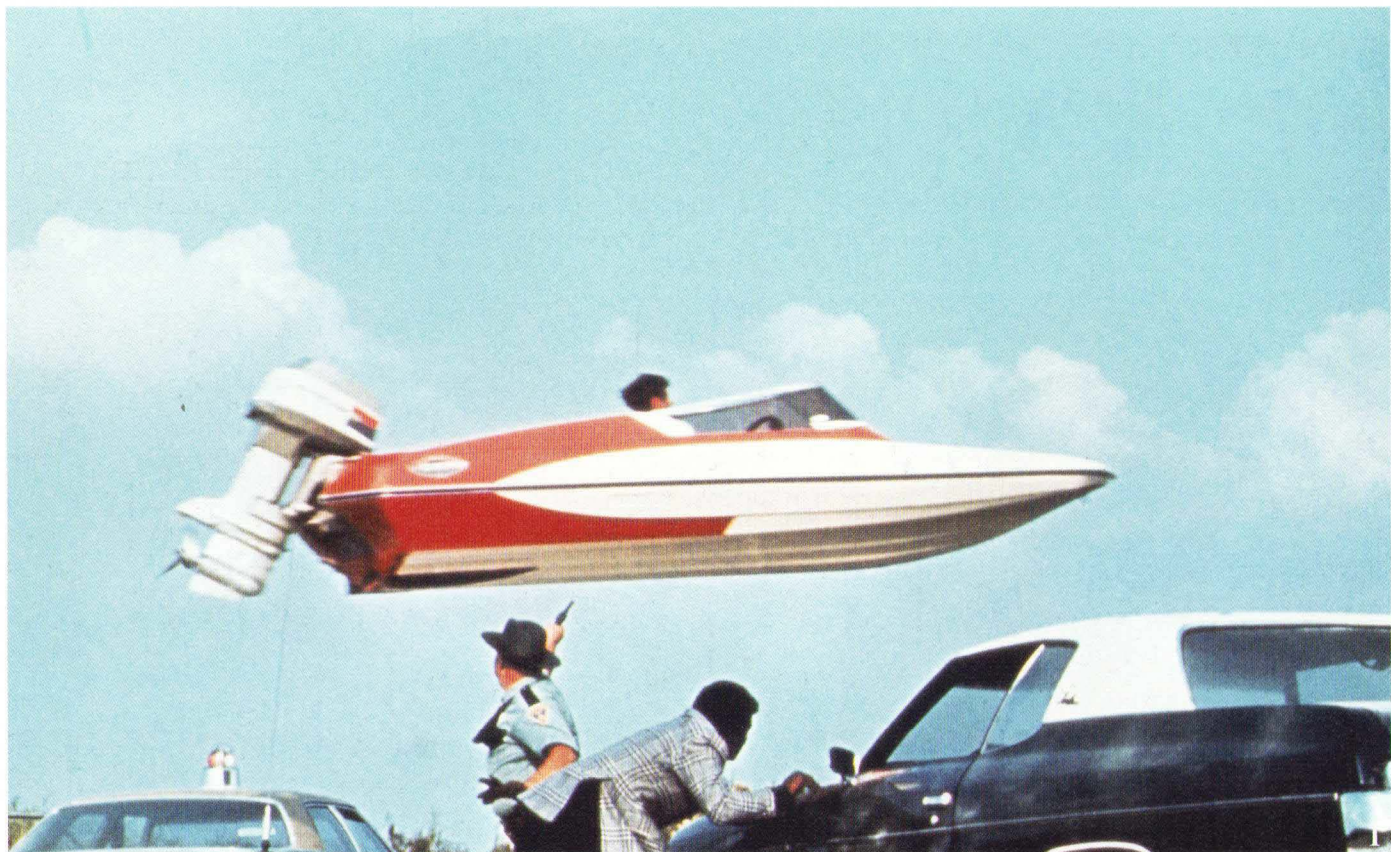
ボンドガールの ココにクギツケ!!

この2人のボンドガールの人気はあまり若しくはない。のだが、彼女たちとボンドとの会話には頻りにジョークが絡んでいて、ある種の言葉遊びをいくつも生み出している。こういったスタンスで作品に貢献するボンドガールは珍しい。

ティファニー・ケース (ジル・セント・ジョン)

結婚指輪をティファニーに買いに行った母親がお店で産気づき、そのまま生まれたので名前がティファニーという。日本ではあまり人気の出ない、陽気なアメリカンタイプ。





Gadgets

身の回りのものが 秘密兵器に大変身!

本作ではお馴染みのQが登場しないが、Q課謹製の秘密兵器はやはり大活躍。特にロレックスのサブマリーナーが印象深い。強力な磁石で女の子の背中のジッパーを下ろしたかと思えば、危機一髪の場面では内蔵された小型回転歯がピンチを救う。



1 アクションの大きな見せ場のひとつであるジェットボートによるチェイス。川面から飛び出し、空中もひとつ飛び! 2 『スペクター』と同様にマネーベニーがボンドのアパートを訪れる。が、そこには既に先客の女の子がいて…。 3 拳銃でもなんでも曲げてしまう義手を持つティ・ヒー。列車内での大乱闘はやはり『スペクター』でも再現。 4 『黄金銃を持つ男』にも続けて出演しているペーパー保安官。出演が2本では惜しい! 愛すべきコミカルなキャラだ。 5 『スペクター』のポスターを彷彿とさせる黒のタートルネックとホルスターというでたちは本作がオリジナル。



OPENING ポール・マッカートニー&ウイングス/「死ぬのは奴らだ」

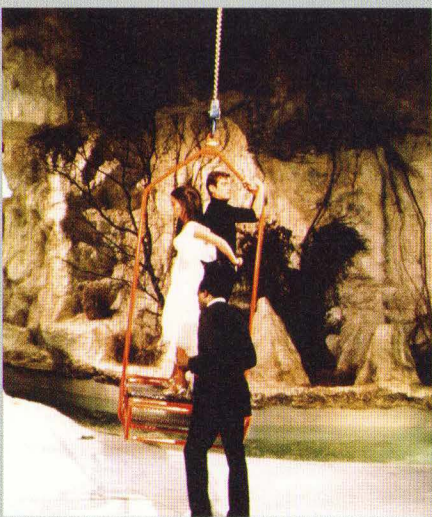
英国のポップスター、ポール・マッカートニー & ウイングスが主題歌を担当。この曲は今もポールのライブではハイライトとなっている。

る。タイトルバックにあらわれた罇はサム・メンデス監督のお気に入り。『スカイフォール』『スペクター』にもその影響が大きい。

ENEMY BASE

人喰い鯊の泳ぐ池に ボンドの危機が迫る!

時代を反映してか、いわゆる従来の秘密基地のような大規模なベースは登場しないが、“アジト”的な場所は各地に設けられている。ある時は大使館を装い、ある時はブードゥーのサブマリーナショップなど。ハーレムにはありとあらゆる場所で手下が目を光らせる。本拠地となるサンモニク島には広大なケシ畑、地下には人喰い鯊が泳ぐ池が設置されており、ボンドとソリテアの身に危険が迫る。



ENEMY

ドクター・カナンガ/ミスター・ピック (ヤフェット・コッター)

政治家と麻薬シンジケートのボスというふたつの顔を持ち、ソリテアを探る。70年代中頃という時代、社会に巻き起こったブラックパワーを反映してヤフェット・コッターがキャスティングされた。

敵の目的 サンモニク島で栽培したケシを大量にアメリカに密輸。精製したヘロインを中毒者にばらまき、全米の麻薬市場を牛耳ろうと画策。

サメディ男爵(ジェフリー・ホルダー)

ミスター・ピックの手先。ブードゥーの力で殺されても死なず、不死身の身体を持っている。彼の罇のペインティングからインスパイアされた要素が『スペクター』では多数登場している。

敵の目的 刺客としてボンドを狙い、決闘。死んだはずだがブードゥーの魔術で甦る。殺されずにそのまま生き残る悪役はシリーズでも珍しい。



21世紀に翔ける007シリーズ第8弾! ニュー・ボンド華麗に登場!

007/死ぬのは奴らだ

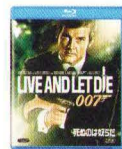
1973年作

Live and Let Die

James Bond



『スペクター』に多大な影響を与えた世界が横溢! これまでのコネリー・ボンド色を一掃してロジャー・ムーアがボンド役で初登場。その後、7作品に渡ってシリーズを牽引していくことになる記念すべき第一作だ。シモン・コネリーほどアクの強いキャラクターでもなく、しかしジョージ・レーゼンビーほどクセのないキャラクターでもない。一見すると飄々とした優男風なところが、どこか原作のボンド像を彷彿とさせるところもあり、ムーア独自のボンド像を作りだすことに成功している。サム・メンデス監督のお気に入りの一本で、最新作『スペクター』では本作へのオマージュや引用を彷彿とさせるシックエンスが随所に登場。二階建てバスとバイクとのカーチェイスやスピード感たっぷりのジェットボートによるチェイスなど、アクション・シックエンスも満載。新ボンドの存在感をしっかりとアピールする名シックエンスに仕上がっている。ボンドの衣装などにも最新作への影響が窺える。また、新ボンドを盛り上げるその役割が大きかったのが音楽。シリーズの全作に携わってきたジョン・バリーに替わってスコアを担当したのがジョージ・マーティンだ。ビートルズのプロデューサーとしてのほうがその名の通りが良いだろう。オーケストラによる雄大なトーンよりも70年代初頭らしく、バンドサウンド風に仕上げたファンキーなスコアがボンド映画に新風を吹き込んだと言っても過言ではない。主題歌は元ビートルズのポール・マッカートニーが担当。その後に続く、いわゆるロック色の濃いアーティストが主題歌を手がける先陣を切るようになった。



『死ぬのは奴らだ』

●発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分:121分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ 園ガイ・ハミルトン 園トム・マンキウィッツ 園ロジャー・ムーア、ヤフェット・コッター、ジェーン・シーモア

今回の任務 サンモニクを調査中の英国諜報部員が殺され、調査のため旧友のCIA捜査官フィリックス・ライターと共に黒人ギャングの下へ潜入する。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン 1 ニューヨーク
2 サンモニク(カリブ海の架空の国)
3 ニューオーリンズ 4 サンモニク

STORY

ニューヨークに飛んだ ボンドを待ち構えるのは!?

24時間のうちに英国諜報部員が次々と殺される謎の事件が発生。Mに命じられたボンドは早速調査に乗り出す。向かうはアメリカ、ニューヨーク。ハーレムに潜入したボンドだったが捕えられてしまう。そしてボンドの前に謎の女、ソリテアが姿を現した…。

ロージー・カーヴァー (グロリア・ヘンドリー)

敵か味方か? その正体は不明。実はCIAの送り込んだ諜報部員だったが、ダブル・エージェントとしてボンドの前に現れる。最後はあえなくカカシに仕込まれた銃で殺されてしまう。

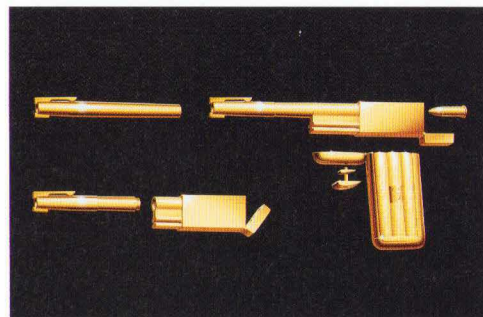
ボンドガールの ココにクギツケ!!

ボンドガールのセクシーなシーンはやや抑えめな本作。シリーズでは珍しい清純なイメージでオールドファンには印象深いのがジェーン・シーモア。のちに『シンドバッド虎の目大冒険』『いつかどこかで』などにも出演、人気を博す。

ソリテア (ジェーン・シーモア)

タロットカードを使って未来を読む女。ところがボンドと出逢って“オンナ”になってしまったことで巫女としての力を失い、彼女を困っていたミスター・ピックの怒りを買う。

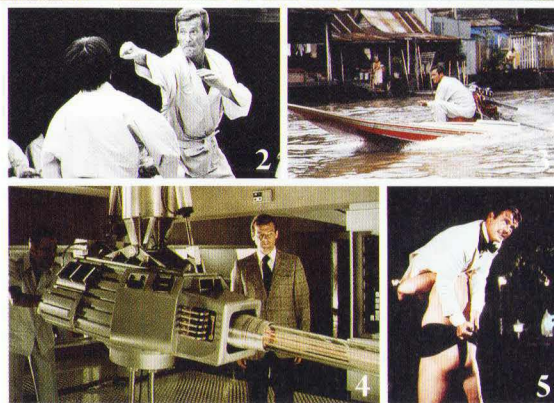




Gadgets

ボンドの命を狙う スカラマンガの黄金銃!

いつもはボンドを助け、大活躍するはずのQが開発した秘密兵器よりも、スカラマンガの持つガジェットに要注目。圧巻はペンとシガレットケース、カフスとライターを組み合わせて完成する黄金銃だ。もちろん弾丸もすべて金で作られている。



1 殺し屋同士の対決。黄金銃vs.フルサーPPK。他の作品のように大仕掛けではないが、愛すべき一対だ。2 コミカルなシーンのひとつ。カンフーで戦うこのシークエンス。吹替なしで挑んだアクションの出来は!? 3 のちにユニセフ親善大使となったムーアが後悔しているというシーン。土産物を売りに来た少年を水中にドボン! 4 黄金の光にも似た太陽エネルギーに惹きつけられるスカラマンガ。まるでかつてのゴールドフィンガーのようである。5 ハイ・ファットの屋敷でなぜか力士に襲われるボンド。日本人から見れば奇妙なシークエンスだが、ボンドもまわしを捻って抵抗する。

OPENING ルル / 「黄金銃を持つ男」

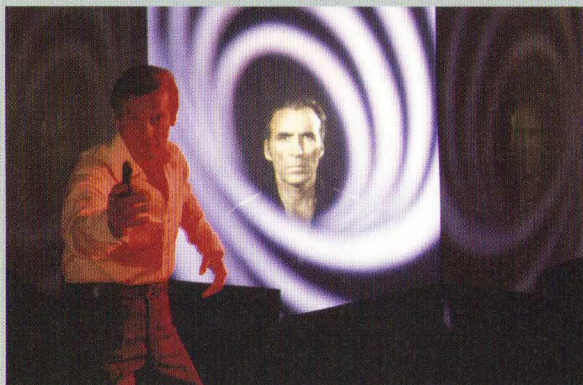
タイトル名がそのままサビのメロディに乗り、ダイナミックな世界を歌い上げるのはルル。サウンドもいかにもジョン・バリーらしくホー

ンセクションがさく裂する。オープニングシークエンスもいつもよりセクシー(というよりも色気!)な雰囲気が増している。

ENEMY BASE 絶海の孤島で煌めく 巨大な太陽光パネルの威力!

太陽光のエネルギーを恐るべき兵器に変えるの銃に匹敵する、空を飛ぶマタドール・キャットこともできるソレックス・アジテーターを巨大

なパネルに組み込んだ孤島の要塞。まるで殺人をゲームのように楽しむ迷路のような館、それとは裏腹に風光明媚で美しい砂浜。スカラマンガは自らの王国を築き上げて、ボンドを迎え入れるのを待っていたのだ。黄金



フランシスコ・スカラマンガ (クリストファー・リー)

「007」シリーズの原作者であるイアン・フレミングの従兄弟にあたるクリストファー・リーが、嫌々として怪演。なによりもこの殺し屋、黄金の銃もさることながら、乳首を3つ持っているという変わりダネだ。

敵の目的 太陽光線をエネルギーに変えるソレックス・アジテーターを巡って暗躍する。一方で自らの好敵手としてボンドに決闘を挑む。

ニック・ナック (エルヴェ・ヴィルシェーズ)

「007」シリーズのなかでは最も小さな悪役。スカラマンガの身の回りの世話やコックまで務める。一見すると従順のようにも見えるが、主人の資産や命を秘かに狙うしたたかな一面も持ち合わせているようだ。

敵の目的 究極の兵器を手にすることが狙いのようにも見える。しかしスカラマンガが望むのはどちらが最強の殺し屋か。ボンドとの決闘である。

ENEMY



映画史上空前の近代兵器と最高の面白さを満載したシリーズ第9弾!

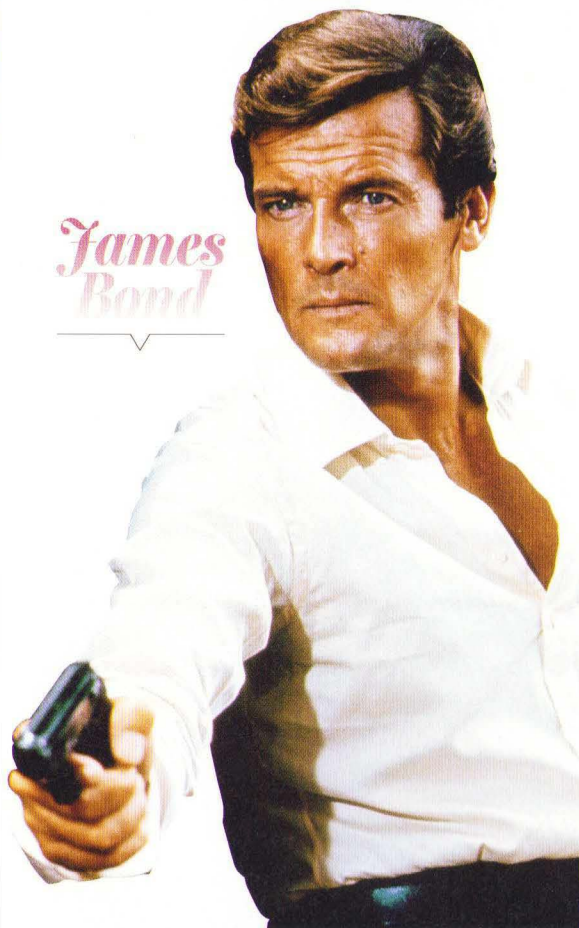
007/黄金銃を持つ男

1974年作

The Man with the Golden Gun



James Bond



エキゾチックで猥雑な雰囲気、魅力の異色作
ロジャー・ムーアがジェームズ・ボンドとして初登場した前作が好評を博し、再び続投。ムーアならではのキャラクターに合わせ、従来よりもコメディ色の強いシークエンスや、よつととばけた台詞が随所に登場している。スケールの大きさは抑えめながらも、原作の味わいを持った小品の傑作、と評価する向きもあるかもしれない。ムーアは自身のボンド像を模索していたようで、ボンドガールのモード・アダムスを後ろ手で締め上げるという、他作品ではムーアがその後見せないような少々荒っぽいキャラクターへのアプローチがまだ残っている。おそらく彼なりにコネリーの作った男っぽいボンドを意識するところもあったのだろう。スタッフやキャストも力を抜いて製作したような雰囲気があり、好みの

別れるところかもしれない。タイトルにもなっている「黄金銃」が本作のハイライトだ。ボンドとの決闘を望む殺し屋、スカラマンガが手にする黄金製の組み立て式銃が登場する。AMCホーネットハッチバックが活躍するカーアクション、なかでも360度回転のスタントシーンは実写ならではの、圧巻のひとつ。スカラマンガの「空飛ぶ車」まで劇中では披露されるなど、ボンド映画らしいサイベス精神も健在。また、主なロケーションとなっているのは極東アジアとあって、エキゾチックで猥雑なテイストも見どころのひとつ。ちなみに前作の「死ぬのは奴らだ」で登場していた「愉快なおじさん」が続いて本作でも活躍。そういう意味では必ずこの2本は製作年度順に観るようにしたほうがより楽しめるだろう。

『黄金銃を持つ男』

- 発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分数: 125分

STAFF & CAST 監イアン・フレミング 監ハリー・サルツマン、アルバート・R・ブロッコリ 監ガイ・ハミルトン 監リチャード・メイバウム、トム・マンキウィッツ 監ロジャー・ムーア、クリストファー・リー、ブリット・エクランド

今回の任務 「黄金銃を持つ男」、殺し屋スカラマンガから「007の命をもらう」という挑戦状が届き、スカラマンガの正体を暴くため調査に乗り出す。

華麗なるボンドの旅路

ロンドン 1 マカオ 2 香港 3 パンコク 4 スカラマンガの島

Bond Girl

メアリー・グッドナイト (ブリット・エクランド)

ボンドの任務を現地でアシストするキュートな諜報部員。小柄なボディも小悪魔的。ボンドの魅力にぞっこんなのだが、いつも邪険に扱われ、ドジばかりでボンドの足をひっぱる。

ボンドガールの ココにキグヅケ!!

少々地味な存在の2人だが、ブリット・エクランドは元ピーター・セラーズの奥方。モード・アダムスはのちに「オクトパシー」でもボンドガールに選ばれてシリーズでは唯一、2度にわたってボンドと競演している稀有な女優である。

STORY

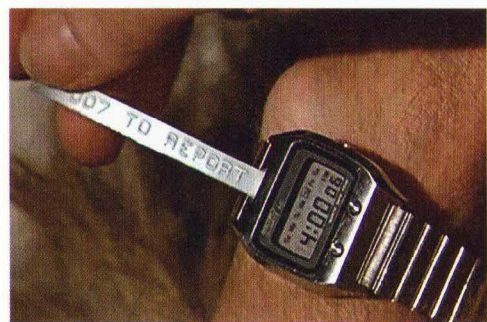
英国諜報部に届けられた黄金製の銃弾!

“007”の文字が刻まれた黄金の銃弾がボンドのもとに届いた。名うての殺し屋、スカラマンガからの挑戦状だ。殺すか殺されるか。そこにはボンドが秘かに追っていた行方不明の太陽エネルギー研究者の存在があった…。ボンドはスカラマンガの住む島へと向かう。

アンドレア・アンダース (モード・アダムス)

ボンドの命を狙う殺し屋、スカラマンガの愛人。ロンドンの英国諜報部に宛てて黄金の銃弾を送りつけてボンドを誘い出す。ボンドの魅力に負けて寝返ることになるのだが…。





Gadgets

奇想天外な小道具の数々。
秘密兵器が大活躍!

本作はQ課の作ったガジェットが次々と登場し、ボンドの任務をサポートする作品も珍しい。007に危機が迫るところ、秘密兵器の存在あり。美女とのアヴァンチュールのさなかにもMからのメッセージを受け取れるデジタル時計はセイコー製の。



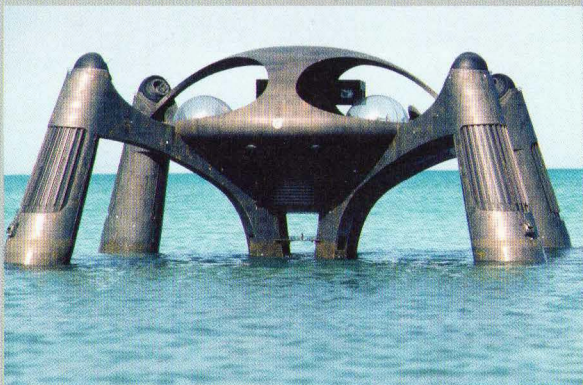
1 クライマックスはストロンバーグの要塞アトランティス。敵と味方が入り乱れて大スペクタクルシーンが展開! 2 アクションばかりではなくボンドと美女との甘いラブシーンも見どころ。しかし気を緩めたボンドを襲うのが... 3 列車内で繰り広げられるジョーズとの死闘。[ロシアより愛をこめて]へのオマージュともいえる屈指の名シーン。 4 ロータス・エスプリを狙うサイドカー、ジョーズ、そして美しき刺客ナオミが駆るヘリコプターが空中から急襲。 5 Qから届けられた組立式のジェットスキーで颯爽と海上を走るボンド。バックに流れる「ジェームズ・ボンドのテーマ」も心地良い。

OPENING カーリー・サイモン/「ノーバディ・ダズ・イット・ベター」

主題歌は当時、AOR界でも高い人気を誇ったカーリー・サイモンが担当。「あなたほどのひとはいない」とボンドに向けた甘いラブソングとなっている。曲のタイトルはシリーズのキャッチコピーとして使われることもたびたび。いまだファンには熱く支持されている名曲だ。

ENEMY BASE 海底に潜み、世界征服の中枢となる大要塞!

海底の世界を偏愛する誇大妄想狂、ストロンバーグが秘かに建造した巨大な要塞。その名もアトランティス。通常は海のなかで地上の俗世界とは隔離されているが、海上に浮上することも容易に可能。その異様なスケールはまるで海中にうごめく黒く巨大なタコのようなものである。各国の原子力潜水艦を難なく収容できる、彼の擁する



カル・ストロンバーグ (クルト・ユルゲンズ)

かつてのコネリー時代のスペクターを彷彿とさせる、世界的規模で陰謀を企む海運王にして誇大妄想狂。実力派ドイツ俳優がキャスティングされることで、さらに悪役としての存在感と凄味が増している。

敵の目的 ストロンバーグが放った不死身の殺し屋で怪力の持ち主。姿を消した原子力潜水艦の行方を追うボンド、そしてトリプルXの命を狙う。

ジョーズ (リチャード・キール)

[007]シリーズを代表する悪役。鋼鉄製の歯を持ち、狙った相手を食いこぎる様はまさにサメである。どこかコミカルなキャラクターが憎み、人気に火が付いた。次作「ムーンレイカー」にも登場。

敵の目的 ストロンバーグが放った不死身の殺し屋で怪力の持ち主。姿を消した原子力潜水艦の行方を追うボンド、そしてトリプルXの命を狙う。

ENEMY



シリーズ最大のスケールで放つ華麗なボンドの新しい挑戦!

007 私を愛したスパイ

1977年作

The Spy Who Loved Me



James Bond

製作体制を一新。これまで以上にエンターテインメント色の強いボンド映画が作り続けられるきっかけとなった、シリーズ第10弾の記念作である。日本はもちろんのこと、世界中で桁外れの大ヒットを記録。シリーズを代表する作品として、その名が今日までしっかりと刻まれている。1970年代後期のボンド映画らしく、「国際間の緊張感の緩和」(「デタント」といった当時の社会情勢も物語に反映。イギリスのスパイとソ連のスパイが恋に落ちるというシチュエーションはやはり「007」シリーズならではの。その恋を彩るのがマーヴィン・ハムリッシュのこれもまた当時の流行を取り入れた「ディスコサウンド」と流麗なスコア、そして主題歌を歌うのがカーリー・サイモンと、豪華この上ない組み合わせ。オープニング

グ・タイトルの美しさとも相まって、女性にも人気の高い一作となっている。スキーアクションから断崖絶壁へと落下していく絶体絶命のプレタイトルシーケンスをはじめ、アストンマーティンやTOYOTA 2000GTと並んでシリーズでも人気の高いボンドカー、ロータス・エスプリの活躍ぶりも大きなお楽しみだ。ボンド映画でも屈指の人気者、悪役の「ジョーズ」とのカーアクションから、殺し屋ナオミの操縦するヘリコプターとの一騎打ち、そして水陸両用車となって繰り広げられるマリナーアクションと、見どころが満載。ストロンバーグが海中に建造した巨大な「秘密基地」もいかに「007」シリーズらしい荒唐無稽さだ。ロジャー・ムーアがボンドを演じた作品の中でも、最も人気の高い一作と言えるだろう。

『私を愛したスパイ』

- 発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分数: 125分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園アルバート・R・ブロッコリ 園ルイス・ギルバート 園クリストファー・ウッド、リチャード・メイバウム 園ロジャー・ムーア、クルト・ユルゲンズ、バーバラ・バック

Bond Girl

アニヤ・アマソヴァ/トリプルX (バーバラ・バック)

ソ連の諜報機関、KGBの女スパイ。コードネームはXXX(トリプルエックス)。ボンドと共に任務にあたることになるのだが、彼女の恋人がボンドに殺されていたことを知る。

ボンドガールのココにクギツケ!!

なんといっても2人ともダイナミックでゴージャス、とびっきりセクシーなプロポーションが持ち味。劇中にもボディラインが露わになるシーケンスばかりが登場し、男性ファンへのサービスシーンがたっぷり用意されている。

STORY

海底から世界征服を企む敵にボンドが立ち向かう!

英国とソ連の原子力潜水艦が忽然と姿を消す。事件の真相を探るため、両国のスパイが調査に乗り出した。英国諜報部はボンドを派遣。そしてKGBは美貌の女スパイを投入した。ところが調査が進むうちに、謎の海運王が事件を陰で操っていることが判明し...

ナオミ (キャロライン・マンロー)

世界征服を企むストロンバーグの手先。ベル社製のヘリコプターを自在に操り、ロータス・エスプリで疾走するボンドの命を狙う。海中まで追い詰めたところでボンドの反撃にあう。





Gadgets

これでワルサーPPKはもう要らない？

Qから支給されたのは、手首に装着するブレスレット型のダーツガン。様々なダーツが選べて、手首の筋肉の動きで発射出来る。これがあるおかげでワルサーPPKの出番なし。ペニスで活躍するのはホバークラフトになるゴンドラ(通称:ポンドラ)。陸上も走行可能だ。



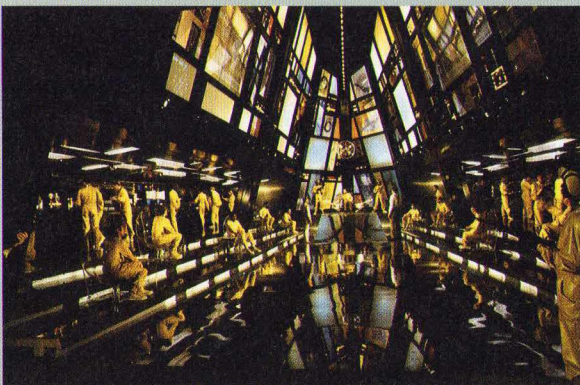
1 ドラックスの宇宙ステーション内でボンドたちが反撃開始。格闘に銃撃、爆発も満載で興奮しっぱなし! 2 ロープウェイで運命の出会いを果たしたジョーズの恋人ドリー。ふたりの関係は「フランケンシュタイン」のパロディだ。 3 秘密兵器搭載のボートを駆り、アマゾン川で敵ボートとバトル。ボートチェイスはシリーズの得意技。 4 アマゾン奥地に遺跡をモチーフにした秘密基地が広がる。ケン・アダムファンタスティックなデザイン。 5 ドラックス軍団と海兵隊宇宙部隊が、宇宙空間でレーザーバトルを展開。

OPENING シャーリー・バッチー／「ムーンレイカー」

女性たちが月の周りを飛び回ったり、ミラーボールのような月と戯れたり、ファンタスティックなテイストのタイトルバックで流れるのは、これが3度目の起用となったバッチーの曲。しかし、やはり新鮮味に欠けるのか、英・米ともにヒットチャート入りは果たせなかった。

ENEMY BASE 元祖デザイナーの秘密基地はこれが見納め?

アマゾン奥地の地下に建設された発射基地。大御所ケン・アダムのデザインで、どちらも「スター・ウォーズ」よりモダンな雰囲気特徴。ステルス機能があり、地球上からは目視でもレーダーでも発見不可能なほか、巨大な太陽電池パネルを持ち、地球に依存せずに自活することが可能で、選ばれたカップルたちが長期間生活することも出来る。



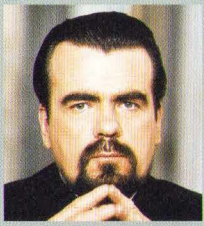
ENEMY

ヒューゴ・ドラックス (ミシェル・ロンスデル)

フランス貴族の大富豪で宇宙産業を経営。人類に絶望し、動植物は残して全人類を皆殺しにする野望を抱いている。ピアノを弾き、女性をもてなすキザな面も。しかし本心はいまひとつ分らず。敵の目的 優れた人間だけで新天地を築くため、人間のみに効果のある毒ガスを開発し、それを宇宙ステーションから地球に投下しようとする。

ジョーズ (リチャード・キール)

前作で海底基地の崩壊から脱出、ボンドに復讐するためドラックスの部下に。傲慢の鋼鉄の歯でロープウェイのケーブルも噛み切る。天涯孤独のはずだったが、眼鏡っ娘の恋人が出来ることに。敵の目的 ひたすらボンドを追い掛け、抹殺しようと行動。どんな目にあってもめげないが、最後は恋人のためにボンドに協力。彼の運命は…?



宇宙的スケール、群を抜く面白さ!これぞ今世紀最大の娯楽巨編!

007/ムーンレイカー

1979年作 Moonraker



James Bond

『スター・ウォーズ』の影響でついに宇宙進出。死ぬ』によく似ている。その秘密基地のインテリアをデザインしたのは、『ドクター・ノオ』から『007』映画のイメージを作り上げてきたケン・アダム。残念ながらこれが最後で、ドイツ表現主義直系の空間が歪んだような、元祖『007』風味の秘密基地も本作以降登場しない。なお、後の作品は後輩のピーター・ラモントが担当している。スケール満点の物語はヒットこそ収めたものの、さすがに宇宙まで行ってしまったのはやり過ぎと批判され、続く『ユア・アイズ・オンリー』は一転地味だが、アクション満載の原作に近いスタイルに改められた。余談だが、本作が公開された時点では、まだNASAのスペースシャトルは打ち上げられておらず、ロケ地クレジットには「宇宙」が入っている。

『ムーンレイカー』

●発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分数:126分

STAFF & CAST 監イアン・フレミング 監アルバート・R・ブロッコリ、マイケル・G・ウィルソン 監ルイス・ギルバート 監クリストファー・ウッド 監ロジャー・ムーア、ミシェル・ロンスデル、ロイス・チャイルズ

今回の任務

強奪されたスペースシャトルを追っていたボンドは、秘密の宇宙ステーションの存在と全人類を脅かす恐るべき陰謀を察知、これを阻止するため宇宙へと向かう。

華麗なるボンドの旅路

カリフォルニア 1 1 ペニス 1 1 リオデジャネイロ 1 1 アマゾン 1 1 宇宙

STORY

世界を守るため地球を飛び出すボンド!

新型スペースシャトル「ムーンレイカー」が、輸送中にハイジャックされて姿を消す。ボンドは製造していたドラックス産業を調査し、毒ガスによる人類抹殺計画を察知。ドラックスは優秀な人間だけで、宇宙ステーションに移住することを計画していたのだ。

コリンズ・ダフォー (コリンズ・クレリー)

ドラックス専属のヘリコプターパイロット。ボンドの誘惑に負けて協力し、情報を漏らしたために悲惨な目に遭う。フランス美女は情熱的というのはシリーズのお約束か。

Bond Girl

ボンドガールのココにクギツケ!!

『0嬢の物語』でも知られるクレリーだが、本作での扱い(ドーベルマンに襲われたり)はちょっとひどい? ほかにリオでボンドに協力するマニエラ(エミリー・ホルトン)など、チョイ役美女が多数登場。

ホリー・グッドヘッド博士 (ロイス・チャイルズ)

ヒューゴ・ドラックスの宇宙産業で働くエンジニア。グッドヘッドという名のごとく頭脳明晰で、シリーズでは珍しい理知的なボンドガールに。実はCIAのエージェント。

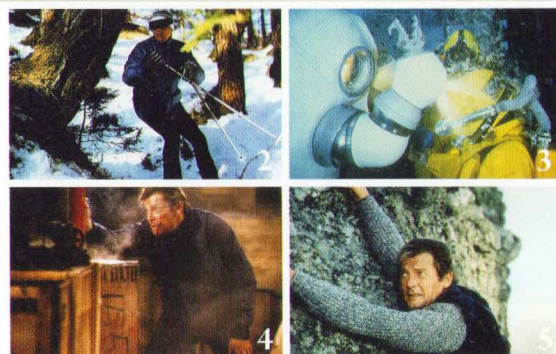




Gadgets

ガジェット類も リアリティ重視!

盗難防止自爆装置付きロータス・エスプリはカーチェイス前に大爆発。一番頑張るのはフランスの大衆車シトロエン2CV。深海潜水艇ネプチューンも登場。敵のロボットのようなJIMダイビングスーツもSFチックだが、実在する本物が使われた。



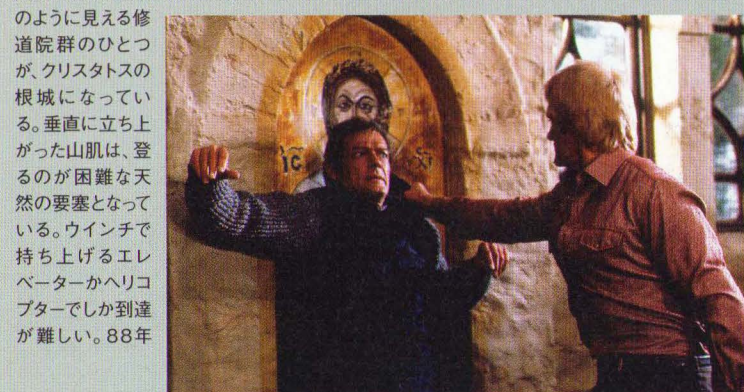
1 ロータスが使えなくなり、メリナのシトロエンで山の中を逃げる。この場面、明らかに「ルパン三世」の影響が。 2 スバイクタイヤ付きのバイクに追われ、ボンドはスキーでボブスレーのコースへ。バイクも後を追う。 3 沈没船に潜るボンドとメリナを追って、ロボットのようなダイビングスーツが襲いかかる。さらに潜水艇も。 4 密輸品の倉庫を急襲。激しい銃撃戦の後、宿敵ロックのペンツを走って追跡。ハードボイルドにトドメを刺す。 5 ロッククライミングで山頂を目指す。ロープを外されピンチに。本当に落下するスタントにドッキリ。

OPENING シーナ・イーストン／「フォア・ユア・アイズ・オンリー」

80年代に一世を風靡することになる、当時新人だったイーストンが大抜擢された。水中をイメージしたタイトルバックにはイーストン本人も登場しており、トップレスに見える彼女の映像なども話題となった(実際に撮影では肩出しのドレスを着用していたとのこと)。

ENEMY BASE 正統派冒険小説風の天然の要塞

奇妙な形の山が立ち並びギリシャのメテオラに世界遺産に登録されたそうだが、よくこんな山頂にある、空中にぽっかりと浮かんでいる場所に修道院が建てられたものだと感心。



ENEMY

アリスト・クリスタス (ジュリアン・グローヴァー)

英国政府に協力している密輸商だと思われたが、実はKGBの二重スパイだった。美少女スケーター・ビビのスポンサーでもあるが、本質はサディスティックな男。サメのいる海でボンドたちをいたぶる。

敵の目的 沈没したスパイ船からミサイル誘導装置ATACを回収しようと企む。さらにアルバニアを拠点に麻薬の密輸も行っている。

エミール・ロック (マイケル・ゴダード)

ベルギーの暗黒街を根拠にした国際的犯罪者。クリスタスの実行部隊のリーダーでもある。メリナの両親を殺したゴンザレスを雇ったのも彼だ。MIGの連絡員フェラーラも彼の指示で殺害された。

敵の目的 イギリスのATAC回収を妨害、調査に来たボンドの殺害を企てる。クリスタスの麻薬密輸業務も補佐している模様。



'81年(夏)シリーズ最大の興奮が上陸する!

007/ユア・アイズ・オンリー

1981年作

For Your Eyes Only



大胆スタント連発のハードアクション路線に原点回帰
前作で宇宙まで行ってしまうって荒唐無稽になりすぎたことを反省。一転、原作の要素を取り入れたアクション路線に立ち返った作品。スタントを中心としたノンストップアクション映画となった。ロケ地も風光明媚なギリシャがメインで、観光映画的な楽しみ方も出来る一編に仕上がっている。ストーリーは原作の短編「読後焼却すべし」と「危険」短編集「薔薇と拳銃」に収録の2つを組み合わせたもの。またボンドとメリナがサメの泳ぐ海を船で引き回される拷問は、原作の「死ぬのは奴らだ」のクライマックスに登場するものだ。ボンドのキャラクターもややハードなものになり、非情に敵を殺すシーンもあるが、ロジャー・ムーアはこれを嫌がっていたという。アバントイルで電動車イスにスキンヘッド、ペルシャ

猫を抱いた、どう見てもプロフェルドのような人物が登場し、これを始末するシーンがあるが、これは「サンダーボール作戦」を巡る権利問題でイオンプロが使用出来なくなったプロフェルドのキャラクターと、秘密組織スペクターに対する決別宣言と解釈されている。監督には「女王陛下の007」の編集を担当し、「ムーンレイカー」では第2班監督を担当していたジョン・グレンが抜擢された。片や音楽はジョン・バリーに替わって、「ロッキー」などで有名なビルコンティが担当。ジェームズ・ボンドのテーマの様々なバリエーションを使用することで、シリーズの雰囲気を手く維持している。主題歌を歌ったのはイギリスの人気歌手シーナ・イーストン。オープニングタイトルに顔を出しているのは、全作を通じて彼女だけだ。

『ユア・アイズ・オンリー』

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分数:128分

STAFF & CAST 原イアン・フレミング 脚アルバート・R・ブロッコリ 監ジョン・グレン 配リチャード・メイバウム、マイケル・G・ウィルソン 出ロジャー・ムーア、ジュリアン・グローヴァー、トボル

今回の任務 イギリスのスパイ船セント・ジョージが沈没、ミサイル誘導装置ATAC回収を依頼された考古学者が殺害された。ATACがソ連の手に渡るのを防ぐため、ボンドはギリシャに向かう。

華麗なるボンドの旅路

イギリス▶スペイン▶アルプス(イタリア)▶メテオラ山(ギリシャ)

STORY

東西のパワーバランスが崩壊の危機に!

沈んだスパイ船に搭載された、ミサイル誘導装置ATACの回収を妨害するロック一味を追って、スペインからイタリアへ向かったボンド。その前に、一味を両親の仇と狙うメリナと、密輸団のボス・クリスタスが現れ、ATACを巡る争奪戦は激化していく。

リスル伯爵夫人 (カサンドラ・ハリス)

謎の密輸団を率いるロックと繋がる美女。実はイギリス人。ボンドと意気投合し一夜を過ごす。KGBの手下だったクリスタスの一味に襲撃され、命を落とす。



ボンドガールの ココにクギツケ!!

「サンダーボール作戦」のクロディヌ・オージェと同じくフランス人のブーケは、ボンドガールとしては清楚さが売りで、ベッドシーンはおろかキスシーンもないが、むしろそれが余計に魅力を引き立てた。

メリナ・ハブロック (キャロル・ブーケ)

ATAC回収作業を行っていたハブロック夫妻の愛娘。両親を殺した殺し屋ゴンザレスをボウガンで殺害する。物静かながら深い情熱を秘めたミステリアスな美女。





Gadgets

日本製のデジタル時計も 秘密道具に!

ワルサーPPKは当時の新製品ワルサーP5に変更。でもボンドはPPKと呼ぶ。万年筆には溶解液が仕込まれ、発信機も付いている。セイコーの腕時計(デジボグとTVウォッチ)も発信機の情報を受信し、TVカメラのモニターになったりと重宝した。



1 小型双発機の上でゴビンダとの死闘。本当に飛びながらやっているの、見てお尻がムズムズ。 2 インドの雑踏の中ではボンドカーも出る幕なし。オート・リクシャー同士のチェイスでローカルカラーを満喫。 3 ボンドが操縦する飛行機にミサイルが迫るが、敵倉庫内に飛び込んで回避。華麗な空中アクションに目を奪われる。 4 逃げるカマルの列車を追って、ベンツがレール上を疾走。本当に鉄道線路を使って撮影している。 5 ビエロに扮してサーカス団に潜入し、大砲に仕掛けられていた核爆弾を解除。お約束だが思わずハラハラ!

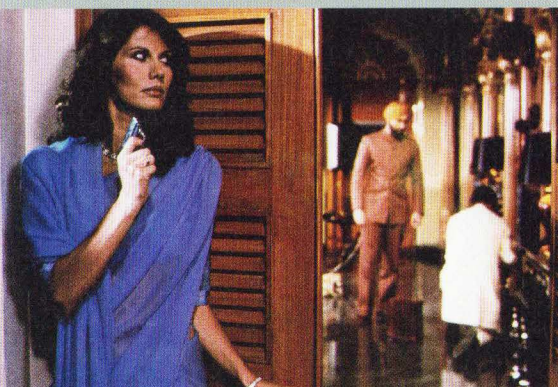
OPENING リタ・クーリッジ／「オール・タイム・ハイ」

アメリカの女性シンガー・クーリッジによる映画とは別題の主題歌は、アイドルチックな前作から、一気に大人の雰囲気を出しシリ

ーズ屈指の美しい曲に。タイトルバックでは久々に女体にレーザー照射の演出で、ボンドのシルエットや「007」ロゴを映し出している。

ENEMY BASE 観光名所が秘密基地として使用された

オクトパシーのアジトは、インド・ウダイプールのピコラ湖に浮かぶレイクパレス。男は入ることを許されない。実際は観光名所のホテルになっていて、ボンドが泊まるホテルもここで撮影された。カーンの本拠地はそのそばにあるモンスーンパレスという宮殿で、脱出用の地下通路が作られている。ここも実は観光名



カマル・カーン (ルイ・ジュールダン)

インドに居を構えてオルロフ将軍に協力する、アフガニスタンの亡命貴族。怪力の殺し屋ゴンドラを従え、ボンドを標的にジャングルで人間狩りを行う。オクトパシーには下手に出ているが...

敵の目的 オルロフ将軍の手引きでソ連から持ち出された宝飾品を、オクトパシーを利用して運び、高価で売却して作戦の資金源に充てようとする。

オルロフ将軍 (スティーヴン・バーコフ)

ソ連陸軍の中でも取り分けタカ派な将軍。狂信的な愛国者のサディストで、穏健派なKGBのゴゴル将軍と対立している。西ヨーロッパ征服を妄想するが、他の将軍たちからはたしなめられる。

敵の目的 反アメリカの反核運動を盛り上げ、ヨーロッパから米軍を追い出すため、米軍基地で核爆弾を暴発に見せかけ、爆発させようとする。



ENEMY

シリーズ・ビッグ・1 最高の面白さを叩き込んだ本物のボンド・アクション!

007/オクトパシー

1983年作 Octopussy



James Bond

エキゾチックなインド観光気分が満喫出来る
『エア・アイズ・オンリー』に続いて、肉
体アクション中心のリアリズム路線
を採った13作目で、初のインドロケ
が話題となった。タイトルは短編小
説から。原作は横領して逃げたイギ
リス軍のデクスター・スマイス少佐を
ボンドが追う話で、スマイスが海で
観察しているヒョウモンダコの愛称
がオクトパシー。映画ではスマイス
の娘がオクトパシーという名を使っ
ている(そしてヒョウモンダコを愛で
る)設定になっている。オクトパシー
を演じたモッド・アダムスは『黄金銃
を持つ男』にも出演。違う役で再度
登場した女優には、『ロシアより愛を
こめて』のマルティヌ・ベズウィック
がいる。彼女は『サンダーボール作
戦』にも出演したが、アダムスのよう
に大きな役で2回というのは珍しい
(さらにこの後、『美しき獲物たち』に
もカメオ出演した)。監督は前作か
らジョン・グレンが続投し、悪役は往
年の二枚目俳優レイ・ジュールダンと
イギリスの演技派ステイヴン・バー
コフ。イギリス情報部インド支部の
エージェントビジーとして出演し
たのは、インドの人気プロレスプレ
イヤーのヒジャイ・アムトラジだ。ま
た、Mを演じたバーナード・リーが亡
くなったため、新しいMとしてロバ
ート・ブラウンを起用。彼は『私を愛し
たスパイ』で海軍のハーグリーブス
提督役でも出演している。なお、同
年にジョン・コネリーがボンド役に
復帰した番外編『ネバー・セイ・ネバー
アゲイン』も公開されたが、本作のほ
うが世界興行成績は上となり、『スタ
ー・ウォーズ エピソードVI/ジェダイ
の帰還(当時の副題は『ジェダイの
復讐』)に次ぐ第2位を記録した。



『オクトパシー』

- 発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分数:131分

STAFF & CAST 監イアン・フleming 脚アルバート・R・プロコッロ 監ジョン・グレン 脚リチャード・メイバウム、マイケル・G・ウィルソン 出ロジャー・ムーア、モッド・アダムス、ルイ・ジュールダン

今回の任務 ソ連から流出する美術品の行方を追ってインドへ。そこでアフガニスタンの亡命貴族とロシアのタカ派将軍の関係を探り、彼らの西ヨーロッパ侵略計画を防ぐ。

華麗なるボンドの旅路

- キューバ ●ロンドン ●ウダイプール(インド)
- 東ベルリン ●西ドイツ ●インド

STORY

ソ連による核兵器テロを防げるか!?

ソ連から流出した宝飾品「ファヴェルジュの卵」を追って、インドで謎の美女軍団と遭遇したボンドは、背後に欧州へ攻め入るソ連軍のタカ派将軍の野望をつかみ、ドイツへ向かう。敵は西側の米軍基地で核爆発を起こそうとしていたのだが...

マグダ

(クリスティーナ・ウェイボン)

オクトパシーの部下でサーカス団のメンバー。身のこなしが軽い。ボンドを探るため一夜を共にするが、ボンドの魅力にも誘惑されず至ってクール。

Bond Girl

ボンドガールの ココにクギツケ!!

オクトパシー・サーカス団のメンバーの中でも、その美貌が光るクールビューティーのマグダ。演じるウェイボンはスウェーデン出身で、バルコニーからサリをほどこしながらの脱出シーンが印象的だ。





Gadgets

リッチな潜水艇は一度乗ってみたい

シベリアからの脱出に使用された流氷型潜水艇の内部は豪華な作りで、ベッドにシャンパン、美人操縦士も用意。小物では何でも開けられる万能キーを仕込んだクレジットカード、偏光サングラス、コピー機能付きシガレットケースなどが、



1 エッフェル塔でメイ・デイを追い掛けるが、彼女はなんとパラシュートで空中へ脱出してしまふ! 2 馬主に化けたボンドはゾリンの城で馬に試乗するが、姑息な手で妨害される。古典的アクション風味。 3 市庁舎放火の疑いを掛けられたボンドはハシゴ車に乗って逃亡、バトカーと珍妙なカーチェイスを展開。 4 レオタード姿でゾリンに格闘指導するメイ・デイ。引き締まった肉体(特に尻)について目が行ってしまう。 5 飛行船にぶら下がり、ロープを金門橋の脚に引っ掛ける。橋のロープ上で身のすくむようなアクション。

OPENING

ジョン・バリヤー&デュラン・デュラン
「ア・ビュー・トゥ・ア・キル」

女性が服のジッパーを下げ、胸元に赤い「007」のロゴが表れるセクシーなOPでは、シリーズの代ロックシーンを代表する、当時人気絶頂期のデュラン・デュランがコラボレーション。従来とは音楽はすべてを担当してきたバリヤーと、80年

ENEMY BASE

古城に空飛ぶ移動基地とロマンが満載

前半の根拠はフランスの美しい古城。ここでゾリンは所有する競走馬の強化のためのステロイド投与と研究と処置を行う。マイクロチップの製造プラントもある模様。後半は巨大な飛行船を本拠地にアメリカへ移動。古い炭鉱から地下に穴を掘り、大量の爆薬を仕掛けるが、ここも秘密基地的な雰囲気あり。最後は中型の飛行船で逃走。優雅な空の旅を楽しむつもりだったが、ボンドがぶら下がっていた。



ENEMY

マックス・ゾリン

(クリストファー・ウォーケン)

ナチスドイツの試験管ベビー研究による遺伝子操作で生まれた人工的な天才だが、感情面に重大な欠陥がある。残酷な行為を躊躇なく行えるサディストであり、異形の者を好む傾向がある。

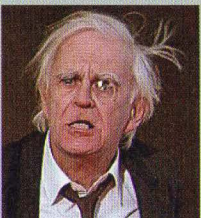
敵の目的 マイクロチップ業界独占のため、サン・アンドレアス断層に地震を誘発させ、シリコンバレーを洪水で壊滅させようとする。

カール・モートナー博士

(ウィロビー・グレイ)

ゾリンの種馬飼育場のコンサルタントだが、実はナチスドイツで優生学や遺伝子操作の研究を行っていた、ゾリンの創造主とも言える存在。ゾリンを最優秀作品として愛玩している。

敵の目的 ステロイドによる筋力向上の技術を利用し、ゾリンの持ち馬に密かにステロイド投与を行って競馬で優勝させる。



'85夏 最新!最高の“ボンド・アクション”がやってくる!

007/美しき獲物たち

1985年作 A View To A Kill



James Bond

ユーモアも融合させたムービーボンドの集大成
ロジャー・ムーア最後の作品となったシリーズ14作目。『ユア・アイズ・オンリー』以降のスタントを中心としたアクション路線で、『私を愛したスパイ』のような派手なガジェットや秘密基地は登場しない。しかし、登場した時は若々しさが売りだったムーアも、本作撮影時は58歳で老いが顕著になったし、噂によると整形手術に失敗し、かえって目の周りのシワが目立ってしまった。そのせいか、アクション路線にしては全体的におっとりとした印象で、むしろムーアの持ち味であるユーモア性も光る一編になっている。また、マネー・ペニーを演じたロイス・マクスウェルも、これが最後の出演作である。悪役を演じたクリストファー・ウォーケンも日本でもファンが多く、そちらで騒がれた部分もあった(彼に注目)。

『美しき獲物たち』

- 発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
- 1905円
- 収録分数:131分

STAFF & CAST 監イアン・フレミング 脚アルバート・R・ブロッコリ 監マイケル・G・ウィルソン 監ジョン・グレン 監リチャード・メイバウム 監ロジャー・ムーア、クリストファー・ウォーケン、タニア・ロバーツ

今回の任務

新型マイクロチップをソ連から奪還した後、LSI技術流出を追って殺し屋を追跡。IT企業の内情からCEOによる陰謀を察知し、シリコンバレー壊滅作戦を妨害する。

華麗なるボンドの旅路

アラスカ 1 アスコット(イギリス) 2 フランス 3 サンフランシスコ

STORY

マイクロチップ市場独占を狙う大富豪の狂気!

ソ連に流出した最新のマイクロチップを奪い返したボンドは、背後にゾリン・インダストリーズが動いていることを知り、馬主に化けて探りを入れる。ゾリンは市場を専有するため、IT企業の中心地シリコンバレーを壊滅させる作戦を立てていた。

メイ・デイ

(グレイス・ジョーンズ)

身長180センチ近い黒人女性で強靱な肉体を持つ。ゾリンの腹心の部下でエッフェル塔からのダイブもこなす。しかし後に裏切られ、ボンドに心を許す。



ボンドガールのココにキグヅケ!!

ロバーツはなんとと言っても『チャールズ・エンジェル』のメンバーだ。知名度も高く、金髪に染めて大奮闘している。地味な役柄だったため露出度が少なかったのは残念だが、ボンドと親密なシャワーシーンも。



ステイシー・サットン

(タニア・ロバーツ)

サンフランシスコ市役所職員。父親は石油業を営んでいたが、ゾリンに乗っ取られたため強く憎んでおり、地質学を学んでいたことから彼の陰謀を見抜く。



Gadgets

アストンマーティンが パワーアップして復活!

久々に秘密兵器カーが登場。アストンマーティンV8には小型ミサイルや側面のレーザー、ロケットブースター、ソリ、自爆装置までが搭載されて大活躍。もうひとつ役に立つのは口笛に反応するキー・リング。催眠ガスに爆薬まで付いた優れものだ。



1 ボンドといえばアストンマーティン。DB5をアップデートしたような機能で、追いつけるチェコ軍を翻弄。2 前任のムーアよりも銃の扱いが鮮やかなダルトン。ワルサーWA2000狙撃銃の操作手順はプロそのもの。3 アストンマーティンをあっさり爆破。チェロケースをソリ代わりに雪山を疾走する。ボンドの機転も見事。4 アフガンゲリラと共に馬で荒野を行く姿を逆光で捉えた映像は、ジョン・バリーの曲も相まって美しい。5 飛行する輸送機の後部ドアからぶら下がりながら、殺し屋ネクロスの死闘を繰り広げるスタントは迫力!

OPENING ジョン・バリー&a-ha／「リビング・デイル」

シャンパングラスから浮き上がってくる、白いハイレグ水着のブロード美女に目を奪われる本作では、バリーとノルウェーのバンド「a-ha」と

のコラボ曲が展開…だが、彼らは意見が対立し、その結果バリーのミックス版とa-haのミックス版の2曲が存在するという異例の事態に。

ENEMY BASE 美しい情景が売りのリアルな設定

アクション中心路線のため昔のような大掛かりなもの登場しないが、武器商人ウィティカルのモロッコの屋敷は歴代英雄の扮装をした自分の人形が並び、戦場ジオラマが展示された戦争博物館コーナーがあり、武器の隠し場所にもなっている。こぢんまりとした秘密基地感はある。アバントタイトルのジブ



ラルタルの英軍基地は実在し、風変わりな地形が見た目にも面白い。

ゲオルギ・コスコフ (ジェローン・クラッペ)

KGBの將軍。過激なソ連の方針に反対して西側に亡命と見せかけ、実は西側で自由に動くチャンスを得る。カーラを支援しているが、それは都合よく利用するためだった。調子は良いが小心者。

敵の目的 ソ連の公金横領に加えて偽の亡命でイギリスとソ連の双方を騙し、ウィティカーと結託してアフガン紛争を利用、金儲けを企んでいる。

ブラッド・ウィティカー (ジョー・ドン・ベーカー)

裏社会で暗躍する武器商人。勇ましい制服を常に着用するが、兵学校をカンニングで追い出されて軍務経験なし。戦史研究が趣味で、戦場のジオラマが自慢。自分を優れた軍人と見なす誇大妄想狂。

敵の目的 アフガニスタン、ソ連双方に武器を売り、さらにアフガンゲリラから麻薬を買い取り、それを売りさばいて巨額の金を得ようとする。

ENEMY



こんどのボンドは危険なくらい野性的。ニュー・ボンド誕生!

007／リビング・デイル

1987年作 The Living Daylights



シェイクスピア俳優の演技派新ボンド登場

年齢的な問題もあってロジャー・ムーアが降板し、新ボンドとしてティモシー・ダルトンが初登場した15作目。ボンド役としてはサム・ニールなど何人かの俳優が候補になっていたが、最も有力視されていたのはTVドラマ『探偵レミントン・ステイル』で主演していたピアース・ブロスナンだった。ほぼ彼に内定していたそうだが、終了すると思われた『探偵レミントン』の続行が決まってしまうため、スケジューリングに無理な状況に。アルバート・R・ブロッコリは例え時間的に都合が付いても、TVのヒーロー役を続けるのならボンドとして採用する気はなかったという。そんな紆余曲折を経て結局、決まったのはイギリスの演技派俳優ダルトンだった。彼はコネリーが降りた時に一度候補になっ

ていたが、当時は若すぎたためにオファーを受けなかった。ボンドガールはブロッコリの娘バーバラの友人でもあったマリyam・ダボ。今回はボンドと絡む女性が一ひとしかおらず、当時は世界的にエイズの流行が懸念されており、ボンドもエイズ時代に対応かと騒がれたことも。ストーリーは全編を通してシリウス・ハート展開で、シェイクスピア時代を思わせる内容であり、当時続編中だったソ連とアフガニスタンの紛争を上手く取り入れている。音楽は前作に引き継ぎジョン・バリーが担当したが、主題歌を歌ったa-haとは意見が合わず、本作が彼の最後の「007」映画となった。ちなみにバリーは、ラストのコンサートシーンで指揮者として出演している。



『リビング・デイル』

- 発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分数: 131分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園アルバート・R・ブロッコリ 園園マイケル・G・ウィルソン 園園ジョン・グレン 園園リチャード・メイバウム 園園ティモシー・ダルトン、マリyam・ダボ、ジェローン・クラッペ

今回の任務 ソ連の將軍の亡命を支援するが將軍が誘拐され、手掛かりを追ってチェコへ。武器商人の関与を知り、アフガニスタンでムジャヒディーンと共闘、麻薬密輸の陰謀を潰す。

華麗なるボンドの旅路

ジブラルタル 1 1 プラチスラバ(チェコ) 1 オーストリア
1 ロンドン 1 プラチスラバ 1 ウィーン 1 タンジール(モロッコ)
1 アフガニスタン 1 パキスタン 1 タンジール 1 ロンドン

STORY

ソ連將軍亡命の裏にある陰謀を打ち砕け!

ボンドはKGBのコスコフ將軍の亡命を成功させるが、何者かが將軍を誘拐。將軍を狙ったスナイパーを追ってチェコへ向かい、利用されていた女性カーラと共に西側に脱出。暗躍する武器商人を探り、モロッコからアフガニスタンへと渡るが…。

カーラ・ミロヴィ (マリyam・ダボ)

チェコ・プラチスラバ管弦楽団のチェリスト。パトロンのコスコフ將軍に騙されて偽亡命の片棒を担がされる。清楚でありながら芯の強さを持ち、ボンドと冒険に飛び込む。

ボンドガールの ココにクギツケ!!

清純派でタチアナ・ロマンovaの系列。露出度はグッと少なめでベッドシーンもないが、一途にボンドに従っていくところは健気。どこことなくオードリー・ヘップバーンに似たところもある?

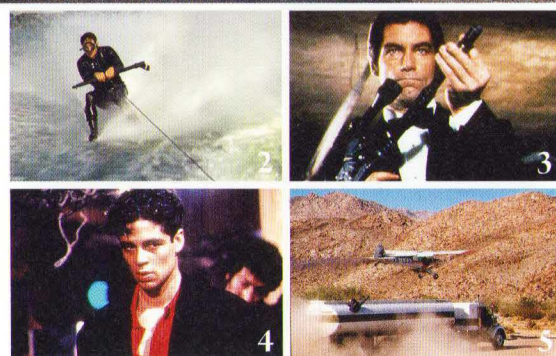




Gadgets

レトロ感満載の スパイ小道具登場

ボンドは単身イスマスに潜入するが、Qが助っ人として持ってくるのがカメラ型組み立て式狙撃銃、歯磨き粉チューブ型プラスチック爆弾、目覚まし時計型起爆装置など、昔のスパイ映画のようなレトロ感たっぷりの秘密道具。彼の趣味の作品？



1 巨大なタンクローリーを駆ってミサイルを避けるために片輪走行。直後の大爆発もさまたげない。 2 海上の麻薬受け渡し現場を襲ったボンドは、水上機に引かれ素足で水上スキー！ そのまま飛行機に乗り移る。 3 懐かしい雰囲気のカメラ型組み立て式ライフルでサンチェスを狙う。掌紋照合グリップでボンドしか撃てない。 4 サンチェスの用心棒は若き日のベニチオ・デル・トロ。初々しさを残しながらも強烈な個性が光る。 5 アクション映画の定番、走る車上での格闘戦。ボロボロになっても戦うリアリズム重視のボンドは新鮮。

OPENING グラディス・ナイト／「ライセンス・トゥ・キル」

若手アーティストが続いた前2作に対し、ベテランR&Bシンガーを起用。米アトランタ出身で「ソウルの女帝」と称された、黒人女性歌手

ナイトによる明るく爽やかな、シリーズでも人気の高い名曲なのだが、劇中でインストルメンタルが使われていないのが非常に残念。

ENEMY BASE ハイテクを完備した 麻薬王の研究開発施設

イスマス共和国大統領までサンチェスの言いなりなので、国そのものが本拠地状態。新興宗教の教祖ジョー・ブッチャーも手下で、その神殿は自動開閉ハッチ付きのヘリコプター格納庫も持つ、秘密基地感満点の施設だ。ここで麻薬の生成と密輸のための偽装研究も行っている。また、水中出入りハッチ



付きの潜水艇を搭載したウェーブクレスト号も、移動する秘密基地と言えるかも。

FRANZ SANZ

イスマス共和国の麻薬王。情婦を追ってアメリカにやって来たところをDEAに捕まるが、内部協力者の手引きで逃亡。自分への忠誠心を重く見るが、部下たちは忠誠心ではなく恐怖心から従っている。

MILTON CREST (アンソニー・ザープ)

海洋生物学者で海洋調査船ウェーブクレストを所有するが、調査を隠れ蓑に潜水艇を使ってサンチェスの麻薬密輸を手伝っている。サンチェスの恐ろしさを理解していたが、後に悲惨な目に遭って…

敵の目的 サンチェスに従って大量の麻薬を運搬し、海洋調査の資金にしているなど、もはや本業がどちらか怪しい状況。

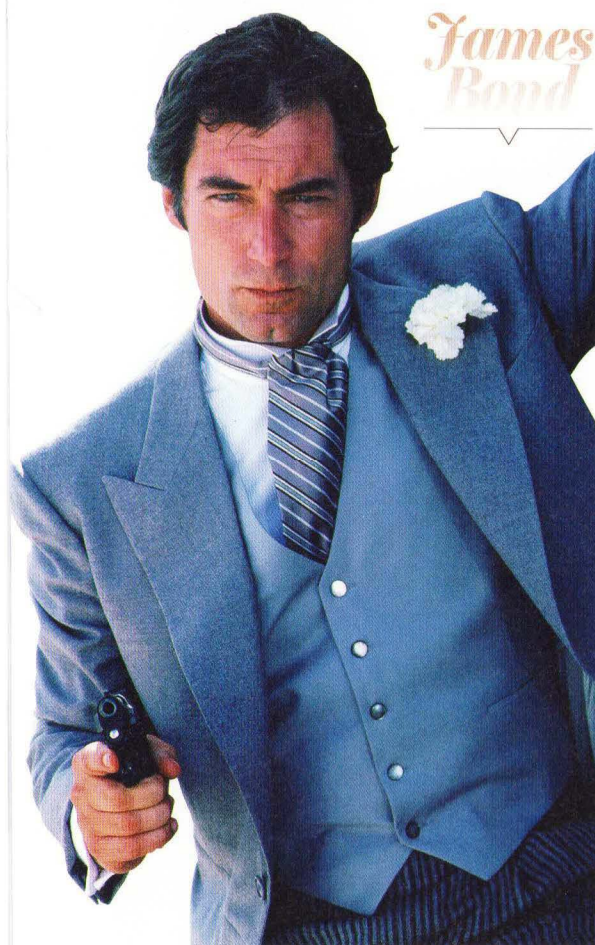


ENEMY

たとえライセンスを失おうとも…共に命を懸けて闘った友のために――

007／消されたライセンス

1989年作 License To Kill



James Bond

裁くのは俺だ！ 暴走型ボンドの原点？
ティモシー・ダルトンとしては2作目のボンド映画だが、本作後に権利問題で裁判が起り、長らく製作が出来ない状態が続いたため、ダルトンはこれでボンド役を降板することとなる。タイトルは原作にはないもので、映画製作側の創作。当初は邦題と同じ意味の「Good Bye, Mr. Bond」だったが、アメリカではいまいちピンと来ない題名だということで、最終的に「License To Kill」に変更されたという。当時のアメリカでは「ダイハード」や「リーサルウェポン」がヒットしており、東西の対立ではなく麻薬戦争絡みの話となり、原作の「死ぬのは奴らだ」や「ダイヤモンドは永遠に」系統のストーリーに、音楽も「ダイヤモンド」のマイケル・ケイメンが担当している。フィリックス・ライターを演じたデヴィッド・ヘイデンは、ムーア時代の「死

ぬのは奴らだ」でも同じ役を演じており、今回ライターはCIAではなくDEA麻薬取締局の仕事に就いているが、彼の受ける拷問は原作の「死ぬのは奴らだ」の描写に合わせたもの。一方、サンチェスに協力する海洋生物学者ミルトン・クレストは、フレミングの短編「珍魚ヒルデブラント」に登場するキャラクターで、ウェーブクレストという船の名も同短編と同じである。ちなみに、本作は通常のバインウッズスタジオではなく、メキシコの映画撮影所をメインに利用し、メキシコによって製作費を軽減することが出来たという。また、第一作よりメインタイトルのデザインを手掛けてきたモーリス・ビンダーは、公開から2年後の1991年に他界。これが最後の「007」作品となった。

『消されたライセンス』

- 発売元：フォックス ホーム エンターテインメント
- 1905円
- 収録分数：133分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園アルバート・R・ブロッコリ 園園マイケル・G・ウィルソン 園ジョン・グレン 園リチャード・メイバウム 園園ティモシー・ダルトン、ロバート・ダヴィ、キャリー・ローウェル

今回の任務 親友夫妻の復讐のため、任務を逸脱した行為に走る。“殺しのライセンス”を捨てての覚悟でMの元から逃亡し、南米の麻薬王の野望をくじき、彼を抹殺せんと追い詰める。

華麗なるボンドの旅路

フロリダ ▶ イスマス共和国

Bond Girl

パム・ブーヴィエ

(キャリー・ローウェル)
麻薬捜査官と思われたが実はCIAエージェント。サンチェスから対空ミサイルを取り戻すのが任務。飛行機の操縦も出て銃の扱いも慣れているが、意外にシャイな側面も。

STORY

復讐心と忠誠心との間で苦悩するボンドは…

親友フィリックス・ライターを手伝って麻薬王サンチェスを逮捕するが、サンチェスはまんまと逃亡、ライターは妻ともども殺されてしまう。怒りに燃えるボンドは辞意を示して命令を無視、復讐のためサンチェスの支配するイスマス共和国に潜入する。

ルペ・ラモーラ

(タリサト)
サンチェスの情婦だったが、若い男を誘惑して逃亡を図る。結局は元の鞘に収まるかに見えて、今度はボンドを利用して逃げようとするなど、情熱的だがしたたかな性格。

ボンドガールの ココにクギツケ!!

いかにもアメリカの健康優良美女的なローウェル。白いワンピースの水着姿はドキッとさせる色っぽさながら、ベッドシーンはなし。一方のソートはベッドシーンがあったため、当時はローウェルより人気があった。

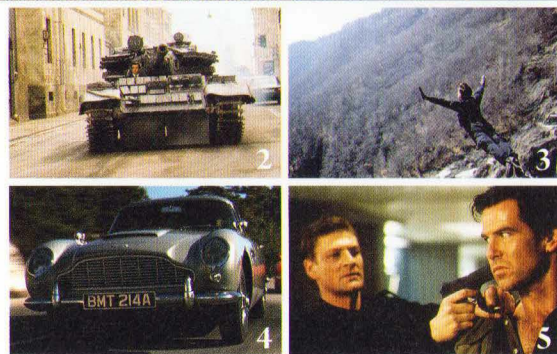




Gadgets

どんなものも切断出来る レーザー搭載時計

装甲板を切断出来るレーザー光線搭載オメガ・シーマスター。劇中では、アレックらによって爆破寸前の列車に閉じ込められた際、車内の床をレーザーで焼き切って脱出するのに役立った。また、仕掛けた爆弾を遠隔操作で起爆することも出来る。



1 アレックの装甲電車基地に捕えられたボンドとナターリア。時限爆弾がセットされるなか、決死の逃亡を図る! 2 サントベテルブルク市街地で戦車を強奪したボンドが激走。建物や銅像を破壊しながらの壮絶チェイス。 3 巨大ダムの頂上からバンジージャンプ。着地寸前でケーブル銃を发射してウインチ。ソ連軍化学兵器工場に潜入する。 4 モナコで繰り広げられるボンドのアストンマーティン対オナトップのフェラーリによるダウンヒルレース。 5 ゴールデンアイの発射を止めるべく人工衛星の発射整備塔でのアレックとの命がけの最終決戦。

OPENING ティナ・ターナー／「ゴールデンアイ」

主題歌はティナ・ターナーが担当。パワフルな歌声を披露する。本作よりタイトルバックはCG化された。ソ連崩壊後の作品といこ

ENEMY BASE パラボラアンテナ搭載の カリブ海孤島のヤヌス本拠地

ヤヌスの秘密基地はカリブ海の孤島にある。アレックの、積年の思いがぶつかり合うアン衛生軌道上に位置するゴールデンアイを操作



するために、水中に巨大パラボラアンテナを隠しており、これが姿を現す大仕掛けは往年の「007」を彷彿とさせ、興奮必至。ゴールデンアイの攻撃を食い止めるためにアンテナ破壊を目指すボンドと、野望達成に燃え

ENEMY

アレック・トレヴェリヤン (ジョン・ビーン)

元英国諜報部員006。ボンドとは親友関係にあった。化学兵器工場破壊ミッションで死亡したと思われていたが、自分を見捨てた007への復讐を誓い犯罪組織ヤヌスの首領となり再び姿を現す。

敵の目的 “ゴールデンアイ” を使ってのイギリス本土への攻撃停止を条件に、英国銀行から多額の身代金を奪うこと。

アルカディー・グリゴリビッチ・ウルモフ (ゴットフリート・ジョン)

化学兵器工場の警備責任者を経て、ソ連崩壊後はロシア軍将軍に就任。立場を利用し、ヤヌスへ装備や人員を提供している。オナトップと共にセヴェルナヤ基地の職員を大量虐殺する。

敵の目的 自身の地位を利用して、アレックと共にロシアの秘密兵器“ゴールデンアイ”を盗み出すとする。



ボンドが燃える 新しい危険、新しい世界!

007／ゴールデンアイ

1995年作 Goldeneye



James Bond



アクションもスマートになす5代目ボンド見参
ロジャー・ムーアの降板後にもボンド襲名がウワサされていたピアース・ブロスナン。TVドラマシリーズ『探偵レミントン・ステイル』の契約により4代目ボンド就任は叶わなかったが、晴れて本作よりボンドに就任した。コネリー・ボンドの決意とムーア・ボンドのコミカルさを絶妙にブレンドした新時代のジェームズ・ボンド像を一目から確立。低調な興行収入となった前作から6年のブランクを経て公開された本作は、『ムーレイカー』の持つシリーズの歴史記録塗り替えた。M役はこれまでのロバート・ブラウンから、当時実際のM・5長官が女性だったという点もあり、ジュディ・デンチに交代して初となる女性Mが誕生した点も見逃せない。作品全体のトーンもクラシカルと革新が見事に融合して

いる。ボンドの敵は犯罪組織ヤヌスを率いる、元006のアレック。旧友であり数々の任務を共にしてきたアレック相手に繰り広げられるスバイスリライ的な要素に加え、シリーズお約束の大爆破、サントベテルブルクの市街地で繰り広げられる奇想天外なチェイスなども楽しめる。アストンマーティンDB5とフェラーリのダウンヒルレースなどは、まさに「007」のさまざまなエッセンスが楽しめる一作だ。しかし、単なる焼き直しではない。ブロスナン・ボンドはコンバットスーツに身を包み、全力疾走もいとわないハードアクションに挑戦。ムーア・ボンドのような汗もかかない超人路線ではなく、クレイグ・ボンドの生身のアクション路線の礎を築いている。



『ゴールデンアイ』

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分数:130分

STAFF & CAST 監マイケル・フランス 脚マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ブロッコリ 監マーティン・キャンベル 脚ジェフリー・ケイン、ブルース・フェアスタイン 脚ピアース・ブロスナン、ジョン・ビーン、イザベラ・スコルプコ、ファムケ・ヤンセン

今回の任務 犯罪組織ヤヌスが衛星軌道上に浮かぶソ連の極秘兵器“ゴールデンアイ”を奪取。主要都市破壊を計画し巨額を要求してくる。ボンドはゴールデンアイを取り戻せるか?

華麗なるボンドの旅路

ソ連 1 フランス 2 モナコ 3 イギリス 4 サントベテルブルク 5 キューバ

STORY

見捨てられた 元スパイの復讐と陰謀

ソ連化学兵器工場にアレックと共に潜入したボンド。アレックは拘束されるがボンドは任務優先で兵器工場を爆破。アレックを見捨て脱出する。それから9年、ロシアの秘密宇宙基地が破壊される事件が発生。その裏には、アレックの復讐と陰謀が渦巻いていた。

ゼニア・オナトップ

(ファムケ・ヤンセン)

元ソ連軍の戦闘機パイロットでヤヌスの凶悪な暗殺者。両脚で相手を絞め殺すことでエクスタシーを得る。スピード狂でフェラーリを駆りボンドとダウンヒルレースを展開。

Bond Girl

ボンドガールの ココにクギツケ!!

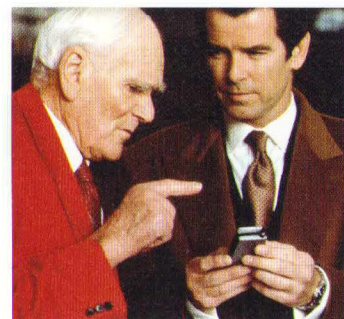
『サンダーボール作戦』に登場する女殺し屋フィオナ・ヴォルペなどに通じる悪女オナトップとの、強烈なベッドシーンは大きな見どころ。オナトップ＝女が上という役名もすごい。純粋なヒロインであるナターリアを食う存在感。

ナターリア・シモノヴァ

(イザベラ・スコルプコ)

ロシア軍のセヴェルナヤ基地に勤めるコンピュータ技師。ヤヌスの陰謀により破壊されたセヴェルナヤ基地の唯一の生存者。大量虐殺の犯人を突き止めようと決意する。





Gadgets

秘密兵器満載のボンドカーも操れる高機能携帯

ロックピック機能やスタンガンとしても使えるハイク機能満載の携帯電話。最大の魅力は携帯の液晶を見ながら、パッドを指でタップしてボンドカーを遠隔操作することが可能など。後部座席に滑り込んだボンドによる携帯電話操作が最大の見どころだ。



1 手錠で繋がれたボンドとウェイ・リンがハーレーを駆りチェイス。それぞれアクセルとクラッチを操作。2 ウェイ・リンが襲い掛かる複数の刺客を相手に華麗なカンフーアクションを披露。3 英国戦艦沈没現場である他国領海へ侵入するため、ボンドは危険な「HALOジャンプ」で飛行機から落下！4 カーヴァー・ベトナム支社に潜入したボンドとウェイ・リンが、ビルにかかる垂れ幕を破りながら大落下。5 プレタイトルは武器取引所を舞台にした一大アクション。核兵器搭載戦闘機を大爆発から逃れさせる勲章ものの活躍！

OPENING シェリル・クロウ／「トゥモロー・ネバー・ダイ」

インターネットを筆頭とする情報のスピード化が重要視されはじめた時代、タイトルバックにはPC回路がコラージュされた女性が登場するなど、ネット社会を暗喩するモチーフが登場。主題歌を担当したのは米カントリー＆ウェスタンシンガーのシェリル・クロウ。

ENEMY BASE レーダーで捕捉出来ないステルス艦を操り、戦争を自作自演

カーヴァーはステルス素材を盗み、秘密裏にステルス艦を建造。レーダーに捕捉されずに航行出来るこの船を使い、英中双方への攻撃を行い、巧みに開戦へと導いていく。主な武器はシードリルと呼ばれる魚雷。戦艦を爆破するのではなくドリルで浸水させ撃沈。脱出してきた兵士を銃で射殺し、新聞には正確な生存者数も掲載するという徹底ぶり。ミグを撃墜可能なミサイルも搭載している。



エリオット・カーヴァー

(ジョナサン・プライス)
イギリスのメディア王で、カーヴァー・メディア・グループの総帥。新たな衛星ニュースネットワーク発表のパーティーをボンドに邪魔される。権力拡大のためなら手段を選ばない狂気の男。

スタンパー

(ゲッツ・オットー)
カーヴァーの忠実な部下。殺人と拷問の天才であるカウフマン博士の弟子で、カーヴァーにとって邪魔になる存在を消していく。肉体的にも強靱で、冷酷さと知識とフィジカルを兼ね備える。



ENEMY

ニュー・ジェームズ・ボンド世界を翔ける！

007／トゥモロー・ネバー・ダイ

1997年作

Tomorrow Never Dies



James Bond



狂気のメディア王に英中スパイが強力タッグ結成
プロスナン・ボンドのなかで、もっとも単純明快、娯楽に特化したシリーズの第18弾。敵は自身が経営するメディアに特ダネを掴ませるために、自作自演の事件を起こし、英中開戦を目論む狂気のメディア王エリオット・カーヴァー。自作自演であることは冒頭から明るみについて、美人中国人スパイのウェイ・リンと共に暴走を食い止めるというシンプルなストーリー。ムーア時代の痛快娯楽作を待ち望んでいたファンには熱烈に歓迎された。しかし、これは荒唐無稽なストーリーではなく、カーヴァーのモデルは英国のメディア王のロバート・マクスウェルと言われ、彼はさまざまな疑惑を持たれていた人物。大企業のCEO的な雰囲気のカール・ヴァーを「未来世紀ブラジル」のジョナサン・プライスが怪演している。

ボンドガールのウェイ・リンを演じているのは、中国人アクション女優のミシェル・ヨー。得意のカンフーはもちろんだ、中国諜報部秘密兵器の駆使、ビルからの落下、手錠が繋がれた状態でのバイクチェイスなど、アクションの見せ場は多く、史上最強のボンドガールではないだろうか。ボンドカーの存在感も特筆もので、携帯電話によるリモート運転、ミサイルランチャー、自動エア補完タイヤ、催涙ガス発生装置、メタルスパイク、電気ショックセキュリティなど凄まじい装備を備える。このすべてが活躍するカーヴァー一味とのカーチェイスは見逃せない。ボンド自身も「HALOジャンプ」と呼ばれる最高の危険度のパラシュート落下で中国領海へと侵入するという見せ場が用意されているなど見どころだらけ。

『トゥモロー・ネバー・ダイ』

●発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分:119分

STAFF & CAST 脚:マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ブロッコリ 監:ロジャー・スプティスウッド 監:ブルース・ファースタイン 監:ピアース・ブロスナン、ジョナサン・プライス、ミシェル・ヨー、テリー・ハッチャー

今回の任務 カーヴァー・メディア・グループの総帥エリオット・カーヴァーが、特ダネをものにすべく画策する英中戦争勃発計画。開戦に突き進む軍部を止めるため真相を究明していく。

華麗なるボンドの旅路

ロシア国境 1 ロンドン 2 ハンブルグ 3 南シナ海 4 ホーチミン 5 ハロン湾(ベトナム)

Bond Girl

ウェイ・リン(ミシェル・ヨー)

中国情報部所属の武道に優れる敏腕工作員。英国海軍沈没事件を中国サイドから探っていた。単独行動を好むが、ボンドの目的が英中開戦阻止だと知り、共同で任務を遂行する。

STORY

英中開戦寸前 世界大戦を阻止せよ！

ネットワークニュースを世界規模で展開するカーヴァーが、英国戦艦撃沈の報をいち早く伝える。戦艦が受け取ったニセGPSの発信源がカーヴァーの人工衛星だと知ったボンドは潜入調査を開始。開戦まで48時間、カーヴァーの暴走を食い止めるのか？

パリス・カーヴァー

(テリー・ハッチャー)
ボンドとかつて恋人関係にあったが現在はカーヴァーの妻。ボンドへの想いは別離後も消えず、夫を裏切りボンドに秘密研究室への侵入方法を教えたことで殺害されてしまう。

ボンドガールのココにクギツケ!!

ウェイ・リンのアクションも見どころだが、パリスの途端な想いが胸を打つ。危険だとわかっていてもボンドの部屋を訪れ、突然目の前から消えたボンドを非難しつつその体を求める。スパイとの切ない恋が垣間見られる好シーン。

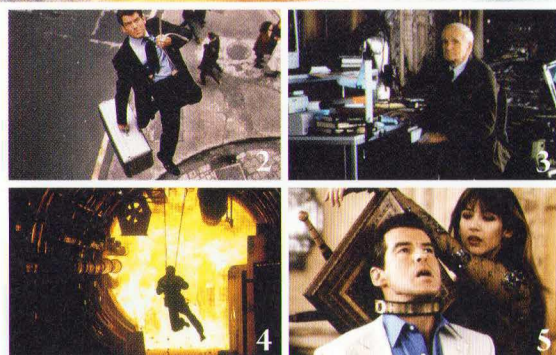




Gadgets

引退後のQの釣り船にする予定だったQボート

最高速度160kmを誇るボート。短時間であれば潜水。路上走行可能。船首には追尾式の魚雷が搭載されている。キング暗殺実行犯を追い、テムズ川で壮絶なチェイスを展開。Qの引退後に釣り船として使用する予定だったが傷だらけに。



1 雪山でパイプラインを視察中のボンドとエレクトラに謎の暗殺者が。襲い来るパラボクスから抜けるスキー技術で逃走。2 スペイン・ビルバオのスイス産業銀行で襲撃されたボンド。地上数十メートルから、ロープ一本でスマートに脱出。3 シリーズお馴染みのQが本作で引退。最後にボンドへ助言をして、エレベーターで下りていく場面は涙がこみ上げる。4 ロシアンマフィア、スコフスキーのキャビア缶詰工場に樹木伐採機付きヘリコプターが襲来。5 レナードに捕まったボンドを待ち受ける拷問椅子。絶体絶命のボンドを救ったのは瀕死のスコフスキーだった。

OPENING ガービッジ／「ワールド・イズ・ノット・イナフ」

西側諸国へ石油を送り届けるパイプライン 油田のシルエットなどが登場。ガービッジがテロの標的。タイトルバックには石油モチーフで、ぬめぬめと石油まみれになった美女、にキャッチーで名曲との誉れ高い。

ENEMY BASE エレクトラの隠れ家、カザフスタンにある古代の灯台「乙女の塔」

カザフスタンにある「乙女の塔」がエレクトラの隠れ家。外観はとも美しい建造物だが、1階にはボンドも毒牙にかかったマホガニー製で19世紀オスマントルコ帝国で使用されていた拷問椅子が。また誘拐したMを幽閉した牢獄も備えている。地下には海水が引き込まれており、ブルトニウムで主要石油パイプラインを破壊するために使用するロシア軍の原子力潜水艦を隠し持っている。



レナード

(ロバート・カーライル)

無政府主義のテロリスト。エレクトラ誘拐事件を追っていた009により頭部に銃弾を撃ち込まれるが、その銃弾が脊髄に到達したことで、痛みを感じず常人以上の力を発揮する超人に。

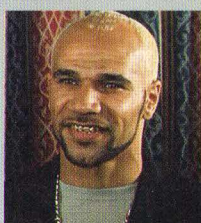
敵の目的 ロシア軍の核開発施設から盗み出した核弾頭を利用して、ボスポラス海峡付近の石油パイプラインの破壊を目論む。

ブル(ゴールド)

ロシアンマフィアのスコフスキーの片腕であり、レナードのスパイ。アウトローな見た目は異なりずる賢く、ヘリコプターの襲撃を受けた際には戦うことなく隠れていた。金歯がトレードマーク。

敵の目的 ズコフスキーの手下として働きながら裏社会の情報を収集。有益な情報はレナードの元へ逐一報告している。

ENEMY

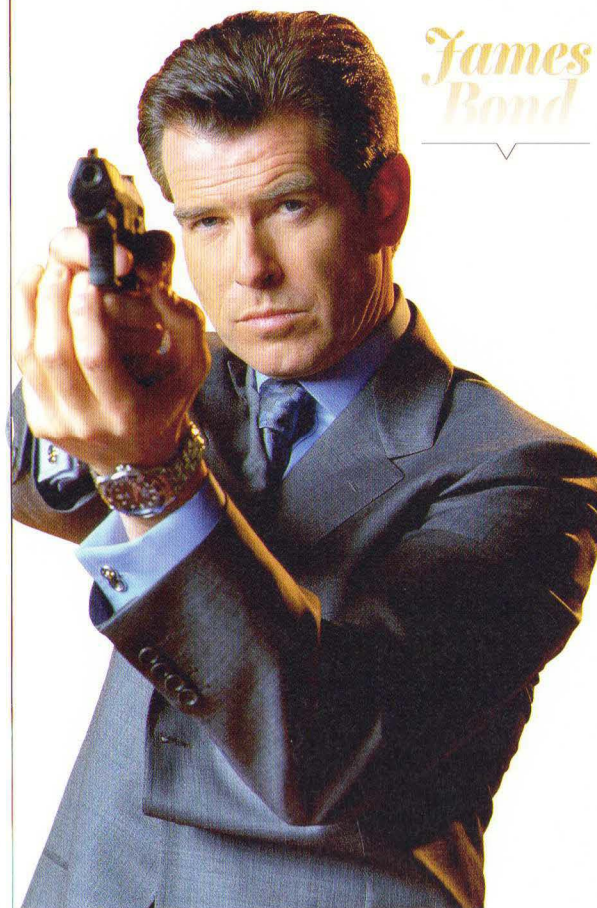


美しい石油王の娘。不死身のテロリスト。核兵器を操る女。世界最高のスパイ。

007／ワールド・イズ・ノット・イナフ

1999年作

The World Is Not Enough



James Bond

メトロ・ゴールドウィン・メイヤー75周年を記念した豪華絢爛な作品。痛みを感じない不死身のテロリスト・レナードが企てる石油独占計画を巡り、ド派手なアクションシークエンスが全編に渡り展開する。スペイン・ビルバオの銀行からのスマートなロープ脱出、続くテムズ川でのボートチェイス、雪山でのスキーチェイス、石油パイプライン内の決死の爆弾解体、ボンドカーBMW Z8も活躍する樹木伐採機付きヘリコプターとの死闘、クライマックスの潜水艦アクションなど、息をもつかせぬアクションの連続。加えて、Mが囚われの身となるサスペンスフルな展開、『ゴールドデンアイ』にも登場し印象を残したロシアンマフィアのズコフスキーの死など、シリーズのファンにはたまらないシーンも用意されている。

る。しかし、作品全体の雰囲気はブロスナン時代では最もシリアス。それはソフィー・マルソー演じるボンドガール、エレクトラ・キングの存在に拠るところが大きい。ボンドの虜になり諜報活動を共にする他のボンドガールたちとは異なり、知的で妖艶だが破滅的でわがまま。ボンドやMすら陥れようとする憎らしい存在として描かれている。存在感は歴代ボンドガール屈指で、レナードやもうひとりのボンドガール、クリスマス・ジョーンズの存在は希薄。エレクトラを受け入れられるか作品の評価は大きく変わるだろう。シリーズのファンならば、Qを演じてきたデズモンド・リウエリンの引退作という印象が強いはず。Q支局でのボンドのもとから去っていく感動的なシーンをお見逃しなく。

『ワールド・イズ・ノット・イナフ』

- 発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
- 1905円
- 収録分: 128分

STAFF & CAST

監督 ニール・パーヴィス 脚本 マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ロコック 監修 マイケル・アップデッド 脚本 ロバート・ウェイド 監修 ピアース・ブロスナン、ロバート・カーライル、ソフィー・マルソー、デニス・リチャーズ

今回の任務

殺された石油王ロバート・キングの娘で、テロリストのレナードに狙われるエレクトラを護衛すると同時に、謎に満ちた存在のレナードをあぶり出し殺害すること。

華麗なるボンドの旅路

ビルバオ(スペイン) 1 イギリス 2 スコットランド 3 パク(アゼルバイジャン) 4 カザフスタン 5 パク 6 イスタンブール

Bond Girl

エレクトラ・キング

(ソフィー・マルソー)

石油王キングの娘。父の死、そしてレナードに誘拐されるも自力で脱出した過去を持ち、MIGに不信感を持つ。父の遺志を受け継ぎ、新たな石油パイプライン建設に尽力。

ボンドガールのココにクギツケ!!

核弾頭を除去するという難作業に従事しながら、登場はタンクトップにホットパンツというクリスマス・ジョーンズ。このリアリティーの描写は「007」ならではのミッション完了後のボンドとのベッドシーンはシリーズでも屈指のオチ。

STORY

盗まれた核弾頭、その裏に隠れた恐るべき計画とは

テロリストに奪われた石油王キングの現金を取り戻したボンド。しかし、その札束には爆弾が仕掛けられておりキングが死亡する。犯人はテロリストのレナード。ボンドはキングの娘エレクトラの身が危険だと判断し護衛するが、石油パイプラインに核弾頭が仕掛けられ…

クリスマス・ジョーンズ

(デニス・リチャーズ)

カザフスタンの核実験場の解体に従事するアメリカ人物理学者。レナードによる核弾頭の強奪に巻き込まれ、潜入捜査をしていたボンドと行動を共にする。セクシーだが男嫌い。

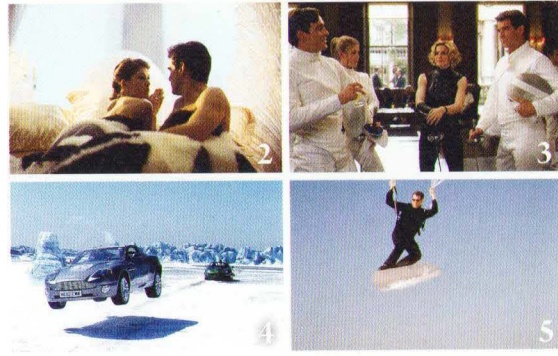




Gadgets

最新技術を盛り込んだ スパイグッズが登場

冒頭の北朝鮮潜入にボンドらが用いた爆弾内蔵のサーフボードに始まり、捕虜解放後、00ナンバーを取り戻す戦闘訓練をバーチャル映像で行えるサングラスなどハイテクなグッズが満載。なかでも、超高周波で防弾ガラスを粉々にする指輪はボンドの危機を救った。



1 北朝鮮と韓国のある地雷原をホバークラフトで逃走。断崖絶壁から落下する寸前、寺院の鐘に飛び移り九死に一生を得る。2 ロザムンド・バイクが、敵に寝返るM16の諜報員を好演。ボンド相手に堂々たるベッドシーンを披露する。3 主題歌を務めるマドンナがフェンシングのコーチ役で cameo 出演。彼女の女王様のような姿はインパクト大。4 アイスランドの氷の宮殿でイカルス計画を知るボンド。捕らえられ窮死寸前のジンクスを救うためボンドカーで激闘! 5 イカルスの熱線攻撃により氷壁が崩れ落ちる。ボンドは巨大な波に飲まれそうになるが、華麗なサーフ技術で回避。

OPENING マドンナ「ダイ・アナザー・デイ」

北朝鮮で捕虜になったボンド。タイトルバックではボンドが拷問される衝撃的シーンが用いられている。またイカルス計画の人工太陽をイメージした灼熱の炎のイメージも多用。主題歌はフェンシングのインストラクター役で出演もしているマドンナが担当している。

ENEMY BASE グレーヴスがアイスランドに 建造した氷の宮殿「アイスパレス」

世界中を恒久的に飢餓から救うことを目的に、太陽光線を反射させ凄まじい熱光線を照射できる人工太陽「イカルス計画」。世界中のメディアにこれを発表するために、氷だけで作った宮殿。多くの参加者の前でグレーヴスは人工太陽をデモンストレーション。しかし、潜入していたジンクスを宮殿内に閉じ込めると、人工太陽を宮殿に向け照射し、ジンクスを溺死させようとする。



グスタフ・グレーヴス (トビー・スティーヴンス)

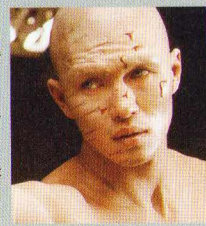
英国のダイヤモンド王。飢餓のない世界を構築するという大義名分の裏で、人工太陽の軍事利用を目論んでいる。ボンドは遺伝子治療により、ムーン大佐こそグレーヴスの正体だと推理するが…。

ザオ (リック・ユン)

ムーンの忠実な部下。中国諜報部員を巻き込んだ爆弾テロで拘束されていたが、ボンドとの捕虜交換で解放。ボンドカー並みの性能を持つジャガーを駆り、アイスランドでカーチェイスを演じる。

敵の目的 ボンドとの一件で祖国を追われたため、バハマで遺伝子工学治療を受けて別人へと生まれ変わろうとする。

ENEMY

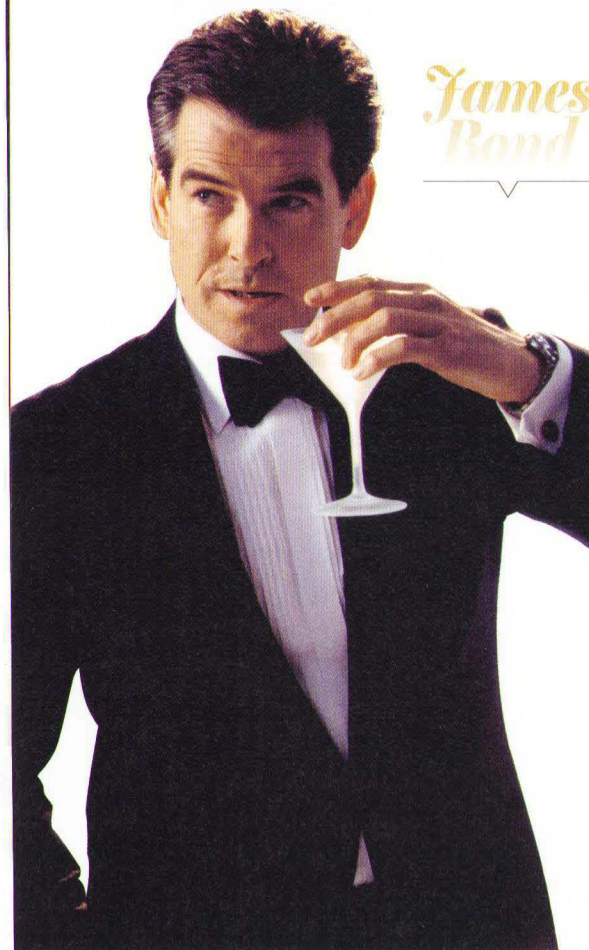


14ヵ月にも及ぶ監禁と拷問! スーパー・スパイ007に一体何があったのか!?

007 / ダイ・アナザー・デイ

2002年作

Die Another Day



James Bond

ブロスナン、ラストにしてオマージュ祭りな作品
5代目ボンドを務めたブロスナンの最終章。そしてシリーズ20作目、40周年という大きな節目が重なった記念作品となっている。そんな感謝を込めた過去のオマージュシーンの数々は本作の大きな見どころで、ほぼ全作品のオマージュを網羅。ボンドが殺しのライセンスを失うという設定自体が、ダルトン最終作「消されたライセンス」を彷彿とさせるが、特にハル・ベリー演じるジンクスが、第一作「ドクター・ノオ」のウルスラ・アンドレスの登場シーンと同じく、海からビキニ姿で現れるシーンは大反響を呼んだ。他にもQ支局には「サンダーボール作戦」のジェットバックなど往年の秘密兵器があり、ボンドが「懐かしい」と言及したりするのだからたまらない。ボンドカーはアストンマーティンが15年ぶりに復活し

た他、ザオの車もボンドカーに匹敵する能力を持ち、スペシャルカー同士の氷上決戦が楽しめる。氷の神殿やDNA操作で別人になるという荒唐無稽さもお祭り感を煽るし、主題歌はなんとマドンナでカメラ出演までしている。ちなみに、ハル・ベリーは「チョコレート」でオスカー主演女優賞受賞後の一作目。ロザムンド・バイクは当時無名だったが、近年「コーン・ガール」の怪演が絶賛。見返すとともに豪華なボンドガール・コンビだ。一方でボンドの描き方は挑戦的。捕虜となり拷問を受け、いつもの紳士な彼とは正反對の髪の毛もヒゲも伸び放題。グレーヴスとのフェンシング対決では鼻血を流して戦うという「生身感」があり、この姿はのちのクレイグ・ボンドへと引き継がれていく。

『ダイ・アナザー・デイ』

●発売元: フォックス ホーム エンターテイメント
●1905円
●収録分数: 133分

STAFF & CAST 監 マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ブロッコリ 脚 リー・タマホリ 脚ニール・バーヴィス、ロバート・ウェイド 脚ピアース・ブロスナン、トビー・スティーヴンス、ハル・ベリー、ロザムンド・バイク、マドンナ

今回の任務 グレーヴスが巨額を投じて建設した人工太陽。これを使い朝鮮戦争勃発を企てるグレーヴスの計画阻止、そして遺伝子治療でグレーヴスに成りすましていた本当の黒幕を追う。

華麗なるボンドの旅路

パクチョン海岸(北朝鮮) 香港
ハバナ ロスオルガノス島(キューバ)
ロンドン アイスランド 韓国 北朝鮮

ボンドガールの ココにクギツケ!!

ジンクスのセクシーさを見逃してはならない。オレンジ色のビキニでの登場シーンの美しき姿はもちろん、果物を交えてのボンドとのベッドシーンはとても濃厚。14ヵ月監禁されていたボンドにとって久しぶりの美女だったから!

STORY

裏切り者の裏に潜む 世界征服計画

朝鮮半島の非武装地帯でブラックダイヤモンドを密輸するムーン大佐の暗殺任務を遂行中、密告により捕らえられたボンド。14ヵ月後、ムーンの片腕ザオとの捕虜交換で解放されるが、反逆嫌疑で00ナンバーを剥奪。事件の真相を探るため単独行動に出る。

ミランダ・フロスト (ロザムンド・バイク)

グレーヴスの広報担当。フェンシングの名手でシドニー・オリンピックに出場経験がある。ハーバード大卒業後、MI6へ。二重スパイとしてグレーヴスの情報を流すが…。



Bond Girl



ジンクス
(ハル・ベリー)
米国家安全保障局 NSAの諜報員。キューバ・ロスオルガノス島で秘密裏に行われている遺伝子工学クリニックを追っている。ダイビングや射撃などに精通。



Gadgets

医療データが 転送可能な応急キット

アストンマーティン DBSのダッシュボードに装備された応急キット。毒を盛られ瀕死状態のボンドが、腕の血管に針を通し、そのデータをMI6に転送した。解毒剤の注射も完備。除細動器のボタンを間一髪でウェスパーが押して、ボンドは蘇生。



1 1億5000万ドルを賭けたル・シッフルとの世紀のポーカー対決。緊迫の駆け引きの末、勝利はどちらの手に...? 2 ヴェニスの建物全体が水没するという超絶パニック。しかも愛するウェスパーが水中の檻に閉じ込められてしまう。 3 飛行場での爆破テロを阻止すべく、走行中のトラックで格闘。爆弾を逆に相手に仕掛ける手際は秀逸だ。 4 爆弾魔との工事現場の足場の上での追走劇は壮絶。足がすくむような高さの足場へ次々と飛び移りながらのバトルは圧巻。 5 初めて人を殺めたことに震えるウェスパーを優しく包み込むボンド。2人の関係が愛へと変わった名場面。

OPENING クリス・コーネル／「ユー・ノー・マイ・ネーム」

新ボンドが殺しのライセンスを得るきっかけとなった銃の発射シーンから、ガンバレル・シークエンスに流れ込む。トランプカードをモチーフにしたアートワークで構成され、雲気は落ち着いた。楽曲は、アメリカのシンガー、クリス・コーネル「You Know My Name」。

ENEMY BASE 捕まったボンド&ウェスパーが 運ばれた拷問部屋

カジノ・ロワイヤルでの大勝負を終えたボンドとウェスパー。安心したのもつかの間、ル・シッフルたちに拉致され、古びた船内にある部屋に押し込まれる。何もかもない椅子に全裸で座らされたボンドは、ル・シッフルから激しい尋問を受ける。しかし、なかなか口を割らないボンドに、ル・シッフルは縄を使



ENEMY

ル・シッフル (マッツ・ミケルセン)

テロ組織の資金運用をする大悪党。目から赤い涙を出す。株価を操作するため旅客機テロを計画したが、ボンドの妨害によって失敗し、1億ドル以上の損失を出す。テロ組織への返済を迫られ、ポーカー勝負に挑む。

敵の目的 世界各地のテロリストから預かった資金を株式投資等でマネーロンダリングして、莫大な利益を得ようとする。

ミスター・ホワイト

(イエスパー・クリステンセン)

ウガンダのテロ組織をル・シッフルに紹介し、資金洗浄を斡旋。最終的には、ル・シッフルが失った金を回収する役目を果たす。目的を達成するためなら、ターゲットの生死を問わない冷酷な男。

敵の目的 各国のテロ組織と自らも所属する組織のメンバーを仲介。加えて、約束を守れない仲間を始末して代わりにその役目を務める。



最初の任務は、自分の愛を殺すこと。

007／カジノ・ロワイヤル

2006年作

Casino Royale

James Bond



6代目ジェームズ・ボンドは様々な噂が飛び交った結果、ダニエル・クレイグが務めることになり、初の金髪ボンドとしても注目を集めた。公開前はこれまでのボンド像と違うなど否定的な意見も多かったが、いざ公開を迎えると作品は世界的にも大ヒットとなり、評価&興業の両面で大成功を収めた。21作品目となる本作は、イアン・フレミングの原作小説の原点「カジノ・ロワイヤル」を「本家」シリーズとしては初の映画化。そして、新ボンドと共にすべてが一新。まずボンドの設定を新たに1968年生まれにしたり、これまであまり語られることのなかったボンドが殺しのライセンスを持つ「007」となるまでの物語を描き、過去作とはまったくつながりのないリブート作品に作り上げた。唯一、Mを演じたジュディ・デンチだけはシリーズ続投だが、過去作品とは関わりがない設定。ボンドが初めての殺しに手を染める場面や最愛の女性ウェスパーと本気のロマンスに落ちるなど、荒削りな若きスパイ・ボンドが洗練されていく姿には新鮮さを覚える。これまでの奇想天外なスパイグッズが多用されることはなく、今回ボンドが使用するのは携帯電話と銃というシンプルなガジェット。そして、高所や空港での追跡など全編にわたるアクションもかなりハードではあるが、リアリティが保たれているのが特徴的だ。また、映画のラストが次作「慰めの報酬」の冒頭とつながっており、続編形式もシリーズ初となる。まさに、原点回帰しつつも、シリーズもの特有のマンネリ化を脱却した新たな門出を祝う大作と言える。

『カジノ・ロワイヤル』

- 発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
- 1905円
- 収録分数:145分

STAFF & CAST 原イアン・フレミング 脚マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ブロッコリ 監マーティン・キャンベル 副ニール・バーヴィス、ロバート・ウェイド 監ダニエル・クレイグ、エヴァ・グリーン、マッツ・ミケルセン、ジュディ・デンチ

Bond Girl

ボンドガールの ココにクギツケ!!

なんといってもウェスパーのドレス姿に注目。ポーカー中にボンドが見とれてゲームが中断したほどセクシー。そんな彼女にボンドはどっぷりハマってしまう。その証拠にボンドは彼女と新生活を送るために、MI6に辞表を出すほど。

ウェスパー・リンド (エヴァ・グリーン)

ボンドのポーカー勝負のため、英国財務省からパートナーとして派遣される。毒を盛られたボンドのピンチを救い、2人は急接近して結ばれる。だが彼女にはある秘密が...

STORY

カジノ・ロワイヤルで テロリストの資金源を断て

MI6から殺しのライセンスを得た若きボンドのターゲットは、テロ組織の金を運用するル・シッフル。彼が狙う1億5000万ドルを阻止するため、パートナーのウェスパーとモンテネグロに向かい、決死のポーカーに挑むボンド。だが、そこには様々な罠が待ち受けていた。

ソランジュ・ディミトリオス (カテリーナ・ムリーノ)

マイアミ国際空港での旅客機爆破テロで使用される武器を売買していたディミトリオスの妻。あっさり人妻好きのボンドが口説き落とし、夫の居場所を漏らしてしまう。





Gadgets

GPS&顔認識機能付き携帯電話

本作でボンドが使用する携帯電話は、スパイにとって実用的な機能が満載。ターゲットから着信を受ければ、M16のコンピュータを通して瞬時に相手の携帯をハッキングして位置を把握できる。また、携帯のカメラで顔を撮影すれば、その人物の情報が得ることが可能だ。

OPENING

ジャック・ホワイト&アリシア・キーズ 「アナザー・ウェイ・トゥ・ダイ」

主題歌はシリーズの初となるジャック・ホワイトとソウルシンガーのアリシア・キーズによるデュエット。タイトルクレジットも手掛けたM12が主題歌の映像を担当。砂漠をバックにしてボンドが愛銃を片手にターゲットを追い求めじりじりと歩く姿はシビれる。

ENEMY BASE

メドラーノ将軍一派が 潜む砂漠のホテル

ボリビア現政権へのクーデターを画策するメドラーノ将軍が隠れ家と滞在する、砂漠の中に建っている、警備がしやすい。ホテルのペランダや建物の各所には将軍の部下が配備されている。劇中では、グリーンとの交渉の場として



ドミニク・グリーン (マチュー・アマルリック)

表向きは環境団体グリーン・プラネットの代表者であるが、裏の顔は悪の組織Quantum所属で、ボリビアのクーデターのためにメドラーノ将軍を陰で支援し、水資源独占を狙っている。

敵の目的 メドラーノ将軍に資金援助をするのと交換条件に、ボリビアの砂漠地帯のある地域の土地を獲得しようとしている。

メドラーノ将軍 (ホアキン・コシオ)

かつてボリビアの独裁者であったが、現在は失脚しており、地下資源と交換条件にグリーンからの支援を受けて返り咲きを狙っている。暴力的な性癖を持ちカミーユの母を暴行して殺した過去を持つ。

敵の目的 グリーンたちから資金を援助してもらい、それを基に現政権へのクーデターを起こし、再び独裁政権を築こうとする。

ENEMY



傷ついた心が共鳴する

007/慰めの報酬

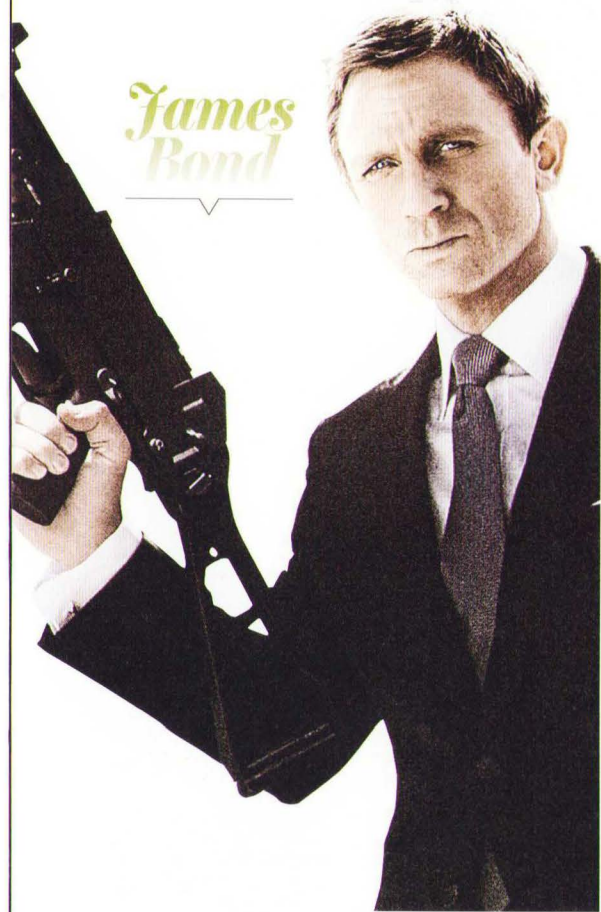
2008年作

Quantum Of Solace



前作から1時間後、ボンドは愛する人の復讐を誓う

衝撃のデビューを果たしたクレイグ・ボンド注目の第2弾は、意外性に富んだ仕上がりとなっている。シリーズでは異例の前作の続編として始まり、上映時間は107分と最短。前作で最愛の女性ヴェスパーを失ったボンドがその想いを胸に秘め、敵組織の壊滅へと挑んでゆく姿が描かれる。ボンドガールのカミーユ(オルガ・キュリレンコ)も、両親と姉を失った悲しみを癒やすことができずに復讐を狙っており、似た状況で出会った2人の「復讐」がテーマとなっている。ちなみに、今作では「消されたライセンス」以来のお馴染みのベッドシーンが存在しない。また、米クリエティブ集団M12が作成した3D映像技術を搭載したMの指令室が近未来的でカッコイイ。そしてボンドのお馴染みの決め台詞「Bond



James Bond

「慰めの報酬」

●発売元:フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分:107分

STAFF & CAST

脚本:マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・ブロッコリー、マーク・フォスター 監督:ポール・ヘグス 監修:ダニエル・クレイグ、オルガ・キュリレンコ、マチュー・アマルリック、ジュディ・デンチ

今回の任務

表向きは環境団体の代表を務めるドミニク・グリーンがメドラーノ将軍と手を組んで狙う、ボリビアでのクーデター阻止。その裏にはボリビアの豊富な資源を狙った複雑な利権が...

華麗なるボンドの旅路

シエナ(イタリア) 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000

STORY

ボリビアの クーデターを阻止せよ

初めて愛した女性ヴェスパーを失ったボンドは、彼女の死の背後にいた組織の存在を知り、復讐心を燃やす。知り合った美女カミーユと一緒に、ボリビアの政府転覆と天然資源の支配を狙うドミニク・グリーンの計画阻止に動くが、果たして、復讐は実行されるのか?!

ストロベリー・フィールズ (ジェマ・アータートン)

ボンドをロンドンへ連れ戻す命令を受けたボリビアでの現地連絡員。だが、すぐさまボンドに口説かれてベッドインし、全身オイルまみれという無残な殺され方をする。



ボンドガールの ココにキグツケ!!

車を急停車させてボンドに「乗って」と告げるカミーユに萌え(本編で2回繰り返される)。また、家を燃やされたトラウマを持つカミーユが、火事になったホテルで、死を覚悟してボンドと抱き合うカットは見応え充分だ。

カミーユ・モンテス (オルガ・キュリレンコ)

幼い頃、両親と姉をメドラーノ将軍になぶり殺され家を焼かれた過去を持つ。それ以来、虎視眈々と将軍への復讐の機会を狙っている。同じ想いを抱いたボンドと行動を共にする。

Bond Girl





Gadgets

新Qから支給された 実用主義の秘密兵器

本作に派手な秘密兵器は登場しない。Qはペン型爆弾などはアンティークだと、指紋認証付き拳銃ワルサーPPK/Sと小型発信器のみを支給。マカオのカジノでの死闘では、敵に拳銃を奪われるが指紋認証式だったためにピンチを脱出する。



1 奪われたハードディスクを追い、モトクロスバイクでイスタンブールのバザールを激走。2 列車の屋根の上で暗殺者と一対一の決闘。Bondは積まれた重機を操縦して客車の屋根まで破壊する。3 イメージを一新した新たなQが登場。見た目は草食系だが、腕はピカイチでBondへ実用性の高い秘密兵器を提供する。4 シルヴァがMI6から脱走。審問会に出席しているMを狙うシルヴァを追い、地下鉄を舞台に白熱の追走劇が展開。5 シルヴァとの対決場所に残るのはBondの生家。限られた武器で最強の敵を待ち受けるBondたちの運命は？

OPENING アデル／「スカイフォール」

常に祖国のために全力を尽くしてきたBondだったが、Mの指示による誤射で瀕死の重傷を負い、スパイとしての生き様、己の衰えに直

面する。この戸惑いをタイトルバックでは表現。川底に沈んで行き、標的を見つけられず困惑するBondのシルエットが印象的だ。

ENEMY BASE 1日で廃墟になった孤島に ズラリと並ぶ高性能コンピュータ

シルヴァのアジトは廃墟となり人が住んでいない孤島。化学兵器に汚染されたというデマ情報をシルヴァが流して手に入れた。ここに高性能PCを多数設置し、多国籍企業の株価操作や、第三世界の選挙結果を操るなどして巨額の利益を手に入れている。その他、マカオのカジノなども牛耳る。プログラム技術、ハッキング能



力はスペシャリストのQと互角以上だ。移動は豪華クルーザーのキマイラ号。

シルヴァ (ハビエル・バルデム)

00ナンバーを持っていた元英国諜報員。Mも一目置く敏腕だったが捕虜となり見捨てられる。ネット情報を操り莫大な資産を得る一方、母親のように慕っていたMへの倒錯した愛から復讐を誓う。

敵の目的 コンピュータ端末を介してのサイバートロを引き起こし、自分を見捨てた元上司のMとMI6への報復を企てる。

パトリス (オーラ・ラバス)

謎の暗殺者。イエメン大使殺害事件など、多くの事件の容疑者とみられている。狙撃、格闘技、バイクなどに長け、イスタンブールと上海でBondと死闘を繰り広げるが、高層ビルから転落死。

敵の目的 NATO工作員の名簿が入ったディスクを奪取するなどシルヴァから様々な依頼を受けそれを実行する。

ENEMY



ロンドン、スコットランド、イスタンブール、上海…Bondが世界を駆け巡る!!

007/スカイフォール

2012年作 Skyfall



ドラマも重厚なメンデス硬派路線の最高傑作

第一作からシリーズ50周年の節目に公開された第23作。アクション、ドラマ、キャラクターとすべての面でハイクオリティで、シリーズ史上最高傑作との呼び声が高い。プレタイルのアクションシーケンスから興奮度マックス。奪われたNATO諜報員の情報が入ったハードディスクを追い、トルコ・イスタンブールのバザールでバイクチェイス。しかもこれだけでは終わらず、列車の屋根での肉弾戦へと展開していく。味方の狙撃によりBondが電車から落下してしまうという驚きの場面を経て、やっと主題歌へと突入するのだ。その後も、カジノでの格闘、豪華クルーザーでのBondとシルヴァとの対決、軍艦島をモチーフにした敵アジトの狂宴のデザイン、MI6のお膝元ロンドンでのスリリングな追跡劇、ボン

ド生誕の地スコットランドでのローテクvsハイテクの最終決戦など、立て続けにスリルが押し寄せる。加えて、「007」フリックのS・メンデスならではの味付けが秀逸。ハビエル・バルデムの怪演が光る悪玉、Bondたちと対立する官僚的なマロリーの正体、Bondを狙撃したイヴの正体、若きQの活躍、MとBondの深い絆、初代Bondカー登場時のテーマ曲、Bondの生家の登場などを巧みに配しており、長年の「007」ファンの心を鷲づかみにする。「007」シリーズの集大成であり、新たな時代への幕開けを感じさせるラストシーンは鳥肌ものだろう。また、クレイグ・Bondで重要視されてきたドラマ性も高く、古い任務、感情など、リアリティある問題にぶつかるキャラクターたちの姿が熱い感動を呼ぶ。



「スカイフォール」

●発売元: フォックス ホーム エンターテインメント
●1905円
●収録分数: 144分

STAFF & CAST 園イアン・フレミング 園マイケル・G・ウィルソン、バーバラ・プロコッロ 園サム・メンデス 園ニール・パーヴィス、ロバート・ウェイド 園ダニエル・クレイグ、ハビエル・バルデム、レイフ・ファインズ、ナオミ・ハリス、ベレニス・マールウ

今回の任務 テロ組織に潜入しているNATO諜報員のリストが強奪される。同時にMを狙った爆弾テロが。BondはMIに恨みを持つ元英国諜報員シルヴァの存在に行き着くが…。

華麗なるBondの旅路

イスタンブール 上海 ロンドン 上海
マカオ 軍艦島 ロンドン スコットランド

STORY

裏切り者の裏に潜む 世界征服計画

奪われた極秘データを追う最中、Mの強引な狙撃命令で誤射されたBond。酒浸りの日々を送っていたが、MI6での爆弾テロを機に復帰する。黒幕は元英国諜報員のシルヴァで、目的は彼を見捨てたMへの復讐。体力の衰えを感じながらも、Bondは懸命に戦うが…。

イヴ (ナオミ・ハリス)

MI6諜報員。射撃は得意だが運転技術は粗雑。Bondを誤射したことで情報国防委員会のマロリーのアシスタントに配置転換されるが、Bondのサポート役に指名される。

Bond Girl

Bondガールの ココにキグヅケ!!

マカオのホテルで、古風なカミソリでイヴにヒゲを剃らせるBond。誤射の一件で不信感を持っていたBondは、無防備な姿を見せることで信頼関係を築き上げる。イヴの正体が明るくなったとき、このシーンは大きな意味を持つ。

セヴリン

(ベレニス・マールウ)
元マカオの娼婦でシルヴァの恋人。常に監視されており、自由を夢見ている。その望みをBondに託し、逆鱗に触れることを承知でシルヴァの元へとBondを連れて行く。



ついに、真打ち登場!

ネバーセイ・ネバーアゲイン

1983年作 Never Say Never Again



1 スーツケースの中身がキャビアやフォアグラばかりだったり、殺し屋に苦戦するボンドが小便をぶっ掛けて勝利したりと、コミカルな演出多し。 2 敗者には電流が流れるコンピュータゲームでラルゴと対戦。パッと見ではどうなったら勝ちなのかは分からないが、近未来感すごい(笑)。 3 「サンダーボール作戦」でもおなじみの海中アクションは尺こそ短くなったものの、サメの描写が撮影技術の進歩でより迫力アップ!



『ネバーセイ・ネバーアゲイン』

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●2381円
●収録分数:134分

STAFF & CAST 監修 ケヴィン・マクローリー 監 傑ック・シュワルツマン 監 ーヴィン・カーシュナー 監 ーレンツォ・センプル Jr. 監 ージョン・コネリー、キム・ペイシガー、クラウド・マリア・ブランダウアー

Gadgets

STORY

現役復帰したボンドが奪われた核兵器を追う!

時は冷戦真っ只中。Mからたんだん身体を鍛えなおすことを命令されたボンドが復帰トレーニングに励む中、米空軍から核弾頭を搭載した巡航ミサイル2機が盗まれる事件が発生。ボンドは地中海へ向かい、大富豪ラルゴをマークするのだが...

ENEMY

正体不明の悪の天才
エルンスト・スタヴロ・プロフェルド
(マックス・フォン・シドー)

秘密結社スペクターの首領(No. 2)。米空軍所属の大尉を利用して奪ったミサイルをカードに、NATO諸国に年間石油輸入額の25%に当たる金額を払えと脅迫。



慈善家を装う幹部
マキシミアン・ラルゴ
(クラウド・マリア・ブランダウアー)

スペクターの幹部だが何故かNo.1と呼ばれる。慈善活動を行なう大富豪としての顔の裏で、プロフェルドの指示の下、ミサイルの運搬と配置、爆破を任される。



『サンダーボール作戦』の渋みを増したもうひとつの初代ボンドのジョン・コネリーが、「ダイヤモンドは永遠に」以来のカムバック。タイトルを直訳すると「二度とやらないなんて言わないで」で、コネリー夫人が彼に言った「二度とボンドを演じないなんて言わないで」という発言が元。「スター・ウォーズ エピソードV/帝国の逆襲」のアーヴィン・カーシュナー監督による「サンダーボール作戦」のリメイクだが、当初はロジャー・ムーアの起用が予定されていたこともあり、ムーア・ボンドに近い作風が特徴。バーバラ・カレラ演じる女殺し屋ファティマが強烈なインパクトを残す一方、「サンダーボール作戦」ではいかにも悪役風だったラルゴが若返って冷酷かつ狂った人物となり、恋人ドミノを挟んだボンドとの関係も見もの。

James Bond

ジェームズ・ボンド
(ジョン・コネリー)

現役引退していたが、世界情勢に合わせて復帰するべく実戦訓練を開始。最終試験でまさかの不合格と生活習慣の見直しなど、やや不安が残る中、核ミサイルの回収に動き出す。



ボンドカーならぬ
ボンドバイクが駆ける!

ヤマハ「XJ650ターボ」を改造したボンドバイクが、トラックの下を潜り抜けたり、敵の車を飛び越えたりと大活躍。そのほか、万年筆型ロケットやレーザー光線付き腕時計、米海軍開発のロケット「XT-78」などが登場。

Bond Girl

ドミノ・ペタッチ
(キム・ペイシガー)

スペクターに利用されて殺された米軍大尉ジャックの妹にして、スペクターのメンバーであるラルゴの恋人。兄の死を知らされて、ボンドに協力するようになる。

ファティマ・ブラッシュ
(バーバラ・カレラ)

サディスティックな殺し屋。ボンドと男女の関係になり、彼を殺そうとする際に「自分がボンドにとって一番の女だった」と認めさせようとするなど、強烈な性格。



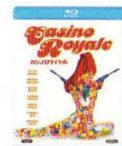
まったく新しい、ぜいたくな、最高にもおもしろいボンド映画の誕生!

カジノロワイヤル

1967年作 Casino Royale



1 007の影武者が次から次へと登場する。カジノ・ロワイヤルでルシッフルと対決するシーンではピーター・セラーズが扮する。 2 全編に流れるスウィング・ロンドン! 音楽はパート・バカラックが担当し、主題歌はダスティ・スプリングフィールドの「恋の面影」。 3 ゲストスターが豪華華! ジャン・ポール・ベルモンドのほか、ウィリアム・ホールデンやジャクリーン・ビセットなど多彩な顔ぶれがずらり。



『カジノロワイヤル』

●発売元:フォックス ホーム エンターテイメント
●2381円
●収録分数:132分

STAFF & CAST 監 ーイアン・フレミング 監 ージョン・ヒューストン、ケン・ヒューズ、ロバート・バリッシュ、ジョセフ・マクグラス、ヴァル・ゲスト 監 ーウォルフ・マンキーウィッツ、ジョン・ロウ、マイケル・セイヤーズ 監 ーパート・バカラック 監 ーピーター・セラーズ、ウルスラ・アンドレス、デイビッド・ニープン、ウディ・アレン、オーソン・ウェルズ

STORY

オールスター出演! 「007」シリーズの傑作パロディ!

世界中で次々とスパイが殺される怪事件が発生。英国情報部と各国の諜報機関は真相解明のために、今は引退してしまっただけのジェームズ・ボンド卿のもとを訪ねる。事件を操るのは謎の組織スメルシュ。ボンド卿は何人もの007をでっちあげる作戦に出るのだが...

ENEMY

スメルシュの幹部
ルシッフル
(オーソン・ウェルズ)

スメルシュの手下でボンドとカジノで大勝負に挑む、という設定は本家の「カジノ・ロワイヤル」でもお馴染み。監督としても名高いウェルズが扮している。



黒幕
ジミー・ボンド/ドクター・ノア
(ウディ・アレン)

スメルシュの首領。ノアはもちろん「ノア」をもっている。アレンが初めて脚本を手がけた「何かいいことないか子猫ちゃん」と本作の共通項が多いのも興味深い。



ポップな60'sムービー「007」シリーズのパロディ編イアン・フレミングの原作をもとに映画化されているが、1962年からEONプロダクションが製作している「007」シリーズとはまったくの別モノ。のちに映画化の権利が移管し、ダニエル・クレイグをボンド役に迎えて製作されたのが「007/カジノ・ロワイヤル」である。なまじフレミングの原作が使用されているので本作は「番外編」と呼ばれ続けてきたが、パロディ編と位置付ける方が良さそう。先にスタートしていた「007」シリーズのパロディがそこかしこに散りばめられ、「本家」シリーズに出演した俳優も登場する。「本家」を観ていれば楽しめるだろう。60年代後半のポップでキツチュな作風は「オーステイン・パワーズ」などでさらにパロディ化されている。

James Bond

サー・ジェームズ・ボンド
(デイビッド・ニープン)

現役を引退して静かに暮らしていたが、Mに代わって情報部のトップに就く。敵を混乱させるため、全スバに007を名乗らせる。イアン・フレミングはどちらかというとニープンのようなタイプの容姿をボンドとして思い描いていたようである。



Bond Girl

マタ・ボンド
(ジョアンナ・ブライット)

第一次大戦中、美人スパイだったマタ・ハリとボンドとの間に出来た娘。母親譲りのダンスも艶めかしく、「現代っ子」ぶりに父親のボンドもたまじし。

ヴェスパー・リンド/007
(ウルスラ・アンドレス)

007の影武者として登場。このヴェスパーを「ドクター・ノア」にボンドガールとして出演したアンドレスが演じていること自体がそもそもパロディになっている。



ついつい話したくなる知識がてんこ盛り!

007シリーズ トリビアコレクション

知れば知るほど、「007」の世界は楽しい! 原作小説から映画の舞台裏まで、マニアックな観点でトリビアの数々を紹介。これがジェームズ・ボンドの「シークレット・ファイル」だ!?

文/紀平照幸



ボンドのモデルは原作者本人?

原作者イアン・フレミングが戦時中に英国情報部員だったため原作者がモデルと言われるが、彼は作戦立案担当で現場経験はなし。むしろ彼が監視役を務めたことのあるMI6職員ドゥシャン・ボボヴがモデルという説がある。

「ジェームズ・ボンド」は実在する?

「西インド諸島の鳥たち」という著書のある鳥類学者ジェームズ・ボンド(1899-1989)の名前を拝借。同書はフレミングの愛読書だった。「ダイアナザ・デイ」でボンドが鳥類学者を名乗ったのは、彼へのオマージュ。

フレミングはS・コネリーのボンド役に反対だった?

フレミングがボンドのイメージとして思い描いていたのは俳優のデヴィッド・ニブンと作曲家のホーギー・カーマイケル。「コネリーは野暮ったい」として反対。当初はケイリー・グラントがボンドにな

る可能性もあった。



いつたい、ボンドって何歳なの?

原作には生年月日の描写はなく、軍隊経験の描写から1920年前後の生まれで30代中盤から40代前半と推測される。しかしクレイグがボンド役になった際には過去はリセットされ、68年4月13日生まれという設定にリニューアルされた。

第1作の日本初公開題名は「007は殺しの番号」邦題発案者は字幕翻訳者の高瀬鎮夫

イギリスでは10月5日は「ジェームズ・ボンドの日」

原作のボンドは持病持ちだった!? 原作の「サンダーボール作戦」では、健康診断の結果、高血圧、肝臓障害

S・コネリーは何度も絶体絶命の危機に遭遇していた!

「ゴールドフィンガー」のレイザーで股を焼かれそうになるシーンで、実際には下からトーチの火が迫っている。火傷寸前。「サンダーボール作戦」の鯨のプールでも仕切りの隙間から鯨がコネリーの近くまで侵入してしまふハプニングが。



TVアニメになったジェームズ・ボンドシリーズがある!

91年の「ジェームズ・ボンド:ジュニア」シリーズ。主人公はボンドの甥で諜報機関関係者の子弟が通う学校に在学中の17歳。Qの孫のIQ、ライターの息子ゴード、ガールフレンドのトレイシーという仲間がいる設定だった。

ボンドにはガールフレンドがいた!

「ドクター・ノオ」でカジノで出会ったシルヴィア・トレンチ(ユニス・ゲイン)。「ロシアより愛をこめて」ではデートするシーンが。いつもいいところで任務に邪魔されるという役でレギュラーになる予定もあった。

リウマチ性組織炎、頭痛に加えタバコの吸い過ぎを指摘される。このままでは長生きできないと保健所に行かされるくどりは映画版(リメイク版)にもあり。

ボンドの銃はワルサーではなかった

小説ではボンドはベレッタを採用。しかし、「ロシアから愛をこめて」(原作)のラストで銃がうまく抜けずに負傷したため、次作「ドクター・ノオ」の冒頭でワルサーPPKに替えられてしまふ。このくどりは映画版も採用している。



ボンドはどこに住んでいるのか?

フレミングの原作では、ボンドはチェルシーにあるアパートに年配の家政婦メイと二人暮らし。彼女をばかっけて女性を部屋に入れることはない。しかし映画ではボンドは自宅が登場する度に女性を連れ込んで(侵入)されている。

一番女性に手の早いボンドはG・レーゼンビー

1本に複数女性が登場しても、ボンドと関係するのはせいぜい2、3人。しかし「女王陛下の007」ではメインのボンドガール以外に8人の美女が登場し、ボンドはそれらすべてに手を出したと思われる描写がある。



ボンドの誘いを断ったボンドガールがいる

「慰めの報酬」のカミューは、ボンドとのベッドシーンがないまま、最後に別れを告げて去った珍しい例。「ゴールドフィンガー」のブッシュ・ガロアも最初はボンドを避けていた(結局押し倒されちゃったけど)。これは原作で彼女がレズビアンと明記されていたから。



お菓子研究家・福田里香が分析

フード理論から見る 007映画

COLUMN

Profile 福田里香

福岡県生まれ。武蔵野美術大学卒。著書に「ゴロツキはいつも食卓を襲う〜フード理論とステレオタイプフード」、コラム&レシピ集「まんがキッチン おかわり」(共に太田出版)など。「装苑」にフードコラムを連載中。

「フード理論」とは?

食べ物には物語の演出装置になることから、これをフード理論と呼び、三原則を「1.善人はフードをおいしいように食べる、2.正体不明者はフードを食べない、3.悪人はフードを粗末に扱う」と定義。

料理が主題の007映画じゃない。「スカイフォール」は不食の名作だ。

チーム男子萌え属性なので、主人公が孤高のスパイで美女にモテまくる設定が生理的にツボじゃない。しかしスカイフォールで、ジェームズ・ボンド最高!と二気に胸に落ちた。DSで天バでギークなメカ男子……Qのキャラをそう膨らませたか!と目から鱗も落ちました。MI6にチーム感があり、特にQとはバディ感すら漂った展開は世界中の女子の心を捉え、映画公開した国順にファンアートが次々とネットに上がる様子は圧巻だった。本作はフード的にも見所が満載だ。例えば導入のカーチェイス。イスタンブールのグラッドバザールという使い古された場所を舞台に、既視感ありすぎな露天商のオレンジ籠を車で吹っ飛ばし、続く銃撃戦で血糊を想起させる果汁を「ボンドに顔射した上で、道に転がったオレンジでバイクを転倒させ、オレンジの山越しにボンドの顔のアップまで切り取るという念の入ったフード演

ボンドと言えばマティーンと思つたら…?

近年はハイネケンやボランジェとタイアップしているでビールやシャンパンの登場が多い。ボンドの好みはステアアせずシェイクしたウォッカマティーンが定説だが、原作でのレシピは、ジンにウォッカとベルモットを混ぜてシェイクし、レモンピールを添えたもの。



初代ジェームズ・ボンドはS・コネリーではなかった

映画化される以前の54年、アメリカのTVの1時間番組「クライマックス」の1エピソードとして「カジノ・ロワイヤル」が映像化され、ボンド役はバリー・ネルソン。ただし設定はアメリカの諜報部に換えられていた。

ボンドがセガールに骨折させられた?

「ネバーセイ・ネバーアゲイン」の時にS・コネリーのマッシュアルアーツ・コーチを担当したのは、まだ俳優になる前の若き日のステイヴン・セガール。この訓練中に、彼はコネリーの手首を骨折させてしまったことがあ

「黄金銃を持つ男」でボンドが殺したのはたった一人(スカラマンガ)だけ



歴代のボンドはどれだけの数の人殺しをしている?

「スカイフォール」までの23作で殺した総数が362人。最多は121人のR・ムーアだが、彼は7作もあるで、1作当たりで換算すると4作で121人のP・プロスナンに軍配。ちなみに1作での最多は「オクトパシー」の64人。



C・イーストウッドは
ボンド役を断っていた！

ボンド役の選考については謎が多く、いまだ語られざるエピソードが。クリント・イーストウッドが『女王陛下の007』の出演依頼について明らかにしたのは2010年のこと。断った理由は「英国人がやるべき役だから」。



ケネディ大統領は
「007」のファンだった

当初はそれほど人気を集めなかった小説版『007』が注目されたのはジョン・F・ケネディ大統領の愛読書10冊に「ロシアから愛をこめて」が入っていたから。しかし、実際にはジャクリン夫人の愛読書だったらしい。

大富豪ハワード・ヒュースも
「007」映画好きだった

『ダイヤモンドは永遠に』に出てくる謎の大富豪ホワイトのモデルはハワード・ヒュース。実際の彼は『007』映画ファンで、自分のラスベガスのホテルを撮影場所として提供してくれた。その謝礼は映画本編の16ミリフィルム。

Qは映画のオリジナル・
キャラクター？

フレミングに銃器についてアドバイスしてくれたのが実在のブーシロイド。それに敬意を評して彼は小説に実名で登場させた。ただし彼はあくまでもQ課のトップであつて、彼自身をQと呼ぶのは映画オリジナルの設定だ。



原作のボンドは
ヘビースモーカー
映画では何度か禁煙している

最初の禁煙は『ダイヤモンドは永遠に』。続いて「消されたライセンス」でエンドクレジットに「喫煙に注意」の文字を出して再び禁煙した。しかし『ダイヤモンド』で葉巻を吸って解禁に。



ボンド以外の007要員は
たいてい殺されている？

002、003、004、009が任務中に殺害された。006は死亡と思われていたが、『ゴールドフィンガー』で敵の親玉として登場する。も

撮影現場から3日で逃げ
出したオスカー俳優がいる！

『トモロー・ネバー・ダイ』の悪役は『羊たちの沈黙』のアンソニー・ホプキンスが演じる予定だった。しかし、台本も完成しておらず、その日のメモを見て演技するという状況に憤慨して、3日で現場を去ってしまった。

初期の「007」ポスターで
おなじみのロバート・マッキニス
は第9作目までポスターを
手掛けている

姫路城で映画の撮影が
許可されないのは007のせい
忍者軍団の訓練シーンの撮影中、誤って国宝の壁に傷を付けてしまった。これがあやうく国際問題に発展しそうになり、その後、文化庁によって、姫路城内部では洋画のみならず一切の映画の撮影が禁止されることになった。



「007」の撮影で
反対運動が起こった
『ユアアイズ・オンリー』の山上の修

つとも殉職しても欠番が出るわけ
ではなく、すぐ補充されるようだ。

「ジェームス・ボンドのテーマ」は
ミュージカルの曲だった

第1作の舞台がジャマイカだったため、カリブソ系音楽が得意だったモンティ・ナマンが音楽を担当。自作のミュージカル曲のフレーズを流用してあの名曲を作った。それをアレンジして現在の形にしたのがジョン・バリー。

ボンドの上司Mの本来は？
また、その由来は？

公式設定ではMの本名はマイルズ・メッサビーで階級は海軍提督。ただしジュディ・デンチ版は本名不詳、レイ・フアインズのMはマロリーの頭文字だ。フレミングの伝記作家によると、このMとは彼の母親のことなのだとか。



ロケ現場で撮り忘れた
ボンドの登場シーンを
スチール写真で代用

『私を愛したスパイ』のエジプトロケではピラミッドのライトアップが許可されず、後に模型と合成されたが、この時、ピラミッドを見るボンドの横顔を撮り忘れていたことが発覚。スチール写真を引き伸ばしたもので代用された。

道院で、神聖な場所を売り物にする
な、と修道士たちがガストを。『慰め
の報酬』では町長が撮影に反対し現
場に車で乱入する事件が起きた。
普通は観光名所になるので歓迎さ
れるはずだが…。

トヨタ2000GTにも
ボンド専用だった
搭載予定だった

もともと予定されていたカーチェイスが、ヘリコプターのリトル・ネリーの空中バトルに変更されたためボツに。そのため武器の出番はなし。しかし、当時のプラモにはフロント部分にミサイル発射のギミックが残っている。



あのハードロック界のスターも
「007」映画に参加していた！
レッド・ツェッペリンのジミー・ペイ
ジが映画『ゲット・ラウド』で語ったことによると、セッションマン時代の彼は『ゴールドフィンガー』の主題歌レコーディングに参加、バックでギターを弾いているのだそうだ。

ボンドガールを二度演じた
モード・アダムスは、美しき獲物
たちにも通行人役で出ている。

初期「007」映画に登場する
外国人キャストの声は、
ほとんど吹き替え

シリーズの初期では英語圏以外の俳優は容赦なく吹き替えられていた。ウルスラ・アンドレス（ハニ）、ゲルト・フレレベ（ゴールドフィンガー）、アドルフ・フォ・チェリ（ラルゴ）、そして丹波哲郎もすべて声は別人のもの。

「ゴールドフィンガー」という
場所が実在する？

原作を使い果たしたので近作はタイトルに苦心。『ゴールドフィンガー』はフレミングのジャマイカの別荘の名で、もともとは彼が戦時中に立案した作戦名が由来。『ワイルド・イン・ザ・ノース・オブ・ナフ』はボンド家の家訓が語源だ。

『女王陛下の007』の
ラストでトレイシーが
死んだのは誰のせい？

本来は殺害シーンは次回作『ダイヤモンドは永遠に』の冒頭に置かれ、ボンドの復讐を描く予定だった。しかし、レーゼンビーの1作限りの降板が決定的になったため、原作通りラストに入れられ暗い結末となってしまったのだ。



バインウッド・スタジオは
2回も火災に遭遇している

「007」スタジオで有名なバインウッド・スタジオは1984年に全焼。『美しき獲物たち』はロケ優先で撮影することに。スタジオは再建されたが今度は2006年、「カジン・ロワイヤル」の終了後、解体中のセットが火事で灰になった。

スピルバークが
監督する話もあった？

『私を愛したスパイ』の監督候補の中にはステイヴン・スピルバークの名も。しかしヒット作のタイトル・ジョーズが殺し屋の名前に使われただけに終わった。ちなみにジャイアント馬場もこの殺し屋役の候補になっていた。

R・ムーアの娘も
「007」シリーズに出演している

ムーアの娘デボラ・ムーアは『ダイヤモンドは永遠に』でボンドにマティーンを運ぶ旅客機のCA役で出演。また、『コネリーの妻ダイアン・シレン』は「007は二度死ぬ」で泳げない浜美枝の代役で水中での潜水シーンを披露している。

次回予告を
守らなかつた回がある！

『私を愛したスパイ』のラストでは『ユア・アイズ・オンリー』を次回作として予告していたが、実際は『ムーンレイカー』になった。折からのSF映画ブームとNASAのスペースシャトル計画に乗り遅れないための措置だった。



映画のカットを数えるカット職人・林賢一が検証！

ショーン・コネリー版VS
ダニエル・クレイグ版

007映画の
カット割比較で
シリーズの進化を探る

シリーズ50年でカット数は
1000も増加している！

映画のカット数を3年ほど数え続けています。なぜそんなことをしているかというと、入江悠監督が主宰する映画メルマガ「僕らのモテるための映画聖典」にてカット職人として、映画のカットを数える連載をやっているからです。カットというのは映画の原理かつ最小単位ですので、それを数えながら鑑賞するだけでも、世界が景色が、そして視点がかわって見えるのが楽しくてとても刺激的なんです。今回は、「007」シリーズのショーン・コネリー版とダニエル・クレイグ版のカット数を比較して、新旧の違いについて考えてみたいと思います。取り上げるのは、各ボンドの3作品目、すなわち「007 ゴールドフィンガー」と「007 スカイフォール」にしましょう。まずはショーン・コネリー版のカット数からご報告します。「ゴールドフィンガー」のカット数は1369カットでした。この数字はアクション映画としては平均的な数字になりますが、最近のア

クション映画と比べると、少ない部類に入ります。ですので、「ゴールドフィンガー」を見直してみると、若干テンポが遅いように感じられます。当然、カット数が増えれば多いほど、映画のテンポは上がり、スピード感が増します。なお、時代が進むにつれて映画のカット数は増え続ける傾向にあります。（ちなみにこれまで数えた中で最もカット数が多かったのは「ワイルド・スピード」の「MISSION」で3720カットでした。「ゴールドフィンガー」の上映時間は110分なので、1カット平均秒数は約4.9秒。つまり、およそ5秒に1回カットが変わるということになります。

対してダニエル・クレイグ版のカット数はいくつなのか？ 発表しましょう。「スカイフォール」のカット数は2303カットでした。出ました、2000カットを超え！これは勝手にわたくしが「カット大台」と呼んでいるんですが、2000カットを超えた映画は「カット数が多い」という一つの基準です。つまり、「スカイフォール」はカット数が多い部類の作品であり、とても現代的な映画といえます。上映時間は144分なので、1カット平均は約3.7秒になります。これを「ゴールドフィンガー」の1カット平均4.9秒と比較すると、テンポの違いがはっきりします。両作品の1カット平均秒数の差は1.2秒。数字だけを見るとあまり違いがなさそうですが、1秒以上もカットが長ければ体感としては、かなりテンポは変わります。ですが、言うまでもなく「テンポが遅い」というのは、イコール映画が古くさいわけではありません。あくまでもリズムの問題です。ねっとりとした魅力的な長回しカットは数知れませんが、ただし近年、クリーン撮影やCG技術が発達したことにより、よりカットニングが細かくなり、臨場感が増しているのは間違いないですね。両作品を隔てるおよそ50年でカットは1000増え、1カット平均は1秒長くなりました。それは「007」の進化であると同時に、映画それ自体の進化でもあります。今後「007」シリーズのカット数がどう変化していくのか楽しみで仕方ありません。

「007」好き映画ライター・紀平照幸が語る 原作本の世界



イアン・フレミング

1908年、政治家の息子として誕生。青年時代は問題児でイートン校を放校されたことも。証券マン、ロイター通信記者を経て、第2次世界大戦中は軍の情報部に勤務。53年から作家活動に入るが、64年、心臓麻痺で死去。

「007」の原作には小説ならではの楽しみがいっぱい盛り込まれている。本ページでは、イアン・フレミングの作品はもちろんのこと、原作と映画の違いやフレミングの後継者といえる作家たちが生み出した作品についても紹介していく。

様々な作家たちが生み出した注目の「007」小説をPICK UP!

『007/白紙委任状 Carte Blanche』 (2011) (ジェフリー・ディーヴァー著) (文藝春秋)

キャラクター名はそのままに設定をリセット。情報社会を生きる現代の007がスマホ等を駆使して大量殺人を阻止すべく大活躍。*どんでん返しの魔術師J・ディーヴァーが作者だけに、ラストには意外な展開が待っている。



『007/赤い刺青の男 The Man with the Red Tattoo』 (2002) (ジョン・ガードナー著)

ボンド再び日本へ! ということでタイガー田中も再登場。敵は三島由紀夫に心酔している極右のテロリストで、蚊を媒介にした殺人ウイルスをばらまこうと目論む。香川県が映画化を熱望し様々なPR活動を展開したことも話題に。

『スペクターの逆襲 For Special Services』 (1982) (ジョン・ガードナー著)

犯罪組織スペクターを復活させたのは、映画よりもこちらのほうが早かった! プロフェルドの後継者が登場。しかし、ヒロインがフェリックス・ライターの娘というあたりに、ボンドの年齢を感じさせてしまう側面も。

フレミング以外の作家たちが描き出した「007」小説

『007/孫大佐 Colonel Sun』 (1968) (ロバート・マーカム著)	『Death is Forever』 (1992) (ジョン・ガードナー著)	『ワールド・イズ・ノット・イナフ The World is Not Enough』 (1999) (レイモンド・ベenson著)
『メルトダウン作戦 License Renewed』 (1981) (ジョン・ガードナー著)	『Never Send Flowers』 (1993) (ジョン・ガードナー著)	『Doubleshot』 (2000) (レイモンド・ベenson著)
『スペクターの逆襲 For Special Services』 (1982) (ジョン・ガードナー著)	『SeaFire』 (1994) (ジョン・ガードナー著)	『Never Dream of Dying』 (2001) (レイモンド・ベenson著)
『アイスブレイカー Icebreaker』 (1983) (ジョン・ガードナー著)	『ゴールデンアイ Goldeneye』 (1995) (ジョン・ガードナー著)	『007/赤い刺青の男 The Man with the Red Tattoo』 (2002) (レイモンド・ベenson著)
『独立戦争ゲーム Role of Honour』 (1984) (ジョン・ガードナー著)	『COLD』 (1996) (ジョン・ガードナー著)	『007/ダイ・アナザー・デイ Die Another Day』 (2002) (レイモンド・ベenson著)
『不死身な奴はいない Nobody Lives Forever』 (1986) (ジョン・ガードナー著)	『Blast from the Past』 (1996) (レイモンド・ベenson著)	『007/猿の手を持つ悪魔 Devil May Care』 (2008) (セバスチャン・フォークス著)
『覚悟はいいかね、ボンド君 No Deals, Mr. Bond』 (1987) (ジョン・ガードナー著)	『007/ゼロ・マイナス・テン Zero Minus Ten』 (1997) (レイモンド・ベenson著)	『007/白紙委任状 Carte Blanche』 (2011) (ジェフリー・ディーヴァー著)
『スコピアスの謎 Scorpis』 (1987) (ジョン・ガードナー著)	『トゥモロー・ネバー・ダイ Tomorrow Never Dies』 (1997) (レイモンド・ベenson著)	『Trigger Mortis』 (2015) (アンソニー・ホロヴィッツ著)
『ミソサザイ作戦 準備完了 Win, Lose or Die』 (1989) (ジョン・ガードナー著)	『007/ファクト・オブ・デス The Facts of Death』 (1998) (レイモンド・ベenson著)	『新・私を愛したスパイ James Bond, the Spy Who Loved Me』 (1977) (クリストファー・ウッド著)
『消されたライセンス Licence to Kill』 (1989) (ジョン・ガードナー著)	『007/ハightタイム・トゥ・キル High Time to Kill』 (1999) (レイモンド・ベenson著)	『007とムーンレイカー James Bond and Moonraker』 (1979) (クリストファー・ウッド著)
『紳士らしく死ぬ Brokenclaw』 (1990) (ジョン・ガードナー著)	『Midsummer Night's Doom』 (1999) (レイモンド・ベenson著)	
『The Man From Barbarossa』 (1991) (ジョン・ガードナー著)	『007/ライヴ・アット・ファイヴ Live at Five』 (1999) (レイモンド・ベenson著)	

「007」小説は映画と違う新たなボンドが楽しめる

映画を観てから原作に手を出す、と派手なアクション描写が少なく、のに驚くかもしれない。それでも当時は荒唐無稽と言われたものだが、むしろ、原作者イアン・フレミングがこだわった細部の描写に注目したい。

原作が書かれたのは、米ソの冷戦真っただ中の50年代。その社会情勢を反映し、前半はソ連のスパイ組織スメルシュが仮想悪役になっている。映画ではボンドの食事シーンはあまり登場しないが、美食家だったフレミングの好みを反映して原作には食に関するうんちくがいっぱい。また、いかにもそれっぽい固有名詞や数字をちりばめて架空の存在に信憑性を持たせるという、彼のハッタリ好きな一面もみられて楽しい。ボンドの性格も映画とは違い、ラストで仲良くなった女性に次の話の冒頭では捨てられていたり、妻トレシーの死の痛手で酒浸りになったりと、いささか情けない。映画とは逆にローザクレップの靴ナイフに刺されてしまっ、ソ連に洗脳されてMを暗殺しようとするなど、任務上の失態も…。

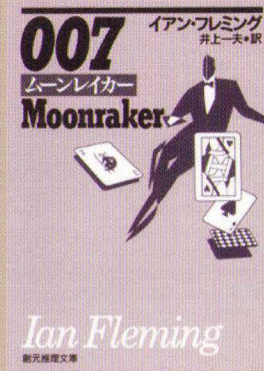
フレミングの死後、彼の遺族が財団を作ってキャラクターを管理。シリーズは書き継がれている。最初に登場したのはキングズリー・エイミスがロバート・マーカムの別名で発表した『孫大佐』(68)。敵は中国情報部の孫良且大佐で、Mが誘拐されるという、最近の映画を先取りしたような内容だった。

70年代には映画の脚本家クリストファー・ウッドがノベライズ。『新

私を愛したスパイ』(77)、『007とムーンレイカー』(79)は映画に忠実な展開でありながら、さらに細かく設定が書き込まれていて好評だった。81年からはジョン・ガードナーが、ノベライズも入れてなんと16作品も執筆。ボンドの愛車をサーブにする、Qが女性(キュート)といった細かなモデルチェンジを。

97年からはレイモンド・ベenson(ノベライズ含め長編9本)。舞台は現代だがMは映画と同じく女性で、フレミングの作品を引き継ぐ部分も。2008年にはフレミングの生誕100年を記念してセバスチャン・フォークスが「猿の手を持つ悪魔」(文庫版で「デヴィル・メイ・クラウ」に改題)を発表。舞台を67年にして原典と地続きにする工夫が見られた。11年には、リンカーン・ライム・シリーズで知られるジェフリー・ディーヴァーが「白紙委任状」を発表。すべての設定を現代版にし、3年前にリクルートされたばかりのボンドが電子機器だらけの情報戦のなかで活躍する姿を描いた。M、マナーベニー、メアリー・グッドナイト、ライター、マテイスといったおなじみの面々も設定を一新して登場。ただしこの二人は一作のみで、15年からアンソニー・ホロヴィッツが書き継いでいる。

最後に、映画のプロデューサー陣によれば、今後これらの作品群を映画化するつもりはなく、映画はすべてオリジナルストーリーでいくとのことなので、映画では観れない一味違ったボンドの活躍を楽しみたいときは小説を読むのがいいかもしれない。



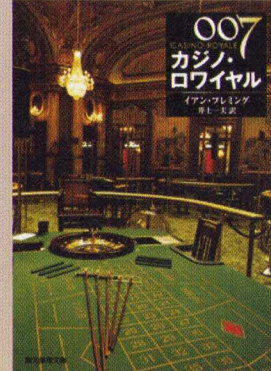
『ムーンレイカー』 (東京創元社)

ムーンレイカーはスペースシャトルではなく、ドーバーの海岸に設置された月ロケットの名前。しかし実はこれは核搭載のミサイルで…。悪役ドラックスの名前以外はすべて別物で、彼の正体もナチスの残党という設定。



『ロシアから愛をこめて』 (東京創元社)

スペクターは登場せず。前半はスメルシュによるボンド抹殺計画の作戦立案過程が語られ、レッド・グラントの過去も明かされる。後半は映画に近い展開だがラストに驚愕。映画がいかに見事な脚色だったかに改めて感心。



『カジノ・ロワイヤル』 (東京創元社)

記念すべきシリーズ第1作。ル・シッフの設定がソ連の工作員で、カジノの勝負がポーカーではなくバカラということ以外は、かなり忠実に映画化したことがわかる。シンプルな心理戦に特化したハードボイルドの趣。

長編



『薔薇と拳銃』(東京創元社) 旧邦題「007号の冒険」

第1短編集。『美しき獲物たち』の原作となったソ連情報機関の破壊を目指す「薔薇と拳銃」他3本の題名とプロットの一部分が映画に使われた。ちなみに、「ナッソーの夜」の原題は「慰めの報酬」の犯罪組織名とは関係なし。

『オクトパシー』 旧邦題「007/ベルリン脱出」

映画版とは題名以外ほぼ関連がない「オクトパシー」や、「リビング・デイズ」の冒頭のコスロフ亡命のシーンが、かなりそのまま使われている「ベルリン脱出」など計3編を収めたフレミングの遺作となった第2短編集。

短編



イアン・フレミング
007小説年表

1966	1965	1964	1963	1962	1961	1960	1959	1958	1957	1956	1955	1954	1953
オクトパシー Octopussy and the Living Daylights	黄金の銃を持つ男 The Man With the Golden Gun	007は二度死ぬ You Only Live Twice	女王陛下の007 On Her Majesty's Secret Service	わたしを愛したスパイ The Spy Who Loved Me	サンダーボール作戦 Thunderball	薔薇と拳銃 For Your Eyes Only	ゴールドフィンガー Goldfinger	ドクター・ノオ Doctor No	ロシアから愛をこめて From Russia With Love	ダイヤモンドは永遠に Diamonds Are Forever	ムーンレイカー Moonraker	死ぬのは奴らだ Live and Let Die	カジノ・ロワイヤル Casino Royale

小西康陽が語る007音楽の魅力

60年代が産んだ数少ない財産かもしれないね、 Bond 映画って



60年代ポップカルチャーをこよなく愛するミュージシャンに映った Bond 観とは？生粋の映画ファンでもあるバンド「ピチカート・ファイヴ」の創始者に独自の意見を聞いた！

取材・文／賀来 タクト 撮影／吉井 明

まず、小西さんの最初の「Bond 体験」を伺えますか。

小西 たぶん、子どもの頃にテレビで観た『ゴールドフィンガー』だと思います。中学1〜2年の頃だったんじゃないかな。思ったのは「あ、これがジェームズ・ボンドか」と。僕は60年代が小学生時代でしたけど、当時は国を挙げてスパイブームでしたね。とにかくテレビや漫画雑誌で「00X」っていうような数字を持っているスパイのキャラクターがふれていて、そういうカルチャーを浴びるようになっていました。だから、Bond 映画に触れる前に、最近リメイクされた『001 ナポレオン・ソロ』みたいな番組の方が「足早く近い存在になっていたところがありましたね。拔群に楽しいドラマでしたので。だから『ゴールドフィンガー』を見たときは「これが本家本元なのか」と。なんか、大人だな」って感じました笑。荒唐無稽なアイデアが出ていた作品だとは思いますが。でも、荒唐無稽ということでは、ほかのスパイ・スプーフの方がもっとひどかったから笑。『それ行けスマート』とかね。ああいう Bond 映画から派生したスプーフものって、シャンペンが出てきたりするような社交界の世界とか表現しきれないものじゃないですか。そういう意味で Bond 映画には驚いたかな。

——映画としてリッチに映ったところがあつたのでしょうか。

小西 そうそう。タキシードを着て出てくるし、またそれが似合っている。でも『ゴールドフィンガー』で Bond 映画にすぐに引き込まれるとい

うこともなくて。記号としてのスパイ映画として惹かれたというか。僕、60年代カルチャー全般のファンでして、ピチカート・ファイヴというバンドもそういうものをモチーフにしていたから。その意味では興味はあったんですけど、映画ファンとしては最近の『スカイフォール』が一番好きな Bond 映画かもしれない。あれ、メチャクチャよくできている映画じゃないですか。ダニエル・クレイグもサム・メンデスも本気を出している感じがあつて。増村保造（※1）監督みたいに、アイロニックな映画も作るけど娯楽映画を作ってもムチャクチャうまいっていう人なんじゃないですかね、サム・メンデスって。なんとなくそう思いました笑。だから、今度の『スペクター』は絶対観たい。

「スカイフォール」は間違っただけで、観ちゃったんですけど笑。やっぱり映画館でお金を払って観る方がいい。『スペクター』は劇場で観ます。ダニエル・クレイグとサム・メンデスのコンビは自信を持っていると思うんだよね。きつと強気で作ってきているんじゃないかな。

——では、60〜70年代の Bond 映画に対しては、作品そのものより、音楽面に惹かれた部分が大きかったのでしょうか。

小西 モンティ・ノーマンが作ったテーマ曲を含めて、あのへんのギターを使った音楽が60年代にいつべんにこちらに飛んで来たんです。『秘密諜報員』って曲、わかります？「ナポレオン・ソロのテーマ」にしても、全部 Bond のテーマ曲に似ているんだけど、ちょっと違うっていう。



写真右から『ゴールドフィンガー』『ダイヤモンドは永遠に』『ムーンレイカー』と3曲もの主題歌を歌った英国人歌手シャーリー・バッシュー。『私を愛したスパイ』の主題歌が全米2位の大ヒットとなったカーリー・サイモン。シリーズの中でも異色と言われる『死ぬのは奴らだ』の主題歌を担当したポール・マッカートニー&ウイングス。

注1 強烈な自我を持つ人間を描く戦後派の旗手。風刺映画からメロドラマまで幅広く手掛けた。代表作に『兵隊やくざ』『赤い天使』など。

もう、ただギターのリフの世界（笑）。

ああいうのがすごく僕好きで。で、90年代に入った頃かな『Tea & X』という雑誌の編集長だった岡本仁さんという誘われて、メンズビギのPR誌の編集を手伝ったことがあつて。その第1号の特集がジャック・タチで、第2号がジェームズ・ボンドの特集だったんです。ちなみに、第3号がエキゾチカの特集でしたけど笑。そのジェームズ・ボンドの特集のときに、ソノシートを付録に付けることになつて、僕「トウイギー対ジェームズ・ボンド」という曲を作ったんです。それを発展させたのがピチカート・ファイヴで作った「トウイギー・トウイギー」という曲。その曲のおかげでピチカート・ファイヴは海外デビューすることができて、ワールドツアーにも出られましたから。そういう意味ではジェームズ・ボンドとトウイギーのおかげというか、ジェームズ・ボンドに借りがあるんですね笑。

——やはりギターのリフが根っこにあつたわけですか。

小西 ええ、そのまま借用するわけにはいかないですから。Bond のテーマ曲って、メロディーはマイナーキーじゃないですか。それをメジャーのキーに乗せてヴォーシングを変えただけです。

——ピチカート・ファイヴが放つオシャレな気分というのは、Bond 映画から香ったギターのリフと60年代カルチャーの合わせ技ということになるのでしょうか。

小西 そうですね。一目でわかる、一言でわかる、というか。2小節聴けばわかる、みたいな。そういう記号

みたいなものが僕は大好きなんです。あのへん感覚がジェームズ・ボンドとかトウイギーって60年代の象徴だったんですね。

—— Bond 映画の主題歌についてはどんな感触がありますか。

小西 好きですよ。『私を愛したスパイ』のカーリー・サイモンの主題歌なんていいですよ。ショーン・コネリーが Bond 役をやめてからの Bond 映画でいくと、一番好きなのは「死ぬのは奴らだ」かなあ。主題歌はポール・マッカートニーで。あれは最高。ショーン・コネリー時代だと『ダイヤモンドは永遠に』のシャーリー・バッシューが一番好き。

——「死ぬのは奴らだ」は劇音楽面の担当もジョージ・マーティンでして、異色の感じもありますね。

小西 異色といったら、カーリー・サイモンの方が異色じゃないでしょうかね笑。

——確かに、おっしゃるとおりかもしれませんが。考えてみれば、Bond 映画って、どこが異色、反則かという結構悩むところが多いです。

小西 そうなんです。あのビートルズの時代に、あえてシャーリー・バッシューを使うところもね。でも長い目で見ると、それがドンピシャだという。それがすごい。

——同じシャーリー・バッシューが歌った『ゴールドフィンガー』はそんなに残らなかったですか。

小西 それほど好きじゃないんですよ。変な曲じゃないですか。旋律が変笑。『ダイヤモンドは永遠に』の方が全然好きですね。イギリスにパチエラズっていうレターメンみた

いな3人組がいて、そのバチエラーズのカバー・バージョンが死ぬほど好きですね。なんかね、すごく寂しい曲なんです(笑)。DJでかけても全然受けないんだけど、あれは最高。こんないい曲だったんだって思わせくれたというか。

——ポンド映画というと、ジョン・バリーへの思い入れを強く持たれる方が多いシリーズではありますけど、そのあたりはいかがですか。

小西 映画音楽は好きで一通り聴いたんだけど、ジョン・バリーって普通に素晴らしいと思うことはありましたが、すごいって思ったことはあまりないですね。今のところ別格に好き、ということはないです。作曲家というよりはジェーン・バークンの最初の旦那で悔しいっていう、そういう思いの方が大きいかもしれない(笑)。古今東西、作曲家は美人女優と結婚する、みたいな鉄則があるというか。

——バリーは色男でしたから。

小西 うん。でも、ジェーン・バークンも逃げていったしね(笑)。

——ポンド映画にもジェーン・バークンのような小悪魔的な美人女優がいっぱい出ていますけど。

小西 ポンドガールでは誰が一番好きですか？

——僕はダニエル・ピアンキです。
小西 同じだ！ ダニエル・ピアンキと浜美枝ですよ！ 浜美枝は『007は二度死ぬ』単体でというよりは彼女のフィルモグラフィ全般においてということですけど(笑)、ダニエル・ピアンキは最高。ポイントはやっぱ裸にチヨーカーを付けてい

るっていうところじゃないですかね。あれに尽きます(笑)。あの格好をしてたら誰でもよかったのかもしれないけど(笑)、でもいいですよ、あは。あと、あのいい映画でそのままパツと消えたからっていうのもあるかもしれない。その後のキャリアを見せなかったじゃないですか。それがよかったのかも。『ゴールドフィンガー』と同じで、最初はやっぱりテレビで観ました。ロッチ・レーニャが出ていたのも「ロシアより愛をこめて」ですよ。靴にナイフがついているっていう。悪役ではあれが最高笑。

——ダニエル・ピアンキがお好きという点では王道のポンド映画ファンかもしれません。

小西 結局、ショーン・コネリー以外のジェームズ・ポンドって、普通に観たらどこか見劣りする分すごくみんな頑張っているじゃないですか。だから映画そのものは観ると面白いんですよ。記号としてのジェームズ・ポンドは一人勝ちだとは思いますが。

——ピチカート・ファイヴのアルバムに「女王陛下のピチカート・ファイヴ」がありますね。あのタイトルを見ると「女王陛下の007」に思い入れが

小西 タイトルとして好きだったんです。やっぱり「ピチカート・ファイヴは二度死ぬ」ではマズイじゃないですか(笑)。でも「女王陛下の007」のそののシーンは名シーンですよ。あと、ポンド映画というタイトルデザインですか。

——モリス・ジンの？
小西 ええ。今も伝統を守っていますけど、あれがないとね、ポンド映画

——音楽にディヴィッド・グリーンも絡んでいましたけど、テーマ曲は「ナポレオン・ソロ」のジェリー・ゴールドスミスを引き継いでいました。ゴールドスミスといえば「電撃フリント」も音楽を担当しています。
小西 「フリント」は2本作品があるうちのいい方のテーマがワルツな

していた映画音楽の作曲家たちって、みんなすごいですよ。みんなヘンリー・マンシーの弟子ともいえるし。——マンシーが敷いたジャズの路線は影響が大きかったと思います。
小西 モンティ・ノーマンが書いたポンド映画のテーマ曲も元を正せばマンシーが書いた「ピーター・ガン」だ

記号としてのジェームズ・ポンドは一人勝ちじゃないかな



こにし・やすはる
85年にピチカート・ファイヴとしてデビュー。作曲家、プロデューサー、DJ、ミキサー等幅広く活躍する音楽家。その独自のセンスは国内外問わず高い評価を得ている。

んです。『ユア・ソウ・ウィ・フェイス』っていういい曲なんですけど。
——「電撃フリント」/「アタック作戦」の楽曲ですね。
小西 だけど、ワルツだから、DJでは使にくいっていう(笑)。ジェリー・ゴールドスミスは好きですよ。ゴールドスミスだけじゃなく、60年代に活躍

と思うんだよね。ルーツにあると思う。カッコイイ曲ですよ、あれ。無論「ピーター・ガン」にも何かのルーツがあるんじゃないけど。ジミー・フォレストの「ナイトトレイン」のリフトを聴いて「これがいんじゃないか」ってマンシーは考えたんじゃないかな。そうやって元をたどろうとする

小西 それと、みんな映画には美女を見にくいものなんだっていうこと。もね(笑)。突き詰めると当たり前のことがすべてそろっている。拳銃、美女、車。映画のルーツはそこだと



モンティ・ノーマン
元祖「ジェームズ・ポンドのテーマ」を作したモンティ・ノーマン(右)と「ドクター・ノオ」の挿入歌を歌っているノーマン夫人のダイアナ・クブランド(左)。



「私を愛したスパイ」
(ユニバーサル ミュージック)
カーリー・サイモンが歌う主題歌はシリーズの中でも人気を誇る。音楽はマーヴィン・ハムリッシュが担当。



「ダイヤモンドは永遠に」
(ユニバーサル ミュージック)
シャーリー・バッシュが歌った主題歌が大ヒットし「ゴールドフィンガー」と並ぶ彼女の代表作に。作曲はジョン・バリー。



「死ぬのは奴らだ」
(ユニバーサル ミュージック)
ポール・マッカートニー & ウィングスはロックバンドとして初めて主題歌を担当。ビートルズのプロデューサー、ジョージ・マーティンが音楽を担当。



ジョン・バリー
ノーマン作曲のテーマ曲の編曲を担当したジョン・バリー。その後もシリーズ11作品の音楽を手掛けている。

は。あのタイトルデザイン自体が60年代的です。プロデューサーのアルバート・ブロッコリも含めて、ポンドのプロジェクトに関わっている人全体がどこかで60年代の記号を残そうとしているんじゃないかって感じがあります。「スカイフォール」にもそのへんの感覚がすごく残っていますよ。

——「スカイフォール」、本当にお気に入りですね！

小西 やっぱダニエル・クレイグが自分のイメージしているジェームズ・ポンドにじっくり来たんだろうな。シャーブに見えるし。ルックスだけだと、どちらかというとステイヴ・マックイーンに似ているんだよね。マックイーンは最高ですよ。大好きです。ダニエル・クレイグにマックイーンのいい意味でのアメリカの田舎っぽさはないけども(笑)。

——マックイーンも60年代のアイコンではあります。

小西 「華麗なる賭け」は似合っていない役だったな。好きなんですけどね。「大脱走」とかは似合っている、マックイーン。「暴力脱獄」は誰が主演でしたっけ？

——ポール・ニューマンです。

小西 音楽よかったですね。

——ラロ・シフリンです。シフリンの方がジョン・バリーより思い入れがありますか。

小西 個人的には、断然に(笑)。とにかくDJで一番使っているのは、テレビシリーズの「マニックス」の音楽。ラロ・シフリンが僕にとっての神様です。世界的にはきつと「スパイ大作戦」が一番有名でしょうけれど、あれもポンド映画が生んだス

カオなんか行くんだらう」と思ったりもしたこともあったけど、意外なロケ地を選ぶっていうことにもそれなりの考えがあったんだよね。

——エキゾチックな場所を出したいという一種のサバイス精神だったのではないかと。

小西 エキゾチックな場所だと薄着の女性も出しやすいからね(笑)。僕アイコン・フレミングの原作は読んだことがないんですけど、フレミングの小説も古き良き時代のハードボイルド小説を引きずっているんじゃないかな。

——探偵小説のカッコよさを多分に継承しているかもしれない。ポンドはスパイなのに名前を隠さないし、どこか伊達男を気取っています。

小西 そうだね、仮に偽名だとしても、スパイならもっと名前を隠した方がいいよね(笑)。ジョン・ル・カレの小説のスパイなんて、全然目立たないもんね。

——でも、そういうカッコイイ男を出すことで、拳銃、美女、車という三種の神器がついてくる、と。

小西 そう考えると、60年代が産み落としたものの中でも、いまだに残っている数少ない財産かもしれないね、ポンド映画って。

——今に至る小西さんの音楽活動というのは、60年代に魅了されたご自身にプレゼントを贈り続けているような感覚があります。「あの頃に受けた感動って何だろう」という答え探しも兼ねていらつしやるといふか。
小西 そうかもしれない。誰しも中学校以前って、世界中がワクワク

バイスブーフですね。シフリンには「女狐」っていう名作もあります。

小西 「女狐」！ 最高！

——60年代のシフリンはジャズロックのフュージョン音楽でカッコイイ音を鳴らしていましたね。

小西 シフリンはアルゼンチン出身でしょう？

——ブエノスアイレス生まれです。

小西 ちょっと違いますよ。

——ジャズについてもちょっとほかと感覚が違うと思います。ラロ・シフリンが音楽を書いた「スパイ大作戦」もそうですが、60年代のスパイスブーフという、映画では「電撃フリント」もあります。

小西 「フリント」というとジェームズ・ボーンですか。あともっとダメなのがデイン・マーチンが演じたマッドヘルムね「サイレンサー」シリーズの笑。

——「サイレンサー」も音楽はフロ・シフリンが書いていましたね。小西さんはもしかしたらポンドよりもポンドが生んだヘタレたちの方に愛着が深いかもしれませんね。

小西 そうですね。記号として使いやすい方が好きです(笑)。

——「001ナポレオン・ソロ」への愛着も同じじゃないですか。あれには女性版の「0022アンクルの女」という番組もありました。

小西 あ、ありましたね。テレビで観ていました。「ナポレオン・ソロ」の薄い感じでしたけど(笑)。レックス・ハリソンの息子のノエル・ハリソンが出ていましたよね。DJでは人気のアルバムですよ。今も全然、現役のレコードですから。

する感じで見えたわけじゃないですか。それが僕の場合、ちょうど時代とリンクしたというか、重なったから。余計に病が重くなったんです(笑)。作曲家になれば可愛い女の子がついてくるんじゃないかって思ったりして、それを現実によつとしかくちなんです(笑)。

——美女がついてきましたか？

小西 ノーコメントです(笑)。



右上『0011 ナポレオン・ソロ (The Man from U.N.C.L.E.)』(RCA)
60年代半ばからテレビ放映され、日米で人気を博したスパイ活劇シリーズ。ウーゴ・モンテネグロがジェリー・ゴールドスミスの楽曲を新編曲して制作したアルバムは当時大ヒットとなった。
右下『スパイ大作戦 Mission: Impossible - the Television Scores』
(La-La Land Records) 60年代～70年代にかけてTV放映された『スパイ大作戦』の音楽はラロ・シフリン中心作曲家となって生まれた。
左上『電撃フリント・アタック作戦』(Intrada Records)
60年代スパイ活劇の一翼を担った人気シリーズ第2弾。ジャズ味をふんだんに盛り込んだ軽快な音楽アプローチはオシャレ&ユーモアたっぷり！
左下『女王陛下のピチカート・ファイヴ』(ソニー・ミュージックダイレクト)
89年に発売されたピチカート・ファイヴ3作目のオリジナルアルバム。スパイ映画のようなめくるめくスタイリッシュ・サウンドが詰まった一枚。

全24作品のbond吹替版リスト

第1作 ショーン・コネリー 『ドクター・ノオ』	TV 若山弦蔵 DVD 若山弦蔵
第2作 ショーン・コネリー 『ロシアより愛をこめて』	TV 若山弦蔵、日高晤郎 DVD 若山弦蔵
第3作 ショーン・コネリー 『ゴールドフィンガー』	TV 若山弦蔵、日高晤郎 DVD 若山弦蔵
第4作 ショーン・コネリー 『サンダーボール作戦』	TV 若山弦蔵 DVD 若山弦蔵
第5作 ショーン・コネリー 『007は二度死ぬ』	TV 若山弦蔵 DVD 若山弦蔵
第6作 ジョージ・レーゼンビー 『女王陛下の007』	TV 広川太一郎 DVD 小杉十郎太
第7作 ショーン・コネリー 『ダイヤモンドは永遠に』	TV 若山弦蔵、内海賢二 DVD 若山弦蔵
第8作 ロジャー・ムーア 『死ぬのは奴らだ』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第9作 ロジャー・ムーア 『黄金銃を持つ男』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第10作 ロジャー・ムーア 『私を愛したスパイ』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第11作 ロジャー・ムーア 『ムーンレイカー』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第12作 ロジャー・ムーア 『ユア・アイズ・オンリー』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第13作 ロジャー・ムーア 『オクトパシー』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第14作 ロジャー・ムーア 『美しき獲物たち』	TV 広川太一郎 DVD 広川太一郎
第15作 ティモシー・ダルトン 『リビング・デイズ』	TV 鈴置洋孝、小川真司 DVD 大塚芳忠
第16作 ティモシー・ダルトン 『消されたライセンス』	TV 小川真司、山寺宏一 DVD ビデオ 大塚芳忠、田中秀幸
第17作 ピアース・ブロスナン 『ゴールデンアイ』	TV 田中秀幸 DVD 神谷明 ゲーム 平井誠一
第18作 ピアース・ブロスナン 『トゥモロー・ネバー・ダイ』	TV 田中秀幸、江原正士 DVD 神谷明
第19作 ピアース・ブロスナン 『ワールド・イズ・ノット・イナフ』	TV 田中秀幸 DVD 横島亘
第20作 ピアース・ブロスナン 『ダイアナサー・デイ』	TV 田中秀幸 DVD 横島亘
第21作 ダニエル・クレイグ 『カジノ・ロワイヤル』	TV 藤真秀 DVD 小杉十郎太
第22作 ダニエル・クレイグ 『慰めの報酬』	TV 小杉十郎太 DVD 小杉十郎太、藤真秀
第23作 ダニエル・クレイグ 『スカイフォール』	TV 藤真秀 DVD 藤真秀
第24作 ダニエル・クレイグ 『007 スペクター』	劇場 藤真秀

※『慰めの報酬』はフォックス版が小杉十郎太、キング版は藤真秀を収録している

6人のbondを吹き替えた声優たち

日高コネリー、若山コネリー、広川ムーアに関しては総論を参照。ティモシー・ダルトンは自身のbond・イメージをつかみきれないうちに登板が終わった感があるが、吹替にもそれは表れていて、TBSの小川真司、テレ朝の鈴置洋孝、山寺宏一、ソフト版の大塚芳忠、田中秀幸と出演作は2本なのに担当声優は最多。ピアース・ブ

ロスナンはソフト版では神谷明と横島亘、フジで江原正士、だが印象が強いのはテレ朝版で全作担当のクールな田中秀幸bondだろう(ただし神谷ファンも多い)。ダニエル・クレイグは、やはりテレ朝版の藤真秀が新鮮かつイメージもよく合っていて『スカイフォール』以後はオフィシャル版も担当することになった。テレ朝強し。



敵役・脇役にあんな声優が!

なにせ長いシリーズなので『ロシアより愛をこめて』のロバート・ショウ(内海賢二)がbondに「なあ大将」と話しかけるなど、時代が感じられるセリフも。初期TBS版は悪役もテリー・サヴァラスは森山周一郎、クリストファー・リーは千葉耕市、クリストファー・ウォーケン(野沢那智、と定番を外さない。あとは歴代bond

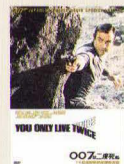
ガール=沢たまき、武藤礼子、鈴木弘子、宗形智子、小宮和枝、田島令子、岡本茉莉、玉川砂記子、滝沢久美子、小原乃梨子、清水良英、弥永和子、戸田恵子、来宮良子、勝生真沙子、深見梨加、田中敦子、小山美美、日野由利加、佐々木優子、安藤麻吹、冬馬由美、武田華らの美女声に身もたえてください。



とり・みきのオススメ! 日本語吹替版の一番の傑作は…

一番好きな吹替はイコール一番好きなbond映画ということになる。世評では『ロシアより愛をこめて』『スカイフォール』のハード路線が人気が高いが、bond映画は誤解したエキゾチシズムも魅力と思っている私の一推しは『007は二度死ぬ』。丹波哲郎と浜美枝の本人吹替

により吹替版の意義や弱点も感じられるメタ構造に。まだ新人の伊武雅刀や若本規夫らの声が聞こえてくるのも楽しい。あとキング版『慰めの報酬』は、江原正士、大塚芳忠、内海賢二、大塚周夫、沢田敏子など『007』シリーズゆかりの方の出演が多く感涙ものです。



『007は二度死ぬ』

『007 TV放送吹替初収録 特別版DVD-BOX』 第一期～第四期

第一、四期は各1万8000円、第二、三期は各1万5000円 発売/キングレコード

今までテレビで放映されてきた全バージョンの吹替版が収録された4BOXが発売中。単品も各1900円で発売中。



二度死ぬ』では、丹波哲郎と浜美枝をちゃんと本人が吹き替えているのも貴重。これは当時のテレビ吹替ではなかなか実現しないことだった。続くジョージ・レーゼンビー、そしてロジャー・ムーアは広川太一郎が担当。広川と言えば原典から逸脱した独自のギャグを機関銃のように織り込む過剰な吹替がおなじみだが、ここでは佐藤敏夫ディレクターが「ギャグは封印して演ってもらった」と語るとおり、徹底して二の線で演じている。このお二人のbondのイメージはやはり別格で不動のものがあ、後年再録音されたソフト版の吹替でもコネリーは若山が、ムーアは広川が担当している。

その後のbondは放映局もばらけ、かつてほど声優のフィックス同じ俳優を特定の声優が担当するシステムも重視されなくなってきたので、ソフト版も含めると群雄割拠状態に。名前を列挙しているとそれだけで文字数を使い切ってしまうので総論ではしよらせていただくが、先に述べたとおりシリーズの魅力は主役だけではない。歴代bondガール、M、Q、マネーペニーの情報部トリオ、そしてもちろんプロフェルド他の敵役たちも忘れてはいけない(一人だけ名前をあげるなら『ダイヤモンドは永遠に』のコネリーも含め、シリーズ最多登場の内海賢二に注目)。

これらの声の変遷はそのまま日本の吹替の歴史でもある。新作『スペクター』の日本語版も期待大。どうやらダニエル・クレイグのbondは藤真秀に統一されつつあるようだ。

洋画の吹替版に日本一詳しいライター、とり・みきが教える

「007」シリーズは、日本語吹替版こそ傑作ぞろい!

テレビ放送された日本語吹替版のBOXが発売されるなど、「007」シリーズは全作品の吹替版が存在する。このシリーズ、実は字幕よりも吹替版で観たという人が多いのでは?

©Everett Collection/AFLO

日本語ならではの魅力あり

とり・みき マンガ家。最新作はヤマザキマリとの合作『プリニウス』。吹替愛家としても活躍し、『とり・みきの映画吹替王』等の著書がある。

テレビ放送された日本語吹替版のBOXが発売されるなど、「007」シリーズは全作品の吹替版が存在する。このシリーズ、実は字幕よりも吹替版で観たという人が多いのでは?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?



愛の安売りはいけないよ

なんてステキなの

『ユア・アイズ・オンリー』で、リン=ホリー・ジョンソン扮するビビとbondの会話。「愛の安売りはいけないよ」というセリフの字幕は「ビビ浮気な娘だな」。女好きのbondらしい自然なセリフに変更されている

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

逆にし、地上波では吹替ばかり、逆にソフトでは日本語版収録が少なく、劇場版吹替など皆無だった時代では、字幕派に対してカットありの洋画劇場の吹替を擁護するのは、それなりの理論武装が必要だった。筆者もあれこれ面倒くさい理屈をこねくりまわしてきたものだ。けれど今なら、たぶんテレビの吹替番組を楽しんでいる、特にマニアでない大多数の人たちが思っている本音を、私も堂々と言える。だって楽でしょう?

コトブキツカサ

『007スペクター』は過去作へのオマージュがたっぷり入ってます

すぐ近くにダニエルがいて...
すぐく特別な想いをさせてもらえました

有田哲平



有田哲平が、ロイヤル・アルバート・ホールに君臨!!

ことぶき・つかさ 1973年、静岡県出身。映画心理カウンセラーとしてテレビ、ラジオ、雑誌などで活躍中。『白熱ライブ ビビット』(TBS)などに出演。『DVD & ブルーレイVISION』『週刊プレイボーイ』『EX大衆』などで連載コラムを揃えている。映画の年間鑑賞数は約500本。

ありた・てつぺい 1971年、熊本県出身。お笑いコンビ『くりいむしちゅー』のボケ担当。現在、『ハナタカ!優越館』(テレビ朝日)、『私の何がイケないの?』(TBS)、『しゃべくり007』『愛された女と独身有田』(日本テレビ)などのレギュラー番組を抱えている。

有田哲平×コトブキツカサが “ロイヤルプレミア”に 行っちゃった!!

新作『007 スペクター』の公式アンバサダーに就任した有田哲平と、事務所の後輩であり映画パーソナリティのコトブキツカサが、先日英ロンドンで開催されたロイヤルプレミアに出席。レッドカーペットを歩いた感想や『007』シリーズに対する想いなどを聞いてみた!

取材・文/酒井俊之 撮影/三橋優美子



有田が公式アンバサダーに就任することになった際の会見の様。手に持っている認定書には、製作を手がけたマイケル・G・ウィルソンとバーバラ・ブロッコリのサインが入っており、これはとても貴重なものなのだとか。

コトブキ 有田さんは新作『007 スペクター』の公式アンバサダーになったんですよ。凄いです! オファーが来た時の気持ちってどうでしたか?

有田 そりゃビックリしたよ。

コトブキ 『007』シリーズは子供の頃からずっと好きだったからね。

コトブキ ですよ。子供の頃からだったんですね?

有田 そう。もともとちょっとマセてたんだよね。兄貴の影響で幼稚園の頃からビートルズを聴いているような子供だったから。

コトブキ 幼稚園でビートルズ? それは知らなかったです!

有田 友達に『東映まんが祭り』とか観てる時に、もうブルース・リーの映画とか『ゴッドファーザー』を観てたから。その頃から観てたんだよ、『007』シリーズも。

コトブキ それはマセてますよ。どの作品からですか?

有田 もうロジャー・ムーアの頃から。テレビだったかもしれないけれど『死ぬのは奴らだ』とかよく憶えてる。ポール・マッカートニーの主題歌も好きだったし。一番何回も観てるのは『007 二度死ぬ』なんだよね。テレビの洋画劇場でも映画館でも必ず観てた。だからボクにとってあまり人気がない2代目ボンドのジョージ・レーゼンビーはとってもメジャーな存在だね。

コトブキ マアですね(笑)。

有田 中学生になってようやく友達と映画館に『007』を観に行くようになったって「面白い!」って騒いでた頃に「なんかロジャー・ムーアはしつくりこないんだよね」なんて、冗談でカッつけて言うような感じだったよ。マセてたから(笑)。

コトブキ 有田さんらしいですね。有田さんとは普段から映画の話をよくしてるんですが、最近は何に『007』の話題が多いですよ?

有田 ボンドがダニエル・クレイグになってから『007』熱が完全に復活したというか、ハマってるんだよね。

コトブキ ダニエル・クレイグ、お気に入りですね。

有田 たぶんこれまででみたいなお洒落でカッコイイ感じになるんだろうな。って思ってたから、すごく泥臭い感じがあつてびっくりしたんだよ。『カジノ・ロワイヤル』はそれがすごく良かった。映画が始まって、最初のアクション・シーケンスで好きになっちゃった。

コトブキ それはボクもさんさん聞かされてます(笑)。

有田 そんな話をこれまでもテレビの番組とかで話してたんだよね。だから今回のアンバサダーのお話もそんな経緯があつてオファーがあつたのかなあ。

コトブキ それはきつとそうなんじゃないですか?

有田 でもこれまで、そんなに熱っぽく『007』ファンだつてことを言ってきたわけじゃなかったから、びっくりしたよ。「え! ボクでいいのかな」って。でもすごくうれしかったな。

コトブキ いや、ビッパリだと思いませんよ。有田さんは本当に映画が大好きです。ボクが今映画のパーソナリティをやらせていただくようになったのは有田さんのおかげもありますよ。

有田 え? そーなの?

コトブキ 最初、芸人をやった時に「お前、ネタは面白くないけど映画の話は面白いよなあ」って。有田さんがそう言うてくださったのもきっかけになってるんですよ。

有田 そんなこともあつたっけな。

コトブキ 映画の話をするって説得力があるってホメてもらったのを今でもよく憶えています。

有田 まー確かに芸人としては面白くなかったもんな(笑)。

コトブキ アンバサダー就任のニュースを見ましたよ。ちゃんと認定書があつて。

有田 それがね、すごいんだよ。『007』シリーズのプロデューサーのサインが入ってる。

コトブキ 有田さん、それめっちゃめちゃ貴重ですよ。

有田 配給会社のスタッフからもそれはさんさん言われた。価値があるものなのでなかなか手に入りませんよ。うちに飾ろうと思ってる(笑)。

コトブキ アンバサダーとして、ロンドンで開催された『007 スペクター』のロイヤルプレミアに出席されたんですね。ボクもロイヤルプレミアに参加させてもらいましたが、前日からテンションがあがりっぱなしでした。

有田 そう。またダニエル・クレイグの作品を『カジノ・ロワイヤル』から全部観直したしね。プレミアの前日の食事の時は、みんなで『スペクター』の物語がどうなってるか、予想し合ったりして。

コトブキ 有田さん、めっちゃ熱入ってましたもんね。

有田 そしたらさ、うちのマネージャーが『007』シリーズは観てないっていうんだよ! ロンドンまで来て!

コトブキ 怒ってましたね(笑)。

有田 だってロイヤルプレミアまでわざわざ来てるんだよ。何をやってんだと。説教しちゃったよ、『007』ファンとして。

コトブキ 飛行機の中で『スカイフオール』も流れてましたよね、確か。

有田 別の映画を観てましたって言うんだよ!

コトブキ あーもったいない。

有田 でもそれくらい盛り上がりつたよね。

コトブキ ロイヤルプレミアに参加した感想を聞かせてください。

有田 もう会場のロイヤル・アルバート・ホールだけじゃなくて、街全体が『007』一色。

コトブキ そうでした。雰囲気まるっきり違いました。レッドカーベツトもファンがぎっしり詰まっていた。凄く熱気でした。

有田 ボクもそのレッドカーベツトを歩かせてもらったんだけど、でも現地の人たち、ボクのことなんか全然知らないからさ(笑)。

コトブキ でもたまにそのなかに日本人の方たちがいて。

有田 そう。そしたらやっと「ああ、あーあ!」って気づいてもらえて(笑)。で、ホールに入る直前にフォトセッションのコーナーがあつて、ボクもそこに立たせてもらった。

コトブキ 取材陣の数がハンパじゃなかったですよ。

有田 そう。もうバシバシバシバシってみんないっせいにシャッター切ってたね。ボク、スターになったのかなって(笑)。

理想の秘書?

愛しのマネーペニー

危険な任務から生還したボンドを、いつもやさしく出迎えるマネーペニー。自分への好意を隠さない彼女を軽かわし続けるボンドだが、実はボンドが彼女に対して常に敬意を払っている事にお気づきだろうか。例えば、ボンドが彼女をファーストネームで呼ぶ事は無いし、部屋に入るなり帽子を飛ばす事はしても、彼女の目の前では絶対に帽子を脱いだりはしない。そして何より、あれ程数々の美女たちと一夜を共にしてきたボンドが、マネーペニーとは決して

深い関係になろうとはしないのだ。彼女の方も、二人の関係が進展してお互いの仕事に影響が出る事を恐れてか、今のままの関係を楽しんでいる様にも見える。ひょっとしたら、一流の情報部員としてのボンドの姿に、彼女は惹かれているのかも知れない。お互いを仕事のプロとして認識して、決して一線を越えようとはしない二人だが、ボンドの行動から推測すると、実は彼の本命はマネーペニーなのかもしれない。

本名・イヴ・マネーペニー
(『カジノ・ロワイヤル』以降)
旧シリーズにおいては、ジェーン・英国秘密情報部長官であるMの有能な秘書。



ボンドと魅せる大人の関係

記念すべき第1作の『ドクター・ノオ』において、すでにボンドとマネーペニーの軽妙でセクシャルな会話はシリーズの売り物の一つだった。2人の息はぴったり合っていて、時に彼女の一方通行のように思える時もあるのだが、二人は互いに相手の事をよく理解し合っており、片想いの男女というより親友同士という印象を残す。



危機を救う!! 完璧なサポート

『女王陛下の007』で、ボンドが怒りにまかせて書いた辞表を、後から休暇願いに書き換えておいたりする、咄嗟の判断力。『死ぬのは奴らだ』では、ボンドの自宅に押しかけたMの目から、お相手の女性を上手く匿って逃がすなど、そのサポートは公私に渡る。



ファッションもおまかせ!

「眼鏡をかけた、平凡な秘書は嫌だ」という、ロイス・マクスウェルの提案により、マネーペニーのファッションの方向性は決定した。実際、『ドクター・ノオ』での衣装は彼女の私服だったが、それによって原作通りの魅力的なマネーペニーが誕生したのだった。



famous scene of Miss Moneypenny



1.『女王陛下の007』より。ボンドの結婚式で見せるマネーペニーの涙は、シリーズ中屈指の名場面。ロイス・マクスウェルの名演技が、のちに続く悲劇を更に際立たせる。2.『ロシアより愛をこめて』より。この後、タチアナの写真にボンドが付け足した「With Love」の文字。ひょっとして、マネーペニーに向けられたものだったかも? 3.『美しい獲物たち』より。ロイス・マクスウェルの最後の出演作を記念してか、皆で着飾って競馬場に行く場面。彼女だけでなく、ファンにとっても良い思い出になった。4.『リビング・デイズ』で、ボンドに「バリー・マニロウのレコードを聴きにこない?」と誘う場面。若くて恋に不器用な、二代目マネーペニーの性格を表す名シーンと言える。

長年に渡るシリーズだけに、写真で紹介した以外にも歴代マネーペニーの名場面は数多く存在する。『オクトパシー』では、当初本作で二代目マネーペニーを演じるはずだったミカエル・クラヴェルが、助手のベネロープ・スモールボーンとして出演、最初で最後の共演を果たしている。『ダイヤモンドは永遠に』では、珍しく本編

中にMのオフィスが登場しないため、なんと税関職員に変装して登場。契約上映画で着用した衣装は持ち帰りOKだったため、ロイス・マクスウェルは税関職員の制服を貰って帰ったそう。『ダイアナザ・デイ』中で遂に実現したボンドとのキスシーンも、バーチャル空間での出来事とはいえ、ファンには嬉しい驚きだった。

歴代マネーペニー

1962	1987	1995	2012
ロイス・マクスウェル 1927年、カナダ生まれ。シリーズ中14本連続の出演は歴代最多であり、ジョン・コネリーからロジャー・ムアまでの3人のボンドに仕えた。彼女の持ち味である「ユーモアと優しさ」は、シリーズにおけるマネーペニーの基本イメージを決定したと言える。	キャロライン・プリス 1961年、イギリス生まれ。T-ダルトンの主演作2本に出演。26歳という、歴代で最も若い年齢でマネーペニーを演じた。シリーズ初のメガネ姿に魅了された人は多い。	サマンサ・ボンド 1961年、イギリス生まれ。2代目のキャロライン・プリスとは、同年にして友人同士の関係だった。シリーズで初めて、ボンドとのキスシーンを演じた事でも有名。	ナオミ・ハリス 1976年、イギリス生まれ。黒人として初めてマネーペニーを演じた。すでに数々のエンターテインメント作品でキャリアを重ねていただけに、ボンドに負けないアクションを見せる。



有田とコトブキが出席したロイヤルプレミアと大英博物館で行われたパーティの様。すぐ目の前でダニエル・クレイグやモニカ・ベルッチが取材を受けていた。コトブキはモニカと言葉を交わしたようだ。有田はパーティでサム・スミスとの2ショット撮影に成功。楽しそうな雰囲気が写真に表れている。

コトブキ その様子を見てましたけど、会場の大スクリーンに有田さんが映って感動しちゃいましたよ。
有田 レッドカーペットでは歴代の主題歌がずっと流れてたんだけど、ちょうどフォトセッションの場所にいる時に、大好きなデューラン・デュランの「美しい獲物たち」がかかってた。余計に興奮した。
コトブキ 日本の報道陣からのインタビューを有田さんが受けているすぐそばで、ダニエル・クレイグが別のインタビューに答えていたりして。
有田 そう。横にマネーペニーがいたりね。すごく特別な想いをさせてもらえた。
コトブキ 有田さん越しのダニエル・クレイグは、不思議な光景でしたよ。
有田 同じ試写会でも、日本とは違って国を挙げてのイベントという雰囲気だったのがビックリしたね。興奮してたけど、ちょっと身が引き締まる感じだった。
コトブキ ホールに入ってからはどうでした?
有田 女性も男性も全員観客がドレスアップしてるんだよね。
コトブキ 雲間気が全然違うと。
有田 そう。そこでみんなずっと待ってるわけよ。で、スクリーンにはレッドカーペットの様子が中継で流れていてそれをみんな見てる。シャンパングラスを手にして。
コトブキ シャレしてますよね。
有田 じゃあボクたちもってことで呑んでたんだけど、さっき言ったみたいに前日からテンションあがりっぱなしであんまり寝てない(笑)。でも興奮してずっと中継を見てたね。あ、今王室の方たちが到着した! 行ってね。で、ホールに入ってきたら全員、スタンディングして迎えるんだよ。みんないつせいに拍手して。
コトブキ それは滅多に経験できませんよ。
有田 そう。めちゃめちゃ興奮して感動した一瞬だよ。
コトブキ 本編は2時間半ありました。
有田 もちろんノンストップで観ただけで、あつという間だった。映画が始まったら最後まで。
コトブキ 映画を観てる時の雰囲気ってどんな感じだったんですか?
有田 もう日本で観るのは全然違う。みんなオーブニングから「うおーっ」って声あげてね。
コトブキ やっぱそういう映画なんですよ、「007」シリーズは。
有田 そう! だからボンドが最初のミッションを終えて、主題歌が流れる時なんか、サッカーでゴールしたみたいにみんなどよめくんだよ。
コトブキ そういふのはさすが英国っていうか、日本では考えられませんがね。
有田 映画のなかでなんかあったら、そのたびにみんな「フー」って声あげてね。盛り上がり方っていうか、楽しみ方がまるっきり違う。そういうのはなかなか味わえないよね。
コトブキ 映画のなかに入りこんじゃうんですね。
有田 でもさすがにロイヤルプレミアだし、みんな着飾って集まってるわけだから、大人しく観てるのかなって思ってた。熱狂ぶりはハンパじゃない

だった。ちょっとしたエッチなシーンでも「ヒューー!」って声出してね。王室の方たちとかそこにいらつしやるのに(笑)。でもそういうところにも開かれた感じっていうか自由な雰囲気があるんだね。
コトブキ さすが国民的な映画になってるんですね。「007」は。
有田 その後の大英博物館でのパーティも良かった!
コトブキ ですね。ボンドカーがずらっと並んでましたもんね。
有田 ここでもまたふつと見たら、キャストの人たちが普通にいてね。DJがいてクラブみたいなノリで。
コトブキ サム・スミスと一緒に写真撮りましたよね。
有田 そう! 彼がグラミー賞を獲得した時に「おまえ、サム・スミスに似てるな」って言われてた時があつて、チャンスがあったら絶対一緒に写真撮ろうって思ってたんだ。気さくに応じてくれたよね。
コトブキ 有田さん、普段は写真を一緒に撮ってくださってお願いされることが多いのに(笑)。
有田 ホントはダニエル・クレイグとも写真を撮りたかったんだけど、VIPルームがあつてそこにはたどり着けなくて。もう「いちファン」になっちゃったもん。
コトブキ ボクも有田さんとは長らくお付き合いさせていただいていますが、あんなに一生懸命に写真撮ってるのは初めて見ました(笑)。「スペクター」はどうでしたか?
有田 正直、字幕がないからわからないシーンもあったんだけど、映画が終わった後に配給会社の人にわか

かった。ちょっとしたエッチなシーンでも「ヒューー!」って声出してね。王室の方たちとかそこにいらつしやるのに(笑)。でもそういうところにも開かれた感じっていうか自由な雰囲気があるんだね。
コトブキ さすが国民的な映画になってるんですね。「007」は。
有田 その後の大英博物館でのパーティも良かった!
コトブキ ですね。ボンドカーがずらっと並んでましたもんね。
有田 ここでもまたふつと見たら、キャストの人たちが普通にいてね。DJがいてクラブみたいなノリで。
コトブキ サム・スミスと一緒に写真撮りましたよね。
有田 そう! 彼がグラミー賞を獲得した時に「おまえ、サム・スミスに似てるな」って言われてた時があつて、チャンスがあったら絶対一緒に写真撮ろうって思ってたんだ。気さくに応じてくれたよね。
コトブキ 有田さん、普段は写真を一緒に撮ってくださってお願いされることが多いのに(笑)。
有田 ホントはダニエル・クレイグとも写真を撮りたかったんだけど、VIPルームがあつてそこにはたどり着けなくて。もう「いちファン」になっちゃったもん。
コトブキ ボクも有田さんとは長らくお付き合いさせていただいていますが、あんなに一生懸命に写真撮ってるのは初めて見ました(笑)。「スペクター」はどうでしたか?
有田 正直、字幕がないからわからないシーンもあったんだけど、映画が終わった後に配給会社の人にわか

らなかつたところを聞いて、「え! そういうことになってたのか!」って話を聞いているだけで鳥肌が立つちゃって(笑)。
コトブキ 後でわかってても興奮できちゃう(笑)。
有田 そういう意味でもちょっと貴重な体験だったね。
コトブキ ダニエル・クレイグ作品のシリーズではどういう評価ですか?
有田 『スカイフォール』も好きだけど、『スペクター』はもう最高傑作だと思うよ。今から次の新作が楽しみだもん。そう思える作品だった。
コトブキ いろんな意味で原点回帰的な作品ですよね。ダニエル・クレイグの新しいボンド映画のテストと昔の懐かしい雲間気のバランスがいいと思うんですよ。
有田 もう気分が盛り上がりつつあって、ロイヤルプレミアから帰って来て羽田空港に着いて、すぐにそのままシリーズ全作の入ったブルーレイBOX、また注文しちゃったもん。全部観てるんだけど、改めて二作目から観直したくなる、そんな気分になされるんだよ。「スペクター」は。
コトブキ そういう楽しみ方が出来ますよね。過去作へのオマージュがたっぷり入ってます。
有田 新しいファンも昔からのファンも楽しめるんだよね。
コトブキ 有田さん、この調子で喋り続けるとネタバレになっちゃいますよ!
有田 そうだね。あ、また行きたいなあ、ロイヤルプレミア。ほんと楽しかった。またアンバサダーに選んでくれないかなあ。

ノベルティ

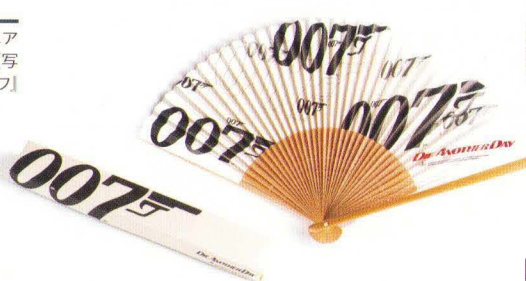


各種ピンバッジ

『ダイ・アナザー・デイ』の英国公開時にア
ストンマーティンの社員に配布されたもの(写
真左上)と、『ワールド・イズ・ノット・イナフ』
の日本版前売り券購入特典(写真右上)。

『カジノ・
ロワイヤル』
トランプ

劇場公開時、プロモ
ーション用に製作された
ノベルティ。登場人物
の写真を載せたトラン
プは、本作にふさわし
いグッズだ。



『ダイ・アナザー・デイ』扇子

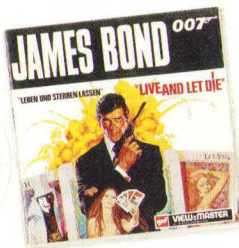
日本公開時、プロモーション用に日本で作られた
ノベルティ。扇子にちりばめられた『007』のロゴ
が印象的。こうした日本独自のものは珍しい。

レアな品から珍品まで

007 セレク

『スター・ウォーズ』の公開以前、映画の
えば『007』だった。王道のミニカー・宣
品まで、今なお魅了し続ける『007』

レア品 &
珍品
その②



3Dビューマスター用
フィルムリール
『死ぬのは奴らだ』

公開時にアメリカで販売された映
画の名場面をまとめたフィルムリ
ール。ビューマスターのフィルムは他
にも『ムーンレイカー』版も存在。

1954年TVドラマ版
『カジノ・ロワイヤル』
完全版ブルーレイ

バリー・ネルソン主演、シリー
ズ初の映像化作品。長らく
結末部分の映像が紛失され
ていたが、本作では完全版
で観ることができる。



ボンドガール仕様
マニキュアセット

OPIとボンドガールとのコラ
ボによる、『007』映画シリ
ーズ50周年記念ミニネ
イルセット。女性向けのこ
うしたグッズは珍しい。



『女王陛下の007』
フィリピン
公開時チラシ

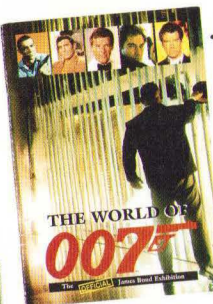
フィリピンで劇場公開され
た際に配布されたもの。日
本のチラシの倍の大きさで
両面印刷され劇中のワン
シーンが映し出されている。

BOOK



『BOND FEST '95』
パンフレット

95年開催、SpyGlobe 主催の上
映イベントのパンフレット。『ゴ
ールドフィンガー』『サンダー
ボール作戦』『女王陛下の007』
が上映された。



ジェームズ・ボンド
展覧会プログラム

97年に開催された公式展覧会イ
ベント『007の世界展』のプ
ログラム。中には
詳しい解説と、珍しい『007』展示
品の写真が満載。



スウェーデン版
『007』コミックス

60年代中頃から80年代までの
長きに渡ってスウェーデンで刊
行されていた、オリジナルストーリー
が展開する『007』のコミックス。



『ロシアより
愛をこめて』
& 『ゴールド
フィンガー』
中国版
コミックス

写真上が『ロシア〜』
下が『ゴールドフィン
ガー』。絵柄は作品ごと
に異なり、中には驚くほ
ど画力の低いものもあり
バラエティ豊か。



SHORT COLUMN 世界中でコミカライズされる『007』

『007』のコミカライズは世界中でブームを呼び、欧州で
はスウェーデン、そしてそれ以上に盛り上がりを見せたのは
南米だった。チリの出版社 Zig Zag が正式に出版権利
を取得、チリ・アルゼンチン・パラグアイ・ペルーの4ヵ国で、

1968年から実に59冊もの『007・ジェームズ・ボンド』の
コミックスを出版。日本ではさとうたかをの漫画が有名
だが、それ以外にも映画公開に合わせて『私を愛したスパ
イ』と『ムーンレイカー』のコミカライズが発表された。

幅広く紹介!

グッズ シヨ

マーチャンダイズの王様と言
伝グッズから遠くアジアの珍
グッズの数々を大量露出!!

文:滝口 明
撮影:JUGAR(フガール)・松鶴剛志
グッズ提供:久岡一廣、滝口 明



ワルサーP99 エアガン

第18作目の『トゥモロー・ネバー・ダイ』から、
プロスナンが愛用したボンド銃のエアガン。こ
れまでのPPKに比べゴツイ形状が特徴的。



玩具

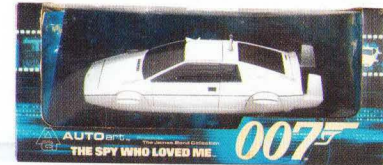
コーギー社製
リトル・ネリー

本商品は1:36スケールだが、こ
の他にも1:43スケールなど数
種類が出ていて、ボンドが乗っ
ているものも存在する。



Autoart製
ロータス・エスプリ

『私を愛したスパイ』に登場した通称『ウェ
ットネリー』ことロータス・エスプリ・サブマリン。
変形前の自動車形態でも販売されていた。



コーギー社製 BMW 750i

2001年にコーギー社から発売した『007 JAMES
BOND DEFINITIVE COLLECTION』シリーズの『BMW
750i』ボンドミニカー。車体上部ミサイル口も再現。



Autoart製
アストンマーティン
DB5

様々な秘密兵器を搭載した
アストンマーティンDB5をモ
デル化したAutoart製。助
手席の射出ギミックやナンバ
ープレートも回転する逸品。



コーギー社製
アストンマーティン
DB5 (オッド・ジョブ付き)

1997年に発売の GOLD It dエ
ディションのDB5のミニカー。オ
ッド・ジョブのフィギュアが付いており、
『007』マニアならずとも垂涎の品。



Exclusive
Premiere 社製
『007 ドクター・ノオ』
ジェームズ・ボンド
フィギュア

Exclusive Premiere 社製の
アクションフィギュア。『ド
クター・ノオ』の劇中で使用
した衣装を纏ったボンドを再現。
マニアの間でも人気が高い。



007 J.ボンド
ミニチュアモデル
シリーズ

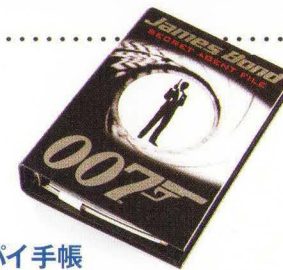
コンビニ限定販売の京商『007
J・ボンド1:72ミニチュアモデル
シリーズ』。ボンドカーだけでなく
陸海空の秘密兵器を再現。



雑貨

スパイ手帳

1995年の『ゴールデンアイ』公開時に、海外で
販売されていたスパイ仕様のシステム手帳。
中面にはボンドの情報等が盛り込まれている。



『ゴールデンアイ』
ポケット・カレンダー

千葉県京成映画チェーンが、
映画公開時に宣伝用に配布
したカレンダー。『007』映画の
主演第1作目となるプロスナンの
姿が初々しい。



レア品 &
珍品
その①

『ムーンレイカー』
香港製着せ替え人形

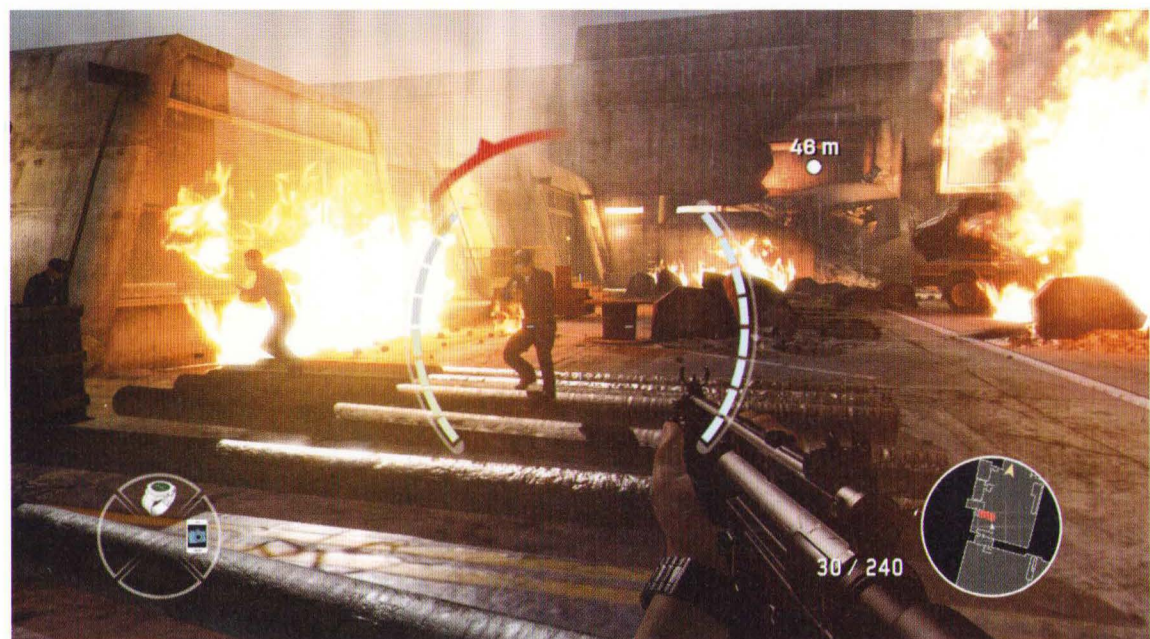
香港での映画公開時に売られていたものと思
うが、無版権商品だけに詳細は不明。独特のデ
ザインと色使いに何故か惹き付けられる。



イアン・フレイミング生誕
100周年記念切手

マラウイ共和国が発行した、イアン・フレイ
ミングの生誕100周年の記念切手シート。歴
代ボンドが勢揃いした図案が素晴らしい。



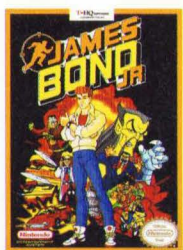


1本で6作品が楽しめる?
これぞ決定版
「007 Legends」!!

息子じゃなくて甥っ子!?
幻のアニメが原作

「James Bond Jr.」

コネリー、ムーアらボンド俳優たちも地味にゲスト出演&実はデンチがこれが最初のM役となったTVアニメ版も、こっそりゲーム化。内容的にはオーソドックスな横スクロールアクションとなっている。



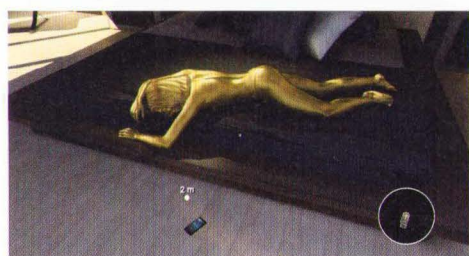
思わずツッコミたくなる
異色のゲーム化作品!

何を血迷ったのか、過去には子供や車が主役だったという迷作もチラホラ。「007」とは思わずにプレイした方が楽しめるかも?

主人公はボンドカー!?
何でもありの
過激レースが展開

「007 Racing」

歴代ボンドカーが勢揃いするカーアクション。ミサイルを発射したり激しい銃撃戦を繰り広げたりと、ゲームらしくドンパチ重視でチープなテイスト。唯一の救いはクリエーターが出演しているところか。



あの名場面の数々を追体験出来る!

『女王陛下の007』『ゴールドフィンガー』『ムーンレイカー』『消されたライセンス』『ダイアナザー・デイ』『スカイフォール』から、印象的なシーンをゲームでパッチリ再現!



一部のキャラクターは
映画版キャストが再登板!

ボンドの声こそクレイグではないが、Mやミス・マナーベニーから、ヒューゴ・ドラックスにグスタフ・グレイヴスといった悪役まで、映画版キャスト陣が自身のキャラの声優も担当!



※北米・アジア版のみ。

舞台を現代に移して50年の
歴史をトリビュート!

物語は「スカイフォール」劇中でボンドが狙撃されて意識を失う直前、過去に遂行された任務を走馬灯のように思い出していくという変わったスタイル。肖像権取得の契約上、クレイグ・ボンドを主役として過去作の出来事を追体験していく、パラレルワールド的なファン垂涎ゲーム。

初めてやるなら「007 慰めの報酬」がオススメ!

実はこれ、『カジノ・ロワイヤル』と『慰めの報酬』がミックスされたゲーム。新装開店する「007」シリーズのゲーム化権を取得した頃から、この2作が前後編的な作品として扱われると聞かされていたことで、ゲームでは2in1の形に。映画とリンクしつつ、2作の間の補完するようなオリジナル要素も上手く取り入れられており、初めて「007」ゲームをやるならぜひオススメしたい1作だ。

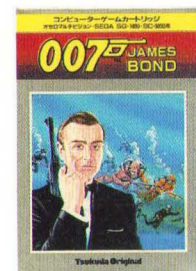


PS3、Xbox 360、Wii、PC版は一人称視点で内容はほぼ一緒だが、PS2版のみ開発元が違うため、三人称視点で任務内容や登場武器、操作方法、ステージの地形などが異なっている点も注目。

ボンドの活躍は映画を超える!

ゲームになった ジェームズ・ボンド

『007』シリーズほど、ビデオゲームと相性の良い映画版權を取り扱った作品はないここに断言! インタラクティブに自身がボンドとなって、映画の世界観へ飛び込もう!



始まりは横スクロールのアクション!

「007 ジェームズ・ボンド」

『ムーンレイカー』『ユア・アイズ・オンリー』『ダイヤモンドは永遠に』がミックスされたカーアクション。当初は「オクトパシー」を題材にしていたが、ロータスを主役として全面的に作り直された。

歴代ボンドに成りきれ!

作品ごとに違うボンドを操作し、スパイ活動を成功させるカタルシスはゲームならではの醍醐味。オリジナルストーリーも面白い!



「007 ブラッドストーン」

ダニエル・クレイグ

「007 ブラッドストーン」

諸事情から低予算で作られた悲しき1本

MGM経営難の影響で映画製作の予算が確保出来なかったために、オリジナルストーリーのゲームが緊急リリース。開発期間も短かったからかボリューム不足であることは否めないが、デンチは再登板。



ヒアース・プロスナン

「007 エブリシング・オアナッシング」

伊東美咲がボンドガールで登場の秀作

ジョン・クリーズ、ジュディ・デンチ、ウィレム・デフォー、シャノン・エリザベスが出演し、映画版チーム全面協力によるオリジナルストーリーが展開。「007」ゲーム史上最大級に予算が投入された。

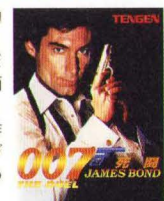


ティモシー・ダルトン

「007 死闘」

秘密基地爆破が目的だけど異色な完成度

捕まった美女たちを助けるべくダルトン始動。ボンドらしさは希薄だがバカゲーとしては面白い。ジョーズ、メイ・デイルらダルトン主演作とは関係ないキャラが登場したり、サメに食われて死んだりも。



ショーン・コネリー

「007 ロシアより愛をこめて」

良くも悪くも映画の追体験堪能ゲーム

コネリーの肖像権を用いてフルCG化した記念すべき作品。映画で展開されるシチュエーションを、若い時のコネリーを使って追体験出来る。なお、コネリーは売上3%のロイヤリティを要求したとか。



FPS史に輝く傑作! NINTENDO64「ゴールデンアイ 007」

世界中のゲーマーたちに、一人称視点のFPS(ファーストパーソン・シューティング)がどれだけ面白いかを教えてくれた本作。画面4分割で4人対戦のマルチプレイを搭載したことが、未永く遊ばれた理由でもあり。



こんなところにハマった!

- 発売当時は3DポリゴンでのFPSゲームが少なかったため、映画の追体験しながらもさまじい没入感が味わえた。
- オンライン対戦するネットインフラも整っていなかった時代だけに、大画面で4人同時対戦するという楽しさ。
- 過去作に登場するキャラクターやガジェットを含め、「007」の世界観を壊していないゲームデザインの良さ。



続編的作品にリメイク版も登場!

正統な後継作はゲームエンジンを受け継いだ「パーフェクトダーク」だが、名前負けした駄作「ゴールデンアイ ダーク・エージェント」や、アクティビジョンによる進化したリメイク版も発売された。

「ゴールデンアイ ダーク・エージェント」

ゲーム化権を奪い合うほど魅力的なフランチャイズ! 1983年、米バーカー・プラザ「スターウォーズ」のゲーム化権を取得すると同時に、次に狙いを定めたのが「007」のゲーム化。小売店やマスコミへ「エピソードV」/帝国の逆襲のゲーム版リリースを、開発中の段階で流したところ大反響だったこともあり、急速に「007」の版權も得て、わずか3カ月で完成させた(日本ではツクダオリジナルが国内向けに移植)。これが最古の「007」ゲームだが、日本では大人に人気の高い映画のため、子供向きじゃないと判断され、海外では多くのタイトルがゲーム化されているのに比べ、国内へはほとんど移植されない不遇な時代が続く。その理由には版權料が高かったこともあるのだが、日本ではスパイという文化が希薄だったことも要因。このように、海外と日本では「007」熱の温度差が格段に違っていたものの、任天堂が97年に「ゴールデンアイ」のゲームを発売してから状況が一変。国内売上30万本と同時に、世界累計売上では800万本と、映画版權ゲーム史上最大セールスを叩き出した記録は、今も破られていない。「007」フランチャイズがビッグビジネスになると踏んだエレクトロニック・アーツは、早々に複数年にわたる自社独占契約を結び、ピアース・プロスナン降板とともに版權を手放した瞬間、アクティビジョンが06年下半期から14年12月まで長期にわたるゲーム化権を、ダニエル・クレイグの肖像権とともに取得した。さて次はどこだろうか?

©日之出出版 2015PRINTED IN JAPAN
本誌の無断複写・転写・転載を禁じます。
本誌で紹介している商品、サービス等の価格は本体のみの価格(税抜)です。



JAMES BOND